

き こ ない ちょう
木古内町

おお ひら
大平遺跡(2)

— 遺構編 —

— 北海道新幹線建設事業埋蔵文化財発掘調査報告書 —

第1分冊

本文編

平成27年度

公益財団法人 北海道埋蔵文化財センター

例 言

- 1 本書は、独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構鉄道建設本部北海道新幹線建設局が行う北海道新幹線建設工事に伴い、公益財団法人北海道埋蔵文化財センターが平成22・23年度に委託を受けて実施した、木古内町大平遺跡の埋蔵文化財発掘調査についての報告書である。
- 2 報告内容は、大平遺跡の平成22・23年度調査範囲(4,375㎡)の遺構と遺物である。今回は「遺構編」として竪穴住居跡・土坑・フラスコ状ピット・Tピット・桂穴状ピットの報告を行う。
- 3 大平遺跡の報告書は、平成21年度に発掘調査が行われた北海道新幹線建設工事埋蔵文化財発掘調査の報告書として、これまでに1冊が刊行されている。
- 4 調査は第2調査部第1調査課が担当した。
- 5 本書は、中山昭大、立川トマス、鈴木宏行、芝田直人、酒井秀治、佐藤和雄、熊谷仁志が執筆し、文末に執筆者を示した。編集は、熊谷が担当した。
- 6 遺物の整理は、土器等を熊谷、石器等を酒井が担当した。
- 7 現地調査および室内での写真撮影・整理は立川・中山が担当した。
- 8 基本基準杭設置については、平成22年度が株式会社光栄コンサルタント、平成23年度が函館土木調査株式会社に依頼した。
- 9 放射性炭素年代測定については、株式会社加速器分析研究所に依頼した。
- 10 胎土分析については、(株)第四紀地質研究所に依頼した。
- 11 種実同定については、パレオラボに依頼した。
- 12 土器・石器実測の一部については、株式会社トラスト技研に依頼した。
- 13 調査にあたっては、下記の諸機関および諸氏に御協力、御指導をいただいた。

独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構、木古内町教育委員会、北斗市教育委員会、
知内町郷土資料館、市立函館博物館、七飯町歴史館、
北海道開発局函館開発建設部函館道路事務所
石井淳平(厚沢部町教育委員会)、右代啓視・鈴木琢也(北海道博物館)、
木元 豊(木古内町教育委員会)、高橋豊彦(知内町教育委員会)、
時田太郎(シン技術コンサルタント)、村本周三(北海道教育委員会)、
森 靖裕(北斗市教育委員会)、山田 央(七飯町歴史館)、横山英介(北海道考古学研究所)、
福田裕二・佐藤智雄・吉田 力・小林 貢(函館市教育委員会)、
成田滋彦・小田川哲彦・岩田安之(青森県埋蔵文化財調査センター)、
佐野忠史(青森県つがる市教育委員会)、村木 淳(青森県八戸市教育委員会)、
古屋敷則夫(青森県上北町教育委員会)

記号等の説明

1. 遺構の表記には以下の記号を用い、原則として確認順に番号を付けた。
H：竪穴住居跡　HF：炉跡　HP：住居に伴う土坑・柱穴　HFC：住居に伴う剥片集中
HS：住居に伴う礫集中　HCb：住居に伴う炭化物集中　P：土坑　TP：Tピット
2. 遺構図等には真北を示す方位印を付した。図の天方向は、 $N-40^{\circ}-W$ である。遺構平面図の「+」は調査区または小調査区ラインの交点で、傍らの名称記号は右下の調査区を表す。また、小黑丸とその下の数字およびセクションレベルは標高（単位m）である。
3. 掲載した遺構・遺物の図は基本的に以下の縮尺にしている。ただし、遺構位置図、地形図、遺物出土状況図などは任意の縮尺であるため、各図にはスケールを付けてある。
遺構 1：40（一部1：50）　復原土器 1：4　土器拓本 1：3
剥片石器・磨製石器 1：2　礫石器 1：3（一部1：4、1：5）
土製品・石製品 1：2
4. 写真図版では、復原土器は任意、土器拓本・礫石器はおおよそ1：3、石鏃はおおよそ1：1、剥片石器・土製品・石製品はおおよそ1：2で掲載している。石製品の一部にはおおよそ1：3で掲載したものもある。
5. 遺構の規模は、「長軸の上端/下端×短軸の上端/下端×確認面からの最大深」（単位m）で示している。
6. 土層の表記は、基本土層についてはローマ数字（I、II、III…）、遺構内の層序についてはアラビア数字（1、2、3…）を使用した。
7. 土層の色調は『新版標準土色帖29版』（小山・竹原2007）に準じた。
8. 火山灰は『北海道の火山灰』（北海道火山命名委員会1982）に準じ、以下の略号を用いた。
白頭山－苫小牧火山灰：B-Tm
駒ヶ岳_{d₂}火山灰：Ko-d₂
9. 遺物図右下の太ゴシックアラビア数字は掲載番号であり、これに後続する小文字アルファベット（a、b、c…）は同一個体を示す。
10. 石器の大きさは、図の最大長・最大幅・最大厚（単位cm）で示した。破損しているものについては現存最大値を（ ）で示した。
11. 石器の実測図中でたたき痕は「V-V」、すり痕は「|←→|」で範囲を示した。また、光沢部分、付着部分、被熱部分をドットのスクリーントーンで示した。アスファルト付着部分は黒塗りして示した。
12. 文中において「北埋調報」としているものは、財団法人北海道埋蔵文化財センター調査報告書もしくは公益財団法人北海道埋蔵文化財センター調査報告書の略である。

目 次

【第1分冊】

口 絵
例 言
記号等の説明
目 次
挿図目次
表 目 次

I 緒言

1 調査要項	1
2 調査にいたる経緯	2
3 調査の経過	2
4 調査結果の概要	4

II 遺跡の位置と環境

1 位置と環境	7
2 周辺の遺跡	7

III 調査の方法

1 調査範囲	13
2 土工	15
3 測量と記録	15
4 整理の方法	15
5 保管	17
6 遺跡の土層	17
7 遺物の分類	17

IV 遺構

1 竪穴住居跡の調査	19
(1) 擦文文化期	19
(2) 縄文時代	26
2 土坑・フラスコ状ピット・Tピット・柱穴状ピットの調査	386
(1) 概要	386
(2) 土坑の調査	388
(3) フラスコ状ピットの調査	437
(4) Tピットの調査	528
(5) 柱穴状ピットの調査	530
一覧表	541

V 自然科学的分析

1 木古内町大平遺跡における放射性炭素年代 (AMS測定)	573
2 木古内町大平遺跡出土土器等の胎土についてのX線回折試験及び化学分析試験	578
3 木古内町大平遺跡出土の種実同定	593

VI まとめ	606
--------	-----

引用参考文献
報告書抄録

【第2分冊】

図版目次

写真図版

挿 図 目 次

I 緒言

図I-1	大平遺跡の位置	2
図I-2	大平遺跡遺構位置図	3

II 遺跡の位置と環境

図II-1	遺跡の位置と木古内町の地形	9
図II-2	木古内町の地質図	9
図II-3	木古内町内の遺跡	11
図II-4	北海道新幹線概要図	12
図II-5	北海道新幹線木古内町環境図	12

III 調査の方法

図III-1	グリッド設定図・年度別調査範囲	15
図III-2	発掘調査範囲と周辺の地形	15

IV 遺構

図IV-1	竪穴住居跡位置図	21
図IV-2	H-9	22
図IV-3	H-9 セクション図 遺物出土状況図 遺物	23
図IV-4	H-10	27
図IV-5	H-11	30
図IV-6	H-11 セクション図 遺物出土状況図	31
図IV-7	H-11 遺物	32
図IV-8	H-12	34
図IV-9	H-12 遺物出土状況図 遺物	35
図IV-10	H-13	36
図IV-11	H-13 柱穴セクション図	37
図IV-12	H-13 遺物出土状況図	38
図IV-13	H-13 PO遺物出土状況図	39
図IV-14	H-13 土器 (1)	40
図IV-15	H-13 土器 (2)	41
図IV-16	H-13 土器 (3)	42
図IV-17	H-13 石器 (1)	43
図IV-18	H-13 石器 (2) 土製品	44
図IV-19	H-14	47
図IV-20	H-14 PO遺物出土状況図 床、床直	48
図IV-21	H-14 PO遺物出土状況図 覆土	49
図IV-22	H-14 PO遺物出土状況図 垂直分布図	50
図IV-23	H-14 土器 (1)	51
図IV-24	H-14 土器 (2)	52
図IV-25	H-14 土器 (3)	53
図IV-26	H-14 土器 (4)	54
図IV-27	H-14 土器 (5)	55
図IV-28	H-14 土器 (6) 石器	56
図IV-29	H-15・H-24	58
図IV-30	H-15・H-24 セクション図 遺物出土状況図	59
図IV-31	H-15 土器	60
図IV-32	H-15 石器 (1)	61
図IV-33	H-15 石器 (2) 土製品・H-24 土器	62
図IV-34	H-16	64
図IV-35	H-16 セクション図	65
図IV-36	H-16 PO遺物出土状況図	66
図IV-37	H-16 PO遺物出土状況セクション図	67
図IV-38	H-16 その他遺物出土状況図	69
図IV-39	H-16 土器 (1) 床、柱穴、床直上	72
図IV-40	H-16 土器 (2) 覆土3～5層	73
図IV-41	H-16 土器 (3) 覆土1～2層	74
図IV-42	H-16 土器 (4) 覆土1層	75
図IV-43	H-16 土器 (5) 覆土1層	76
図IV-44	H-16 石器 (1)	77
図IV-45	H-16 石器 (2)	78
図IV-46	H-16 石器 (3)	79
図IV-47	H-16 石器 (4)・土製品	80
図IV-48	H-17	82
図IV-49	H-17 セクション図 (1)	83
図IV-50	H-17 セクション図 (2)	84
図IV-51	H-17 土器出土状況図	85
図IV-52	H-17 土器 (1)	87
図IV-53	H-17 土器 (2)	88
図IV-54	H-17 石器出土状況図	89
図IV-55	H-17 石器 (1)	91
図IV-56	H-17 石器 (2)	92
図IV-57	H-17 石器 (3)	93
図IV-58	H-17 石器 (4)	94
図IV-59	H-17 石器 (5)・土製品	95
図IV-60	H-18	96
図IV-61	H-18 遺物出土状況図・遺物	97

図IV-62	H-19 土器 (1)	98
図IV-63	H-19 土器 (2)・石器	99
図IV-64	H-20	101
図IV-65	H-20 土器 (1)	102
図IV-66	H-20 土器 (2)・石器	103
図IV-67	H-21	105
図IV-68	H-21 セクション図	106
図IV-69	H-21 遺物出土状況図	107
図IV-70	H-21 遺物	108
図IV-71	H-22	110
図IV-72	H-22 セクション図	111
図IV-73	H-22 遺物出土状況図	112
図IV-74	H-22 遺物	113
図IV-75	H-23	115
図IV-76	H-23 セクション図 (1)	116
図IV-77	H-23 セクション図 (2)	117
図IV-78	H-23 コンタ図 焼土など	119
図IV-79	H-23 PO全体図	120
図IV-80	H-23 PO全体図 垂直分布図	121
図IV-81	H-23 PO出土状況図 A-Bセクションと土器	128
図IV-82	H-23 PO出土状況図 C-Dセクションと土器	129
図IV-83	H-23 土器 (1) 覆土1層	130
図IV-84	H-23 土器 (2) 覆土3層	131
図IV-85	H-23 PO出土状況図 覆土4・5層 縄文・直前段反撚	132
図IV-86	H-23 PO出土状況図 覆土4・5層 自縄自巻・単軸絡条体の回転文	133
図IV-87	H-23 PO出土状況図 覆土4・5層 垂直分布図 縄文・直前段反撚	134
図IV-88	H-23 PO出土状況図 覆土4・5層 垂直分布図 自縄自巻・単軸絡条体の回転文	135
図IV-89	H-23 土器 (3) 覆土4・5層	136
図IV-90	H-23 土器 (4) 覆土4・5層	137
図IV-91	H-23 土器 (5) 覆土4・5層	138
図IV-92	H-23 土器 (6) 覆土4・5層	139
図IV-93	H-23 土器 (7) 覆土4・5層	140
図IV-94	H-23 土器 (8) 覆土4・5層	141
図IV-95	H-23 土器 (9) 覆土4・5層	142
図IV-96	H-23 土器 (10) 覆土4・5層	143
図IV-97	H-23 土器 (11) 覆土4・5層	144
図IV-98	H-23 PO出土状況図 覆土6層	145
図IV-99	H-23 PO出土状況図 覆土6層 垂直分布図	146
図IV-100	H-23 土器 (12) 覆土6・7層	147
図IV-101	H-23 土器 (13) 覆土6層	148
図IV-102	H-23 土器 (14) 覆土6層	149
図IV-103	H-23 土器 (15) 覆土6層	150
図IV-104	H-23 土器 (16) 覆土6層	151
図IV-105	H-23 土器 (17) 覆土6層	152
図IV-106	H-23 土器 (18) 覆土6層	153
図IV-107	H-23 土器 (19) 覆土6層	154
図IV-108	H-23 PO出土状況図 覆土8層 縄文	155
図IV-109	H-23 PO出土状況図 覆土8層 単軸絡条体の回転文・直前段反撚	156
図IV-110	H-23 PO出土状況図 覆土8層 垂直分布図 縄文	157
図IV-111	H-23 PO出土状況図 覆土8層 垂直分布図 単軸絡条体の回転文・直前段反撚	158
図IV-112	H-23 土器 (20) 覆土8層	159
図IV-113	H-23 土器 (21) 覆土8層	160
図IV-114	H-23 土器 (22) 覆土8層	161
図IV-115	H-23 土器 (23) 覆土8層	162
図IV-116	H-23 土器 (24) 覆土8層	163
図IV-117	H-23 土器 (25) 覆土8層	164
図IV-118	H-23 土器 (26) 覆土8層	165
図IV-119	H-23 土器 (27) 覆土8層	166
図IV-120	H-23 土器 (28) 覆土8層	167
図IV-121	H-23 土器 (29) 覆土8層	168
図IV-122	H-23 土器 (30) 覆土8層	169
図IV-123	H-23 土器 (31) 覆土8層	170
図IV-124	H-23 遺物出土状況図 土器 (32) 床面・柱穴状ビット	171
図IV-125	H-23 石器 (1) 床	173
図IV-126	H-23 石器 (2) 覆土1～7層	174

図IV-127	H-23 石器 (3) 覆土1~7層	175
図IV-128	H-23 石器 (4) 覆土8層	177
図IV-129	H-25	178
図IV-130	H-25 セクション図 (1)	179
図IV-131	H-25 セクション図 (2)	180
図IV-132	H-25 PO出土状況図	181
図IV-133	H-25 PO出土状況図 垂直分布図	182
図IV-134	H-25 遺物出土状況図	183
図IV-135	H-25 土器 (1)	185
図IV-136	H-25 土器 (2)	186
図IV-137	H-25 土器 (3)	187
図IV-138	H-25 土器 (4)	188
図IV-139	H-25 石器 (1)	189
図IV-140	H-25 石器 (2)	190
図IV-141	H-26	192
図IV-142	H-26 セクション図	193
図IV-143	H-26 遺物出土状況図	194
図IV-144	H-26 PO垂直分布図	195
図IV-145	H-26 土器 (1)	197
図IV-146	H-26 土器 (2)	198
図IV-147	H-26 土器 (3)・石器	199
図IV-148	H-27	201
図IV-149	H-28	203
図IV-150	H-28 セクション図 (1)	204
図IV-151	H-28 セクション図 (2)	205
図IV-152	H-28 PO出土状況図 垂直分布図	206
図IV-153	H-28 遺物出土状況図	207
図IV-154	H-28 土器 (1)	210
図IV-155	H-28 土器 (2)	211
図IV-156	H-28 土器 (3)	212
図IV-157	H-28 土器 (4)	213
図IV-158	H-28 石器・土製品	214
図IV-159	H-29	216
図IV-160	H-29 セクション図 (1)	217
図IV-161	H-29 セクション図 (2)	218
図IV-162	H-29 セクション図 (3)	219
図IV-163	H-29 遺物出土状況図	221
図IV-164	H-29 土器 (1)	222
図IV-165	H-29 土器 (2)	223
図IV-166	H-29 石器・土製品	225
図IV-167	H-30	227
図IV-168	H-30 PO出土状況図	228
図IV-169	H-30 遺物出土状況図 覆土1~3層	229
図IV-170	H-30 土器 (1) 覆土1~3層	233
図IV-171	H-30 土器 (2) 覆土1~3層	234
図IV-172	H-30 土器 (3) 覆土1~3層	235
図IV-173	H-30 土器 (4) 覆土1~3層	236
図IV-174	H-30 土器 (5) 覆土1~3層	237
図IV-175	H-30 遺物出土状況図 覆土4層	238
図IV-176	H-30 土器 (6) 覆土4層	239
図IV-177	H-30 土器 (7) 覆土4層	240
図IV-178	H-30 土器 (8) 覆土4層	241
図IV-179	H-30 遺物出土状況図 覆土5~7層	242
図IV-180	H-30 土器 (9) 覆土5~7層	243
図IV-181	H-30 土器 (10) 覆土5~7層	244
図IV-182	H-30 遺物出土状況図 覆土8層~床面	245
図IV-183	H-30 土器 (11) 覆土8層~床面	246
図IV-184	H-30 土器 (12) 覆土8層~床面	247
図IV-185	H-30 土器 (13) 覆土8層~床面	248
図IV-186	H-30 土器 (14) 覆土8層~床面	249
図IV-187	H-30 石器	251
図IV-188	H-31	252
図IV-189	H-31 遺物出土状況図	253
図IV-190	H-31 遺物	254
図IV-191	H-32	256
図IV-192	H-32 セクション図 遺物出土状況図 土器	257
図IV-193	H-32 石器	258
図IV-194	H-33	260
図IV-195	H-33 セクション図 遺物出土状況図	261
図IV-196	H-33 遺物	262
図IV-197	H-34	264
図IV-198	H-34 遺物出土状況図 土器	265
図IV-199	H-34 石器	266
図IV-200	H-35	268
図IV-201	H-35 セクション図	269
図IV-202	H-35 炭化物分布図 遺物出土状況図	270
図IV-203	H-35 遺物	271
図IV-204	H-36	273
図IV-205	H-36 遺物出土状況図	274

図IV-206	H-36 遺物出土状況図 PO土器	275
図IV-207	H-36 土器 (1)	277
図IV-208	H-36 土器 (2)	278
図IV-209	H-36 土器 (3)	279
図IV-210	H-36 土器 (4)	280
図IV-211	H-36 石器	281
図IV-212	H-37	284
図IV-213	H-37 セクション図	285
図IV-214	H-37 遺物出土状況図	286
図IV-215	H-37 土器 (1)	287
図IV-216	H-37 土器 (2)・石器 (1)	288
図IV-217	H-37 石器 (2)	289
図IV-218	H-38	293
図IV-219	H-38 セクション図	294
図IV-220	H-38 黄褐色土貼床範囲	295
図IV-221	H-38 遺物出土状況図 土器 (1)	296
図IV-222	H-38 土器 (2)・石器 (1)	297
図IV-223	H-38 石器 (2)・土製品	298
図IV-224	H-39	299
図IV-225	H-39 セクション図	300
図IV-226	H-39 遺物出土状況図 土器 (1)	301
図IV-227	H-39 土器 (2) 石器・土製品	302
図IV-228	H-41	304
図IV-229	H-41 セクション図	305
図IV-230	H-41 遺物出土状況図 (1)	306
図IV-231	H-41 遺物出土状況図 (2)	307
図IV-232	H-41 土器 (1)	310
図IV-233	H-41 土器 (2)	311
図IV-234	H-41 土器 (3)	312
図IV-235	H-41 石器 (1)	313
図IV-236	H-41 石器 (2)	314
図IV-237	H-41 石器 (3)・土製品	315
図IV-238	H-42	317
図IV-239	H-43	318
図IV-240	H-43 セクション図	319
図IV-241	H-43 遺物出土状況図	320
図IV-242	H-43 PO全層と垂直分布図	321
図IV-243	H-43 遺物出土状況図 垂直分布図 覆土下位~床直上	325
図IV-244	H-43 土器 (1)	326
図IV-245	H-43 土器 (2)	327
図IV-246	H-43 土器 (3)	328
図IV-247	H-43 遺物出土状況図 垂直分布図 覆土	329
図IV-248	H-43 土器 (4)	330
図IV-249	H-43 土器 (5)	331
図IV-250	H-43 土器 (6)	332
図IV-251	H-43 遺物出土状況図 盛土下	333
図IV-252	H-43 遺物出土状況図 垂直分布図 盛土下	334
図IV-253	H-43 土器 (7)	335
図IV-254	H-43 土器 (8)	336
図IV-255	H-43 土器 (9)	337
図IV-256	H-43 土器 (10)	338
図IV-257	H-43 遺物出土状況図 垂直分布図 盛土中~盛土下	339
図IV-258	H-43 土器 (11)	340
図IV-259	H-43 石器 (1)	341
図IV-260	H-43 石器 (2)	343
図IV-261	H-43 石器 (3)	344
図IV-262	H-43 石器 (4)	345
図IV-263	H-43 石器 (5)	346
図IV-264	H-43 石器接合資料 (1)	349
図IV-265	H-43 石器接合資料 (2)	350
図IV-266	H-43 石器接合資料 (3)	351
図IV-267	H-43 石器接合資料 (4)	352
図IV-268	H-43 石器接合資料 (5)	353
図IV-269	H-44	355
図IV-270	H-44 セクション図	356
図IV-271	H-44 遺物出土状況図 土器	357
図IV-272	H-44 石器	358
図IV-273	H-45	360
図IV-274	H-45 遺物	361
図IV-275	H-46	363
図IV-276	H-47	364
図IV-277	H-48	366
図IV-278	H-48 セクション図 遺物出土状況図	367
図IV-279	H-48 遺物	368
図IV-280	H-49	370
図IV-281	H-49 遺物出土状況図	371
図IV-282	H-49 土器 (1)	372

図IV-283	H-49 土器 (2)	373
図IV-284	H-49 石器	374
図IV-285	H-51	376
図IV-286	H-51 遺物	377
図IV-287	H-52	379
図IV-288	H-53	381
図IV-289	H-54	382
図IV-290	H-55	383
図IV-291	H-55 遺物出土状況図	384
図IV-292	H-55 遺物	385
図IV-293	土坑位置図	387
図IV-294	P-4・5	389
図IV-295	P-6・7・29	391
図IV-296	P-8・11	393
図IV-297	P-9・10	396
図IV-298	P-9・10 遺物	397
図IV-299	P-12・13	399
図IV-300	P-14・15	400
図IV-301	P-17	401
図IV-302	P-19	403
図IV-303	P-20・21・28	405
図IV-304	P-22・26・27	408
図IV-305	P-22・26・27 遺物	409
図IV-306	P-23・30	411
図IV-307	P-24・25・31	413
図IV-308	P-32・34・35	415
図IV-309	P-36・39	417
図IV-310	P-37・38	419
図IV-311	P-37・38 PO土器出土状況図 垂直分布図(1)	420
図IV-312	P-37・38 PO土器出土状況図 垂直分布図(2)	421
図IV-313	P-37・38 土器 (1)	423
図IV-314	P-37・38 土器 (2)	424
図IV-315	P-37・38 土器 (3)	425
図IV-316	P-37・38 土器 (4)	426
図IV-317	P-37・38 石器出土状況図 石器	427
図IV-318	P-40・41・51	429
図IV-319	P-52	431
図IV-320	P-55・58・59・61	433
図IV-321	P-65・68・77・87	435
図IV-322	P-96・104・114	437
図IV-323	P-250	439
図IV-324	遺構位置図	440
図IV-325	P-16	441
図IV-326	P-42	443
図IV-327	P-43	445
図IV-328	P-44	446
図IV-329	P-45	447
図IV-330	P-46	449
図IV-331	P-47・48	451
図IV-332	P-49	453
図IV-333	P-50・53	455
図IV-334	P-56・57	457
図IV-335	P-60	458
図IV-336	P-60遺物 (1)	459
図IV-337	P-60遺物 (2)・P-76	461

図IV-338	P-62	463
図IV-339	P-63	464
図IV-340	P-64	466
図IV-341	P-64 遺物	467
図IV-342	P-66・83	469
図IV-343	P-67	470
図IV-344	P-67 遺物	471
図IV-345	P-69・80	473
図IV-346	P-70	476
図IV-347	P-70 遺物	477
図IV-348	P-71・102	478
図IV-349	P-71・73・102 遺物	479
図IV-350	P-72	481
図IV-351	P-74	482
図IV-352	P-75・89	483
図IV-353	P-78	486
図IV-354	P-78 遺物	487
図IV-355	P-79	489
図IV-356	P-81	490
図IV-357	P-82・90	491
図IV-358	P-84・85	493
図IV-359	P-86・97	495
図IV-360	P-88	497
図IV-361	P-92	500
図IV-362	P-93・94	501
図IV-363	P-95・113	502
図IV-364	P-98	503
図IV-365	P-99	505
図IV-366	P-100	507
図IV-367	P-100 遺物	508
図IV-368	P-103	509
図IV-369	P-105・106	511
図IV-370	P-106 遺物	513
図IV-371	P-107	514
図IV-372	P-107 遺物・P-110	515
図IV-373	P-111	517
図IV-374	P-112	518
図IV-375	P-112 石器・P-115	519
図IV-376	P-117	521
図IV-377	P-117 遺物	523
図IV-378	P-122・150	525
図IV-379	P-157	526
図IV-380	P-158・182	527
図IV-381	TP-1・2	529
図IV-382	P-54・109・123・124・125・143・144・145	533
図IV-383	P-152～154・183・184・159・160・156	535
図IV-384	P-185・201・226・228・229・230	539
図IV-385	P-155・207～213・215・218～223	540

V 自然科学的分析

図V-1	暦年較正年代グラフ	577
図V-2	館層土壌サンプル採取位置図	582
図V-3	ダイヤグラム	583
図V-4	化学分析結果領域分布図	584

表 目 次

I 緒言

表I-1	年度別遺構数・遺物点数一覧	6
表I-2	出土土器点数一覧	6
表I-3	出土石器等点数一覧	6

II 遺跡の位置と環境

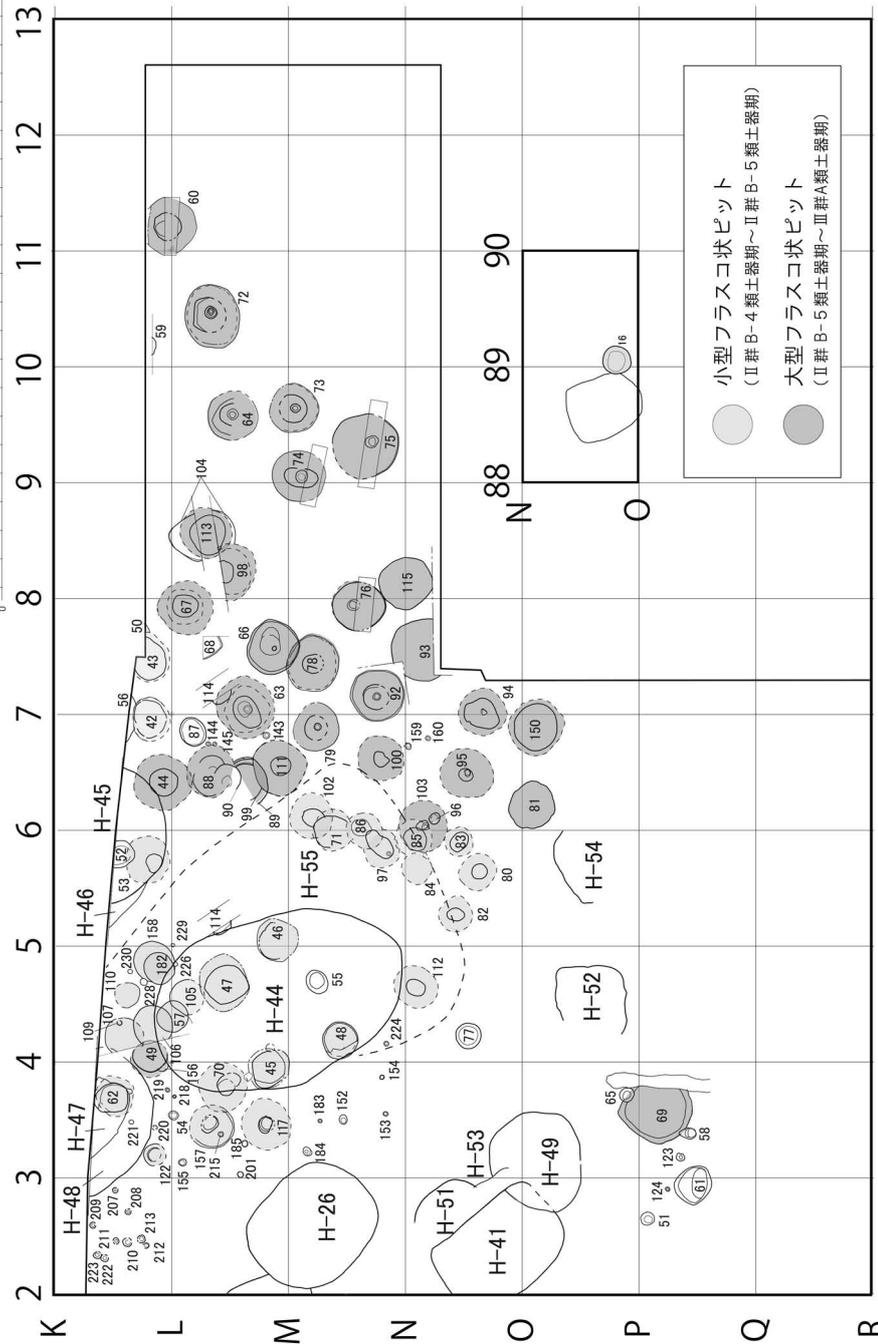
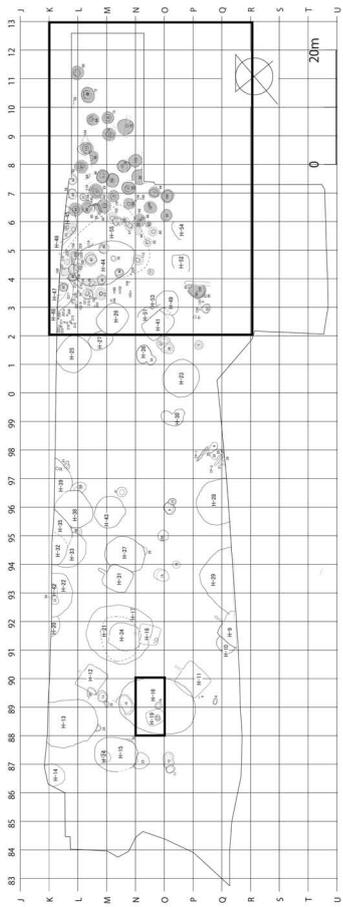
表II-1	木古内町の遺跡一覧	10
-------	-----------	----

IV 遺構

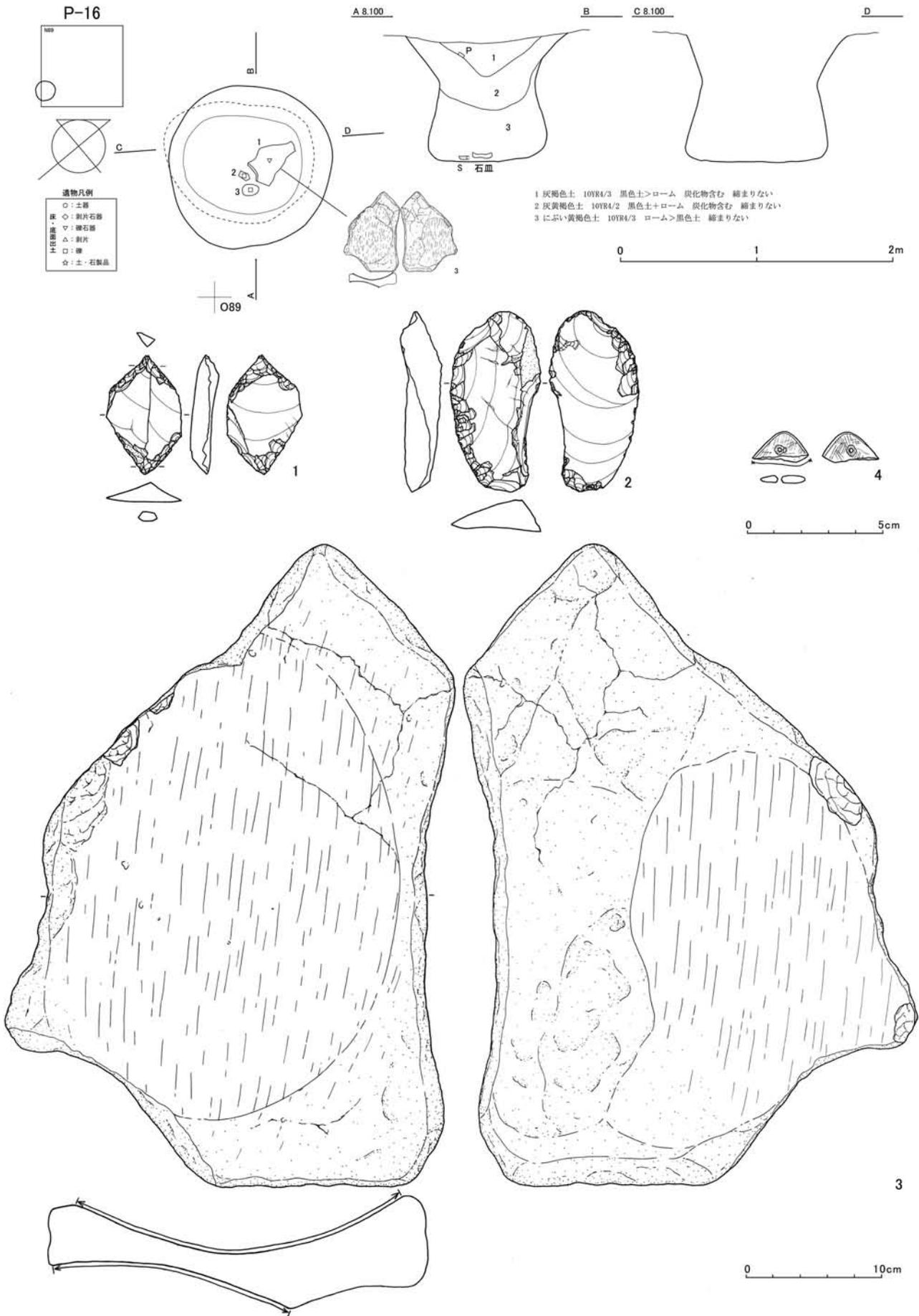
表IV-1	遺構規模一覧(竪穴住居跡)	541
表IV-2	遺構規模一覧(土坑)	541
表IV-3	遺構出土土器一覧	543
表IV-4	遺構出土石器等一覧	552
表IV-5	遺構出土掲載復原土器一覧	556
表IV-6	遺構出土掲載拓影土器一覧	559
表IV-7	遺構出土掲載石器等一覧	565
表IV-8	H-43接合資料一覧	572

V 自然科学的分析

表V-1	放射性炭素測定結果	575
表V-2	放射性炭素年代測定結果	576
表V-3	胎土性状表	585
表V-4	化学分析表	587
表V-5	タイプ分類表	589
表V-6	組成分類表	591
表V-7	大平遺跡から出土した炭化種実 (1)～(15)	600
表V-8	大平遺跡から出土した炭化種実(16)	603



図IV-324 フラスコ状ピット位置図



図IV-325 P-16

時期：出土したⅡ群B類土器からみて、縄文時代前期後半と考えられる。(佐藤)

掲載遺物：(石器) 1～4は覆土出土。1は石錐。剝片の長軸両端に機能部を作出したもの。頁岩製。2はスクレイパー。縦長剝片の側縁を加工して刃部を作出したもの。頁岩製。3は石皿。平坦面の両面に擦り面が設けられている。安山岩製。4は石製品。研磨により調整され、下側が折れている。両面からの穿孔がある。塊状耳飾りの破片を転用した垂飾とみられる。滑石製。

P-42 (図IV-326)

位置：K 6・7区

坑底面形：楕円形

規模：－／2.10×－／1.84×1.71m

確認・調査：調査区外との境でトレンチ調査を行ったところ、重複した土坑を確認した。Ⅱ層上位から掘り込んである。半截して調査を行い、フラスコ状ピットであることを確認した。覆土は自然堆積で、Ⅱ層とⅣ層を主にする互層となっている。坑底のほぼ中央に楕円形の小ピットがある。

遺物出土状況：覆土からⅡ群B-5類土器など94点、石器はたたき石など57点が出土した。

時期：出土したⅡ群B-5類土器からみて、縄文時代前期末葉と考えられる。(佐藤)

掲載遺物：(土器) 1～6は覆土出土のⅡ群B-5類土器である。

Ⅱ群B-5類土器(1～6)：1は平縁で、片流れの小さな突起が貼り付けられて、口唇部に刺突が加えられている。無文地の口頸部文様帯に2本一組の縄線文が4条施されている。体部上部に斜行縄文が、下半に付加縄文が施されている。2・3は口縁部破片。2は1と同様の文様構成である。2の口唇の断面形は角形で、器面に斜行縄文が施されている。4・5は口頸部破片。4は肥厚する口縁部に縄線、体部に斜行縄文が施され、垂下する綾絡文が加えられている。6は口唇が欠失した口縁部破片。無文地に2本一組に縄線文が4列施されている。

(石器) 7・8は覆土出土のたたき石。7は亜角礫の側縁に敲打痕のあるもの。泥岩製。8は亜角礫の両端部に敲打痕のあるもの。チャート製。

P-43 (図IV-327)

位置：K 7区

坑底面形：楕円形

規模：－／2.45×－／2.06×1.80m

確認・調査：調査区外との境でトレンチ調査を行ったところ、重複した土坑を確認した。Ⅱ層上位から掘り込んである。半截して調査を行い、フラスコ状ピットであることを確認した。覆土は自然堆積で、上部がⅡ層を主にしたもの、下部がⅣ層を主にしたものに分かれる。

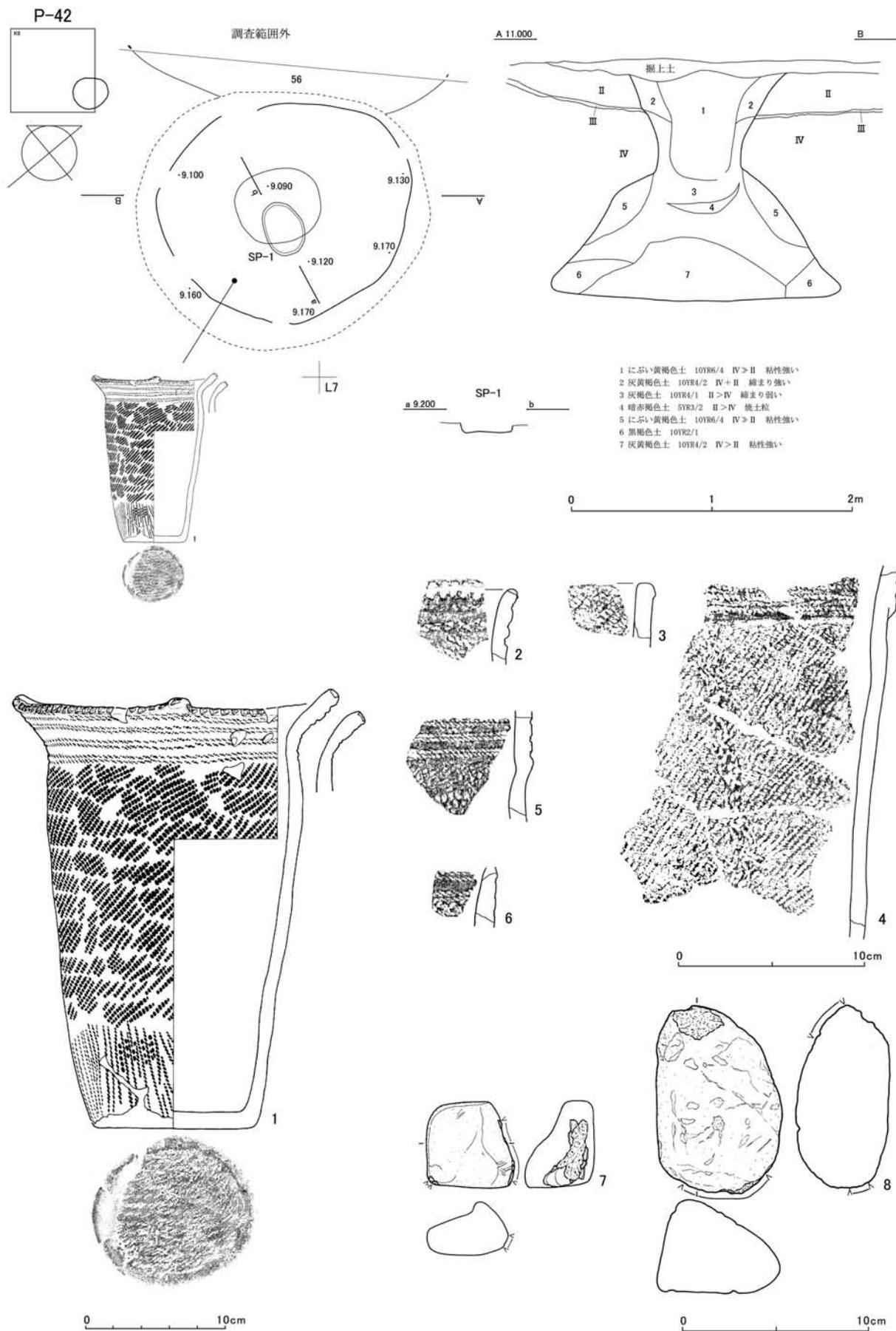
遺物出土状況：覆土からⅡ群B-5類土器など21点、Ⅲ群A類土器55点、すり石・たたき石など46点が出土した。

時期：出土した土器からみて、縄文時代前期末葉～中期前半と考えられる。(佐藤)

掲載遺物：(土器) 1～4は覆土出土。4はⅡ群B-5類土器、1～3はⅢ群A類土器である。

Ⅱ群B-5類土器(4)：4は口縁部破片。口唇に撚糸圧痕文が加えられている。無文地の口頸部文様帯には複節の縄線文が施されている。

Ⅲ群A類土器(1～3)：1は上げ底の底部からほぼ直立に立ち上がり、口頸部が内彎後、大きく外反する器形である。口縁部は波状で、波頂部は大小の2個一組の突起からなる。口唇部及び裏面口唇直下に縄線が加えられている。口頸部文様帯の下端は縄線文が加えられた貼り付けによって区画され、無文地の口頸部文様帯に組紐状と撚り方向が同じ2本一組の縄線の圧痕文が加えられている。波



図IV-326 P-42

頂部下位には口頸部下端の貼付帯を結ぶ橋状の貼り付けが加えられている。体部には不規則な斜行縄文が施され、波頂部下位に垂下する2条の絡条体圧痕文が加えられている。2は口頸部文様帯下端に縄文が加えられた貼り付けによって区画されている。無文地の口頸部文様帯に縄文が加えられた「逆U字」状の貼り付けと絡条体圧痕文が加えられている。3は口縁部破片。口唇に撚糸圧痕文が加えられ、口頸部文様帯には無文地に4本一組の縄線文が施されている。

(石器) 5・6は覆土出土。5はたたき石。垂円礫の周縁に敲打痕があるもの。安山岩製。6はすり石で北海道式石冠。全面を敲打によって整形し、握部を作出している。擦り面は長軸・短軸ともに外湾し、短軸方向に傾いている。安山岩製。

P-44 (図IV-328)

位置：K・L 6区

坑底面形：楕円形

規模：— / 2.51×— / 2.41×1.77m

確認・調査：IV層で灰黄褐色土の落ち込みを確認した。II層上位から掘り込んである。半截して調査を行い、フラスコ状の土坑であることを確認した。覆土は自然堆積で、上位・下位がIV層を主にしたもの、中位がII層を主にしたものである。坑底はやや凹凸があり、中央に円形の小土坑がある。

遺物出土状況：坑底から礫1点、覆土からII群B-5類土器など43点、すり石など58点が出土した。

時期：出土したII群B類土器からみて、縄文時代前期後半と考えられる。(佐藤)

掲載遺物：(土器) 1～6は覆土出土のII群B類土器である。

II群B-4類土器(1)：1は口縁部破片で、体部には単軸絡条体の回転文と結束羽状縄文が施されている。無文地の口頸部文様帯には横位の縄線文と3本の縦位の縄線が加えられている。

II群B-5類土器(2～6)：2～4は口頸部破片。2は無文地の口頸部文様帯に縄線文が加えられている。3・4は無文地の口頸部文様帯に縄線文が加えられている。体部は多軸絡条体の回転文である。肩部分に縄の圧痕が加えられている。3は肩部分に2列の綾絡文が加えられている。5は体部に単軸絡条体第1A類が施されている。6は体部破片。多軸絡条体の回転文が施されている。

(石器) 7・8は覆土出土。7はすり石で北海道式石冠。全面を敲打によって整形し、握部を作出している。左下部分は製作時に破損したらしく、この状態で擦り面を整えて使用した形跡がみられる。擦り面は長軸・短軸ともに外湾し、短軸方向に傾いている。安山岩製。8は砥石。板状礫の平坦面に幅広のすり面と、直線状の溝状のすり面がみられる。また、腹面には敲打痕もみられ、台石としても利用された形跡がある。砂岩製。

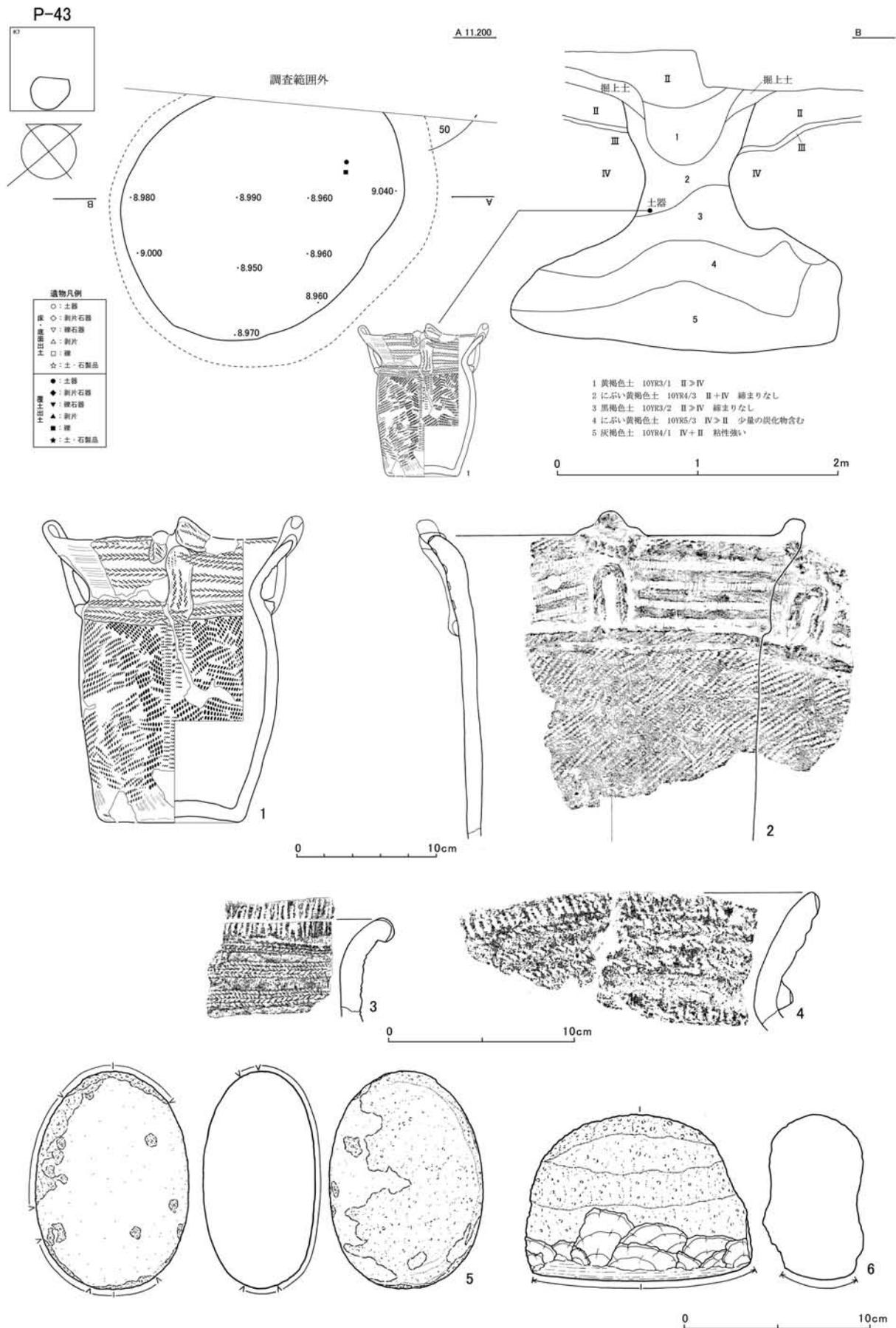
P-45 (図IV-329)

位置：L・M 2・3区

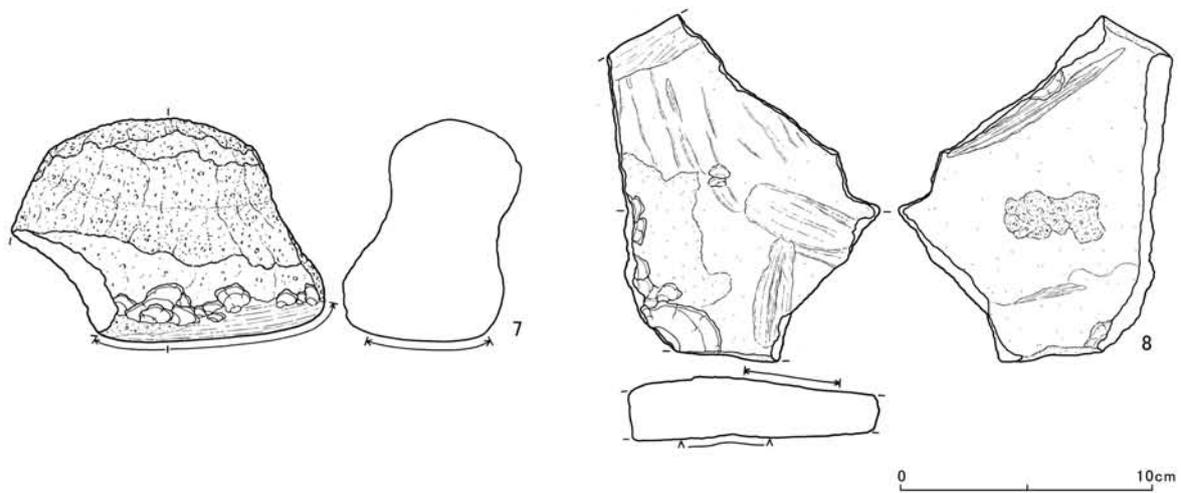
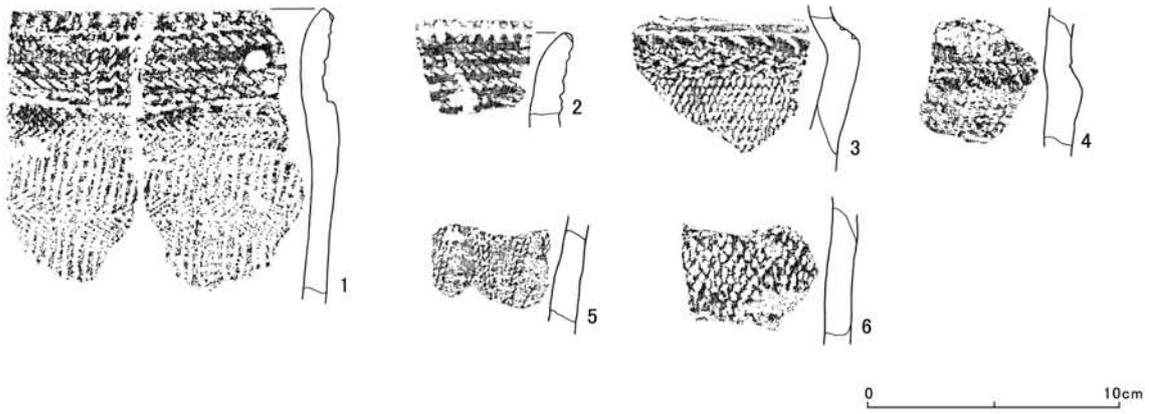
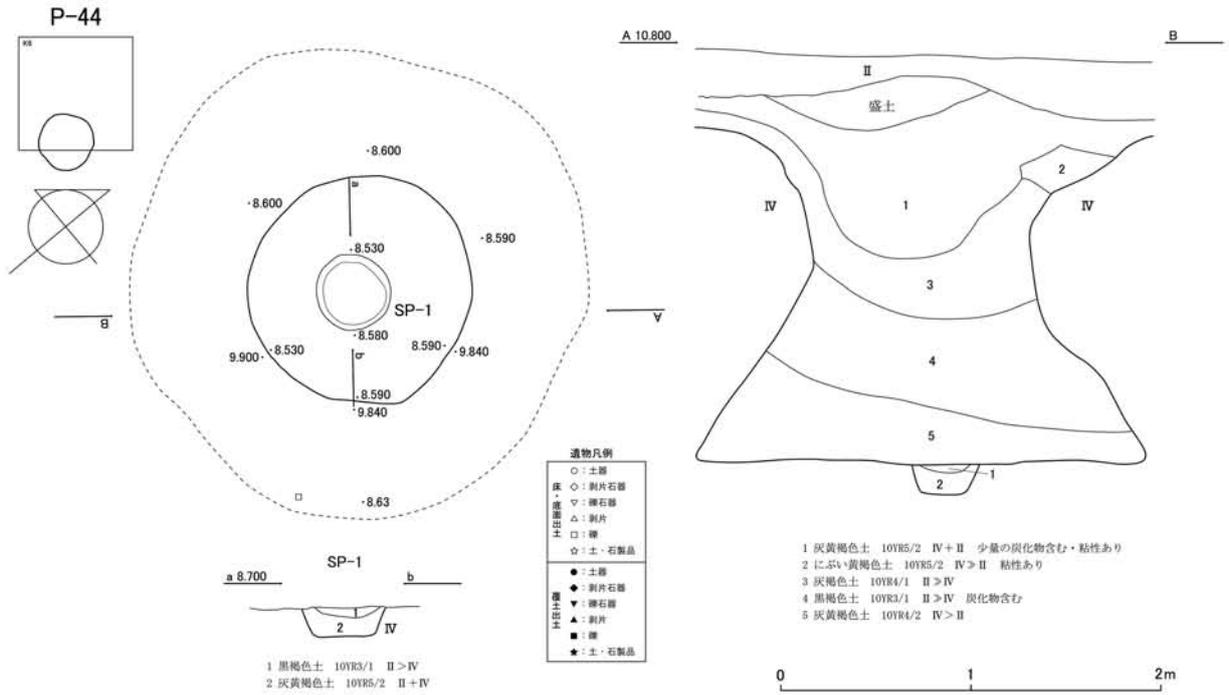
坑底面形：楕円形

規模：(1.53) / 1.63×(1.40) / 1.55×(0.40) m

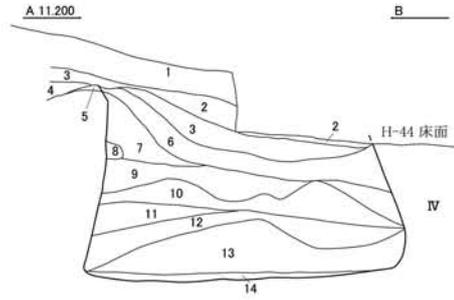
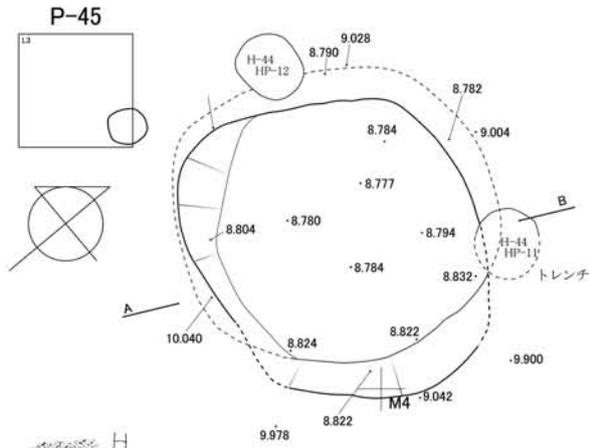
確認・調査：H-44西側壁際のトレンチ調査で褐色土の落ち込みを確認した。掘り込み面は、盛土分布が認められず、II層中に検出される火山灰より下位のII層中である。南側はH-44のメインセクションの裏側にあたり、これをセクションとした。上面の形状はH-44によって掘り下げられ不明であるが、開口部は円形になるものと思われる。坑底はIV層中に平坦に構築されている。断面形は、開口部は不明であるがフラスコ状になるものと考えられる。H-44のHP-11・12が切って構築されている。坑底中央部にボソボソで少量の炭化物を含む覆土13層が円錐状に堆積し、多くの遺物が出土している。坑底・覆土13層の土壌を採取しフローテーションを行い、イヌビエの炭化種子1点を検出した。



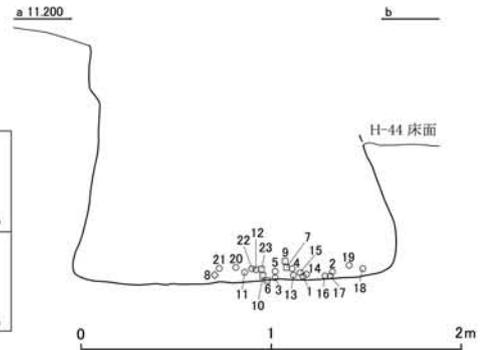
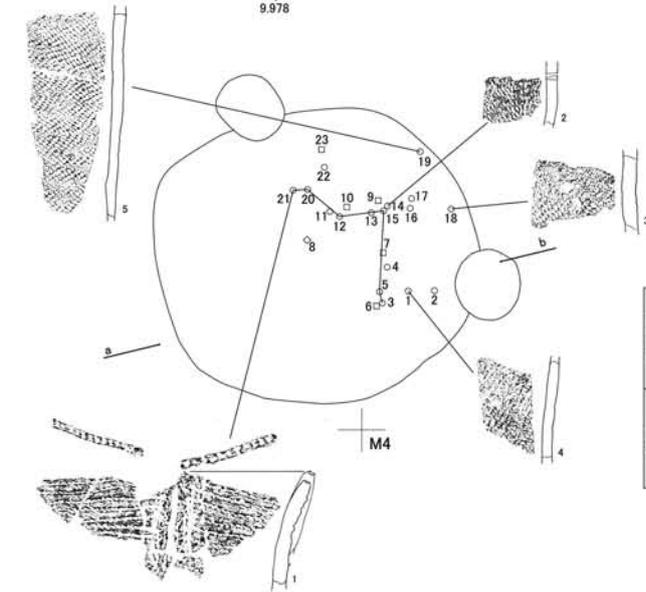
図IV-327 P-43



図IV-328 P-44

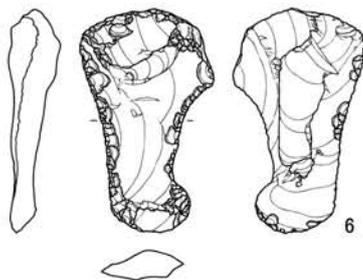
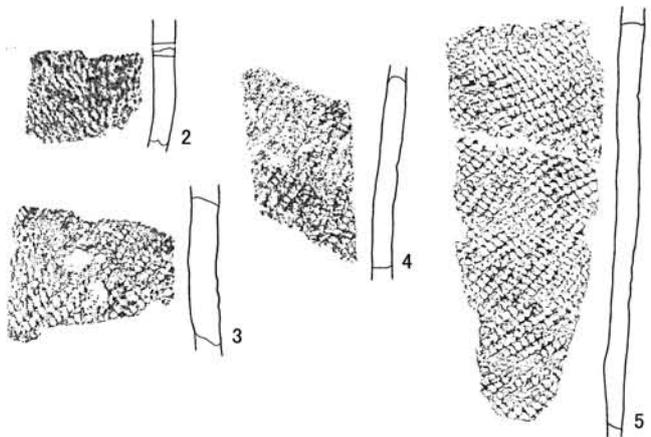
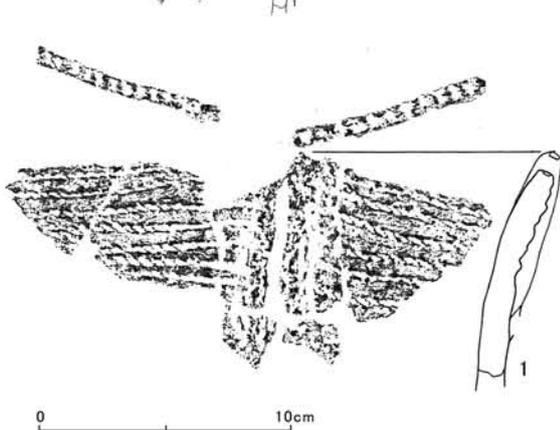


- 1 黒褐色土 10YR2/2 ぼそぼそ 極めて少量のローム粒が混じる
- 2 暗褐色土 10YR3/3 ローム主体(ロームブロックが混じる) しまり良い
- 3 褐色粘質土 10YR4/4 ローム主体 粘性強い しまり良い
- 4 暗褐色粘質土 10YR3/4 粘性強い しまり良い
- 5 褐色粘質土 10YR4/6 地山? 粘性強い
- 6 暗褐色粘質土 10YR3/4 ややぼそぼそ
- 7 褐色粘質土 10YR4/6 3層に類似 しまり良い (崩落土?)
- 8 暗褐色砂質土 10YR3/4 砂粒多い 本根と思われる
- 9 褐色粘質土 10YR4/6 しまり良い
- 10 暗褐色粘質土 10YR3/3 砂粒を含む しまり良い
- 11 褐色粘質土 10YR4/6 粘性強い 少量の炭化物・砂粒を含む ぼそぼそ
- 12 暗褐色粘質土 10YR3/3 粘性強い 少量の砂粒 ぼそぼそ
- 13 暗褐色土 10YR3/3 少量の砂粒を含む ぼそぼそ しまり悪い
- 14 黒褐色土 10YR2/3 少量の炭化物が混じる しまり悪い

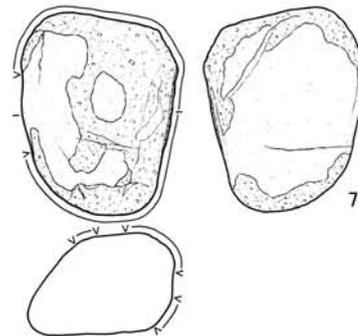


遺物凡例

○	土器
◇	割片石礫
▽	礫石礫
△	割片
□	礫
☆	土・石製品



0 5cm



0 10cm

図IV-329 P-45

遺物出土状況：北側坑底からⅡ群B-5類土器など18点、石器等6点が出土した。覆土からⅡ群B類土器7点、Ⅲ群A類土器7点、石器はつまみ付ナイフやスクレイパーなど27点が出土している。

時期：坑底からⅡ群B類土器が出土したことから縄文時代前期末葉と考えられる。

掲載遺物：(土器) 1～5は坑底出土。1～4はⅡ群B-5類土器、5はⅢ群A類土器である。

Ⅱ群B-5類土器(1～4)：1は口頸部破片。波状口縁で、口唇に刺突が加えられている。無文地の口頸部文様帯に縄文が加えられた「逆U字」状の貼り付けと縄線文が施されている。2～4は体部破片。2は多軸絡条体の回転文、3・4は斜行縄文が施されている。

Ⅲ群A類土器(5)：5は体部破片。斜行縄文が施され、内面調整が丁寧である。Ⅱ群B-5類土器の可能性もある。

(石器) 6・7は覆土出土。6はスクレイパー。縦型剥片の側縁に刃部を設けたもの。頁岩製。7はたたき石。亜円礫の周縁に敲打痕のあるもの。チャート製。

P-46 (図IV-330)

位置：L・M 4・5区

坑底面形：楕円形

規模：(1.28) / 1.88 × (1.15) / 1.75 × (0.48) m

確認・調査：H-44東側壁際の覆土を掘り下げ、床面の検出中にH-44のC-Dセクション南東側に隣接して黒褐色土の落ち込みを確認した。掘り込み面は、Ⅱ層で検出される火山灰より下位のⅡ層中である。H-44のC-Dセクション北東側をセクションとした。上面の形状は不明であるが開口部は円形になるものと思われる。坑底はⅣ層中に平坦に構築されている。断面形はフラスコ状で、壁は丸味をもって立ち上がる。南側はH-44のHP-47・48によって切られていた。HP-48は坑底まで達していた。覆土2・3層が本来の覆土である。坑底中央部に締りがよい褐色土(覆土3層)が円錐状に堆積し、土器・石器と共に、赤色土壌が2か所から出土している。

遺物出土状況：北側の坑底直上からⅡ群B類土器1点、覆土からⅡ群B-4類土器など18点、石器はつまみ付ナイフ、石斧など24点が出土している。

時期：坑底からⅡ群B-4類土器が出土したことから縄文時代前期末葉と考えられる。

掲載遺物：(土器) 床面出土の資料は小片・摩滅が著しく掲載できなかった。1～5は覆土出土、3～5はⅡ群B-4類土器、1・2はⅡ群B-5類土器である。

Ⅱ群B-4類土器(3～5)：3は無文地の頸部に縄線文が施されたもの。肩部分に結節の羽状縄文が施され、体部は自縄自巻の回転文である。4・5は体部破片。自縄自巻の縄文が施されている。

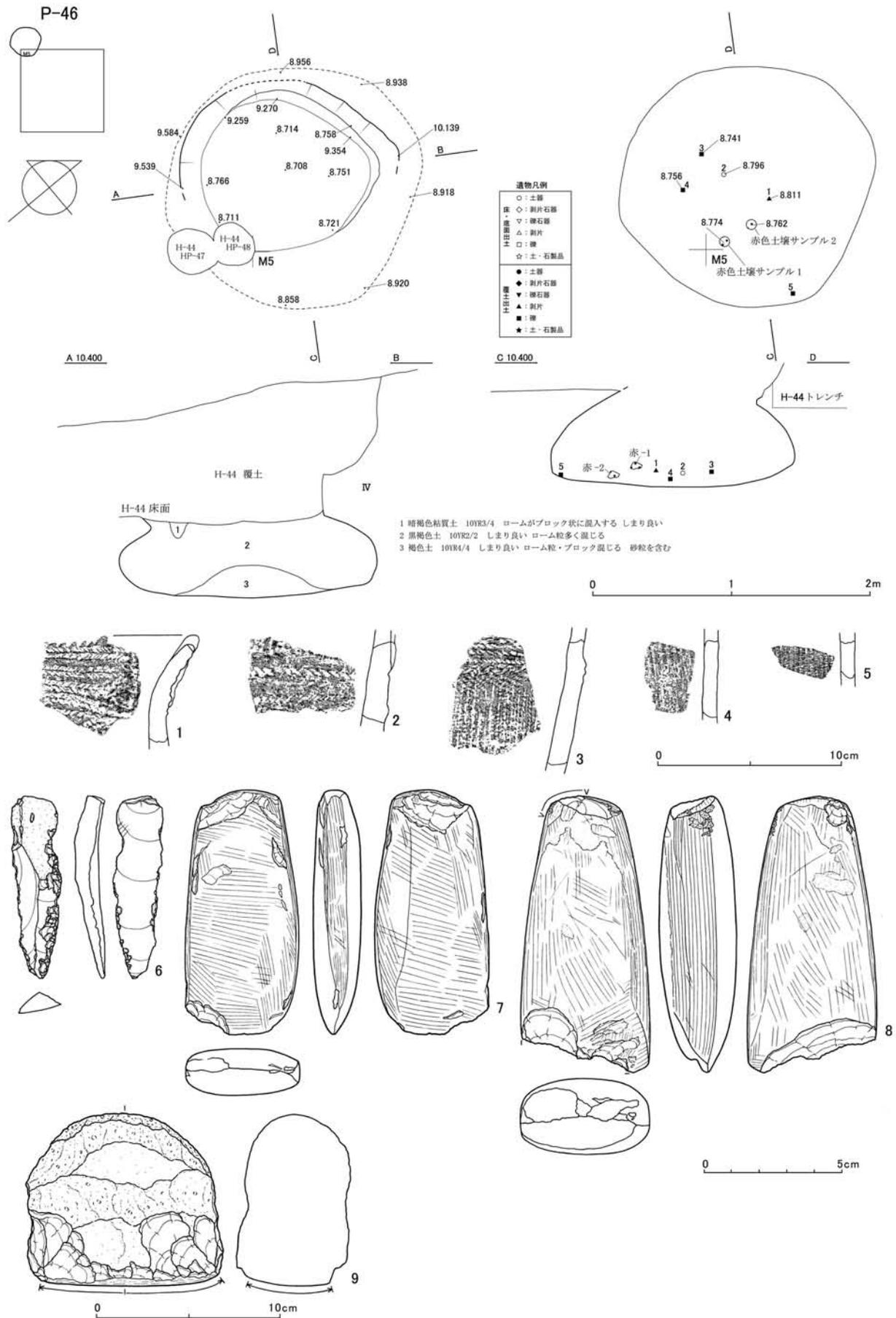
Ⅱ群B-5類土器(1・2)：1は口縁部破片。肥厚帯する口縁部に2本一組の組紐状の縄線文が施されている。波頂部に縄線文が加えられた貼り付けが加えられている。2は無文地の頸部に縄線文が施されたもの。

(石器) 6・7・9は覆土、8は覆土9層出土。6はつまみ付ナイフ。縦型剥片の周縁を加工してつまみ部と刃部を作出している。頁岩製。7・8は石斧。7は短冊形で両刃の直刃。全面を研磨で整形している。8は短冊形で刃部は破損している。全面を研磨で調整している。緑色泥岩製。9はすり石で北海道式石冠。全面を敲打によって整形し、握部を作出している。擦り面は短軸方向に緩く外湾している。安山岩製。

P-47 (図IV-331)

位置：L 4区

坑底面形：楕円形



図IV-330 P-46

規模：(1.76) / 2.10 × (1.60) / 2.46 × (0.60) m

確認・調査：H-44中央部北側の覆土を掘り下げ、床面の検出中に暗褐色～黒褐色土の落ち込みを確認した。開口部は隅丸方形気味である。坑底はIV層中に平坦に構築されている。坑底中央に径0.51×0.46m、深さ0.20mの黒褐色土が落ち込んだ小ピットが認められた。覆土は、坑底直上に黒色土（覆土7層）が薄く堆積し、上部に黒褐色土（覆土6層）が堆積し、同層中から土器・石器と共に2か所の焼土・炭化物集中が検出された。壁はオーバーハングして立ち上がる。

遺物出土状況：北側の坑底からII群B-4・5類土器4点、礫4点、覆土からII群B類土器など10点、礫等11点が出土した。

時期：坑底からII群B-5類土器が出土したことから縄文時代前期末葉と考えられる。

掲載遺物：(土器) 2～4は坑底、1は覆土出土のII群B類土器である。

II群B-4類土器(1・2)：1は口縁部破片。口縁部に4本の縄線文が施され、下端に結束羽状縄文が施されている。2の体部には自縄自巻の回転文が施されている。

II群B-5類土器(3・4)：3・4は体部破片。多軸絡条体の回転文が施されたもの。

P-48 (図IV-331)

位置：M 4区

坑底面形：楕円形

規模：(1.40) / 1.58 × (1.48) / 1.52 × (0.33) m

確認・調査：H-44南側壁際の覆土を掘り下げて床面を検出中、にぶい黄褐色土の落ち込みを確認した。開口部は円形である。坑底はH-44床面より20cm程下位のIV層中に平坦に構築されている。壁はオーバーハングして立ち上がり、断面形はフラスコ状で、壁は東側が不明、西側は鋭角に立ち上がる。坑底中央に径0.40×0.36m、深さ0.16mの暗褐色土が落ち込んだ小ピットが認められた。坑底直上のにぶい褐色土（覆土1層）から坑底にかけてII群B類土器・III群A類土器などの遺物が出土した。

遺物出土状況：坑底からII群B類土器4点、石器等4点、覆土からII群B-4類土器など19点、石器はスクレイパー・すり石など33点が出土した。覆土3層の土壌を採取しフローテーションを行い、ゴボウの炭化果実2粒を検出している。

時期：坑底からII群B類土器が出土したので縄文時代前期末葉と考えられる。

掲載遺物：(土器) 1～3は覆土出土。1・2はII群B類土器、3はIII群A類土器である。

II群B-3類土器(2)：2は自縄自巻の原体の回転文が施された体部破片。

II群B-5類土器(1)：1は肥厚する口縁部破片。口唇に縄の圧痕文、肥厚部に縄線文が施されている。

III群A類土器(3)：3は体部破片。羽状縄文が施されている。

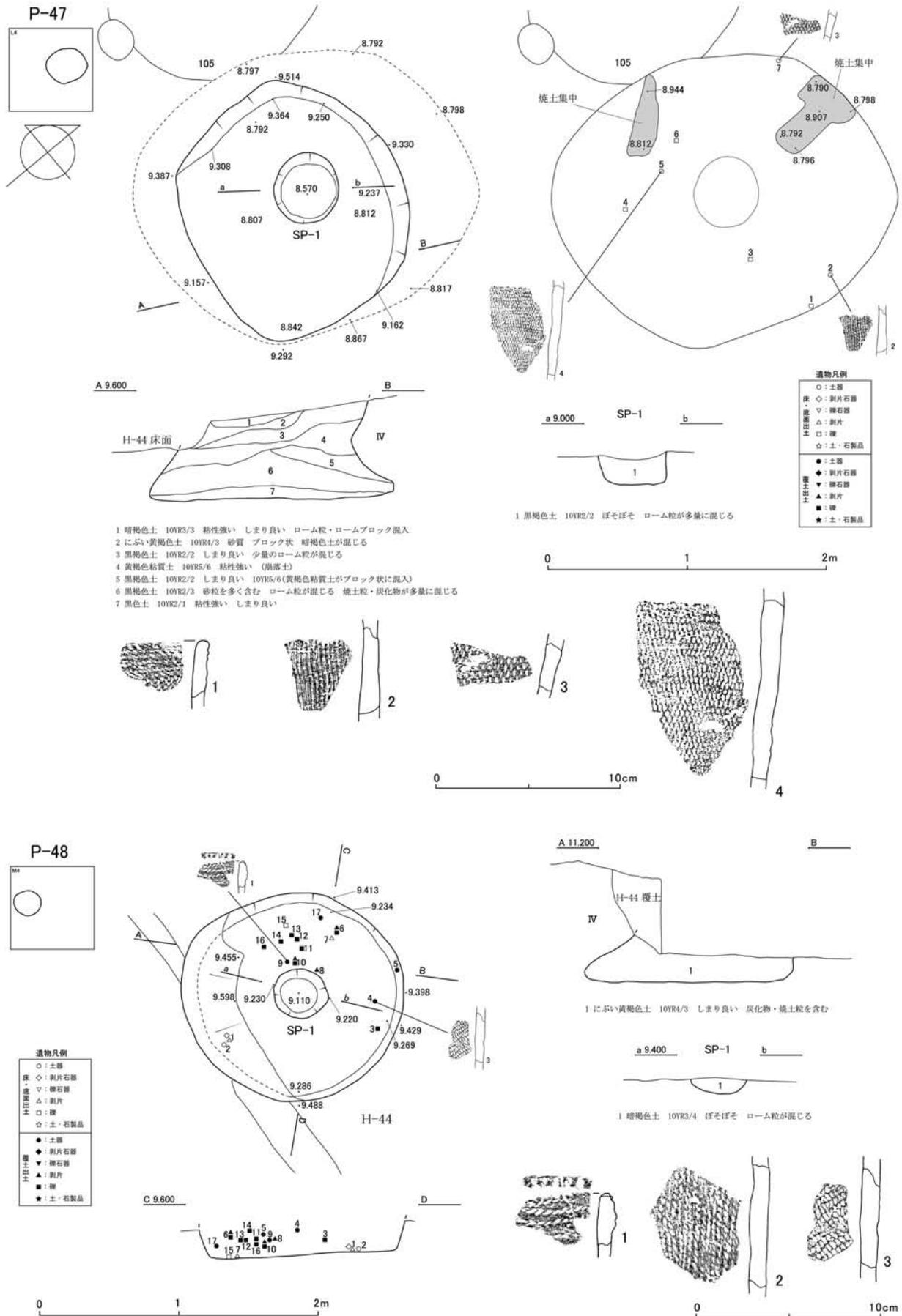
P-49 (図IV-332)

位置：K 3・4区

坑底面形：円形

規模：(1.40) / 1.58 × (1.48) / 1.52 × (0.33) m

確認・調査：H-44の立ち上がりを確認するためのトレンチ調査中に検出した。西側部分と西側坑底を確認した。当初、トレンチで東側落ち込みを確認したことから、東側に伸びるものとして西側の掘り下げを開始した。この落ち込みを詳細に検討した結果、当初P-49の土層断面と考えたセクションがP-106・107のセクションであることが判明した。したがって、東側では坑底のみ確認した。また、西側はすでに掘り下げを開始していたため、覆土埋没状況を記録することができなかった(P-106



図IV-331 P-47・48

参照)。坑底はⅣ層中に平坦に構築され、わずかに内湾しながら立ち上がり、上部でわずかに外反する断面形である。H-44・P-156・P-106・P-107に切られている。

遺物出土状況：覆土最下層から坑底直上にかけて焼土（PF-1）と共に土器・石器等が出土した。Ⅱ群B-5類土器が覆土・坑底直上から1個体分出土し、復原されている。坑底・坑底直上からⅡ群B-5類土器23点、礫など32点、覆土からⅡ群B-5類土器など71点、石器等54点が出土した。図化しなかったが軽石製の石製品とみられるものが2点出土している。

時期：出土土器からみて、Ⅱ群B-5類土器の縄文時代前期末葉と考えられる。（熊谷）

掲載遺物：（土器）1・8は坑底直上、2・5～7は坑底、3・4は覆土出土である。1・2・4～8はⅡ群B類土器、3はⅢ群A類土器である。

Ⅱ群B-5類土器（1・2・4～8）：1は揚げ底の底部からやや開き気味に立ち上がり、口頸部でくびれ、外反する。口縁部は平縁に4か所の小さな波頂部をもつ。わずかに肥厚する口唇に縄の圧痕文が加えられている。無文地の口頸部文様帯下端は円形刺突文によって区画され、波頂部から垂下する2本一組の貼り付けと2本一組の縄線文が5条施されている。貼り付けには縄線文が加えられている。体部に斜行縄文が施されている。4は口縁部破片。口唇端部と無文地の口頸部文様帯に縄線文が加えられている。2・5～8は多軸絡条体の回転文が施されたもの。2・8は底部破片、5～7は体部破片。

Ⅲ群A類土器（3）：3は波状口縁である。波頂部内面が張り出した形状である。無文地の口頸部文様帯下端は縄線文が加えられた貼り付けによって、上端は縄の圧痕文が加えられた口唇部によって区画されている。文様帯には縄線文が加えられた波頂部から垂下する貼り付けと4条の2本一組の縄線文が施されている。

（石器）9は底面、10・11は覆土出土。9はたたき石。亜円礫の下端部に広い敲打痕のあるもの。珪岩製。10・11はすり石で扁平打製石器。10は扁平な楕円礫を半割して半円状にして弦の部分に機能部を作出したもの。砂岩製。11は扁平な楕円礫の側縁を打ち欠いて幅の狭い機能部を作出している。長軸両端部を打ち欠いて整形している。安山岩製。

P-50（図Ⅳ-333）

位置：K 7区

坑底面形：不明

規模：不明

確認・調査：調査区外との境でトレンチ調査を行ったところ、重複した土坑を確認した。Ⅱ層中位から掘り込んである。半截して調査を行い、フラスコ状ピットであることを確認した。覆土は自然堆積で、Ⅱ層とⅣ層を主にする互層となっている。南側の壁・坑底はP-43構築時に壊されている。

遺物出土状況：出土していない。

時期：周辺の遺構・遺物からみて、縄文時代前期後半と考えられる。（佐藤）

掲載遺物：掲載遺物なし

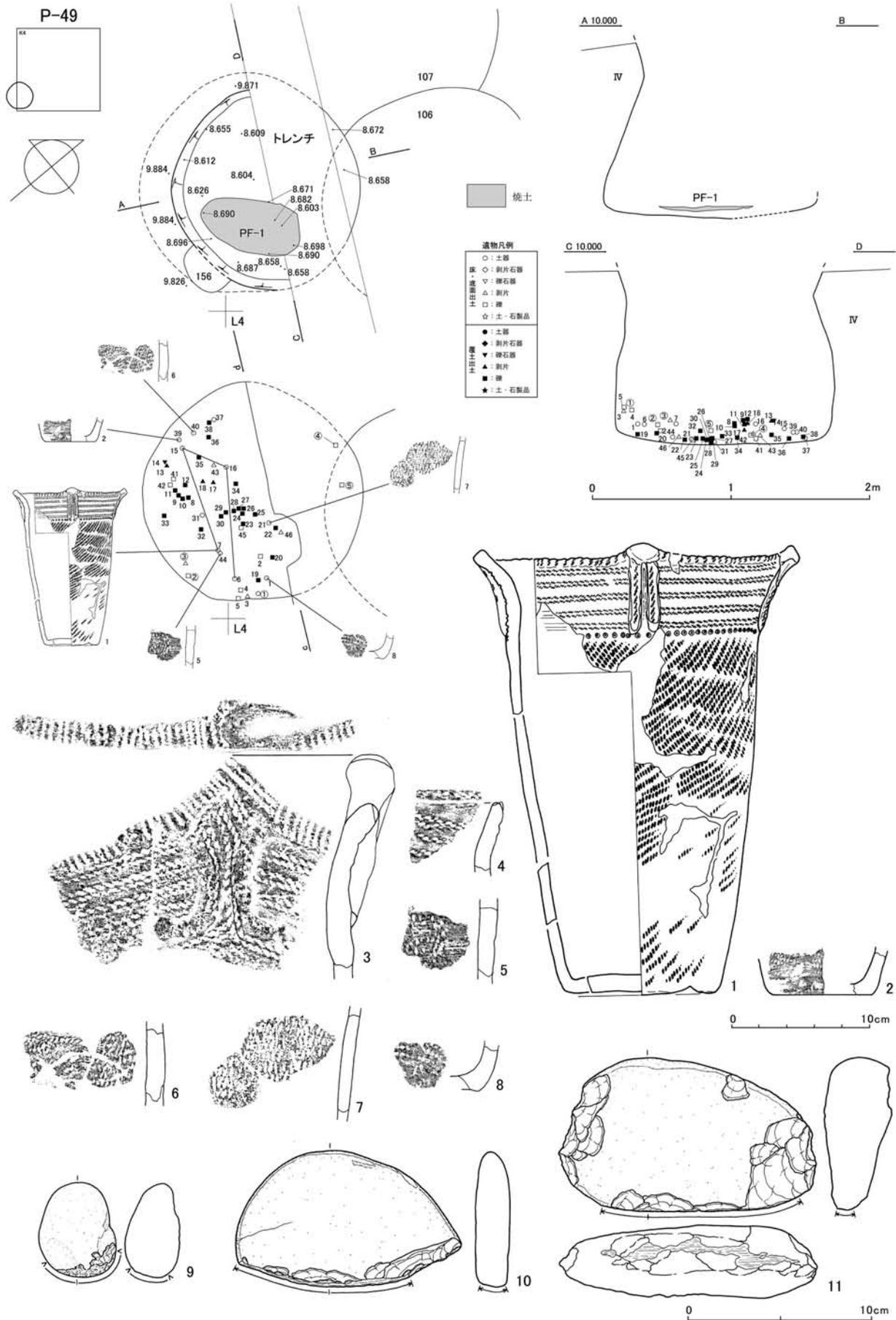
P-53（図Ⅳ-333）

位置：K 5区

坑底面形：円形

規模：不明

確認・調査：H-45の調査中に褐色土の落ち込みを確認した。半截して調査を行い、フラスコ状ピットであることを確認した。覆土はⅡ層主体の自然堆積である。上部はH-45の構築時に壊されている。



図IV-332 P-49

坑底はやや凹凸があり、中央に円形の小ピットがある。

遺物出土状況：坑底からⅡ群B類土器が4点、礫1点、覆土からⅡ群B-4類土器など38点、スクレイパー・凹み石など362点が出土した。坑底の西隅から出土した礫は長さ約30cmの長円礫である。

時期：出土したⅡ群B類土器からみて、縄文時代前期後半と考えられる。(佐藤)

掲載遺物：(土器) 1は坑底、2～5は覆土出土のⅡ群B類土器である。

Ⅱ群B-4類土器(1・3・5)：1は底部破片。単軸絡条体の回転文が施されている。3は口縁部破片。口縁に2本一組の縄線文と結束羽状縄文が施されている。5は体部破片。貝殻で器面調整した後、単軸絡条体の回転文が施されている。

Ⅱ群B-5類土器(2・4)：2は底部破片。体部に単軸絡条体回転文第ⅠA類が施されているもの。4は肩部分で、体部に多軸絡条体の回転文が施されている。

(石器) 5は覆土出土の凹み石。棒状の亜角礫の平坦面に断面円錐状の凹みが2か所と敲打痕が1か所ある。泥岩製。

P-56 (図IV-334)

位置：K 6区

坑底面形：不明

規模：不明

確認・調査：調査区外との境でトレンチ調査を行ったところ、重複した土坑を確認した。Ⅱ層中位から掘り込んでいる。半截して調査を行い、フラスコ状ピットであることを確認した。覆土は自然堆積で、Ⅳ層が主体である。土坑の大部分は調査区外にある。西側の壁はP-42構築時に壊されている。

遺物出土状況：覆土からⅡ群B-3類土器8点、石器はすり石など11点が出土した。

時期：出土したⅡ群B類土器からみて、縄文時代前期後半と考えられる。(佐藤)

掲載遺物：(土器) 1・2は覆土出土のⅡ群B類土器である。

Ⅱ群B-3類土器(1・2)：1は口縁部破片、2は体部破片。器壁が薄く、自縄自巻の原体による回転文が施されている。

(石器) 3は覆土出土のすり石で扁平打製石器。板状礫の周縁を打ち欠いて短冊状に整形し、一長辺に幅の非常に狭い機能部を作出している。安山岩製。

P-57 (図IV-334)

位置：K・L 4区

坑底面形：円形

規模：—/1.36×—/1.35×1.37m

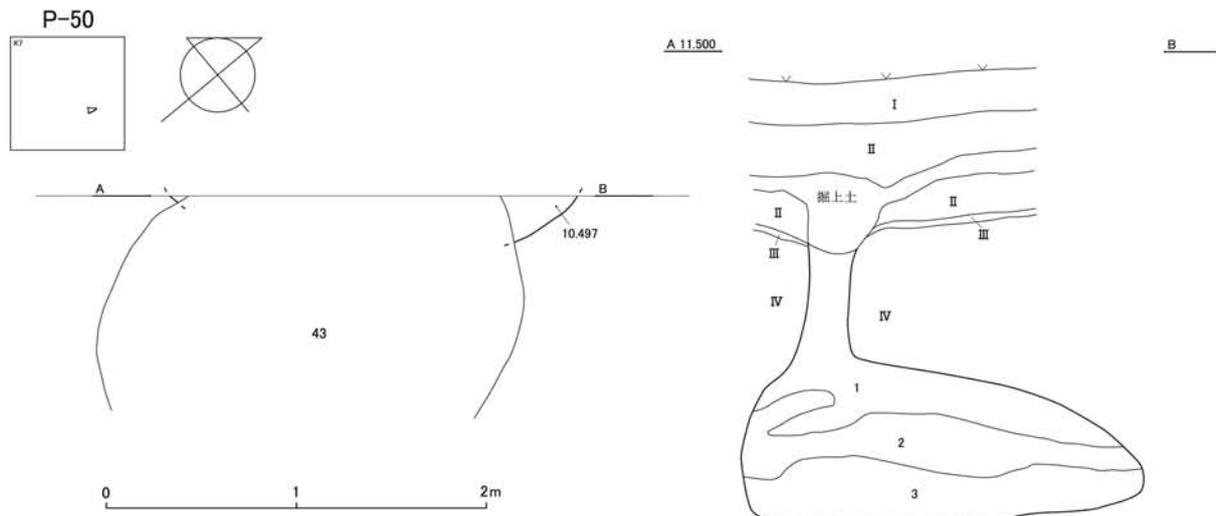
確認・調査：H-44のトレンチ調査中に、A-Bセクションベルトの北西側で、黒色～暗褐色土の落ち込みとして確認した。覆土中にH-44のベンチ部分の掘り込みが確認されたことから、本遺構の上部を壊してH-44床面を構築したのと考えられる。セクションベルトに沿った掘り下げを実施し、Ⅳ層中に平坦な坑底を確認した。壁は内湾しながら立ち上がり中位でくびれ、上は大きく外反する。西側の壁はフラスコ状ピット(P-106)によって壊されている。

遺物出土状況：坑底からたたき石など2点、覆土からⅡ群B-5類土器など16点、石器はスクレイパー・たたき石など15点が出土している。

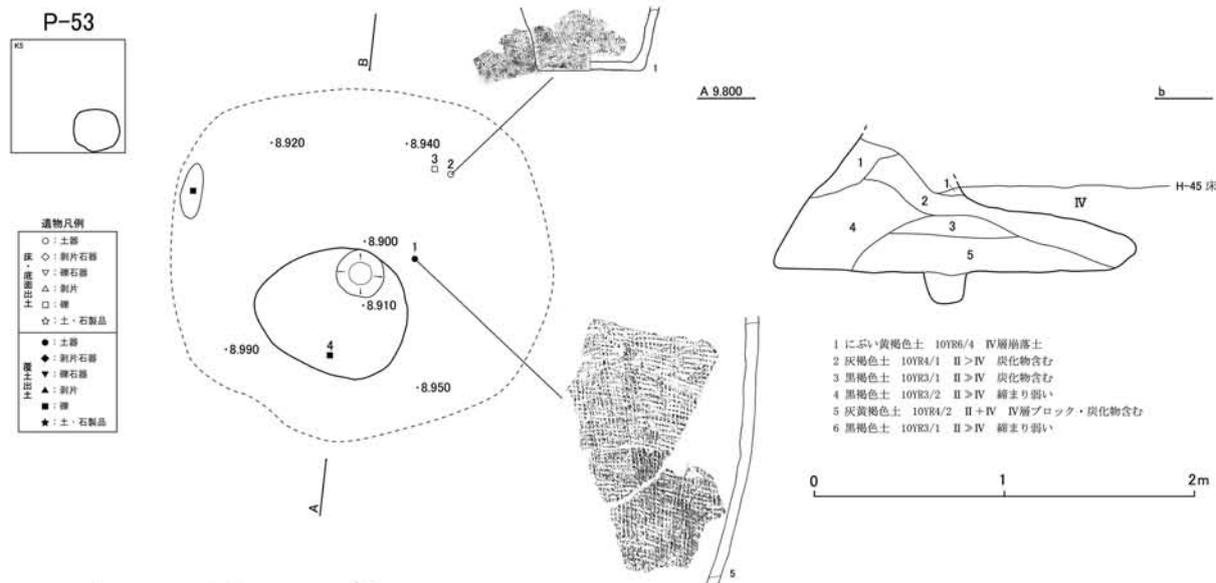
時期：H-44との切り合い関係、覆土出土の遺物から前期末葉と考えられる。

掲載遺物：(土器) 1～4は覆土出土のⅡ群B類土器。

Ⅱ群B-4類土器(1)：1は口縁部破片。口縁部には縄線文が加えられている。

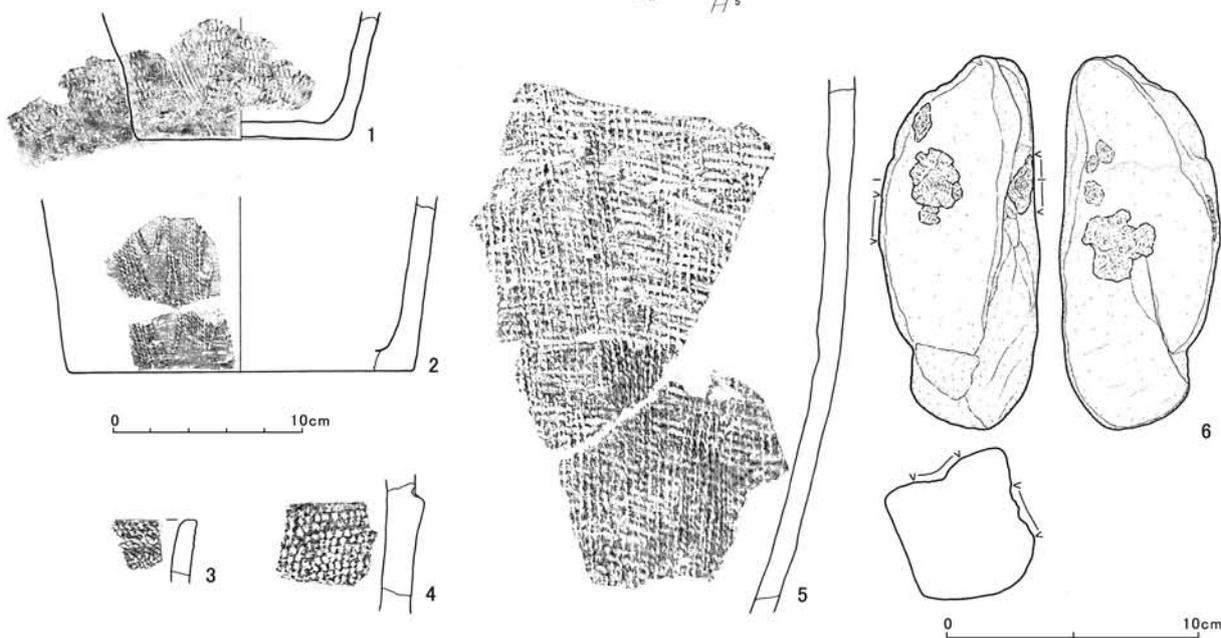


- 1 灰褐色土 10YR4/1 II>IV 締まりが弱い
- 2 にぶい黄褐色土 10YR5/4 IV>II 粘性が強い
- 3 黒褐色土 10YR3/2 II>IV 締まりが弱い



- 遺物凡例
- : 土器
 - ◇: 割片石器
 - ▽: 礫石器
 - △: 割片
 - : 礫
 - ☆: 土・石製品
- 柱状土層
- : 土器
 - ◆: 割片石器
 - ▼: 礫石器
 - ▲: 割片
 - : 礫
 - ★: 土・石製品

- 1 にぶい黄褐色土 10YR6/4 IV層崩落土
- 2 灰褐色土 10YR4/1 II>IV 炭化物含む
- 3 黒褐色土 10YR3/1 II>IV 炭化物含む
- 4 黒褐色土 10YR3/2 II>IV 締まり強い
- 5 灰黄褐色土 10YR4/2 II+IV IV層ブロック・炭化物含む
- 6 黒褐色土 10YR3/1 II>IV 締まり弱い



図IV-333 P-50・53

Ⅱ群B-5類土器(2~4): 2は口唇部が肥厚し、口唇に圧痕が施され、体部は櫛歯状工具による条痕文である。3・4は体部破片。多軸絡条体の回転文である。

(石器)5は底面出土のたたき石。亜円礫の周縁に敲打痕があり、腹面に擦り痕がみられる。安山岩製。

P-60 (図IV-335~337)

位置: K・L11・12区

坑底面形: 円形

規模: 1.20 / 2.48×1.17 / (2.07) ×1.27m

確認・調査: IV層まで及ぶ攪乱層の除去中に、IV層中に暗褐色土の落ち込みを確認した。東西に幅60cmほどのトレンチを設定し、坑底まで掘り下げを実施した。開口部は円形である。断面形はフラスコ状で、上部で強くくびれ、坑底は西側がIV層中に、東側壁際がIV層下位の砂礫層上面に構築され、平坦である。北西側は調査区外におよび未調査である。壁は鋭角に立ち上がる。覆土3層上面に焼土層(上面焼土層)、覆土5層中に焼土層(中面焼土層)と頁岩のフレイク集中、覆土6・7層上面に焼土層(下面焼土層)と炭化物集中を検出した。坑底の北側・南東側から土器集中が、西側から礫・石器類を中心とした遺物集中が検出されている。

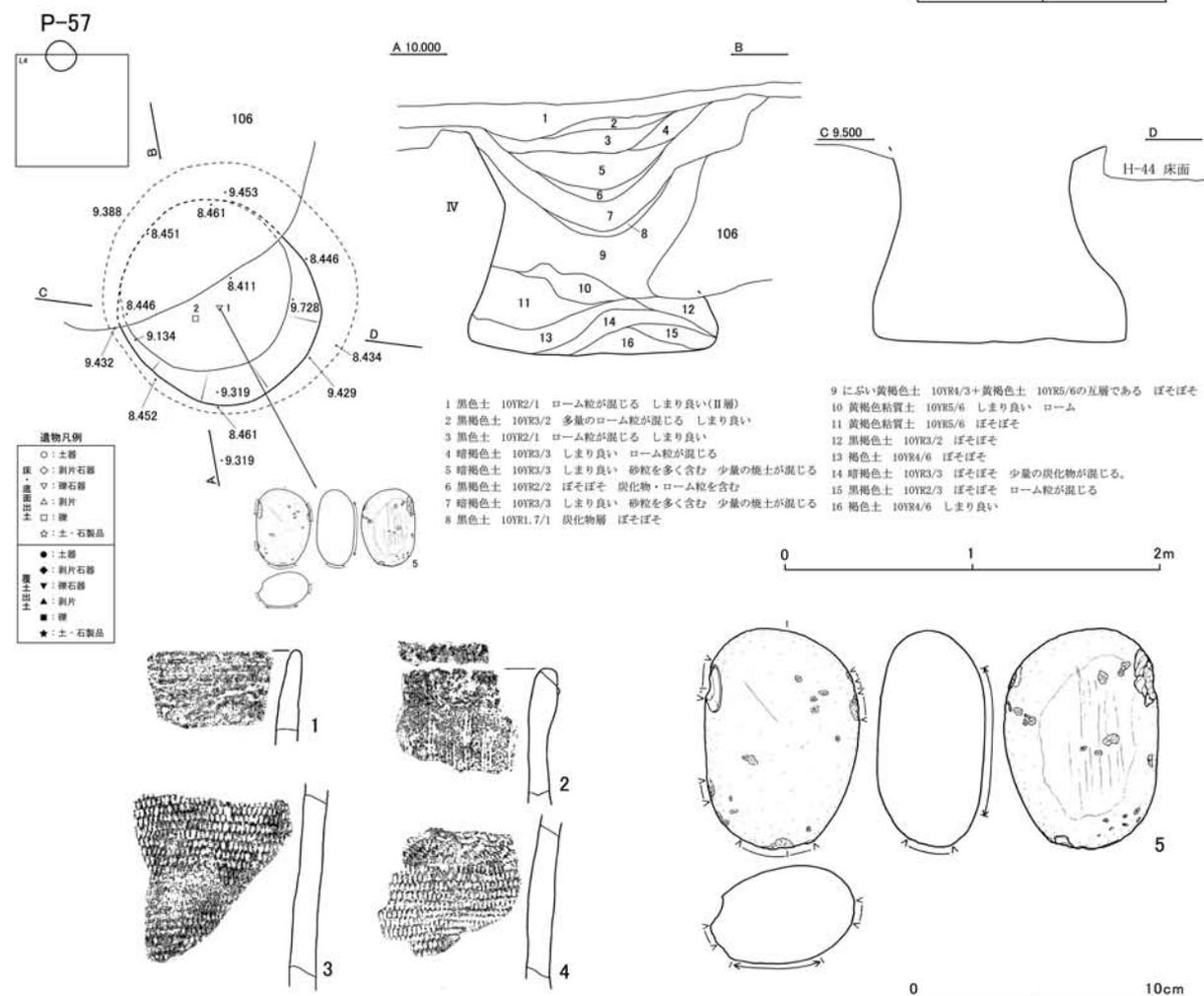
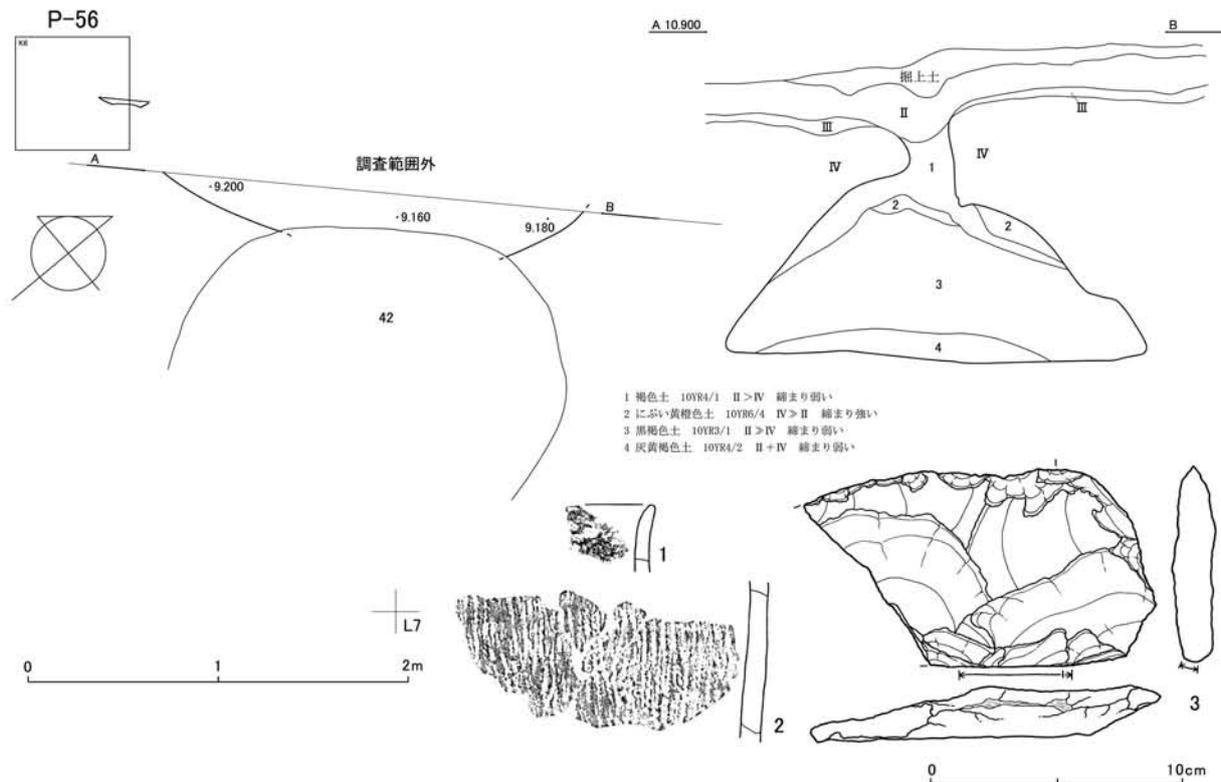
遺物出土状況: 覆土5層から坑底にかけて多くの遺物が出土した。北側・南東側に土器集中が、西側に礫・石器類を中心とした遺物集中が検出された、南東側の土器集中からは多くの土器破片と共に小型土器がほぼ正立した状態で出土した。坑底・坑底直上からⅡ群B-5類土器など309点、たたき石・すり石など136点、覆土からⅡ群B-5類土器など111点、たたき石・すり石など136点が出土した。

時期: 坑底からⅡ群B-5類土器が出土していることから縄文時代前期末葉と思われる。

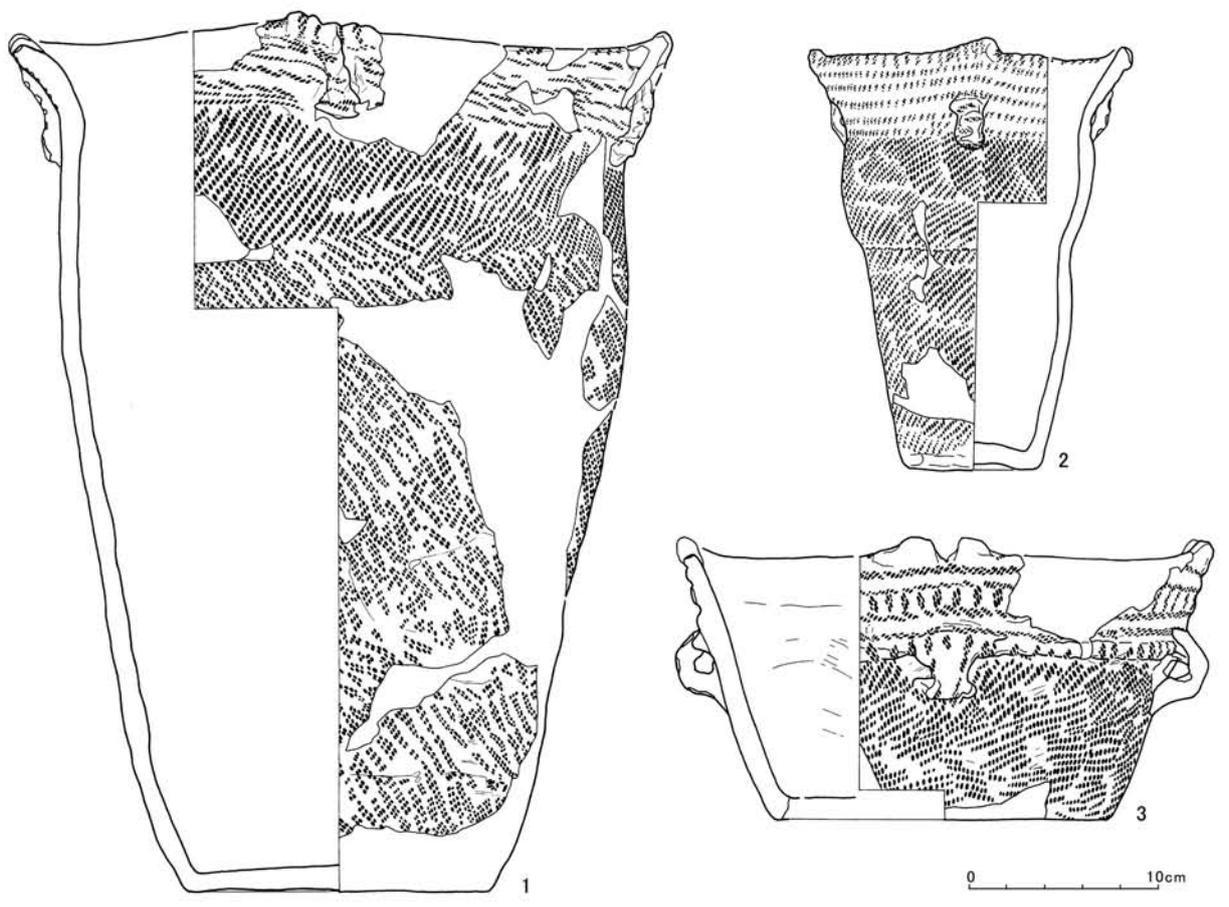
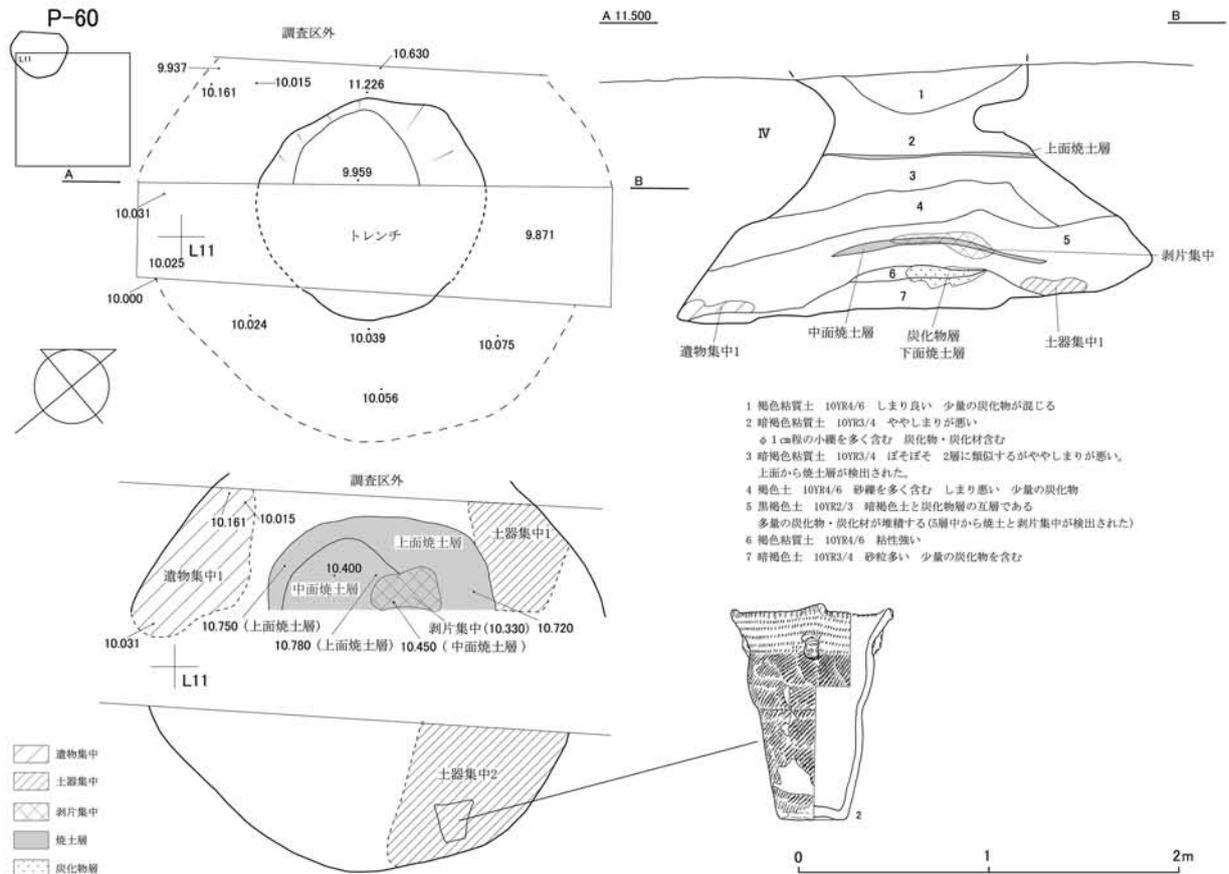
掲載遺物: (土器)1~9は坑底・坑底直上出土である。いずれもⅡ群B類土器である。

Ⅱ群B-5類土器(1~9): いずれの口頸部も肥厚気味である。1は緩やかな波状口縁である。片流れの波頂部から2本一組の圧痕文が加えられた貼付帯が施され、無文地の口頸部は外反し、やや肥厚気味で、5~6本の縄線文が加えられている。体部上半に斜行縄文、下半に複節の斜行縄文が施されている。2は体部上半が膨れ、口縁部が外反する器形である。口縁部は4か所に片流れの突起が施されている。口唇・無文地の口頸部に単軸絡条体の圧痕文が施され、波頂部下位の口頸部文様帯下端に橋状の把手が加えられている。体部に斜行縄文が施され、膨らみの下位にループ状の上端が認められる。3は浅鉢。口縁部は2個一組の突起が施されている。口頸部文様帯下端に縄の圧痕文が加えられた貼付帯が施され、無文地の口頸部に2本一組の縄線と短縄線が組み合わされ施文されている。口頸部文様帯下端の貼付帯から体部上半にかけて橋状の把手が加えられている。体部には斜行縄文が施されている。4は斜行縄文が施された底部。6~8は口縁部破片。5は口頸部が肥厚するもの。口唇には貼り付けによって突起が作出され、無文地の口頸部に3~4条の縄線文、突起からは4本の縄線文が縦位に加えられている。体部には斜行縄文が施されている。6の口唇断面は角形で、口唇に縄文が加えられている。無文地の口頸部文様帯下端は貼付帯によって区画され、文様帯に縄線文が加えられている。体部には斜行縄文が施されている。7・8は同一個体。口唇部に貼り付けによる突起が施され、口唇に縄文が施されている。体部には複節の斜行縄文が施されている。9は体部破片。斜行縄文が施されている。

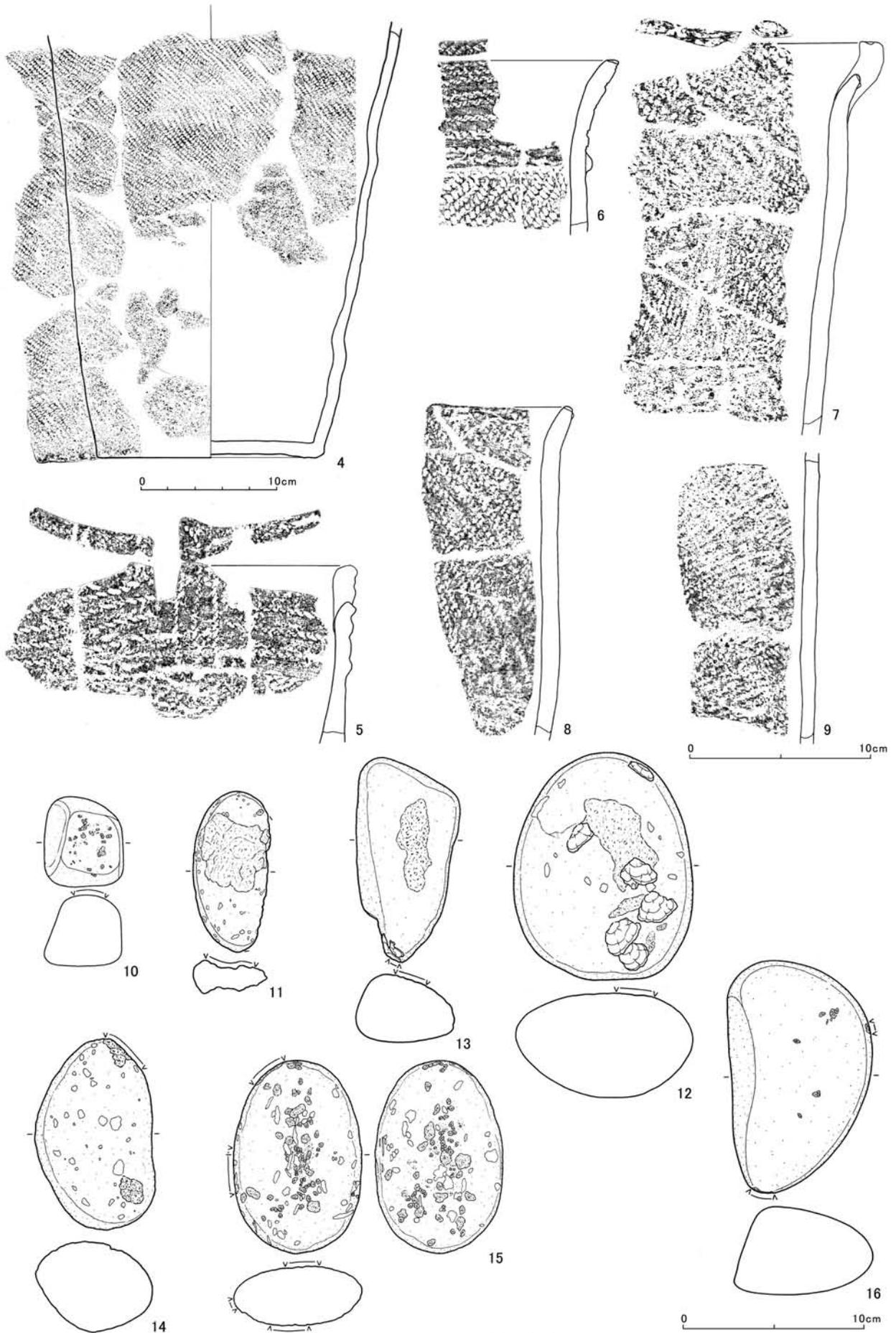
(石器)10~12・14~17・21は坑底、13・19は坑底直上、18は覆土5層、22は覆土3層、20は覆土出土。10~16はたたき石。10は亜円礫の平坦面に敲打痕のあるもの。泥岩製。11は扁平な棒状礫の平坦面に敲打痕のあるもの。凝灰岩製。12は扁平な亜円礫の平坦面に敲打痕のあるもの。安山岩製。13は亜角礫の平坦面と下端部に敲打痕のあるもの。砂岩製。14は棒状の亜円礫の端部に敲打痕があるもの。



図IV-334 P-56・57



図IV-335 P-60



图IV-336 P-60遺物 (1)

安山岩製。15は扁平な亜円礫の周縁と平坦面に敲打痕があるもの。安山岩製。16は扁平な亜円礫の下端部・側縁・平坦面に敲打痕のあるもの。砂岩製。17は凹み石。棒状礫の中央に断面円錐形の凹みがあるもの。安山岩製。18～21はすり石。18は扁平な楕円礫の側縁に幅の狭い擦り面を作出したもの。砂岩製。19・20は北海道式石冠。全面を敲打で整形し、握部を作出している。擦り面は長軸・短軸ともに外湾し、短軸方向に傾いている。砂岩製。21は扁平打製石器。扁平礫の周縁を打ち欠いて半円状に整形し、弦の部分に狭い機能部を作出したもの。安山岩製。22は石皿。扁平な楕円礫の平坦面を敲打によって調整し、すり面として利用している。安山岩製。

(小括)本遺構から深鉢・小型土器・浅鉢などが出土した。また、これらに伴うたたき石・くぼみ石・すり石などの礫石器が出土している。これらは出土状況から一括性の強いものと考えられる。土器は口縁部文様帯と頸部文様帯の複合する口頸部文様帯をもつものと考えられる。類似資料はH-16の覆土3層・覆土2層出土資料やH-28出土資料などがあり、これらは「複合する口頸部文様帯をもつもの」土器群で、本資料に比べその特徴も明確に見てとれるものである。これらの資料は一連の変遷を示すもので、その中であって新しい段階に位置付けられるものと考えられる。剥片石器を欠くが縄文時代中期前半の円筒土器上層式への移行期の土器・石器群として位置付けられる良好な資料である。

P-76 (図IV-337)

位置：M 7・8区

坑底面形：楕円形

規模：2.22 / 2.32×2.08 / 2.08×0.24m

確認・調査：IV層まで及ぶ攪乱層の除去中に、IV層中に少量の炭化物が混じる褐色土の落ち込みを確認した。東西に幅60cmほどのトレンチを設定し、坑底まで掘り下げを実施した。深さ20～25cmほどで坑底を検出した。上部は削平によって消失しているが、本来はフラスコ状ピットであったと考えられる。坑底はIV層中に構築され、平坦である。坑底のやや北側中央に径0.53×(0.46)、深さ0.08mの少量の炭化物が混じる褐色土が落ち込んだ皿状の小ピットが認められた。壁は北側ではオーバーハング気味に、南側は坑底を検出したのみで立ち上がりは不明である。

遺物出土状況：坑底の小ピットからII群B-5類土器1点、覆土から礫1点が出土した。

時期：坑底の小ピットから出土したII群B-5類土器の縄文時代前期末葉である。(熊谷)

掲載遺物：(土器) 1は体部破片。II群B-5類土器。多軸絡条体の回転文が施される。

P-62 (図IV-338)

位置：K 4区

坑底面形：円形

規模：1.50 / 1.60×1.21 / 1.72×0.62m

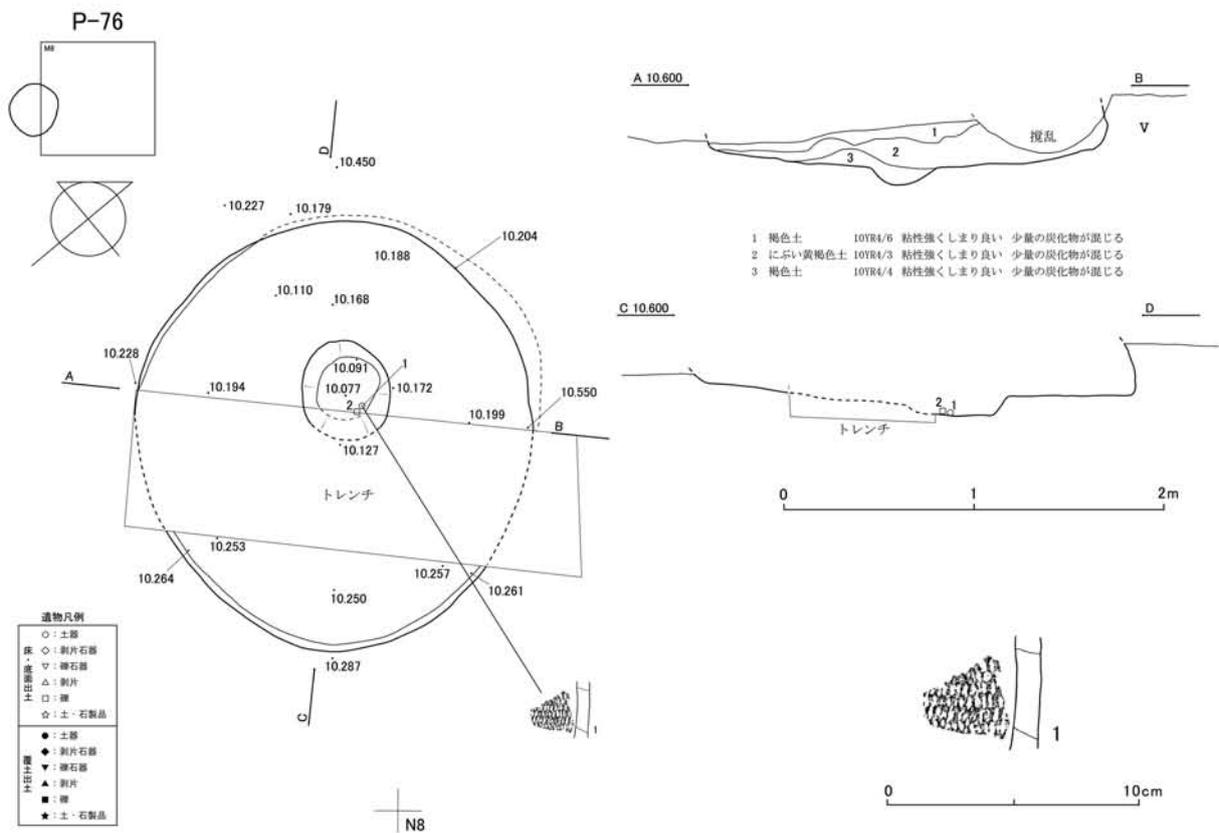
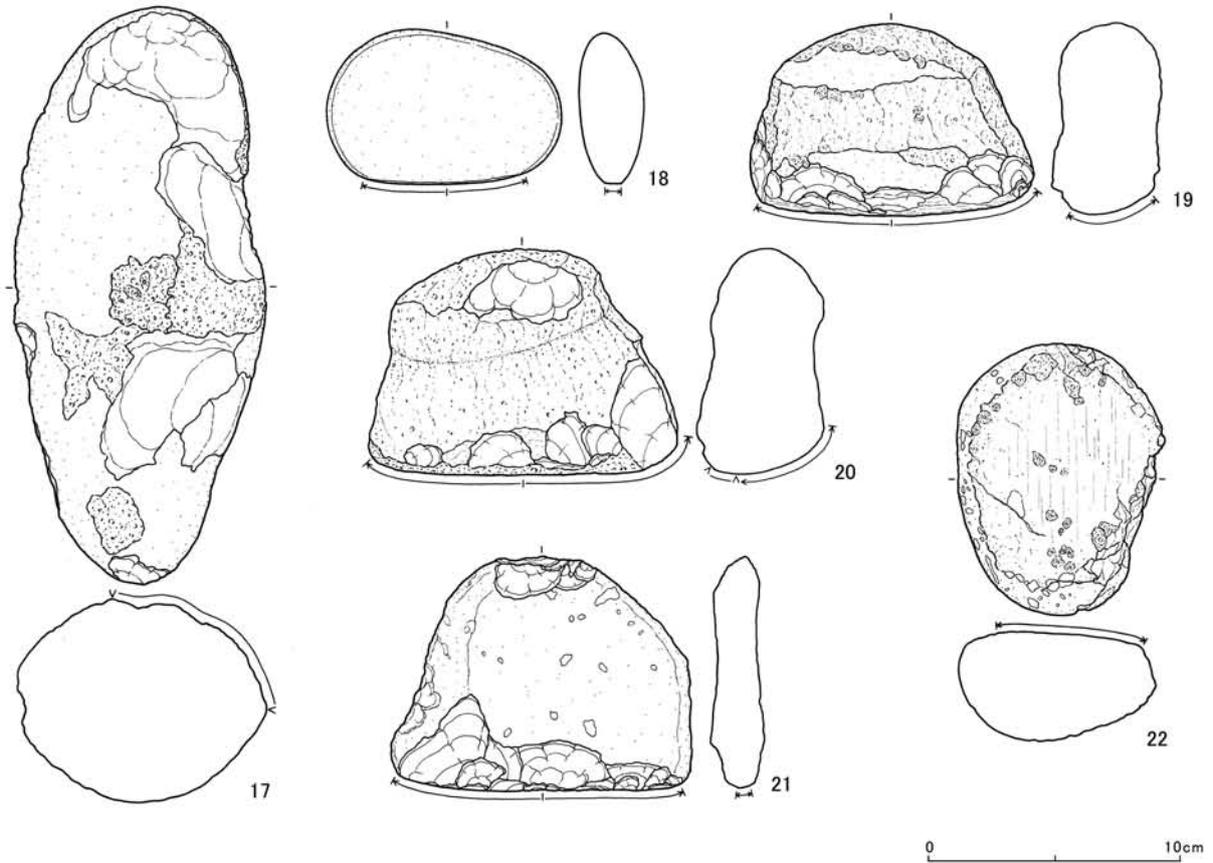
確認・調査：H-47・48の南北トレンチ調査で床面に暗褐色土の落ち込みを確認した。H-47・48を壊して構築されている。西側ではH-47床面の周堤をもつ炉跡の東側を壊している。開口部は円形である。北西側の壁は攪乱を受けているが断面形は上部で強くくびれるフラスコ状になるものと思われる。坑底は、H-48床面より62cm程下位のIV層中に平坦に構築されている。

遺物出土状況：坑底からII群B-5類土器1点、覆土からII群B-5類土器など27点、石器は石斧・すり石など96点が出土した。

時期：II群B-5類土器が出土していることから縄文時代前期末葉の時期と思われる。

掲載遺物：(土器) 2は坑底出土、1・3・4は覆土出土である。いずれもII群B類土器である。

II群B-5類土器(1～4)：1～3は口縁破片。1は口唇に縄の圧痕文が加えられ、体部に斜行



図IV-337 P-60遺物(2) P-76

縄文は施されたもの。2は口縁部に肥厚帯を持つもの。口唇に縄圧痕が加えられ、無文地に横位の縄線文を施した後、縦位の縄線が加えられている。3は口縁部破片。縦位の縄線が加えられた貼り付けによって小突起を作りだしている。無文地の口頸部に縄線文が施されている。4は体部破片。円形刺突文で口頸部下端を区画し、口頸部に2本一組の縄線文が加えられ、体部に斜行縄文が施されている。

(石器) 5～7は覆土出土。5は石斧。短冊形で刃部は破損のために形状不明。全面を研磨によって調整している。片岩製。6はたたき石。扁平礫の端部に敲打痕のあるもの。チャート製。7はすり石。扁平な円礫の短軸両側縁に幅の狭いすり面が作出されている。長軸右側には打ち欠きによる抉りがみられる。砂岩製。

P-63 (図IV-339)

位置：L 6・7区

坑底面形：不整円形

規模：— / 2.69 × — / 2.45 × 1.82m

確認・調査：IV層で褐色土の落ち込みを確認した。半截して調査を行い、フラスコ状ピットであることを確認した。覆土は自然堆積で、II層とIV層を主体にする互層となっている。坑底はやや凹凸があり、中央に径0.35×0.32、深さ0.10mの円形の小ピットがある。

遺物出土状況：坑底からII群B-5類土器が3点、台石など7点、覆土からII群B類土器52点、石器はスクレイパー・たたき石・すり石など63点が出土した。石製品では石剣？や有孔石が出土している。

時期：出土したII群B-5類土器からみて、縄文時代前期末葉と考えられる。(佐藤)

掲載遺物：(土器) 2・4・5は坑底出土、1・3は覆土出土。いずれもII群B-5類土器である。

II群B-5類土器(1～5)：1は緩やかな波状口縁で、口唇には絡条体の圧痕文が加えられている。波頂部から口頸部文様帯中位まで縄線文が加えられた垂下する貼り付けが施されている。その下端には橋状把手の貼り付けが認められる。口頸部文様帯下端は縄の圧痕が加えられた貼付帯で区画され、無文地の文様帯に縄線文が施される。体部には多軸絡条体の回転文が施され、波頂部下位に綾絡文が加えられている。2・3は口縁部文様帯が肥厚する口頸部破片。2は口唇に縄の圧痕文、文様帯に縄線文と半截竹管状工具内面の刺突文が交互に施文されている。3は口唇に縄線文、無文地の口頸部文様帯に絡条体の圧痕文が施されている。4・5は体部破片。4は単節の縄文、5は複節の縄文が施されている。

(石器) 7は底面、6・8・9は覆土出土。6はたたき石。扁平な棒状礫の端部に敲打痕があるもの。平坦面に非常に細かい線刻がみられる。泥岩製。7は台石。扁平な楕円礫の平坦面に敲打痕があるもの。安山岩製。8は礫器。扁平礫の下端に刃部を設けている。上端部に敲打痕、裏面に断面円錐状の凹みがみられることから、たたき石もしくは凹み石の転用と考えられる。泥岩製。9は石製品。石剣の身の一部と考えられる。敲打で整形したのち、研磨で調整している。安山岩製。

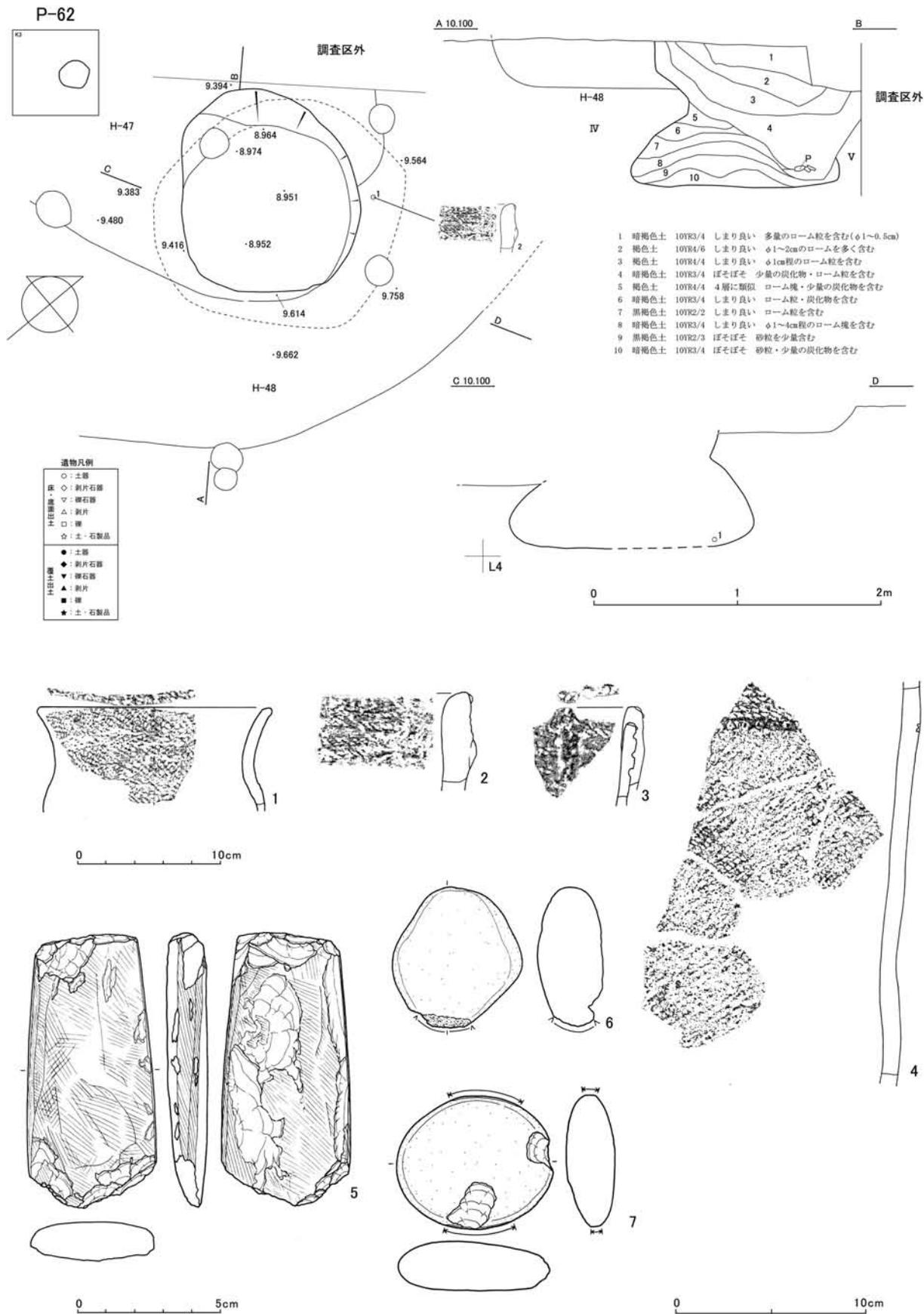
P-64 (図IV-340・341)

位置：L 9区

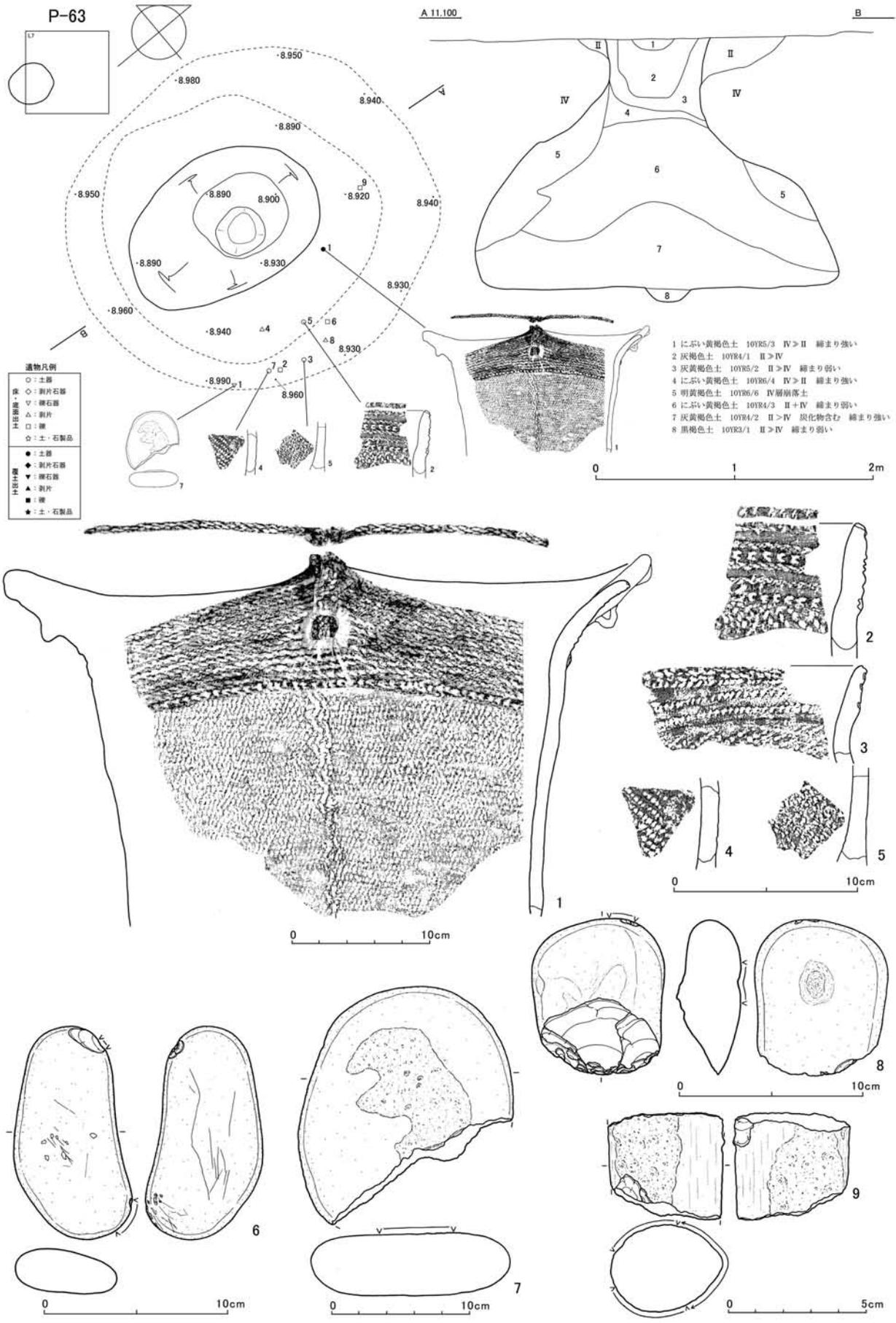
坑底面形：円形

規模：— / 2.10 × — / 2.10 × 1.40m

確認・調査：IV層まで及ぶ攪乱層の除去中に、IV層中で暗褐色土の落ち込みを確認した。東西に幅60cmほどのトレンチを設定し、坑底まで掘り下げを実施した。開口部は円形である。断面形はフラスコ状である。坑底はIV層中に平坦に構築され、坑底中央に径0.48×0.46m、深さ0.12mの暗褐色土が落ち込んだ小ピットが検出された。壁は鋭角に立ち上がり、上部で張り出しをもつ。覆土下部は、炭化物



図IV-338 P-62



図IV-339 P-63

層と焼土層が互層に堆積している。

遺物出土状況：坑底北側から石器類、南側からⅢ群A類土器の土器集中が確認され、土器集中からは土器片と共にほぼ完形の土器が出土した。坑底からⅢ群A類土器65点、すり石など4点、覆土からⅢ群A類土器など333点、たたき石・すり石など27点が出土した。軽石製石製品1点が出土している。

時期：坑底南側から円筒土器上層A式の復元個体が得られていることから、中期初頭と考えられる。

掲載遺物：(土器) 1・2は坑底、3は覆土8層出土である。いずれもⅢ群A類土器である。

Ⅲ群A類土器(1～3)：1は平底の底部からわずかに開き気味に立ち上がり、口頸部で外反する。波状口縁で、4か所の波頂部をもつ。口唇部には組紐状の縄の圧痕が加えられる。口頸部文様帯下端は縄の圧痕が加えられた貼付帯によって区画されている。波頂部には3本の貼付帯が施され、口頸部文様帯には粘土紐・ボタン状の貼り付けが施され、これに組紐状の縄の圧痕が加えられている。無文地の口頸部には6条の組紐状の縄の圧痕が加えられている。体部は結束斜行縄文である。2は斜行縄文が施された体部破片。3は口縁部破片。無文地の頸部文様帯に2本一組の縄線文が施され、口唇部・貼付帯に縄の圧痕文が加えられている。体部には複節の斜行縄文が施されている。

(石器) 4は底面出土のすり石で扁平打製石器。被熱した扁平礫の側縁を打ち欠いて幅の狭いすり面を作出し、長軸両端に打ち欠きによって抉りを入れている。平坦面に敲打痕が認められる。砂岩製。

P-66 (図IV-342)

位置：L・M 7区

坑底面形：不整円形

規模：1.07 / 2.36×0.86 / 2.27×1.90m

確認・調査：IV層まで及ぶ攪乱層の除去中に、IV層中で炭化物・ブロック状の黒色土が混じる暗褐色土の落ち込みを確認した。周辺のフラスコ状ピットがいずれも深く、本遺構も深いことが予想されたため、南側を坑底直上までスコップで掘り下げた。上部は楕円形で、くびれ部の開口部は円形、断面形はフラスコ状である。南側上部でP-78との切り合い関係が認められ、P-78がP-66の上部を壊して坑底部を構築している。坑底はIV層中に平坦に構築され、坑底中央に径0.21×0.20m、深さ0.28mの暗褐色土が落ち込んだ小ピットを検出した。壁は鋭角に立ち上がり、上部で強くくびれる。

遺物出土状況：坑底直上から礫など2点、覆土からⅡ群B-3類土器など72点、たたき石など24点が出土した。

時期：出土遺物から縄文時代前期後半と考えられる。

掲載遺物：(土器) 1～5は覆土出土でⅡ群B類土器である。

Ⅱ群B-3類土器(1)：1は器面に単軸絡条体の回転文が施された底部破片。

Ⅱ群B-4類土器(2)：2は文様帯下端に刺突が加えられた肥厚帯をもつ口縁部破片で、文様帯には縄線文が加えられている。Ⅱ群B-5類土器の可能性もある。

Ⅱ群B-5類土器(3～5)：3・5は幅広も口頸部文様帯をもつもの。3は無文地の文様帯に縄線文が加えられている。5は文様帯下端の肩部分に2条の綾絡文が加えられている。4は口縁部断面形が切り出し状のもの。肥厚帯上及び肥厚帯直下に単軸絡条体の圧痕文が加えられている。

P-83 (図IV-342)

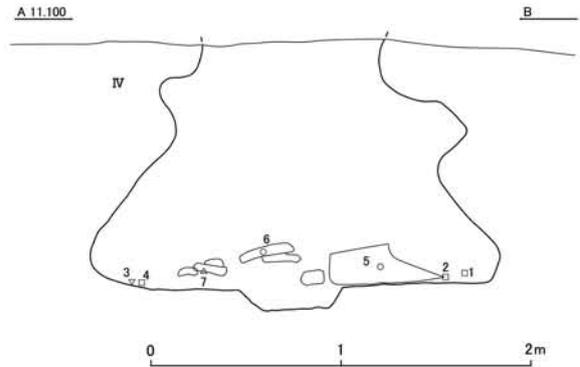
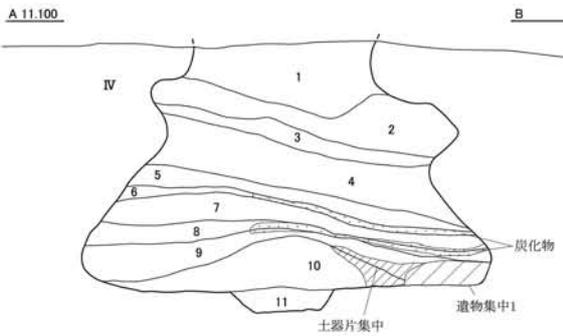
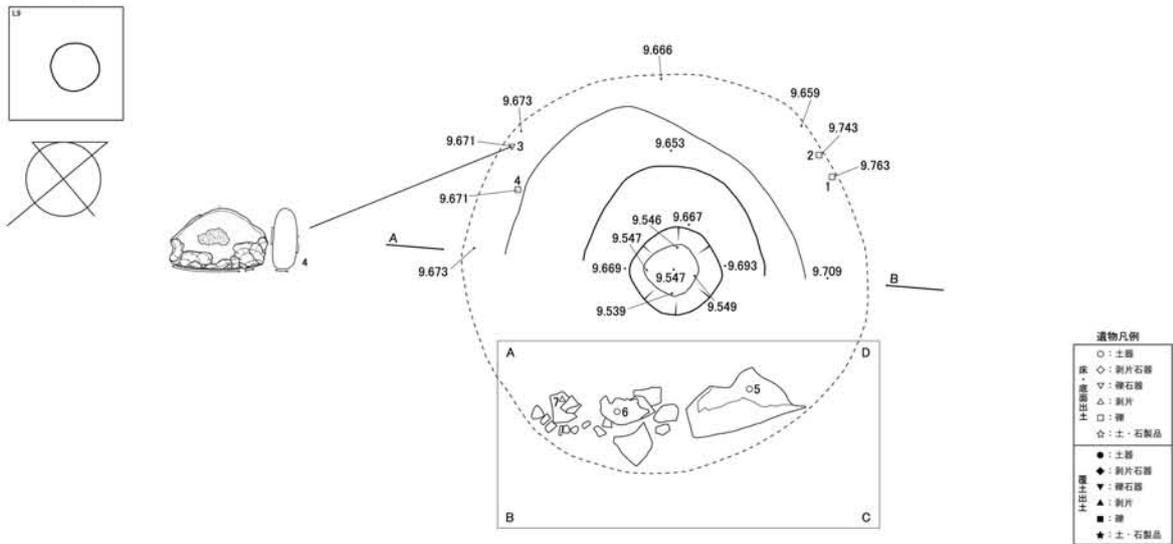
位置：N 5・6区

坑底面形：円形

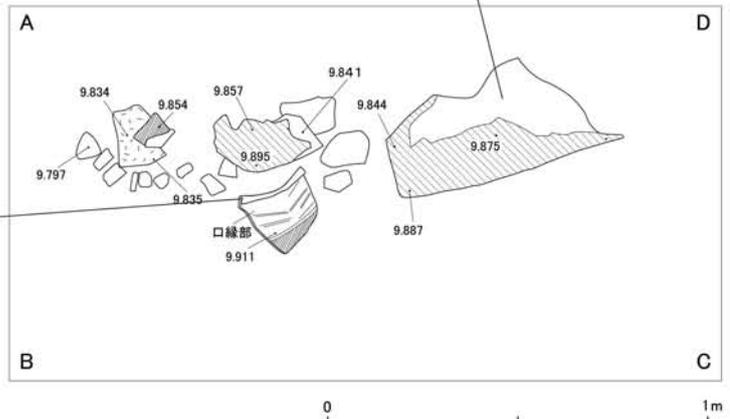
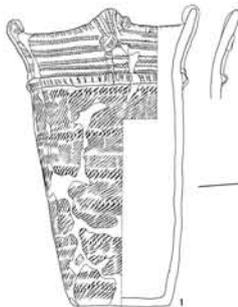
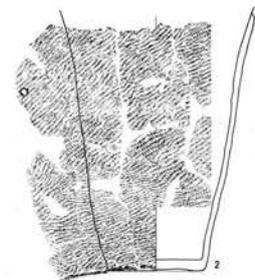
規模：- / 1.30×- / 1.25×0.59m

確認・調査：上部はIV層中位まで削平されており、掘り込みの中位～坑底部が残存する。掘り込み面

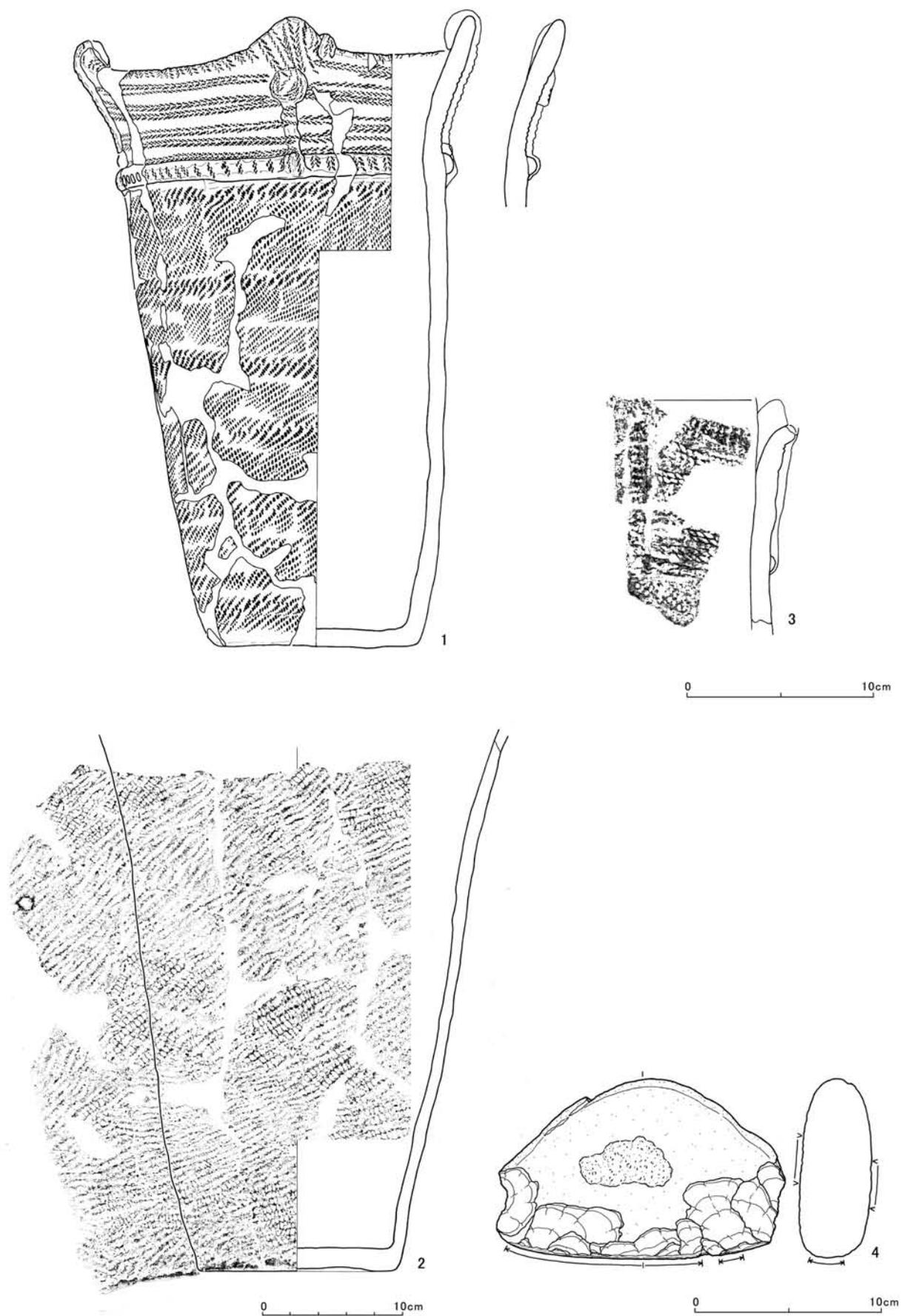
P-64



- 1 褐色土 10YR4/4 しまり良い 少量の炭化物混入
- 2 褐色土 10YR4/4 しまり悪い 少量の炭化物が混じる
- 3 黄褐色土 10YR5/6 しまり悪い 砂粒・少量の炭化物を含む
- 4 褐色土 10YR4/4 3層に類似するがやや黒味が強い 砂粒を多く含む ぼそぼそ
- 5 黄褐色土 10YR5/6 ぼそぼそ 少量の炭化物・砂粒を多く含む
- 6 にぶい黄褐色土 10YR4/3 砂粒を多く含む(φ1~2cm程) 炭化材・炭化物も含む
- 7 黄褐色土 10YR5/6 5層と同質であるがしまりが良い
- 8 暗褐色土 10YR3/4 しまり良い 粘性強い 炭化物・砂粒が混入
- 9 黄褐色粘質土 10YR5/6 しまり良い 粘性強い
- 10 暗褐色土 10YR3/4 砂粒多く、ぼそぼそ 少量の炭化物が混じる
- 11 褐色土 10YR4/4 砂粒多く、ぼそぼそ 少量の炭化物が混じる



図IV-340 P-64



图IV-341 P-64 遺物

はⅡ中層で、本来は北から南へ降りる緩斜面上に掘り込まれたと推測される。検出面（中位）の平面形は楕円形、坑底面は円形。坑底面はほぼ平坦で、中央部に浅い円形の小ピット（SP-1）が設けられている。昇降のための施設の痕跡である可能性がある。坑底部がオーバーハングするが、北側には崩落に伴う亀裂に堆積したと考えられる腐植土も見られる。覆土は自然堆積である。P-80・96・103と近接するが、重複していない。規模・形態が類似するP-84と同時期に構築された可能性が高い。**遺物出土状況**：坑底直上から礫2点、覆土からⅡ群B-5類土器など37点、剥片など21点が出土した。**時期**：周辺の遺構の出土遺物から、縄文時代前期末葉と考えられる。（芝田）

掲載遺物：（土器）1・2は覆土出土のⅡ群B類土器である。

Ⅱ群B-5類土器（1・2）：1は口唇部に縄の圧痕文が加えられ、幅の狭い口頸部文様帯には縄線文と刺突文が加えられている。体部に自縄自巻の回転文が施されている。2は摩滅が著しく不明だが、口頸部に縄線文が認められる。

P-67（図IV-343・344）

位置：K・L 7・8区

坑底面形：不整円形

規模：- / 2.38 × - / 2.33 × 1.48m

確認・調査：Ⅱ層を掘り下げ中に褐色土の落ち込みを確認した。半截して調査を行い、フラスコ状ピットであることを確認した。覆土は自然堆積で、Ⅳ層を主体にする層が堆積する。坑底はほぼ平坦で、中央に円形の小ピットがある。

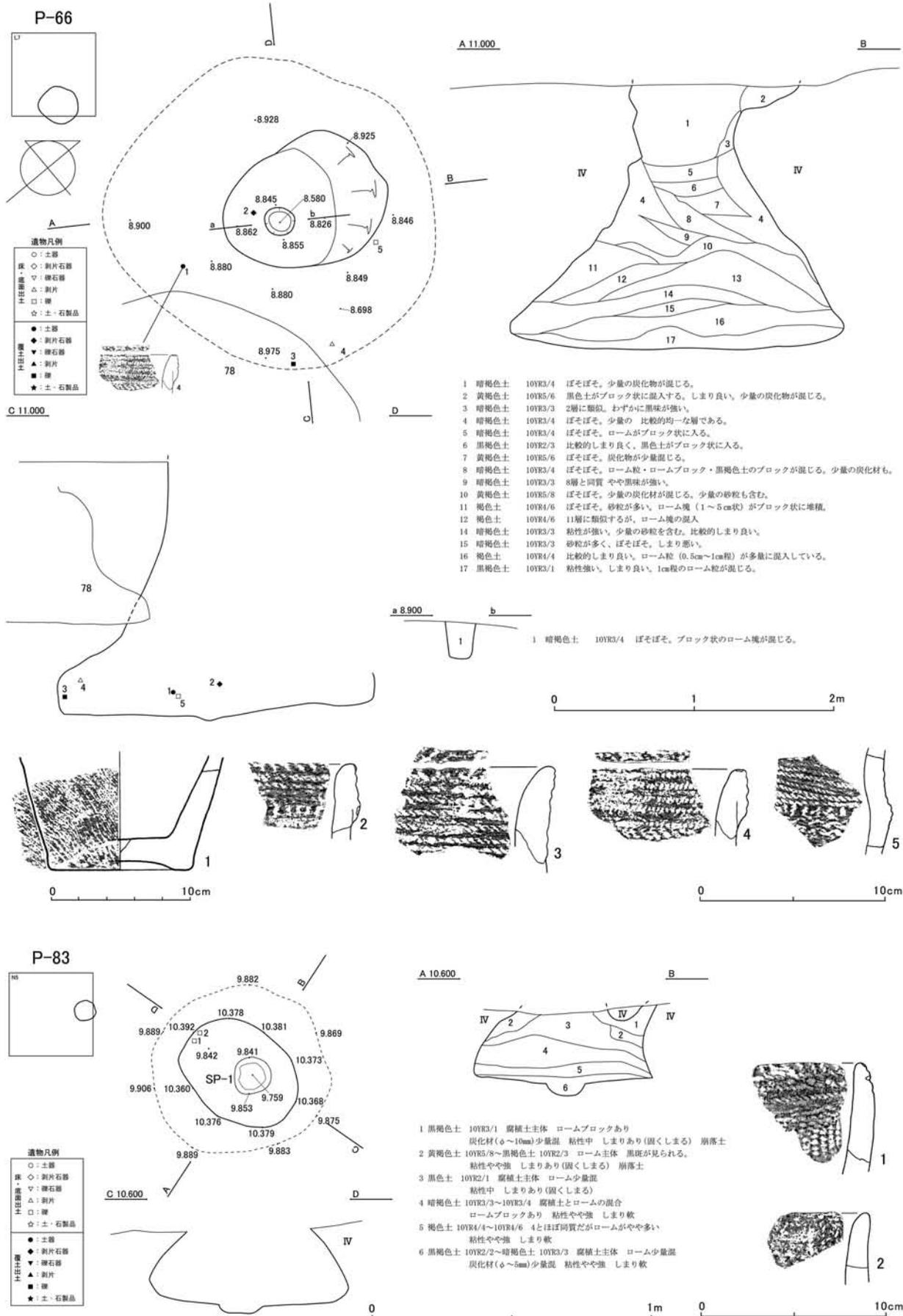
遺物出土状況：坑底の壁付近一面に礫など365点が敷き詰められていた。この多量の礫に混ざり、スクレイパー・すり石・たたき石などが出土した。坑底直上からⅡ群B-5類土器など55点、礫など11点、覆土からⅡ群B類土器90点、焼成粘土塊1点、たたき石など35点が出土した。

時期：出土したⅡ群B-5類土器からみて、縄文時代前期末葉と考えられる。（佐藤）

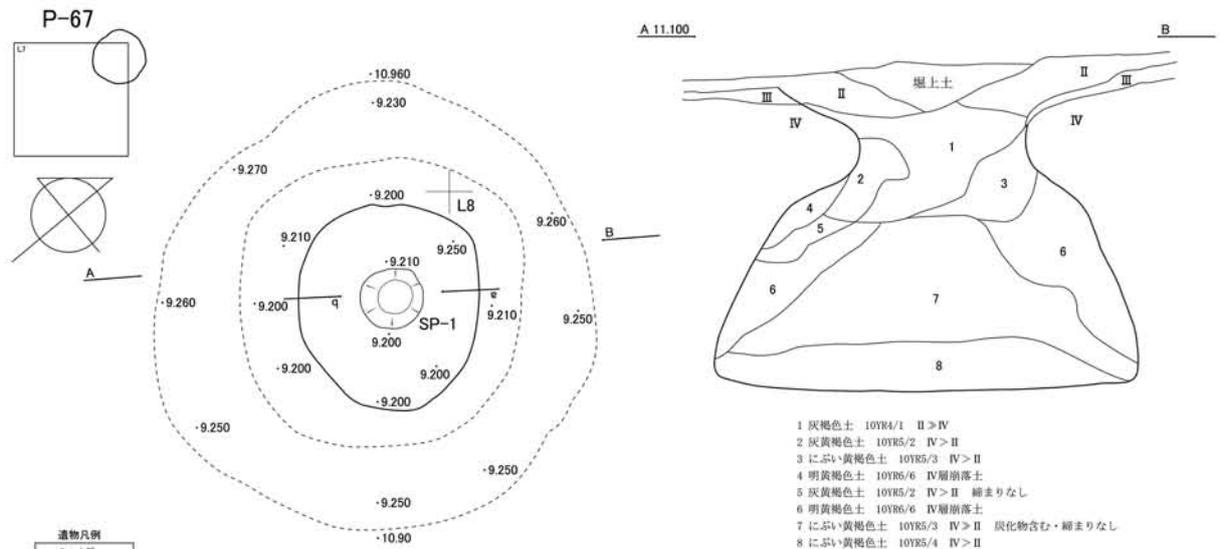
掲載遺物：（土器）1～5・7～9は坑底、6は覆土出土のⅡ群B類土器。

Ⅱ群B-5類土器で（1～9）：1は4か所の波頂部をもつ波状口縁で、波頂部・口唇に縄の圧痕が加えられている。体部上半にくびれをもち、口頸部は大きく外反する。口頸部文様帯下端は刺突が加えられた貼付帯で区画され、無文地の文様帯に2本一組の縄線文で波頂部下位を頂点とする入れ子の三角形の文様構成が作出されている。2は多軸絡条体の回転文が施された底部破片。3・4は平縁の口縁部破片。口縁部は肥厚気味で、口唇に縄の圧痕が加えられている。口頸部文様帯には、3は無文地に縦と横の縄線文と偶然とも考えられるが指頭圧痕、4は貝殻条痕上に縄線文が加えられている。いずれも肥厚帯直下にナデ調整が加えられ無文帯を作出している。体部は多軸絡条体の回転文である。5は全面に多軸絡条体の回転文が施されたもの、6は櫛歯状工具による擦痕が全面に施されたもの。7・8は肩部分の破片。7は無文地の頸部に縄線文が施されたもの。8は刺突文が加えられた貼り付けで肩部分を作出し、口頸部に縄線文が施されている。9は結束斜行縄文が施された体部破片。

（石器）10～19は底面出土。10はスクレイパー。縦型剥片の側縁に刃部を作出したもの。頁岩製。11はRフレイク。礫片の一部に二次加工を施している。泥岩製。12～16はたたき石。12は扁平な楕円礫の平坦面に敲打痕があるもの。砂岩製。13は扁平な棒状礫の平坦面に敲打痕があるもの。泥岩製。14は扁平な楕円礫の端部に敲打痕のあるもの。砂岩製。15は扁平礫の端部と側縁に敲打痕のあるもの。安山岩製。16は扁平な亜円礫の端部と平坦面に敲打痕のあるもの。砂岩製。17・18はすり石。17は北海道式石冠。全面を敲打によって整形し、握部を作出している。擦り面は長軸、短軸ともに外湾しており、短軸方向に傾いている。安山岩製。18は扁平打製石器。扁平礫の側縁を打ち欠いて幅の非常に



図IV-342 P-66・83

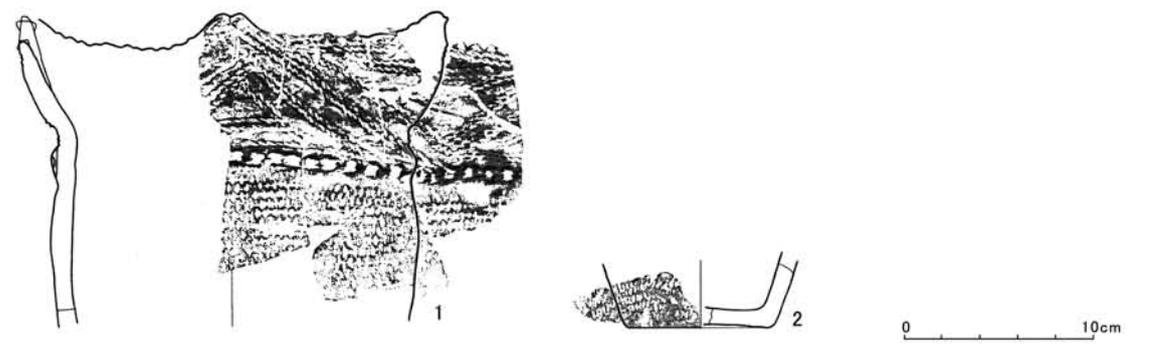
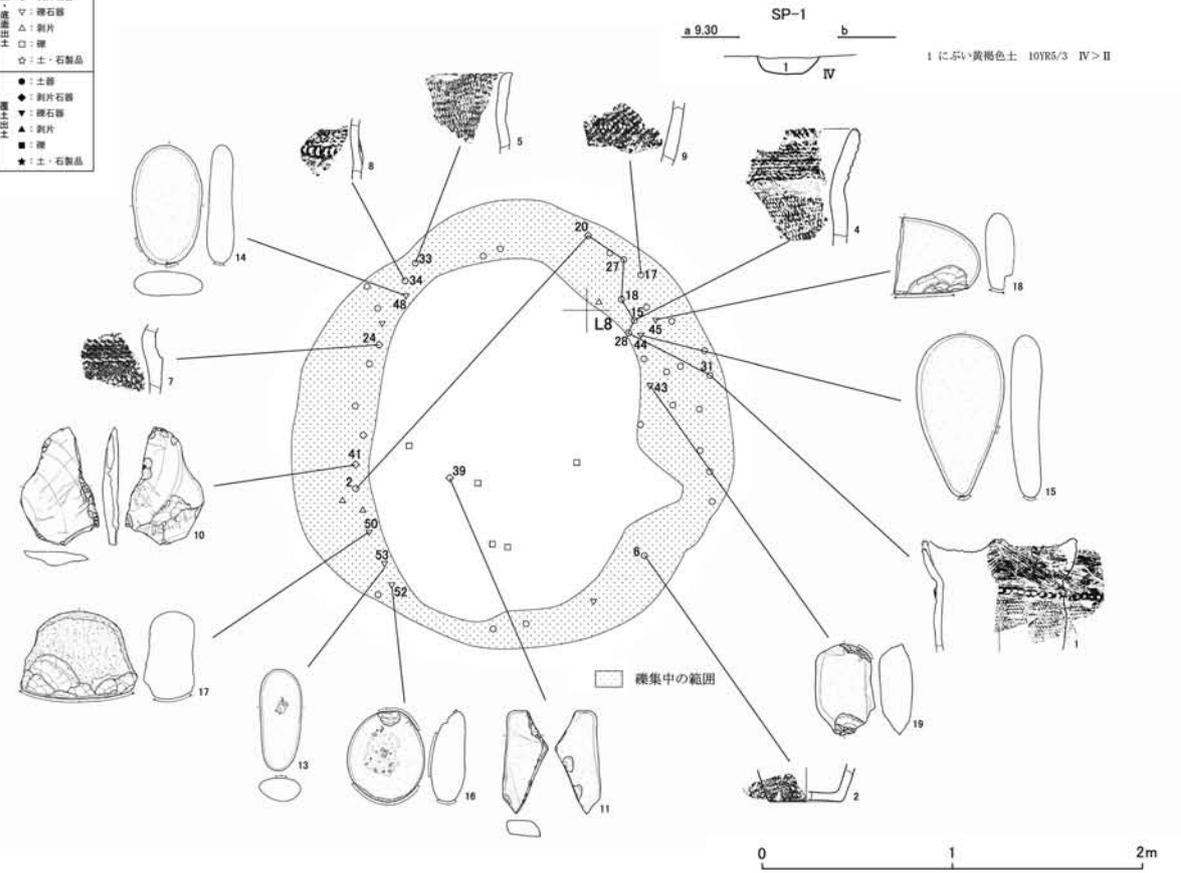


遺物凡例

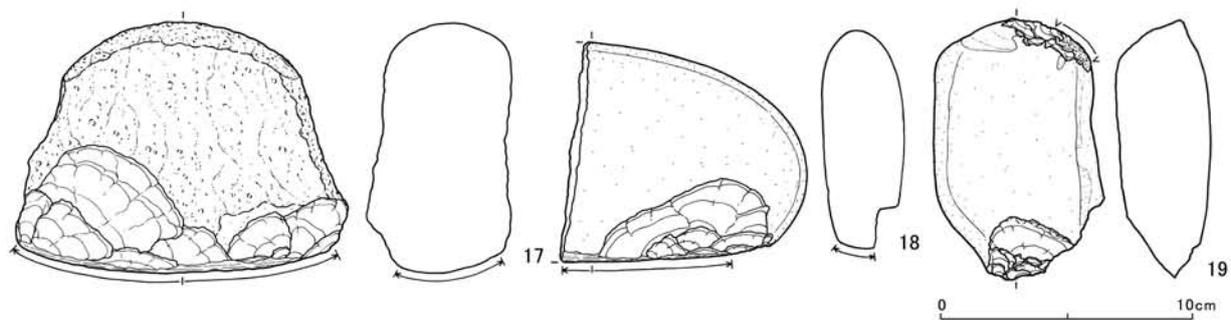
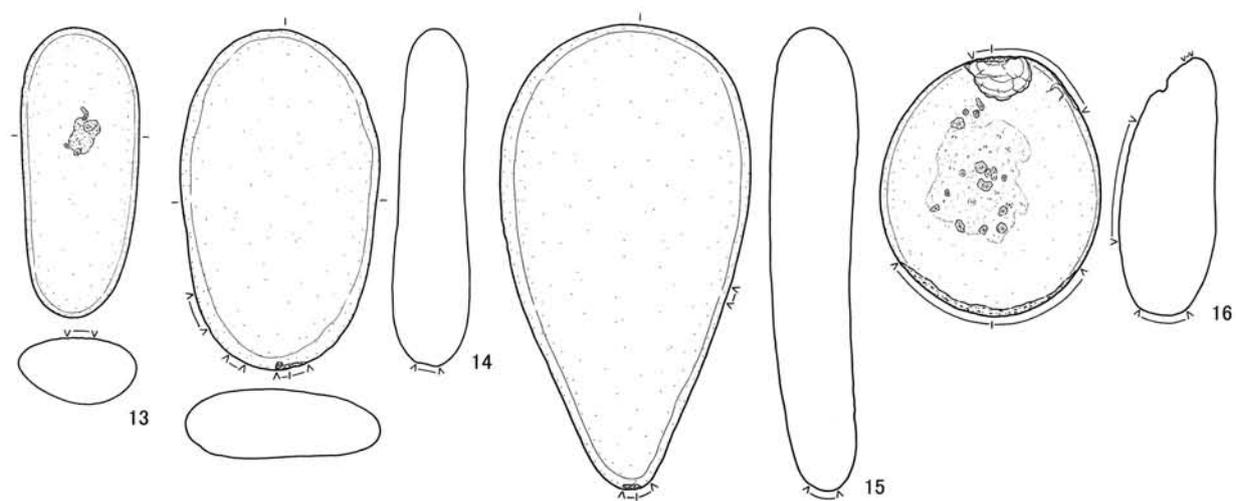
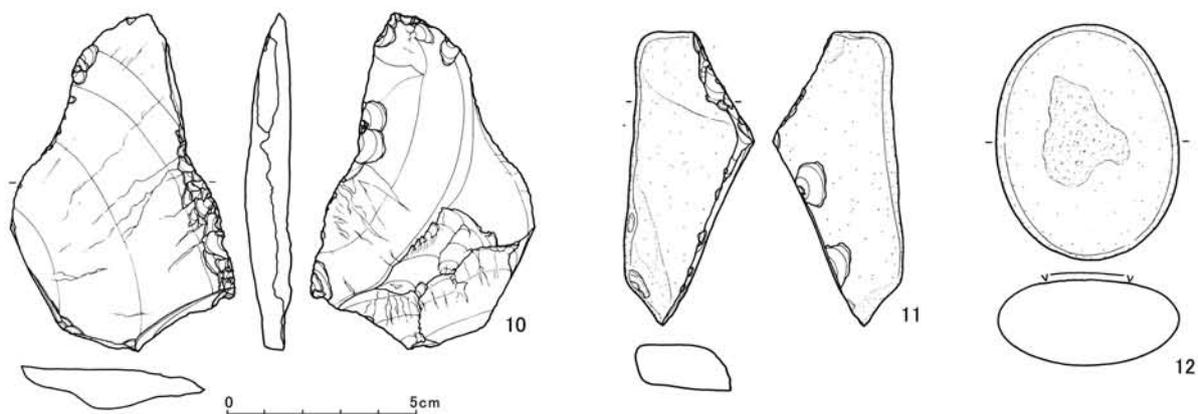
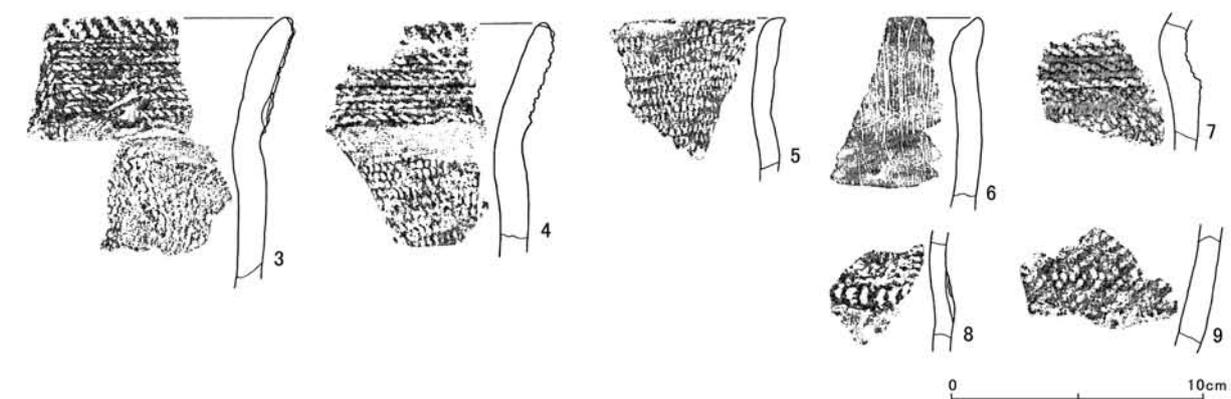
○	土器
◇	剥片石器
▽	礫石器
△	剥片
□	礫
☆	土・石器製品

H 柱状物

●	土器
◆	剥片石器
◇	礫石器
△	剥片
□	礫
☆	土・石器製品



図IV-343 P-67



图IV-344 P-67 遺物

狭い機能部を作出している。安山岩製。19は礫器。扁平礫の下端部にV字状の刃部を作出している。上端部に敲打痕があることから、たたき石としても利用されていたと考えられる。頁岩製。

P-69 (図IV-345)

位置：O・P 3区

坑底面形：楕円形

規模：- / 3.18×- / 2.46×0.15m

確認・調査：上部はIV層中まで削平されており、東側も重機のキャタピラにより壊されている。このため、坑底部のみが残存していた。掘り込み面は不明である。フラスコ状ピットと考えられる。坑底面形は楕円形。坑底面はほぼ平坦であるが、北西側に小さな凹凸が見られる。坑底面の中央に浅い楕円形の小ピット（SP-1）が設けられている。昇降のための施設の痕跡である可能性がある。覆土は盛土～IV層からの崩落土と推測される腐植土とロームが堆積している。北側でP-65、中央部でP-125、南側でP-58と重複しているが、新旧は不明である。

遺物出土状況：覆土からⅡ群B類土器など689点、たたき石・礫など61点が出土した。

時期：出土遺物から、縄文時代前期後半の可能性はある。 (芝田)

掲載遺物：土器は小破片で、摩滅が著しいため掲載することができなかった。

P-80 (図IV-345)

位置：N 5区

坑底面形：隅丸方形

規模：- / 1.66×- / 1.56×0.63m

確認・調査：上部はIV層上位まで削平されており、掘り込み面は不明である。本来は北から南へ降りる緩斜面上に掘り込まれたと推測される。検出面（中位）での平面形は楕円形、坑底面は隅丸方形である。坑底面はほぼ平坦であるが、北側が少し低い。断面は坑底部が大きくオーバーハングしフラスコ状ピットと考えられる。覆土は、自然堆積の腐植土を主体とする。北西側の外部で柱穴と考えられる小ピットが検出された。断面観察ではこれを避けるようにP-80の下半部が掘り込まれている。相互の関連性および新旧は不明である。

遺物出土状況：坑底直上から剥片など2点、覆土からⅡ群B類土器32点、剥片など55点が出土した。

時期：周辺遺構の出土遺物などから、縄文時代前期末葉の可能性はある。 (芝田)

掲載遺物：(土器) 1～3は覆土出土のⅡ群B類土器である。

Ⅱ群B-5類土器(1～3)：1は肥厚する口縁部破片。摩滅が著しいが僅かに縄線文が認められる。2は肥厚する頸部破片。口唇部を欠失する。口頸部文様帯下端に縄の圧痕が加えられた貼付帯が施され、文様帯に2本一組の縄線文が加えられる。体部は斜行縄文である。3は肥厚帯直下の体部破片と考えられる。上部に半截竹管状工具内面の刺突文が3段、下位に多軸絡条体の回転文が施されている。

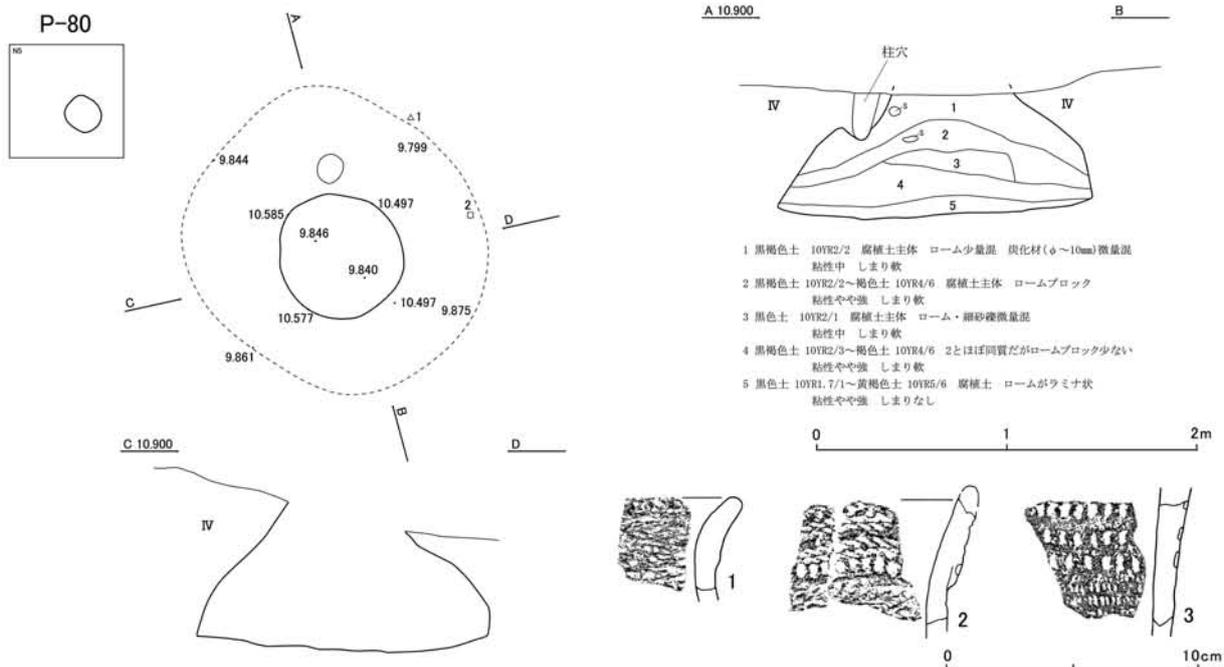
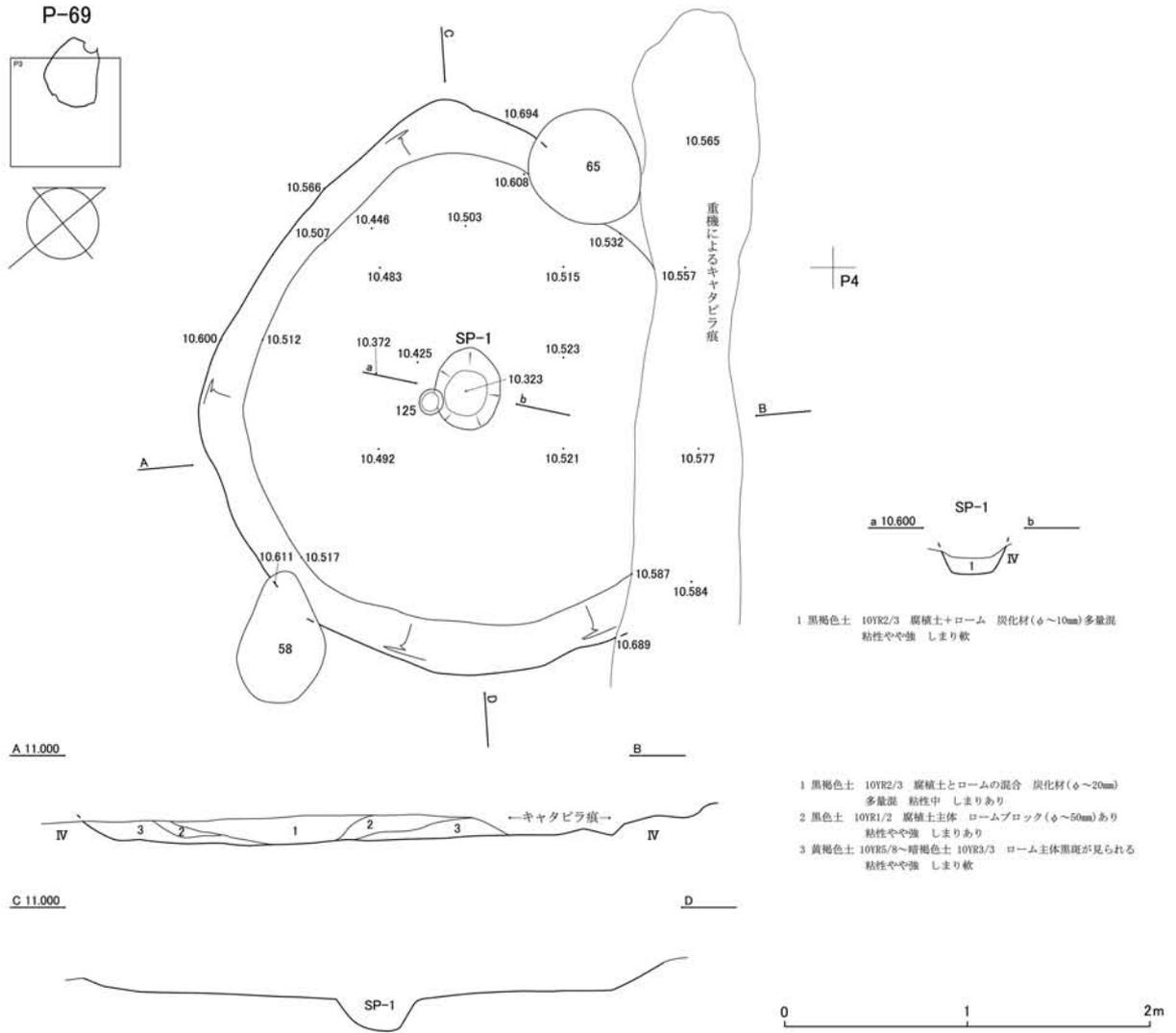
P-70 (図IV-346・347)

位置：L 3区

坑底面形：円形

規模：0.90 / 2.14×0.80 / 2.13×1.73m

確認・調査：H-44西側壁の検出中に暗褐色～黄褐色土の落ち込みを確認する。H-44の床面が本遺構の上部を切って構築されている。フラスコ状ピットを想定し、A-Bセクションベルトを設定し、掘り下げを実施した。覆土上部に焼土(PF-1)を確認、中位面に炭化物を多く含む層が認められた。坑底は平坦にIV層中に構築されている。壁は上部に向かって大きくくびれ、開口部は小さい。



図IV-345 P-69・80

遺物出土状況：坑底直上で土器・礫等がまとまって出土し、器形のわかるⅡ群B-4土器の復原土器2個体が得られた。土器はⅡ群A土器・Ⅱ群B-3～5類土器がある。坑底・坑底直上からⅡ群B-4類土器など61点、礫など7点、覆土からⅡ群B-4類土器など238点、スクレイパー・たたき石など112点が出土した。石製品は軽石製石製品が2点出土している。

時期：坑底出土のⅡ群B-4類土器から、縄文時代前期後半と考えられる。

掲載遺物：(土器) 1・2・5・6は坑底、3は坑底直上、4は覆土出土である。4はⅡ群A類、5はⅡ群B-3類土器、1・2はⅡ群B-4類土器、3・6はⅡ群B-5類土器である。

Ⅱ群A類土器(4)：4は口縁部破片。口唇に刻目が加えられ、体部に多条の縄文が施されている。

Ⅱ群B-3類土器(5)：5は単軸絡条体第6類の回転文で菱目状の撚糸文が施されている。

Ⅱ群B-4類土器(1・2)：1は平縁で、口頸部文様帯下端で肩を持つ器形である。無文地の文様帯に菱目状に縄線文が施されている。肩部分には結節羽状縄文が2列加えられている。体部に単軸絡条体の回転文が施されている。2は緩やかな波状口縁で、肩部分に縄線文が加えられている。体部には単軸絡条体の回転文が施されている。

Ⅱ群B-5類土器(3・6)：3は1と共に出土した破片2点が接合した、波状口縁で、波頂部は2個一組の突起からなり、下位に横位の楕円形の穿孔が施されている。口頸部は大きくくびれ、口頸部文様帯を構成している。文様帯下端は縄の圧痕が加えられた貼付帯で区画され、文様帯に縄線文が加えられている。体部には単軸絡条体第1A類の回転文が施されている。6は体部破片。多軸絡条体の回転文が施されている。

(石器) 7～10は覆土出土。7はスクレイパー。横型剥片の下側縁に刃部を設けたもの。使用痕とみられる光沢が確認できる。頁岩製。8はたたき石。扁平な棒状礫の平坦部に敲打痕のあるもの。泥岩製。9はすり石で北海道式石冠。全面を敲打で整形し、握部を作出している。すり面は平坦で、短軸方向に傾きがみられる。安山岩製。10は軽石製石製品。軽石の亜円礫の両面に凹みがみられる。

P-71・102 (図IV-348・349)

P-71

位置：M 5・6区

坑底面形：円形

規模：— / 1.82 × — / 1.67 × 0.82m

確認・調査：上部はⅢ～Ⅳ層上位まで削平されており、掘り込みの中位～坑底部が残存していた。掘り込み面は不明である。検出面での平面形は楕円形、坑底面は円形である。坑底面はほぼ平坦で、北側がやや低い。断面は坑底部がオーバーハングする。覆土はⅡ～Ⅳ層からの崩落土と推測される腐植土とロームが自然堆積している。覆土中には焼土が多く混入しており、上部に住居跡が存在していた可能性がある。北側でP-102を壊し、南側でP-86に壊されている。

遺物出土状況：坑底・坑底直上から礫6点、覆土からⅡ群B-3・5類土器・Ⅲ群A土器などが45点、焼成粘土塊1点、たたき石など116点が出土した。

時期：周辺の遺構の出土遺物から、縄文時代前期後半～中期前半の可能性ある。(芝田)

掲載遺物：(土器) 1～7は覆土出土。1～5はⅡ群B類土器、6・7はⅢ群A類土器である。

Ⅱ群B-3類土器(1～3)：1は口頸部破片。文様帯には貝殻条痕上に縄線文が加えられている。2・3は太目の単軸絡条体の回転文が施されている。

Ⅱ群B-5類土器(4・5)：4は単軸絡条体の第1A類の回転文が施されている。5は多軸絡条体の回転文が施された底部破片。

Ⅲ群A類土器（6・7）：6・7は同一個体の可能性がある頸部破片。無文地の口頸部に縄線文と縦位の短縄文が加えられている。7は縄の圧痕文が加えられた貼付帯が施されている。

（石器）8～10は覆土出土。8はスクレイパー。剥片の側縁に直線的な刃部を作出したもの。頁岩製。9はたたき石。扁平な棒状礫の平坦面に敲打痕のあるもの。泥岩製。10は砥石。棒状の軽石製で溝状のすり面が確認できる。

P-102

位置：M 5・6区

坑底面形：円形

規模：－／1.98×－／1.84×1.52m

確認・調査：上部はⅢ～Ⅳ層上位まで削平されており、掘り込み面は不明である。検出面（中位）での平面形は楕円形、坑底面は円形である。坑底面はほぼ平坦で、中央部がやや低い。断面は坑底部が大きくオーバーハングし、フラスコ状ピットであることを確認した。覆土は、上部に自然堆積の腐植土、下部にⅡ～Ⅳ層からの崩落土と推測されるロームが多い。南側でP-71に壊されている。

遺物出土状況：坑底から剥片など5点、覆土からⅡ群B-4類土器など12点、スクレイパー・剥片・礫など51点が出土した。

時期：周辺の遺構の出土遺物から、縄文時代前期後半の可能性がある。（芝田）

掲載遺物：（土器）1～5は覆土出土のⅡ群B類土器である。

Ⅱ群B-4類土器（1・2）：1は口縁部に横走する縄線文、体部に単軸絡条体の回転文が施されている。2は体部破片。単軸絡条体の回転文が施されている。

Ⅱ群B-5類土器（3～5）：3は頸部破片。無文地の口頸部・肩部分に単軸絡条体の圧痕文が施されている。4・5は体部破片。4は多軸絡条体の回転文、5は斜行縄文が施されている。

（石器）6は覆土出土の擦り切り残片。側縁に両面から擦られた痕跡がみられる。滑石製。岩石学的分析を行い、松前産との分析結果が報告されている（分析結果は大平遺跡（3）に掲載）。遺跡から出土する珞状耳飾りや垂飾で利用されている滑石と同じものと考えられる。

P-73（図IV-349）

位置：L・M 9区

坑底面形：不整円形

規模：1.18 / 2.10 × (1.16) / (2.10) × 0.77m

確認・調査：Ⅳ層まで及ぶ攪乱層の除去中に、Ⅳ層中で少量の炭化物が混じる褐色土の落ち込みを確認した。東西に幅60cmほどのトレンチを設定し、坑底まで掘り下げた。開口部は円形である。上部は削平されているが断面形はフラスコ状になると考える。坑底はⅣ層中に構築され、平坦である。坑底中央に径0.42×0.37m、深さ0.12mの褐色土が落ち込んだ小ピットが検出された。壁は鋭角気味に立ち上がる。覆土1・2・3層間に焼土・炭化物層が検出され、覆土5層にも多量の炭化物が混じる。

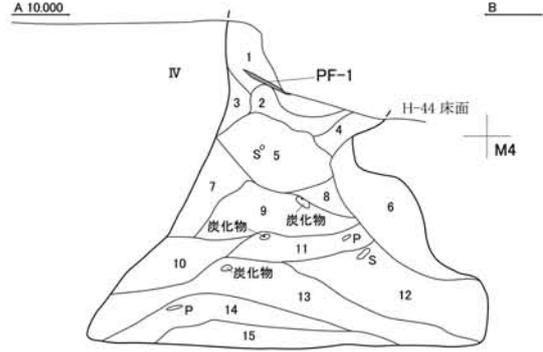
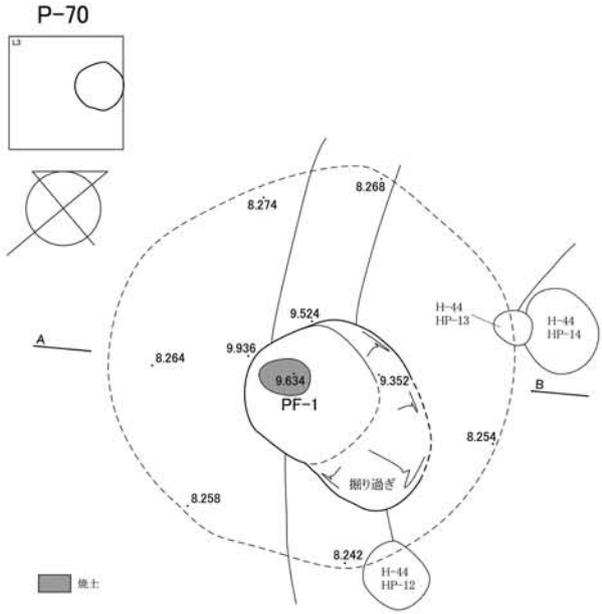
遺物出土状況：覆土からⅡ群B-5類土器など7点、たたき石・礫など14点が出土している。

時期：周辺の遺構の出土遺物から、縄文時代前期後半と考えられる。

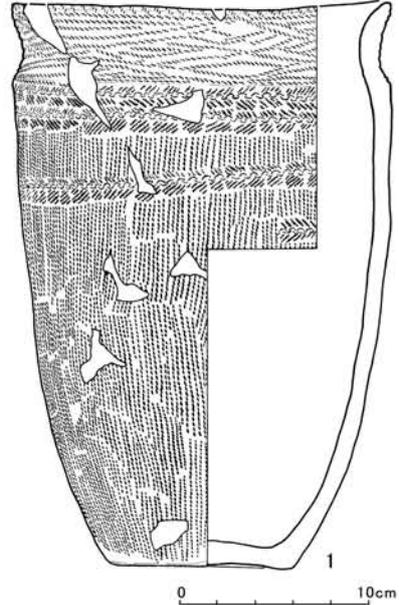
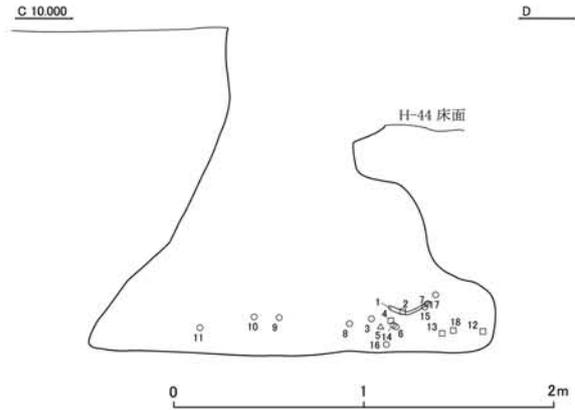
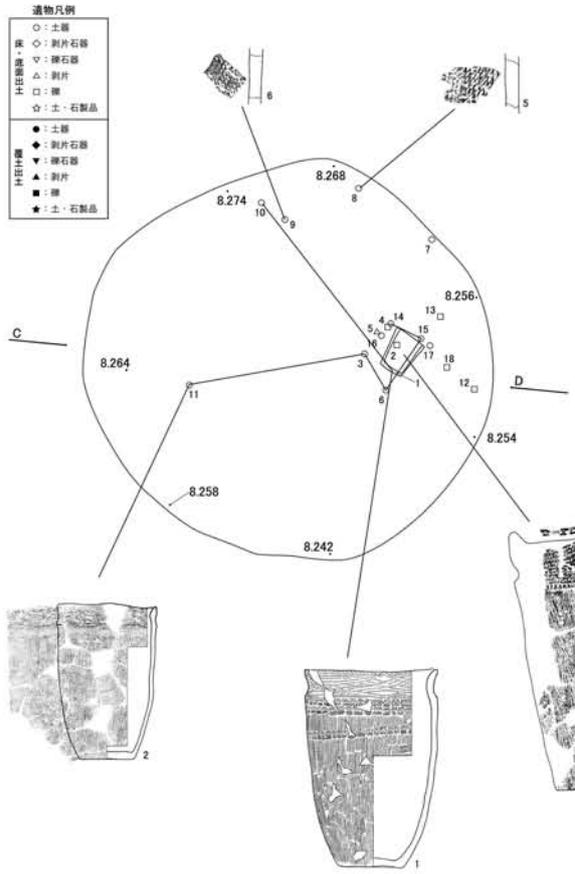
掲載遺物：（土器）1・2は覆土出土のⅡ群B-5類土器である。

Ⅱ群B-5類土器（1・2）：1は口縁部破片。口唇・無文地の口頸部文様帯に単軸絡条体の圧痕文が施されている。2は体部破片。多軸絡条体の回転文が施されている。

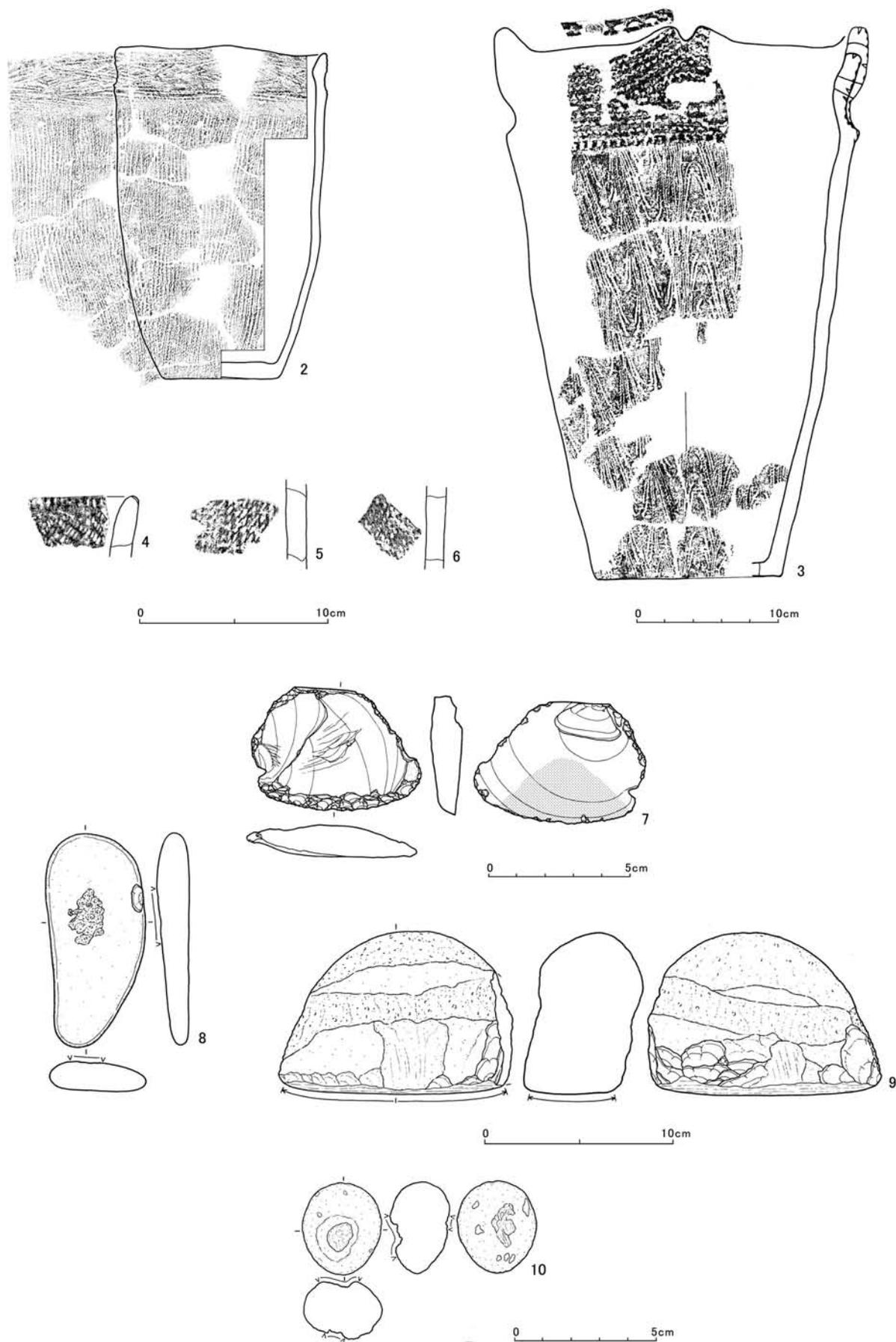
（石器）3は覆土出土のたたき石。扁平な亜円礫の端部と平坦面に敲打痕のあるもの。頁岩製。



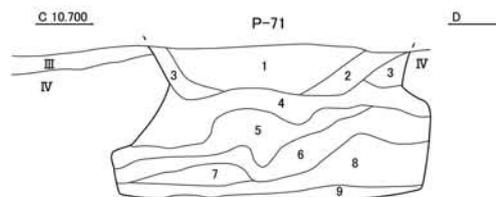
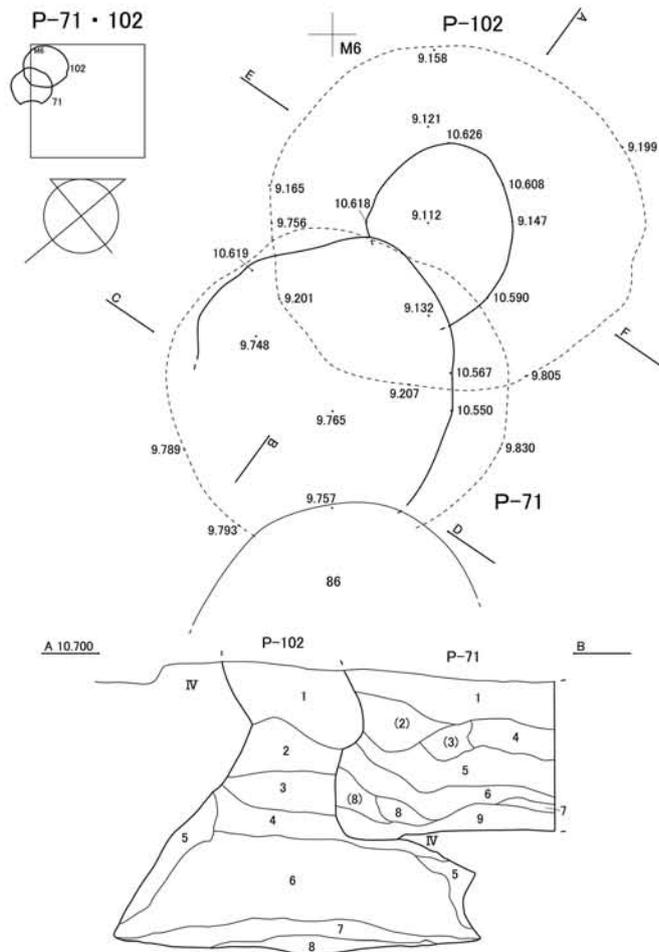
- 1 暗褐色土 10YR3/4 ややしまり有り 全体にローム混じり ϕ 5mm~1cmのローム粒混入 微量の炭化物混入
- 2 暗褐色土 10YR3/4 ややしまりがあるが ところどころボソボソ 全体にローム粒混じる
- 3 褐色土 10YR4/4 ボソボソ 多くのローム粒混入。微量の炭化物混入
- 4 黄褐色土 10YR5/8 ややしまりがあるが ところどころボソボソ ローム粒多く混入
- 5 暗褐色土 10YR3/4 ボソボソ ローム多く混じる 焼土粒・炭化物少量混じる
- 6 明黄褐色土 10YR6/8 ボソボソ 暗褐色土少量混入
- 7 黒褐色土 10YR2/2 ボソボソ 少量のローム混入
- 8 黒褐色土 10YR2/2 ボソボソ 少量のローム・炭化物混入
- 9 暗褐色土 10YR3/3 ボソボソ ϕ 5mm~3cm程のローム粒・少量の炭化物が混入
- 10 暗褐色土 10YR3/3 ボソボソ ロームやや多め 3cm程の炭化物が混じる
- 11 黒褐色土 10YR2/2 ボソボソ ローム粒が少量混入
- 12 暗褐色土 10YR3/4 ボソボソ ところどころにローム粒・炭化材が混じる
- 13 黒褐色土 10YR2/2 ボソボソ 2.3cm程のローム粒・炭化物が多く混じる
- 14 暗褐色土 10YR2/3 ϕ 5mm~1cm程のローム粒が多く混じる
- 15 暗褐色土 10YR3/4 ややしまりあり ローム塊・ローム粒が多く混じる



図IV-346 P-70



图IV-347 P-70 遺物



- 1 暗褐色土 10YR3/4 腐植土主体 ローム・炭化材・焼土粒(φ~5mm)少量混 粘性中 しまり軟
- 2 暗褐色土 10YR3/4~明赤褐色土 5YR5/6 1とはほぼ同質だが焼土がブロック状に混入する 粘性中 しまり軟
- 3 暗褐色土 10YR3/3 腐植土主体 ロームが斑状に混じる 粘性中 しまり軟
- 4 暗褐色土 10YR3/3~にぶい黄褐色土 10YR4/3 1とはほぼ同質だがロームがブロック状に混入する 粘性やや強 しまり軟
- 5 黄褐色土 10YR5/6~暗褐色土 10YR3/4 ローム主体 腐植土少量混 粘性やや強 しまり軟
- 6 黒色土 10YR2/1~褐色土 10YR4/4 腐植土主体 ロームが斑状に混じる 粘性やや強 しまり軟
- 7 赤褐色土 2.5YR4/6~にぶい黄褐色土 10YR5/4 焼土主体(非常に強く焼けている) 粘性やや強 しまり軟
- 8 にぶい黄褐色土 10YR5/4 ローム(崩落土)主体 腐植土微量混 粘性強 しまりあり
- 9 黒色土 10YR2/1~褐色土 10YR4/6 腐植土とロームの混合 粘性やや強 しまり軟 やわらかい

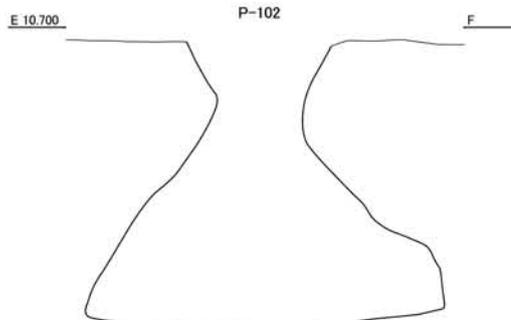
遺物凡例	
○	土器
●	土器
○	割片石器
●	割片石器
▽	礫石器
△	礫片
▲	礫片
□	礫
☆	土・石器製品

P-71

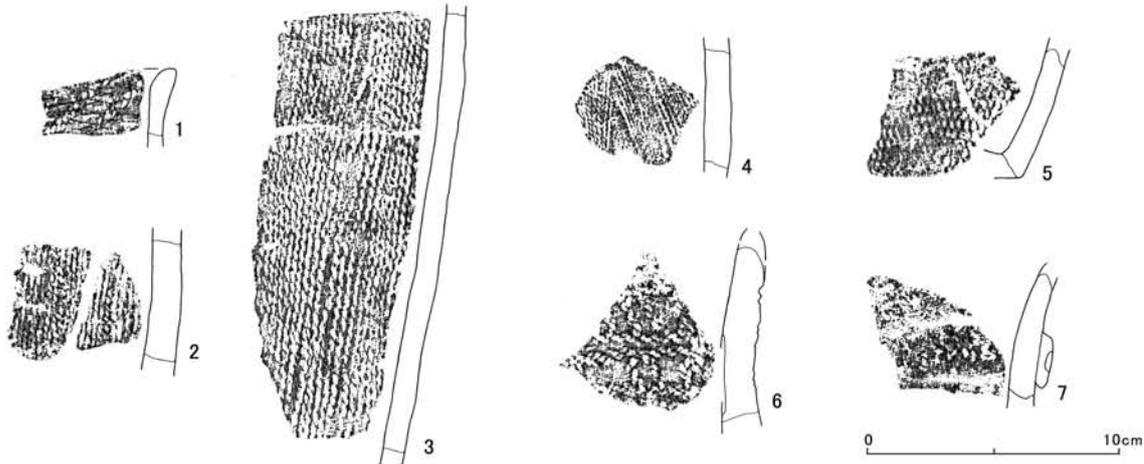
- 1 暗褐色土 10YR3/4 腐植土主体 ローム・炭化材・焼土粒(φ~5mm)少量混 粘性中 しまり軟
- (2) 暗褐色土 10YR3/4 P-102 1層起源 腐植土とロームの混合 粘性中 しまりあり
- (3) 黒褐色土 10YR2/3 腐植土主体 ロームが斑状に混じる 粘性中 しまりあり
- 4 暗褐色土 10YR3/3~にぶい黄褐色土 10YR4/3 1とはほぼ同質だがロームがブロック状に混入する 粘性やや強 しまり軟
- 5 黄褐色土 10YR5/6~暗褐色土 10YR3/4 ローム主体 腐植土少量混 粘性やや強 しまり軟
- 6 黒色土 10YR2/1~褐色土 10YR4/4 腐植土主体 ロームが斑状に混じる 粘性やや強 しまり軟
- 7 赤褐色土 2.5YR4/6~にぶい黄褐色土 10YR5/4 焼土主体(非常に強く焼けている) 粘性やや強 しまり軟
- 8 にぶい黄褐色土 10YR5/4 ローム(崩落土)主体 腐植土微量混 粘性強 しまりあり
- (8) 暗褐色土 10YR3/4~褐色土 10YR4/4 腐植土とロームが斑状に混じり合う 粘性やや強 しまり軟
- 9 黒色土 10YR2/1~褐色土 10YR4/6 腐植土とロームの混合 粘性やや強 しまり軟 やわらかい

P-102

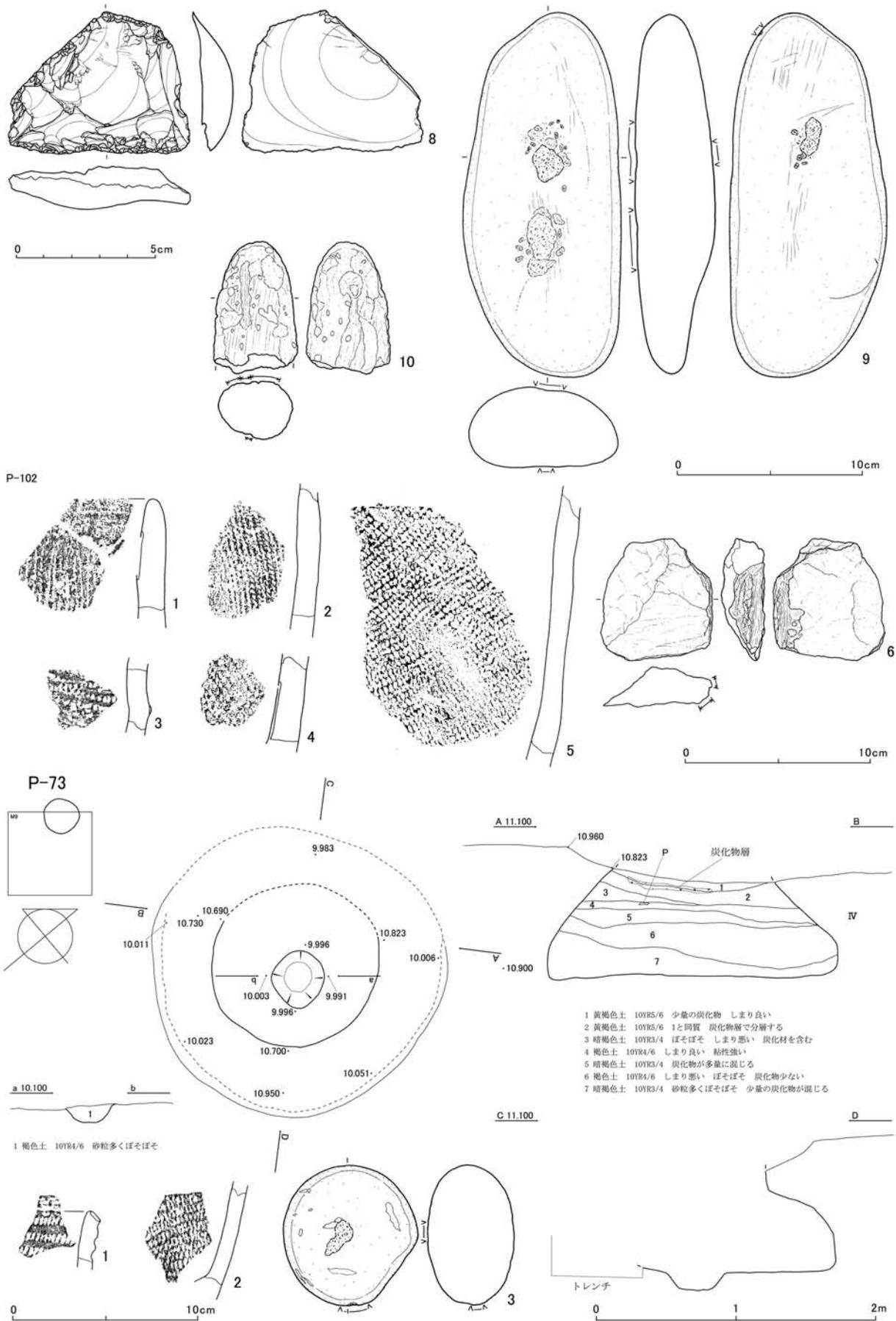
- 1 黒褐色土 10YR1/3 腐植土とロームの混合 ロームブロック(φ~20mm)あり 粘性中 しまり軟
- 2 黒褐色土 10YR2/2 腐植土主体 ローム少量混 粘性中 しまり軟
- 3 黒色土 10YR1/2 腐植土主体 ローム微量混 炭化材(φ~5mm)少量混 粘性中 しまり軟
- 4 黒色土 10YR1/2~黄褐色土 10YR5/6 腐植土主体 ロームが斑状に混じる 粘性やや強 しまり軟
- 5 黒褐色土 10YR2/2~黄褐色土 10YR5/6 腐植土とロームが斑状に混じる 粘性やや強 しまりしやう ふかみかしている
- 6 明黄褐色土 10YR6/6~黄褐色土 10YR5/6 ローム(崩落土) 粘性強 しまり軟
- 7 黒色土 10YR1/2~黒褐色土 10YR2/3 腐植土主体 ローム少量混 粘性強 しまり軟
- 8 褐色土 10YR4/4~暗褐色土 10YR3/4 ローム主体 腐植土がラミナ状 粘性強 しまりしやう



P-71



図IV-348 P-71・102



図IV-349 P-71・73・102 遺物

P-72 (図IV-350)

位置：L10区

坑底面形：楕円形

規模：1.48 / 2.68 × (1.48) / 2.30 × 1.24m

確認・調査：IV層まで及ぶ攪乱層の除去中に、IV層中で炭化物・砂粒が混じる褐色土の落ち込みを確認した。東西に幅60cmほどのトレンチを設定し、坑底まで掘り下げた。開口部は円形である。上部は削平されているが断面形はフラスコ状になると考える。坑底は平坦で、西側はIV層中に、東側壁際はIV層下位の砂礫層上面に構築されていた。坑底中央に径0.54×0.52m、深さ0.24mの暗褐色土が落ち込んだ小ピットが認められた。小ピットの坑底は2段になっていた。壁は垂直気味に立ち上がり、上部で強くくびれる。覆土2・3層上面に焼土層(PF-1)・炭化物層が検出されている。

遺物出土状況：坑底北側から礫石器などがまとまって出土した。坑底からたたき石・すり石など10点、覆土からII群B-5類土器など11点、石槍・ナイフ類・礫など14点が出土した。

時期：周辺の遺構の出土遺物から、縄文時代前期後半と考えられる。

掲載遺物：(土器) 1～3は覆土出土のII群B類土器。

II群B-4類土器(1)：1は体部破片。単軸絡条体の回転文が施されている。

II群B-5類土器(2・3)：2は肥厚する口縁部破片。口唇に縄の圧痕文、無文地の口頸部文様帯に縄線文が施されている。3は体部破片。多軸絡条体の回転文が施されている。

(石器) 5～7は底面、4は覆土出土。4は石槍・ナイフ類。横型剥片の周縁部を両面加工で紡錘形状に整形し、刃部を作出している。頁岩製。5はたたき石。扁平な亜円礫の周縁に敲打痕のあるもの。チャート製。6・7はすり石。6は北海道式石冠。全面を敲打で整形し、握部を作出している。擦り面は長軸・短軸ともに外湾し、短軸方向に傾いている。砂岩製。7は扁平打製石器。左半分を欠失している。扁平礫の側縁を打ち欠いて幅の非常に狭い機能部を作出している。平坦面には断面円錐状の凹みが両面にみられる。泥岩製。

P-74 (図IV-351)

位置：L・M 8・9区

坑底面形：円形

規模：1.42 / 2.25 × 2.28 / 2.14 × 1.06m

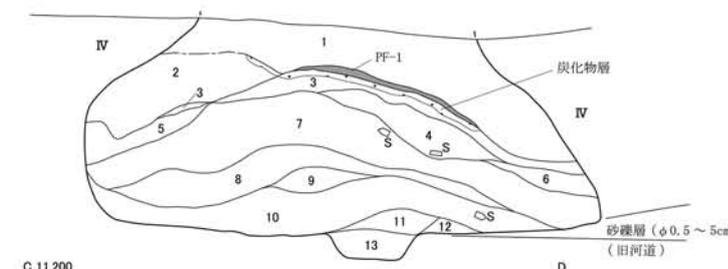
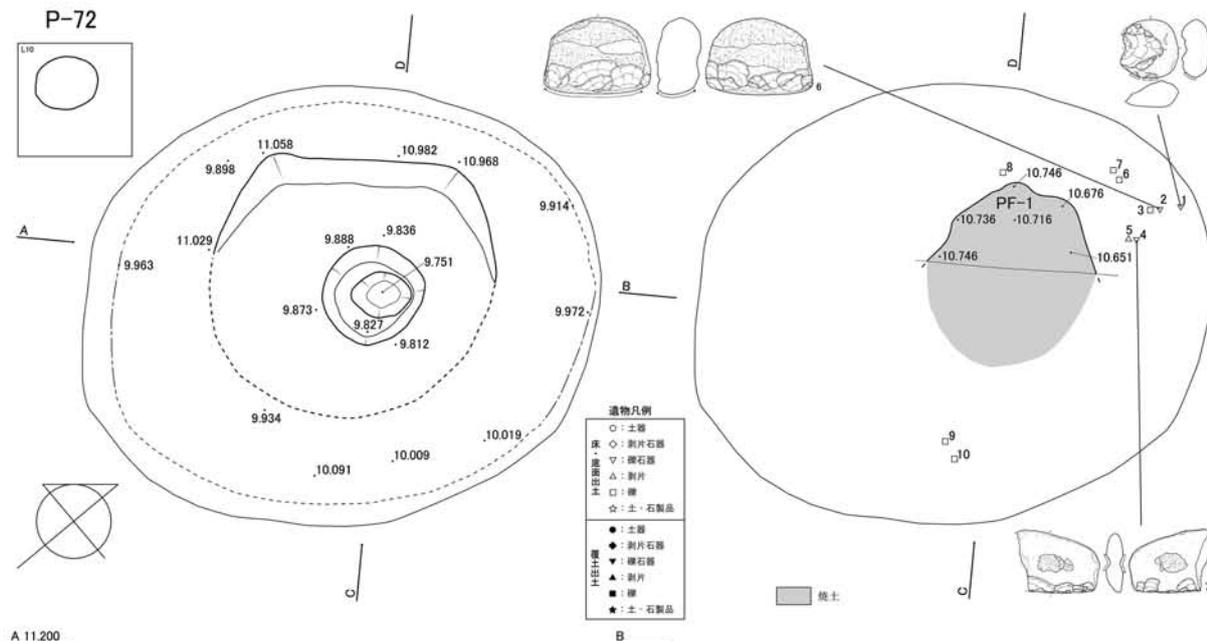
確認・調査：IV層までおよび攪乱層の除去中、IV層中で少量の炭化物が混じる黄褐色土の落ち込みを確認した。東西に幅60cmほどのトレンチを設定し、坑底まで掘り下げた。開口部は楕円形で、断面形はフラスコ状である。北側の覆土8層上面に現存30×60cm、厚さ0.5～1cmの板状・柱目の炭化材を検出した。西側はIV層中に、東側はIV層下位の砂礫層中に構築され平坦である。坑底中央に径0.54×0.49m、深さ0.10mの褐色土が落ち込んだ小ピットが認められた。壁はオーバーハング気味に、南側は垂直気味に立ち上がる。西側壁はオーバーハングしていたため調査中に崩落してしまった。

遺物出土状況：坑底・坑底直上からII群B-5類土器4点、礫2点、覆土からII群B-5類土器など120点、焼成粘土塊4点、石槍・ナイフ・たたき石など24点が出土した。

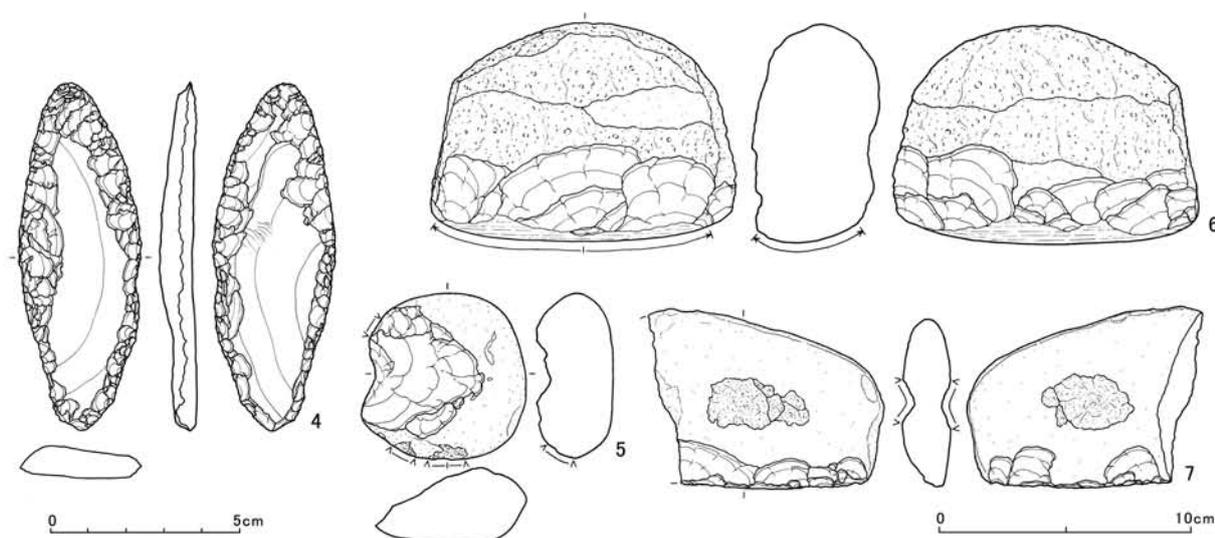
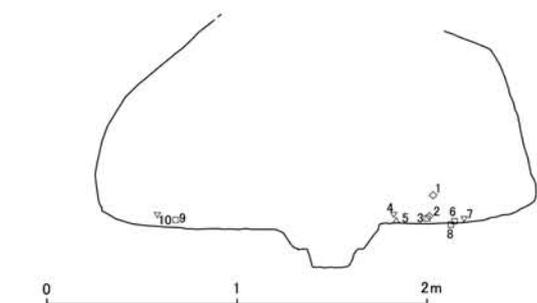
時期：坑底出土のII群B-5類土器から、縄文時代前期末葉である。

掲載遺物：(土器) 1・3は坑底直上、2・4は覆土出土のII群B類土器である。

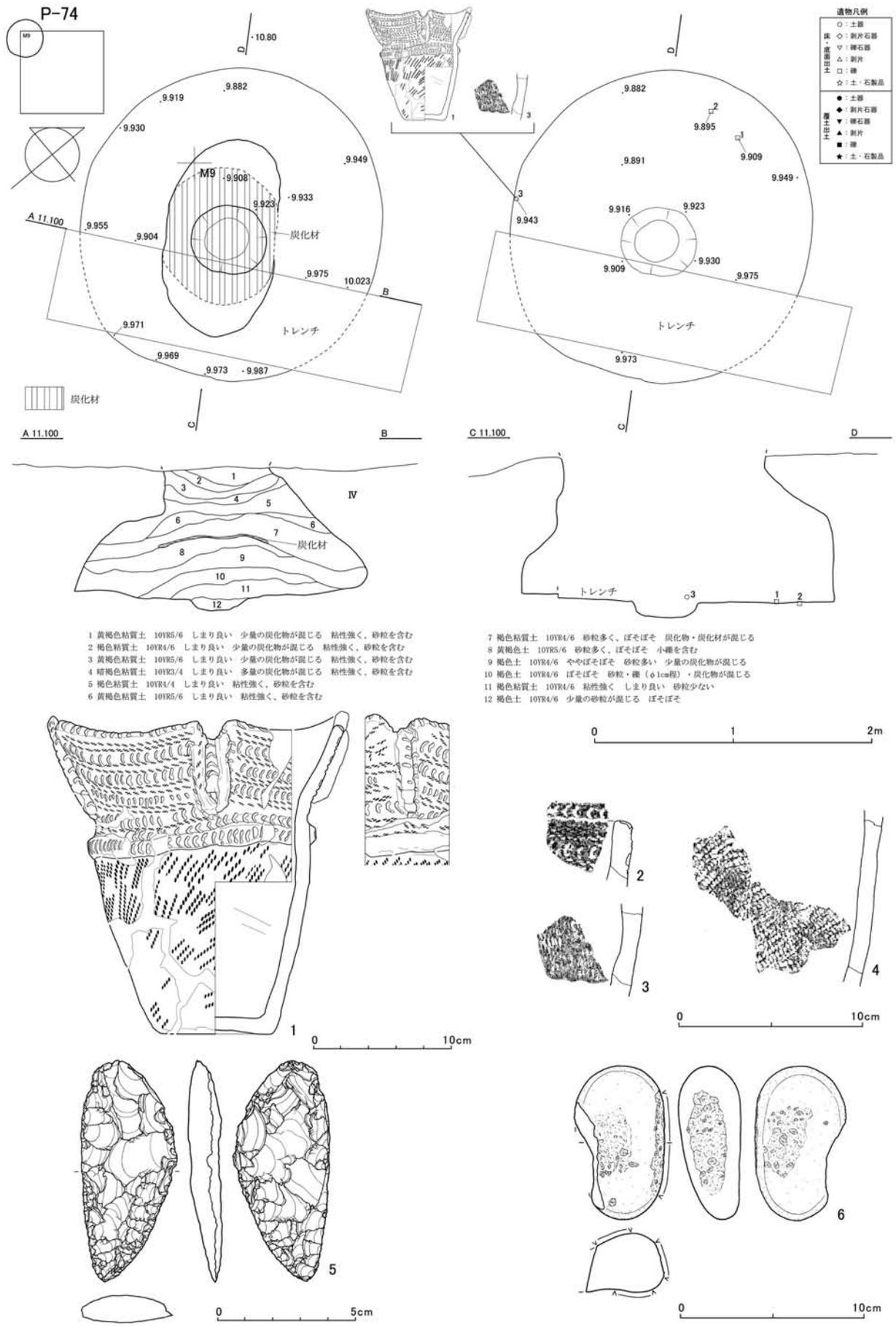
II群B-5類土器(1～4)：1は「複合する口頸部文様帯をもつもの」である。上げ底の底部から開き気味に立ち上がり、体部上半でくびれを持ち、再度外反する。緩やかな波状口縁で、波頂部は2個一組の突起からなり、小突起からは「U」字状や「I」字状の貼り付けが加えられている。小突



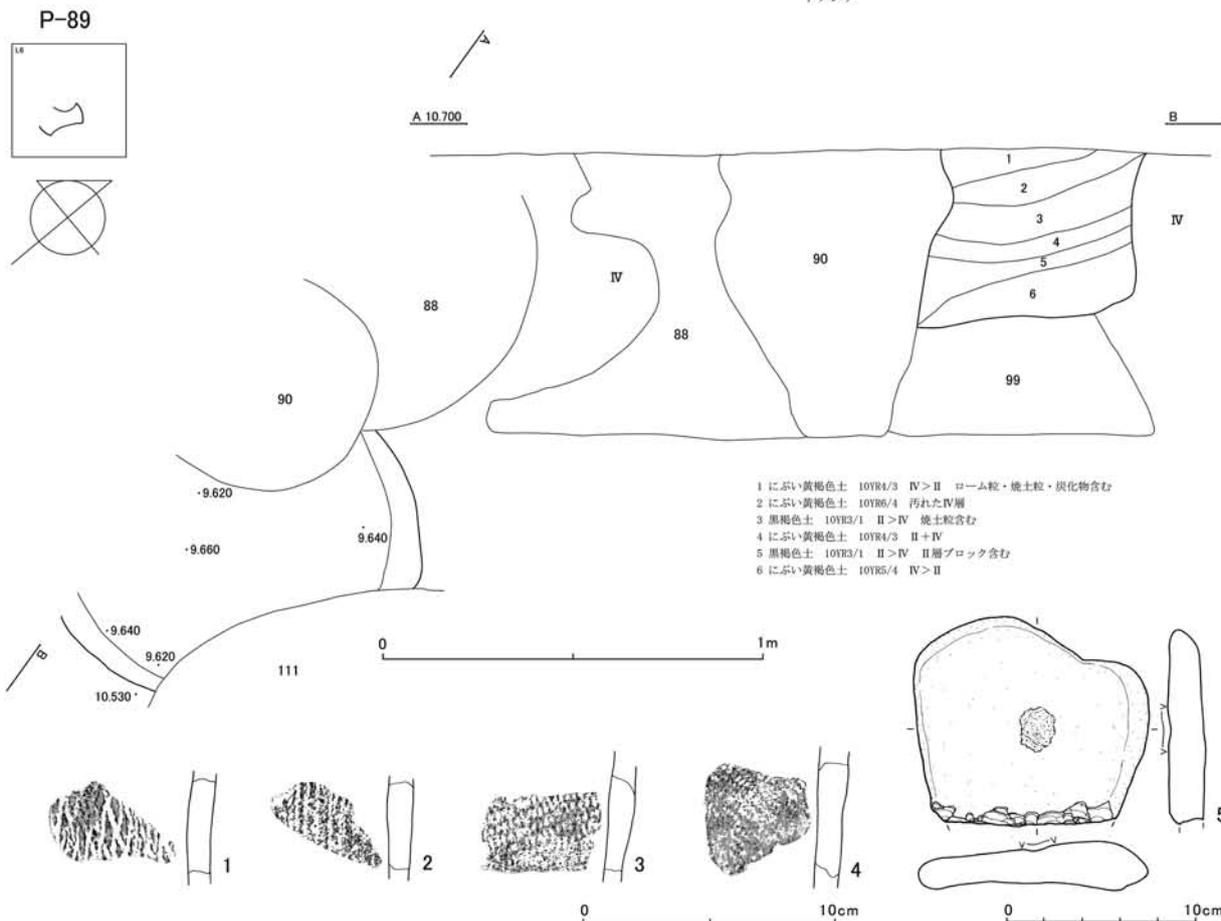
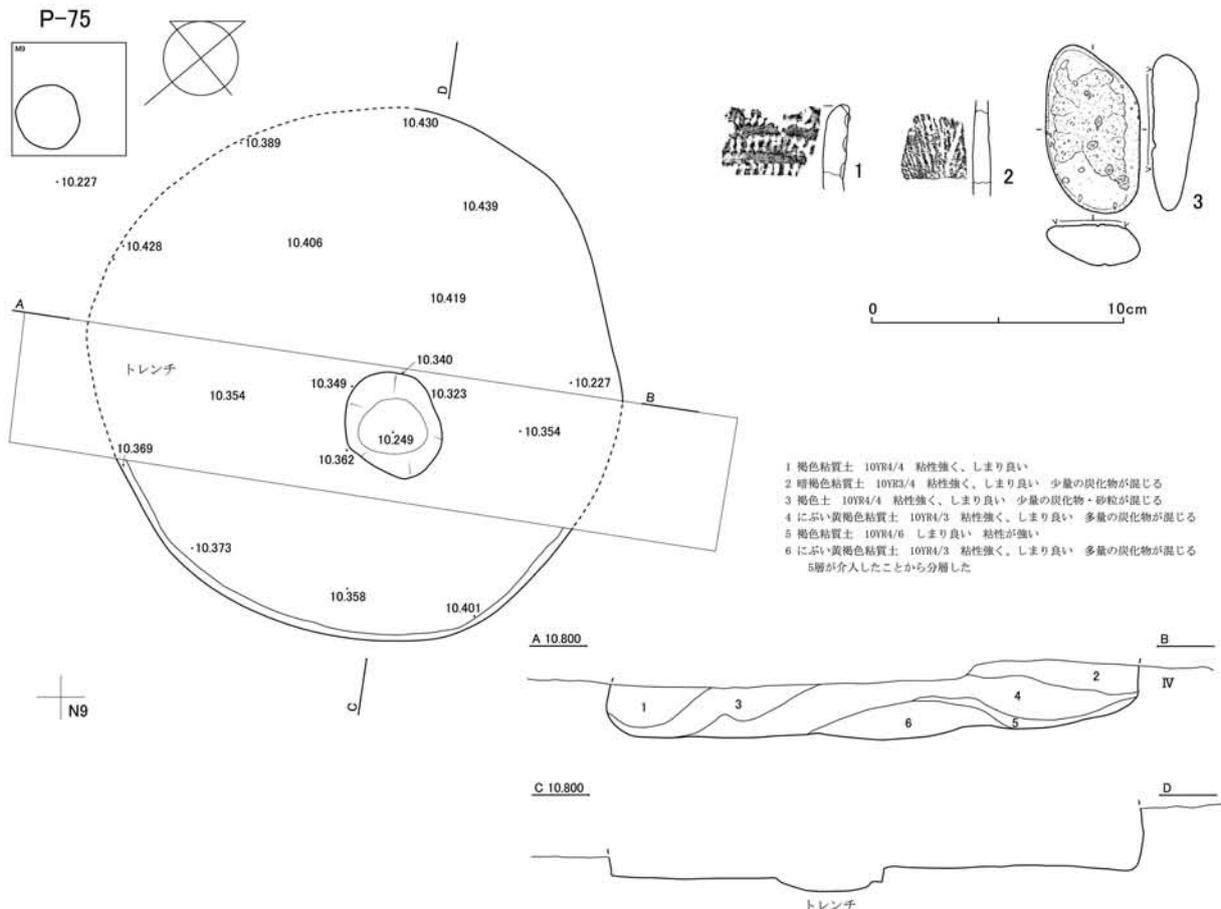
- 1 褐色土 10YR4/4 粘性強い 砂粒(φ0.5~5cm程)を多く含む 隣接する河道の砂に類似する しまり良い 少量の炭化物が混じる
- 2 褐色粘質土 10YR4/6 ぼそぼそ 砂礫が混入しない
- 3 にぶい黄褐色粘質土 10YR3/6 粘質強い 多量の炭化物が混じる 少量の砂礫が混入する
- 4 褐色土 10YR4/6 ぼそぼそ 2層に類似するが砂礫の混入が認められる 炭化物混入なし
- 5 黄褐色粘質土 10YR5/8 粘性強い しまり良い ブロック状に混入する
- 6 褐色土 10YR4/6 ぼそぼそ 砂粒が多い 小ブロック状の暗褐色土が混入する
- 7 砂礫・炭化物を少量含む褐色土(10YR4/6)と粘性強く しまりの良い黄褐色粘質土(10YR5/8) 薄層の互層となっている
- 8 黄褐色粘質土 10YR5/8 5層に類似 しまり良い 粘性強い 無遺物層
- 9 黄褐色土 10YR5/8 しまり悪く、ぼそぼそ
- 10 褐色土 10YR4/6 ぼそぼそ 砂礫多い 炭化物が混じる
- 11 黄褐色土 10YR5/8 しまり良い 粘性強い
- 12 褐色土 10YR4/6 砂粒多い ぼそぼそ
- 13 褐色土 10YR4/6 10層に類似する



図IV-350 P-72



図IV-351 P-74



図IV-352 P-75・89

起からの貼り付けに縄線文が、口唇・口頸部文様帯下端の貼付帯には半截竹管状工具内面による刺突文が加えられている。無文地の文様帯には2本一組の縄線文と刺突文が交互に施文されている。体部は斜行縄文である。2は1と同様な文様構成をもつ口縁部破片。3・4は体部破片。3は多軸絡条体の回転文が施されたもの。4は斜行縄文が施されたもの。類似資料はP-60・63から出土している。

(石器) 5・6は覆土出土。5はナイフ。両面調整で刃部を作出している。頁岩製。6はたたき石。扁平な亜円礫の側面と平坦面に敲打痕のあるもの。泥岩製。

P-75 (図IV-352)

位置：M 9区

坑底面形：円形

規模：2.82 / 2.79×2.82 / 2.82×0.42m

確認・調査：IV層までおよび攪乱の除去中、IV層中に褐色～暗褐色土の径2.7mほどで円形の落ち込みを確認した。東西に幅60cmのトレンチを設定し、坑底まで掘り下げた。深さ25～30cmで坑底を検出した。上部は削平によって消失しているが、本来はフラスコ状ピットであったと考えられる。坑底はIV層中に構築され、平坦である。坑底のほぼ中央に径0.58×0.47m、深さ0.10mの褐色土が落ち込んだ皿状の小ピットが認められた。壁は垂直気味に立ち上がった後、オーバーハングする。

遺物出土状況：覆土からII群B類土器など12点、たたき石など6点が出土した。

時期：周辺の遺構の出土遺物から、縄文時代前期末葉と考えられる。

掲載遺物：(土器) 1・2は覆土出土のII群B類土器。

II群B-4類土器(2)：2は口縁部破片。単軸絡条体の回転文が施されている。

II群B-5類土器(1)：1は口縁部破片。口唇に縄の圧痕文、無文地の口頸部文様帯に単軸絡条体の圧痕文が施されている。

(石器) 3は覆土出土のたたき石。扁平な楕円礫の平坦面に敲打痕のあるもの。泥岩製。

P-89 (図IV-352)

位置：L 6区

坑底面形：円形

規模：- / 1.69×- / - ×0.89m

確認・調査：II層を掘り下げ中に複数の褐色土の落ち込みを確認した。トレンチを設定して調査を行った結果、4基の土坑が重複していることが判明した。平面形は円形と推定される。覆土はII層とIV層の混入した埋戻しである。坑底はP-99の覆土中につくられている。壁や坑底の一部はP-88・90・111構築時に壊されている。

遺物出土状況：覆土からII群B類土器が4点、たたき石・凹み石など18点が出土した。

時期：出土したII群B類土器からみて、縄文時代前期後半と考えられる。(佐藤)

掲載遺物：(土器) 1～4は覆土出土のII群B類土器である。

II群B-3類土器(1・2)：1は体部破片。単軸絡条体第5類の回転文が施され、菱目状の撚糸文を作出している。2は単軸絡条体の回転文が施されたもの。

II群B-5類土器(3・4)：3・4は体部破片。3は多軸絡条体の回転文、4は斜行縄文が施される。

(石器) 5は覆土出土の凹み石。扁平礫の平坦面に円形で浅い凹みがあるもの。下端の折損部を打ち欠いて調整している。泥岩製。

P-78 (図IV-353・354)

位置：L・M 7区

坑底面形：不整円形

規模：(0.90) / 2.32×2.28 / 2.23×0.88m

確認・調査：IV層まで及ぶ攪乱層の除去中に、IV層中で黄褐色土の落ち込みを確認した。周辺で検出されていたフラスコ状ピットがいずれも深く、本遺構も深いことが予想されたため南側をスコップで掘り下げた。北側の覆土6層上面に炭化材片の集中を検出した。開口部は円形である。断面形はフラスコ状である。坑底はIV層中に構築され、北側はP-66の南側上部を壊して坑底が構築されている。坑底は平坦で、北西側から多くの遺物が出土した。坑底の中央に径0.30×0.30m、深さ0.13mの褐色土が落ち込んだ小ピットが認められた。壁は鋭角にオーバーハングして立ち上がる。

遺物出土状況：坑底の北西側の坑底直上からII群B類土器6点、礫10点、覆土からII群B類土器・II群B-5類土器・III群A類土器45点、石槍・スクレイパー・たたき石・凹み石など252点が出土した。

時期：坑底直上出土のII群B-5類土器から縄文時代前期末葉と考えられる。

掲載遺物：(土器) 1・3は坑底直上、2・4～9は覆土出土のII群B類土器である。

II群B-4類土器(1)：1は肥厚する口縁部文様帯で、文様帯には縄線文、体部に組紐状の縄を用いた単軸絡条体の回転文が施され、重ねて綾絡文が加えられている。肥厚帯下端に剥離が認められ、細い貼付帯が施されていたものと思われる。

II群B-5類土器(2～6)：2は片流れの波頂部をもつ口縁部破片。口唇に縄の圧痕文が加えられ、無文地の文様帯には縄線文が施されている。3～6は体部破片。3は多軸絡条体の回転文、4は斜行縄文上に縦横に綾絡文が施されている。5・6は斜行縄文が施され、6は複節の原体で施文している。

III群A類土器(7～9)：7は平縁に内面から口頸部文様帯に向かって垂下する太い貼付帯と細い貼付帯が施され、片流れの波頂部を作出している。口唇・貼付帯に2本一組の縄の圧痕文、幅広の無文地の文様帯には2本一組の縄線文が施されている。8は突起部分。口唇・貼付帯には撚糸圧痕文が施されている。突起直下には渦巻き状の撚糸文圧痕文と橋状の貼り付けが加えられている。無文地の口頸部文様帯には撚方向が異なる縄が組み合わされた3本一組の縄線文が施されている。9は突起部内面に貼り付けが加えられ幅広の突起を作り出している。口唇・貼付帯に撚糸圧痕文、幅広の無文地の文様帯に2本一組の縄線文が施されている。

(石器) 10～16・18は覆土6層、17は覆土出土。10は石槍。有茎で両面調整。頁岩製。11はスクレイパー。縦型剥片の側縁に刃部を作出したもの。背面に使用痕とみられる光沢が確認される。頁岩製。12～16はたたき石。12・13は乳棒状礫の両端部に敲打痕のあるもの。12は広い敲打痕がある砂岩製、13は頁岩製。14は垂角礫の頂部・端部に敲打痕のあるもの。チャート製。15は扁平礫の平坦面に敲打痕のあるもの。泥岩製。16は扁平礫の端部と平坦面に敲打痕のあるもの。泥岩製。17は凹み石。下半部を折損している。扁平礫の平坦面に断面円錐状の凹みのあるもの。折損後しばらくのちに再利用された形跡がみられる。泥岩製。18はすり石で北海道式石冠。全面を敲打によって整形し、握部を作出している。擦り面は長軸・短軸ともに外湾し、短軸方向に傾いている。安山岩製。

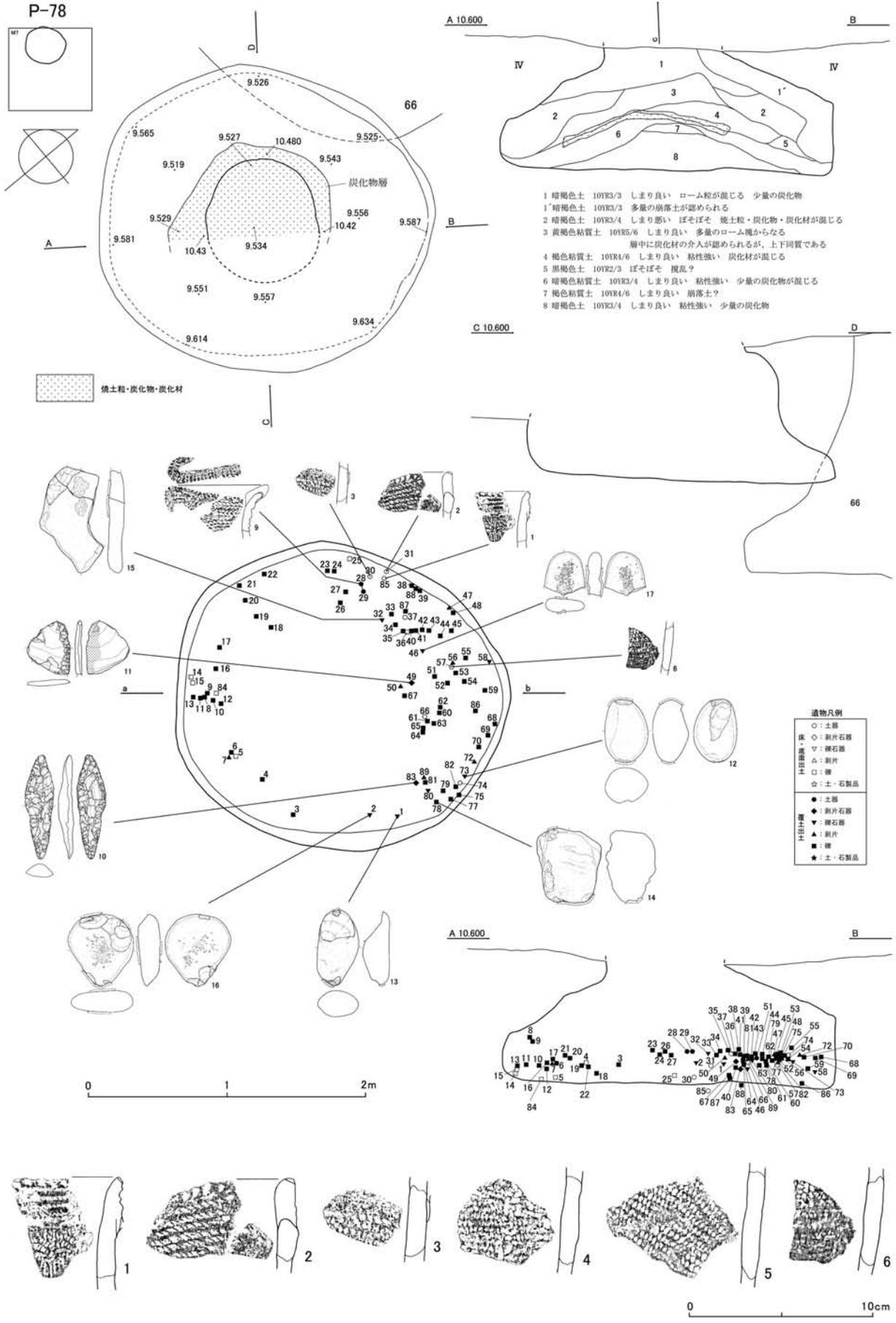
P-79 (図IV-355)

位置：M 6・7区

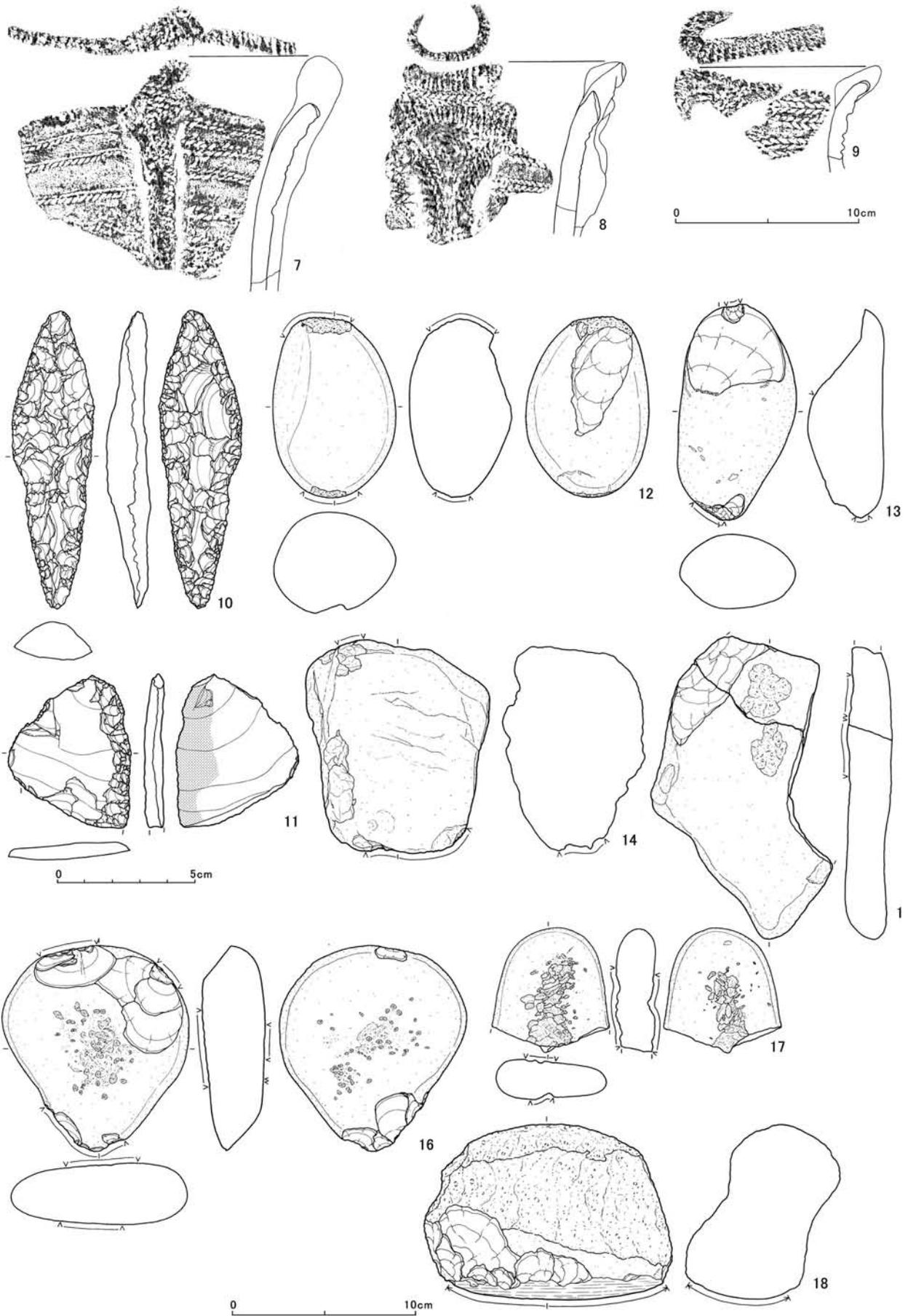
坑底面形：不整円形

規模：1.04 / 2.05×(0.96) / 1.93×1.15m

確認・調査：IV層までおよび攪乱層の除去中、IV層中で黄褐色土の落ち込みを確認した。周辺で検出されていたフラスコ状ピットがいずれも深く、本遺構も深いことが予想されたため南側をスコップで掘り下げた。坑底の中央に径0.30×0.30m、深さ0.13mの褐色土が落ち込んだ皿状の小ピットを検出した。



図IV-353 P-78



图IV-354 P-78 遺物

壁は鋭角にオーバーハングして立ち上がる。開口部は円形である。断面形はフラスコ状である。坑底はⅣ層中に構築され、平坦である。壁はオーバーハングして立ち上がる。側壁はオーバーハングしていたため調査中に崩落してしまった。覆土の土壌サンプルを採取し、フローテーションを行った。キハダ片・ブドウ・ニワトコなどの炭化種子・炭化種実などが検出された。

遺物出土状況：坑底・坑底直上からⅡ群B-3類土器4点、石製品・礫など10点、覆土からⅡ群B類土器2点、たたき石・礫など10点が出土した。礫・軽石製品は北側壁際から出土している。

時期：坑底直上からⅡ群B-3類土器が出土していることから、縄文時代前期後半と考えられる。

掲載遺物：(土器) 2・3は坑底直上、1は覆土出土のⅡ群B類土器。

Ⅱ群B-3類土器(2・3)：2・3は体部破片。2は貝殻条痕上に単軸絡条体の回転文が施されている。3は摩滅が著しく文様構成は不明。わずかに貝殻条痕文の痕跡が観察できる。胎土・器面調整が2に類似する。同一個体の可能性がある。

Ⅱ群B-5類土器(1)：1は口頸部破片。口唇・口頸部文様帯下端に縄の圧痕文が加えられ、無文地の文様帯に5条の縄線文と上部の縄線間に鋸歯状の縄線文が施されている。体部は単軸絡条体第1A類の回転文が施されている。

(石器) 6は坑面、4・5は覆土出土。4は扁平礫の側縁に敲打痕のあるもの。砂岩製。5は凹み石。棒状角礫の平坦面に浅い凹みがある。泥岩製。6は軽石製石製品。球状に加工されているとみられる。

P-81 (図Ⅳ-356)

位置：N・O 6区

坑底面形：円形

規模：— / 2.22 × — / 2.00 × 0.43m

確認・調査：上部はⅣ層中位まで削平されており、坑底部のみが残存していた。掘り込み面は不明である。本来は北から南へ降りる緩斜面上に掘り込まれたと推測される。坑底面の平面形は円形。坑底面はほぼ平坦で、中央部に浅い円形の小ピット(SP-1)が設けられている。昇降のための施設の痕跡である可能性がある。坑底部の掘り込みの傾斜はやや急である。本来の断面は上～中位にかけてくびれ、下位(坑底部)がオーバーハングしていたと考えられる。覆土は、自然堆積の腐植土と崩落土と推測されるロームの互層である。

遺物出土状況：坑底・坑底直上からⅡ群B-5類土器1点、すり石・礫器など8点、覆土からⅡ群B-5類土器など23点、スクレイパー・剥片など25点が出土した。

時期：出土遺物から、縄文時代前期末葉と考えられる。(芝田)

掲載遺物：(土器) 1は坑底直上、2は覆土出土のⅡ群B-5類土器である。

Ⅱ群B-5類土器(1・2)：1・2は体部破片。多軸絡条体の回転文が施されている。

(石器) 4は坑底、3は坑底直上出土である。3はすり石で扁平打製石器。扁平礫の側縁を打ち欠いて非常に狭い機能部を作出している。凝灰岩製。4は礫器。扁平礫の下端を打ち欠いて機能部を作出している。頁岩製。

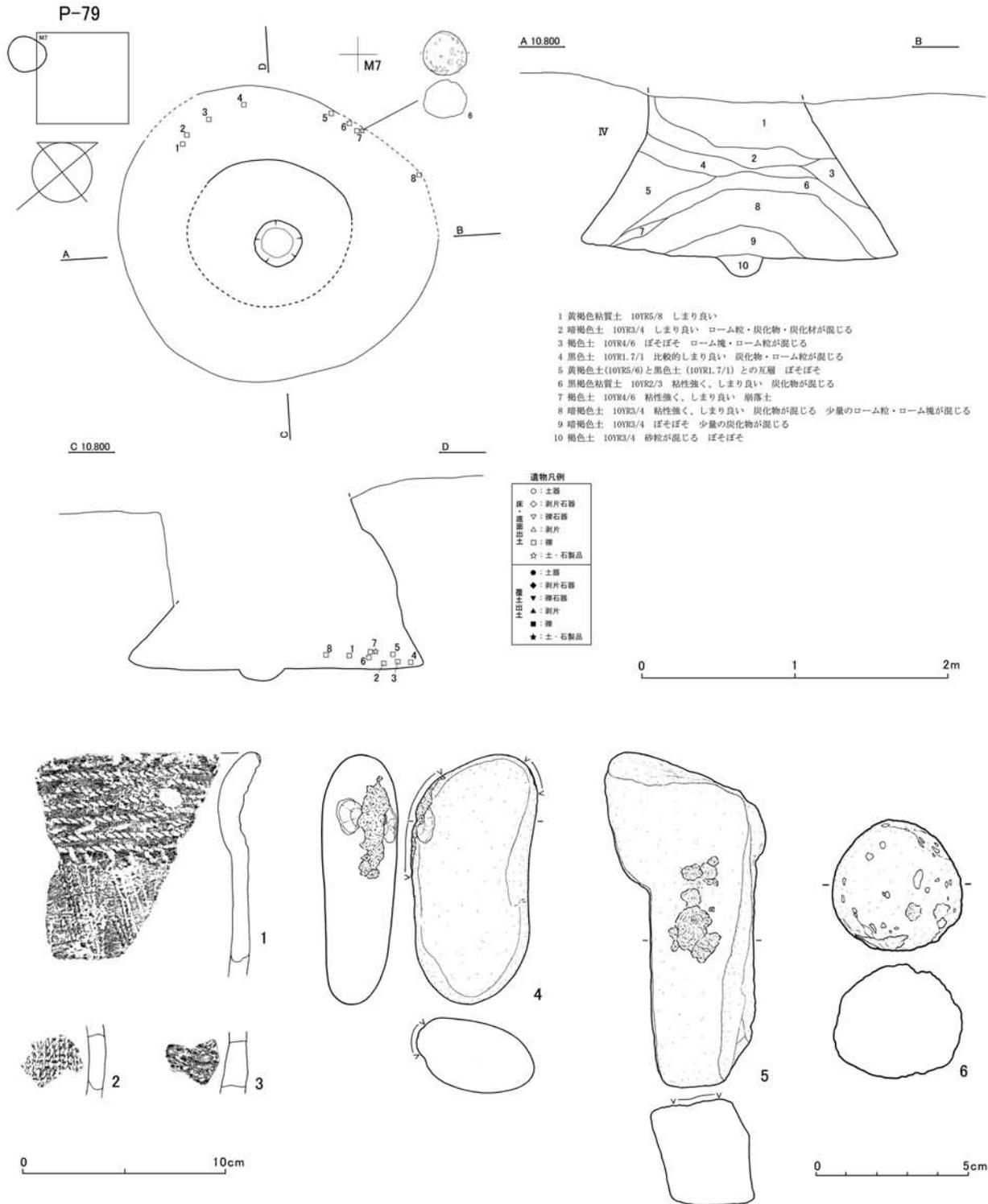
P-82 (図Ⅳ-357)

位置：N 5区

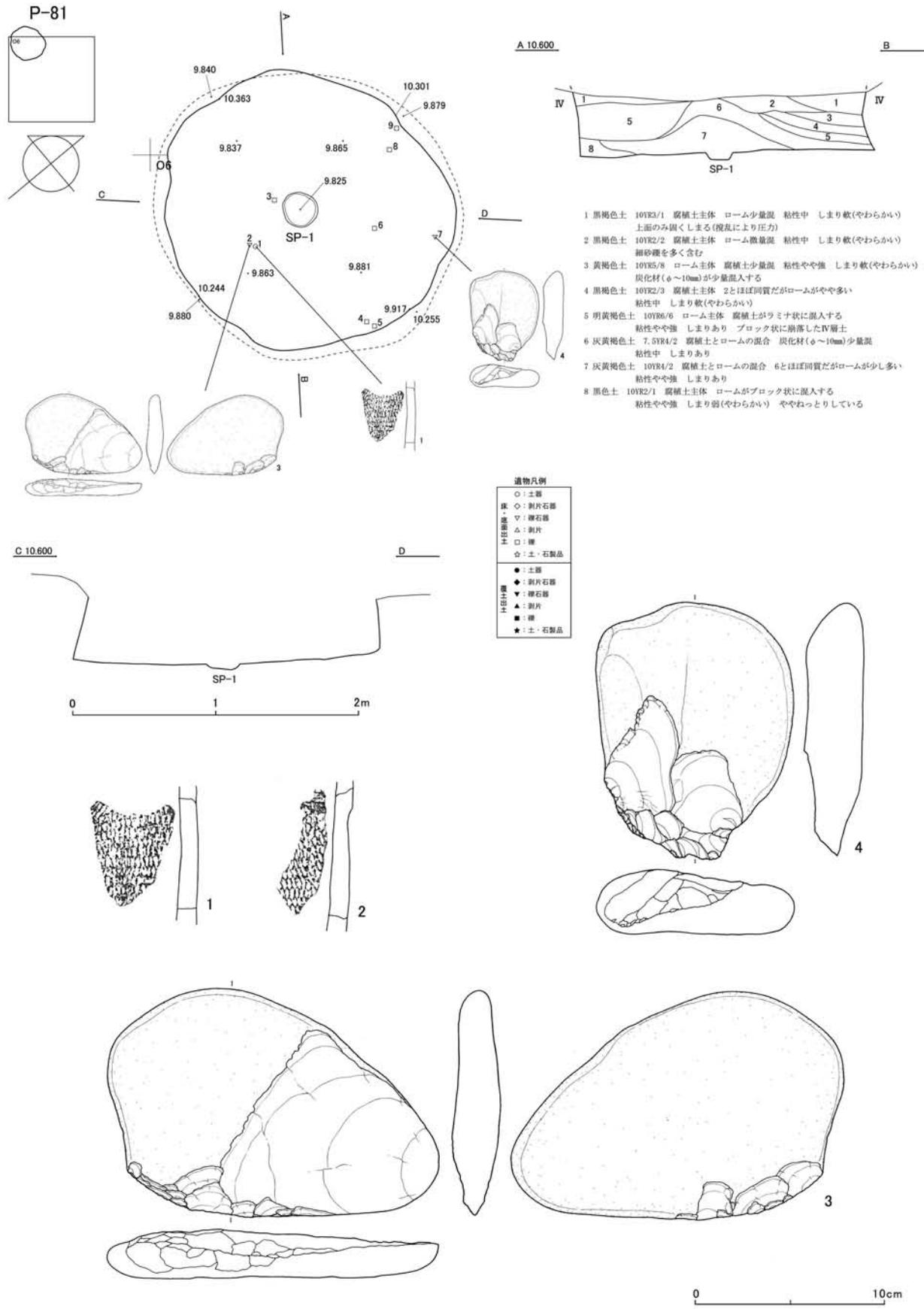
坑底面形：円形

規模：— / 1.57 × — / 1.45 × 0.96m

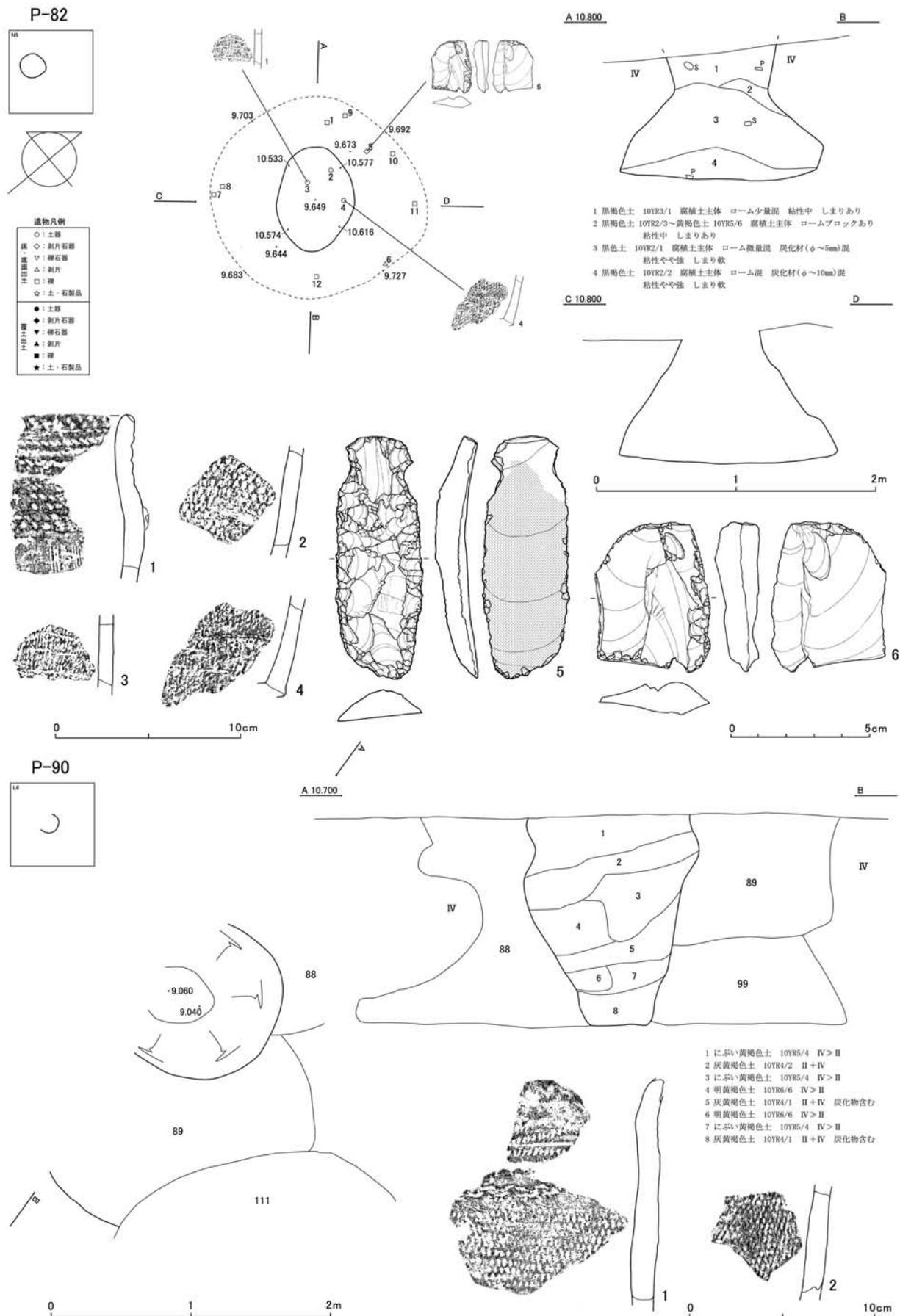
確認・調査：上部はⅡ～Ⅲ層まで削平されている。掘り込み面はⅡ層中で、本来は北から南へ降りる緩斜面上に掘り込まれたと推測される。検出面(上位)の平面形は不整楕円形、坑底面は東側がやや



図IV-355 P-79



図IV-356 P-81



図IV-357 P-82・90

広がった円形。坑底面はほぼ平坦であるが、中央部が少し低い。坑底部が大きくオーバーハングする。覆土は、自然堆積の腐植土が大部分で、崩落土と推測されるロームは少ない。

遺物出土状況：坑底からⅡ群B-5類土器など3点、スクレイパー・礫など9点、覆土からⅡ群B-5類土器など34点、つまみ付ナイフ・スクレイパー・剥片など57点が出土した。

時期：出土遺物から、縄文時代前期後半と考えられる。(芝田)

掲載遺物：(土器) 1・2は覆土、3・4は坑底出土のⅡ群B類土器である。

Ⅱ群B-5類土器(1~4)：1は口縁部破片。縄の圧痕が加えられた口唇、口頸部文様帯下端は半截竹管状工具による刺突文が加えられた貼付帯によって区画され、無文地の文様帯に9条ほどの縄線文が加えられている。体部には櫛歯状工具による擦痕文が施されている。2は多軸絡条体の回転文が施されている。3・4は同一個体。単軸絡条体第4類が施されている。

(石器) 5・6は覆土出土。5はつまみ付ナイフ。縦型の片面調整で、下端部は切り出し状になっている。腹面は使用痕とみられる光沢が確認できる。頁岩製。6はスクレイパー。縦型剥片の側縁に刃部を作出したもの。頁岩製。

P-90 (図IV-357)

位置：L 6区

坑底面形：円形

規模：-/-x-/ 0.42x1.53m

確認・調査：Ⅱ層を掘り下げ中に複数の褐色土の落ち込みを確認した。トレンチを設定して調査を行った結果、4基の土坑が重複していることが判明した。平面形はほぼ円形と推定される。覆土はⅡ層とⅣ層の混入した埋戻しである。坑底はやや凹凸がある。壁は急角度で立ち上がる。構築時にP-88・89・90の壁を壊している。

遺物出土状況：覆土からⅡ群B-5類土器など34点、礫など5点が出土した。

時期：出土したⅡ群B類土器からみて、縄文時代前期末葉と考えられる。(佐藤)

掲載遺物：(土器) 1・2は覆土出土のⅡ群B類土器。

Ⅱ群B-5類土器(1・2)：1・2は体部に多軸絡条体の回転文が施されている。1は頸部の肩部分で、綾絡文が加えられている。頸部に単軸絡条体の圧痕文が加えられている。

P-84・85 (図IV-358)

P-84

位置：M・N 5区

坑底面形：円形

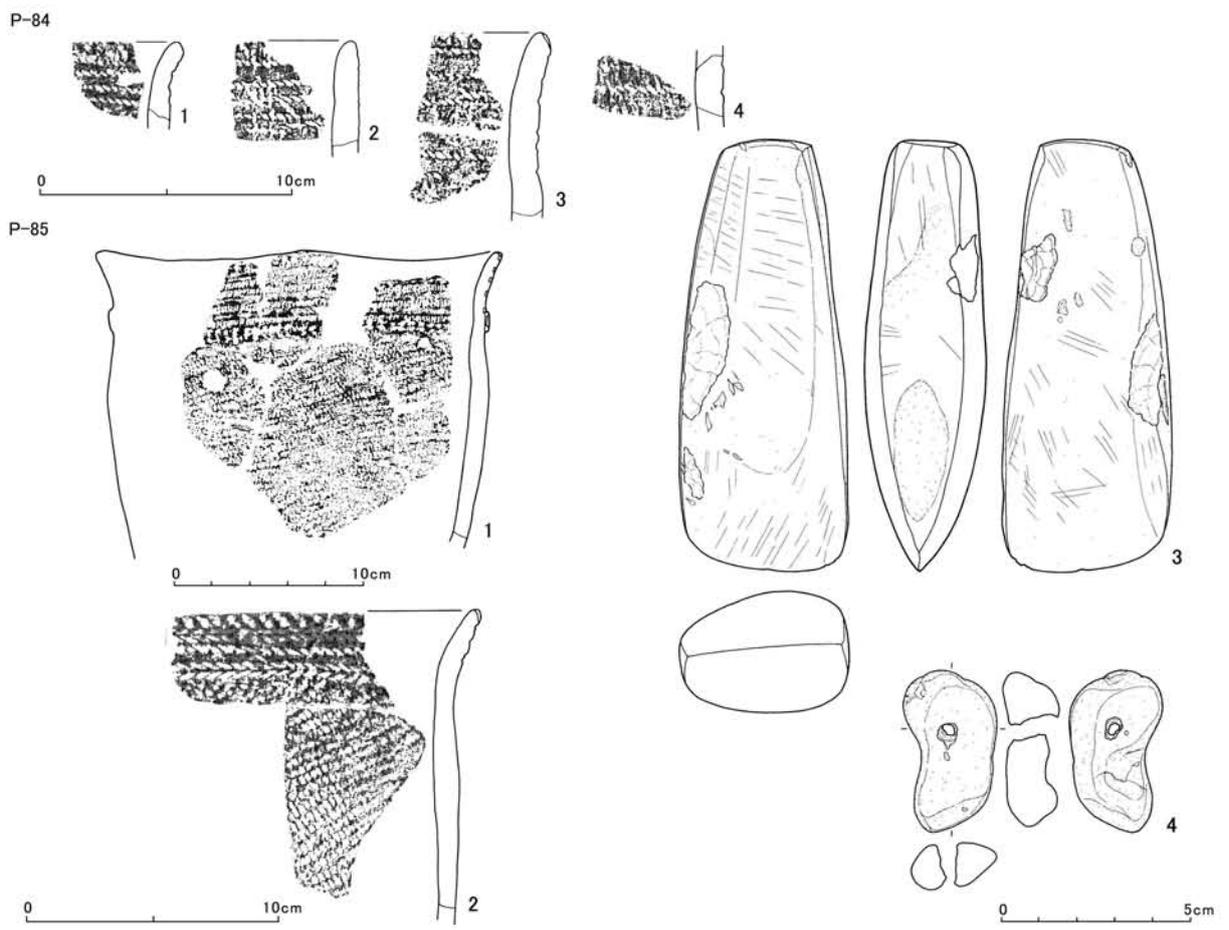
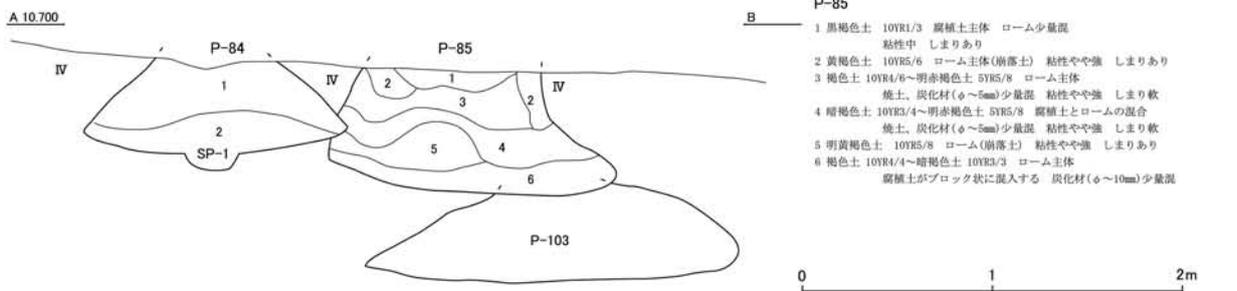
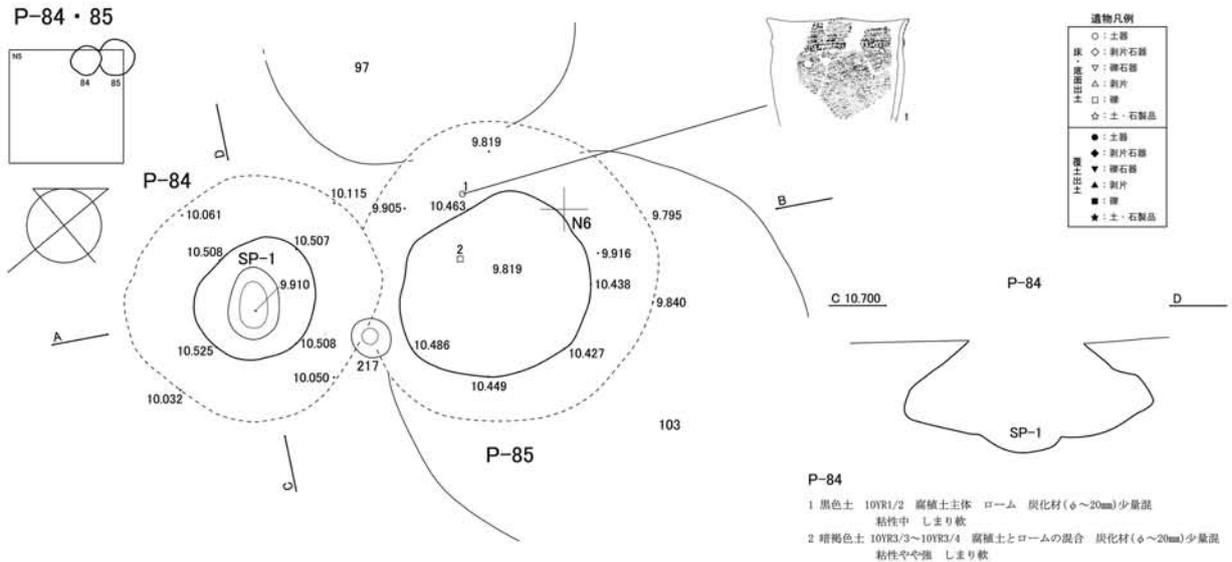
規模：-/ 1.36x-/ 1.20x0.59m

確認・調査：上部はⅣ層上位まで削平されており、掘り込みの中位~坑底部が残存する。掘り込み面はⅡ層中で、本来は北から南へ降りる緩斜面上に掘り込まれたと推測される。検出面(中位)の平面形は楕円形、坑底面は円形。坑底面は中央へ緩やかに傾斜しており、中央部に浅い楕円形の小ピット(SP-1)が設けられている。昇降のための施設の痕跡である可能性がある。坑底部が大きくオーバーハングする。覆土は、自然堆積である。東側でP-85の坑底部を壊している。規模・形態が類似するP-83と同時期に構築された可能性が高い。

遺物出土状況：覆土からⅡ群B-5類土器など31点、剥片など25点が出土した。

時期：周辺の遺構の出土遺物から、縄文時代前期後半~中期前半と考えられる。(芝田)

掲載遺物：(土器) 1~4は覆土出土のⅡ群B類土器である。



図IV-358 P-84・85

Ⅱ群B-5類土器(1~4): 1~3は口縁部破片。口唇に縄の圧痕文、無文地の口頸部文様帯に縄線文が加えられている。4は単軸絡条体の回転文を地文とし、縄線文が加えられている。

P-85

位置: M・N 5・6区

坑底面形: 円形

規模: - / 1.61 × - / 1.57 × 0.67m

確認・調査: 上部はⅣ層上位まで削平されており、掘り込みの中位~坑底部が残存する。掘り込み面はⅡ層中で、本来は北から南へ降りる緩斜面上に掘り込まれたと推測される。検出面(中位)の平面形は不整楕円形、坑底面は円形。坑底面は北側が少し低く、坑底部のオーバーハングもより大きい。覆土は、自然堆積である。覆土中には焼土が多く混入しており、上部に住居跡が存在していた可能性がある。北側でP-97、西側でP-103を壊し、東側でP-84に壊されている。すなわち、これらの土坑の新旧関係は、(旧) P-97・103→85→84(新)となる。

遺物出土状況: 坑底直上からⅡ群B-5類土器10点、礫1点、石製品1点、覆土からⅡ群B-5類土器など20点、スクレイパー・石斧・剥片など48点が出土した。

時期: 出土遺物から、縄文時代前期後半と考えられる。(芝田)

掲載遺物: (土器) 1は坑底直上、2は覆土出土のⅡ群B類土器。

Ⅱ群B-5類土器(1・2): 1は体部上半の大型破片。波状口縁で、口唇に絡条体圧痕文が加えられ、口頸部文様帯下端に半截竹管状工具内面の刺突文が加えられた貼付帯で区画されている。無文地の文様帯には5条の単軸絡条体の圧痕文が施されている。体部には多軸絡条体の回転文が施されている。2は平縁の口縁部破片。口唇に縄の圧痕文が加えられている。無文地の口頸部文様帯に組紐状の縄線文が施されている。体部は斜行縄文である。

(石器) 4は底面直上、3は覆土出土。3は石斧。短冊形で両刃の直刃。打ち欠きや敲打による整形の後、全面を研磨によって調整している。砂岩製。4は石製品で有孔石。緑色泥岩の小礫に自然に開いたとみられる貫通孔がある。とくに加工された痕跡はみられない。

P-86・97 (図IV-359)

P-86

位置: M 5・6区

坑底面形: 楕円形

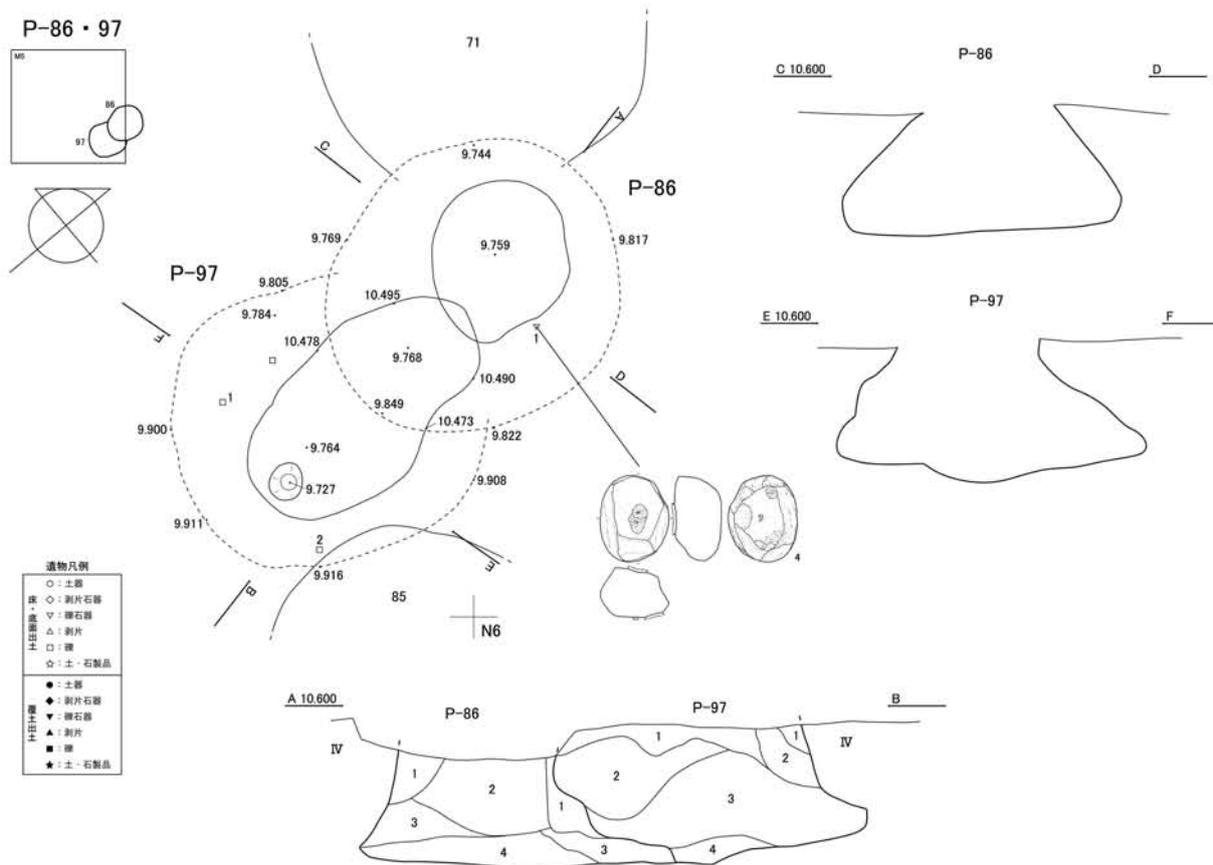
規模: - / 1.66 × - / 1.48 × 0.67m

確認・調査: 検出面はⅣ層上面。掘り込みの中位~坑底部が残存する。掘り込み面はⅡ層中で、本来は北から南へ降りる緩斜面上に掘り込まれたと推測される。検出面(中位)の平面形は不整楕円形、坑底面は楕円形で東側が少し高い。坑底部のオーバーハングは南側がより大きい。これは本来の地形の傾斜と重複するP-97の覆土が柔らかく掘りやすかったためと推測される。覆土は、自然堆積である。北側でP-71、南側でP-97を壊している。すなわち、これらの土坑の新旧関係は、(旧) P-71・97→86(新)となる。

遺物出土状況: 坑底直上から凹み石1点、覆土からⅡ群B類土器など14点、剥片など15点が出土した。

時期: 周辺の遺構の出土遺物から、縄文時代前期後半である。(芝田)

掲載遺物: (土器) 1~3は覆土出土のⅡ群B類土器である。1はⅡ群B-4類土器の体部破片。1は単軸絡条体の回転文と結束羽状縄文が施されたもの。2・3はⅡ群B-5類土器の体部破片。多軸絡条体の回転文である。



P-86

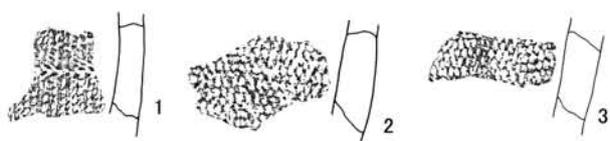
- 1 明黄褐色土 10YR6/6～灰褐色土 10YR4/1 ローム主体 うすい黒斑が見られる
粘性やや強 しまりあり
- 2 黒褐色土 10YR3/2 腐植土主体 ローム少量混 炭化材(φ~5mm)微量混
粘性中 しまり軟
- 3 黒褐色土 10YR2/2～黄褐色土 10YR5/6 腐植土主体
ロームブロック(φ~40mm)が見られる 粘性中 しまり軟
- 4 暗褐色土 10YR3/4～褐色土 10YR4/4 腐植土とロームの混合
粘性やや強 しまり軟

P-97

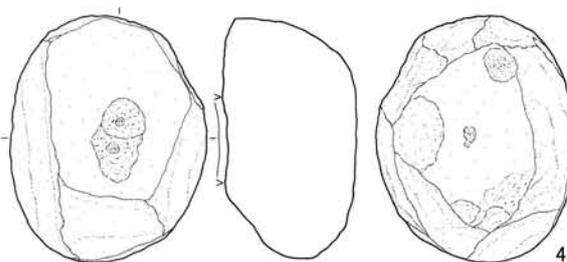
- 1 灰褐色土 10YR4/1～黄褐色土 10YR5/8 腐植土とロームが斑状に混じり合う
粘性やや強 しまり軟
- 2 明黄褐色土 10YR7/6 ローム(崩落土か) 粘性やや強 しまりあり
- 3 黒色土 10YR2/1～黒褐色土 10YR2/2 腐植土主体 ローム微量混
粘性中 しまり軟
- 4 暗褐色土 10YR3/4～褐色土 10YR4/4 腐植土とロームの混合
ロームブロック(φ~30mm)あり
粘性やや強 しまりなし(やわらかい)
炭土、炭化材(φ~5mm)少量混 粘性やや強 しまり軟



P-86



P-97



図IV-359 P-86・97

(石器) 4は底面直上出土の凹み石。亜円礫の平坦面に浅い凹みがある。泥岩製。

P-97

位置：M 5区

坑底面形：不明

規模：- / 1.65 × - / 1.57 × 0.73m

確認・調査：検出面はIV層上面。掘り込みの中位～坑底部が残存する。掘り込み面はII層中で、本来は北から南へ降りる緩斜面上に掘り込まれたと推測される。平面形は検出面（中位）は長楕円形、坑底面は北側が壊されているため不明である。坑底面は中央部がくぼむが、P-83・84のような明瞭な小ピットは確認されなかった。また、坑底面の中央から南側へややずれた位置に、上部に存在していた住居跡の柱穴と考えられる小ピットが検出されたが、新旧関係は不明である。坑底部は大きくオーバーハングする。覆土は、自然堆積である。北側でP-86、南側でP-85に壊されている。すなわち、これらの土坑の新旧関係は、(旧) P-97→85・86 (新) となる。

遺物出土状況：坑底直上から礫2点、覆土からII群B-3類土器など26点、剥片22点が出土した。

時期：周辺の遺構の出土遺物から、縄文時代前期後半である。(芝田)

掲載遺物：(土器) 1・2は覆土出土のII群B類土器である。

II群B-3類土器(1・2)：1は口頸部に貝殻条痕文が施された口縁部破片。太い鋸歯状の縄線文が加えられている。2は直前段反撚の原体による縄文が施されている。

P-88 (図IV-360)

位置：L 6区

坑底面形：楕円形

規模：- / 3.22 × - / 3.00 × 1.51m

確認・調査：II層を掘り下げ中に複数の褐色土の落ち込みを確認した。トレンチを設定し、調査を行った。フラスコ状ピットである。覆土は自然堆積で、IV層を主体にする層が堆積する。坑底はほぼ平坦で、中央に円形の小ピットがある。南側の壁はP-90構築時に壊されている。

遺物出土状況：覆土からII群B類土器など41点、スクレイパー・すり石・たたき石など55点が出土した。

時期：出土したII群B類土器からみて、縄文時代前期後半と考えられる。(佐藤)

掲載遺物：(土器) 1～3は覆土出土のII群B類土器である。

II群B-3類土器(3)：3は頸部破片。頸部は縦位、体部は斜位に単軸絡条体の回転文を施される。

II群B-5類土器(1・2)：1は底部破片。多軸絡条体の回転文が施されている。2は口唇に縄の圧痕文が加えられ、無文地の口頸部文様帯には2本一組の縄線文が加えられている。

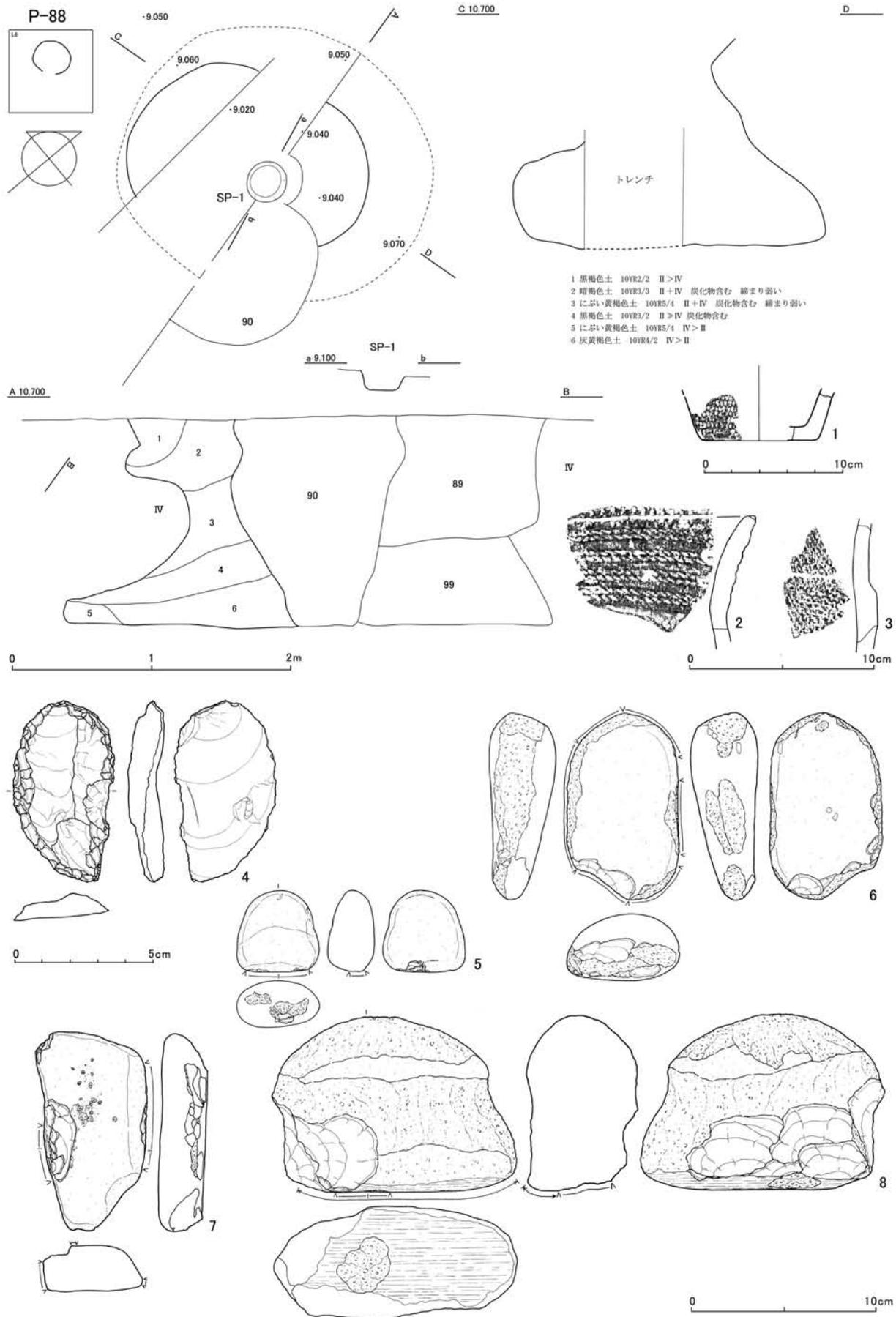
(石器) 4～8は覆土出土。4はスクレイパー。縦型剥片の側縁に円弧状の刃部を作出したもの。頁岩製。5～7はたたき石。5は亜円礫の側縁に敲打痕のあるもの。チャート製。6は棒状の扁平礫の周縁に敲打痕のあるもの。砂岩製。7は扁平な棒状礫の側縁と平坦面に敲打痕のあるもの。泥岩製。8はすり石で北海道式石冠。全面を敲打によって整形し、握部を作出している。擦り面は平坦で、短軸方向にやや傾いている。安山岩製。

P-92 (図IV-361)

位置：M 6・7区

坑底面形：円形

規模：1.10 / 2.31 × 1.09 / 2.19 × 0.89m



図IV-360 P-88

確認・調査：Ⅳ層までおよぶ攪乱の除去中、Ⅳ層中に少量の炭化物・ブロック状の黒色土が混じる褐色土の落ち込みを確認した。周辺で検出されていたフラスコ状ピットがいずれも深く、本遺構も深いことが予想されたため南側をスコップで掘り下げた。坑底の中央に径0.34×0.32m、深さ0.08mの砂粒を含む褐色土が落ち込んだ皿状の小ピットが認められた。壁は鋭角にオーバーハングして立ち上がる。北側の床面直上から径0.32×0.18m、厚さ0.05mの焼土と中央部から炭化材が検出された。

遺物出土状況：坑底・坑底直上から土器はⅡ群B-5類土器など65点、スクレイパー・礫など96点、覆土からⅡ群B類土器11点、石器はスクレイパー・礫など24点が出土した。

時期：出土したⅡ群B類土器からみて、縄文時代前期末葉と考えられる。

掲載遺物：(土器) 1～8・10は坑底、9は覆土出土のⅡ群B類土器である。

Ⅱ群B-4類土器(1・2)：1は口頸部破片。幅広の口頸部文様帯に2本一組の縄線文が施されている。2は体部破片。単軸絡条体の回転文が施されている。

Ⅱ群B-5類土器(3～10)：3は口唇に半截竹管状工具による刺突が加えられ、口頸部文様帯に縄線文と刺突列が交互に施されている。4は頸部破片。口頸部文様帯は縄の圧痕文が加えられた貼り付けで区画され、無文地の文様帯に縄線文が施されている。5～10は体部破片。5は多軸絡条体の回転文、6は単軸絡条体第4類の回転文、7は複節の斜行縄文、8～10は斜行縄文が施されたものである。

(石器) 11は底面出土のスクレイパー。縦型剥片の周縁を加工してへら状の形状にしている。下半部には原石面が残存する。頁岩製。

P-93 (図Ⅳ-362)

位置：M・N 7区

坑底面形：円形

規模：—/2.64×—/(1.96)×0.33m

確認・調査：上部はⅣ層下位まで削平され、坑底部のみが残存していた。北東側で隣接するP-115は規模・形状・覆土が類似することから、同時期のものと考えられるが、P-93よりも坑底面の標高が高い。よって、本来は北から南へ降りる緩斜面上でⅡ層中より掘り込まれたと推測される。南東側の約1/4は調査範囲外(木古内き電区分所敷地)である。坑底面の平面形は円形と推測される。坑底面はほぼ平坦で、東端に不整円形の小ピット(SP-1)がある。断面観察では重複は認められず、覆土も連続することから付属遺構と判断した。坑底部は大きくオーバーハングする。覆土は自然堆積で、ローム(崩落土)を主体としており、腐植土は少ない。

遺物出土状況：坑底からⅡ群B-5類土器1点、凹み石、礫など113点、覆土からⅡ群B-5類土器など21点、剥片・礫など8点が出土した。

時期：出土遺物から、縄文時代前期末葉と考えられる。(芝田)

掲載遺物：(土器) 1は坑底、2・3は覆土出土でⅡ群B-5類土器。

Ⅱ群B-5類土器(1～3)：1は丁寧なナデ調整が施された台付土器の台部分である。2は口頸部破片。口唇に縄圧痕、無文地の文様帯に太い縄線文が施されている。3は体部破片。斜行縄文上に縦位の綾絡文が加えられている。

(石器) 4は覆土出土の凹み石。棒状礫の平坦面に断面円錐状の凹みがあるもの。泥岩製。

P-94 (図Ⅳ-362)

位置：N 6・7区

坑底面形：円形

規模：－／2.10×－／2.03×0.46m

確認・調査：上部はIV層下位まで削平され、掘り込みの中位～坑底部が残存する。本来は北から南へ降りる緩斜面上でII層中より掘り込まれたと推測される。検出面での平面形（中位）は不整楕円形、坑底面は円形である。坑底面はほぼ平坦で、中央部に不整円形の小ピット（SP-1）がある。昇降のための施設の痕跡の可能性がある。坑底部は大きくオーバーハングする。覆土は自然堆積である。

遺物出土状況：坑底・坑底直上からII群B類土器1点、焼成粘土塊1点、礫・礫片18点、覆土からII群B-5類土器など11点、剥片、礫など17点が出土した。

時期：出土遺物から、縄文時代前期末葉と考えられる。（芝田）

掲載遺物：（土器）1～4は覆土出土のII群B-5類土器である。

II群B-5類土器（1～4）：1・2は口縁部破片。縄線文が加えられた口頸部文様帯をもつもの。口唇に縄の圧痕が加えられている。1の口頸部文様帯下端は棒状工具による刺突文で区画されている。体部は多軸絡条体の回転文である。2の口頸部文様帯上端に半截竹管状工具内面の刺突が加えられている。3・4は体部破片。多軸絡条体の回転文が施されている。

P-95（(図IV-363)）

位置：N 6区

坑底面形：楕円形

規模：－／2.35×－／2.10×0.99m

確認・調査：上部はIV層中位まで削平され、掘り込みの中位～坑底部が残存する。本来は北から南へ降りる緩斜面上でII層中より掘り込まれたと推測される。検出面（中位）および坑底面の平面形は楕円形である。坑底面はほぼ平坦で、中央部に円形の小ピット（SP-1）がある。昇降のための施設の痕跡の可能性がある。坑底部は大きくオーバーハングする。覆土は自然堆積である。土層断面では見られないが、覆土上位に焼土が混入する部分があり、上部に住居跡が存在した可能性がある。

遺物出土状況：坑底・坑底直上からII群B-5類土器など8点、石錐・たたき石・礫など12点、覆土からII群B-3類土器など51点、石器は石鏃・つまみ付ナイフ・剥片など39点が出土した。

時期：坑底出土遺物から、縄文時代前期末葉と考えられる。（芝田）

掲載遺物：（土器）2・3・5は坑底直上、6は坑底、1・4は覆土出土のII群B類土器である。

II群B-3類土器（1～3）：1は口縁部破片。口頸部に貝殻条痕文が施されている。2・3は体部破片。単軸絡条体の回転文が施されている。

II群B-4類土器（4）：4は縄線文が施された幅の狭い口縁部文様帯をもつもの。口唇に縄圧痕、文様帯下端に綾絡文が加えられている。体部は多軸絡条体の回転文である。

II群B-5類土器（5・6）：5・6は体部破片。多軸絡条体の回転文が施されている。

（石器）8・9は坑底、7は覆土出土。7は石鏃。尖基のもの。メノウ製。8は石錐。棒状で上下両端に機能部を作出している。頁岩製。9はたたき石。扁平な棒状礫の側縁に敲打痕のあるもの。被熱している。安山岩製。

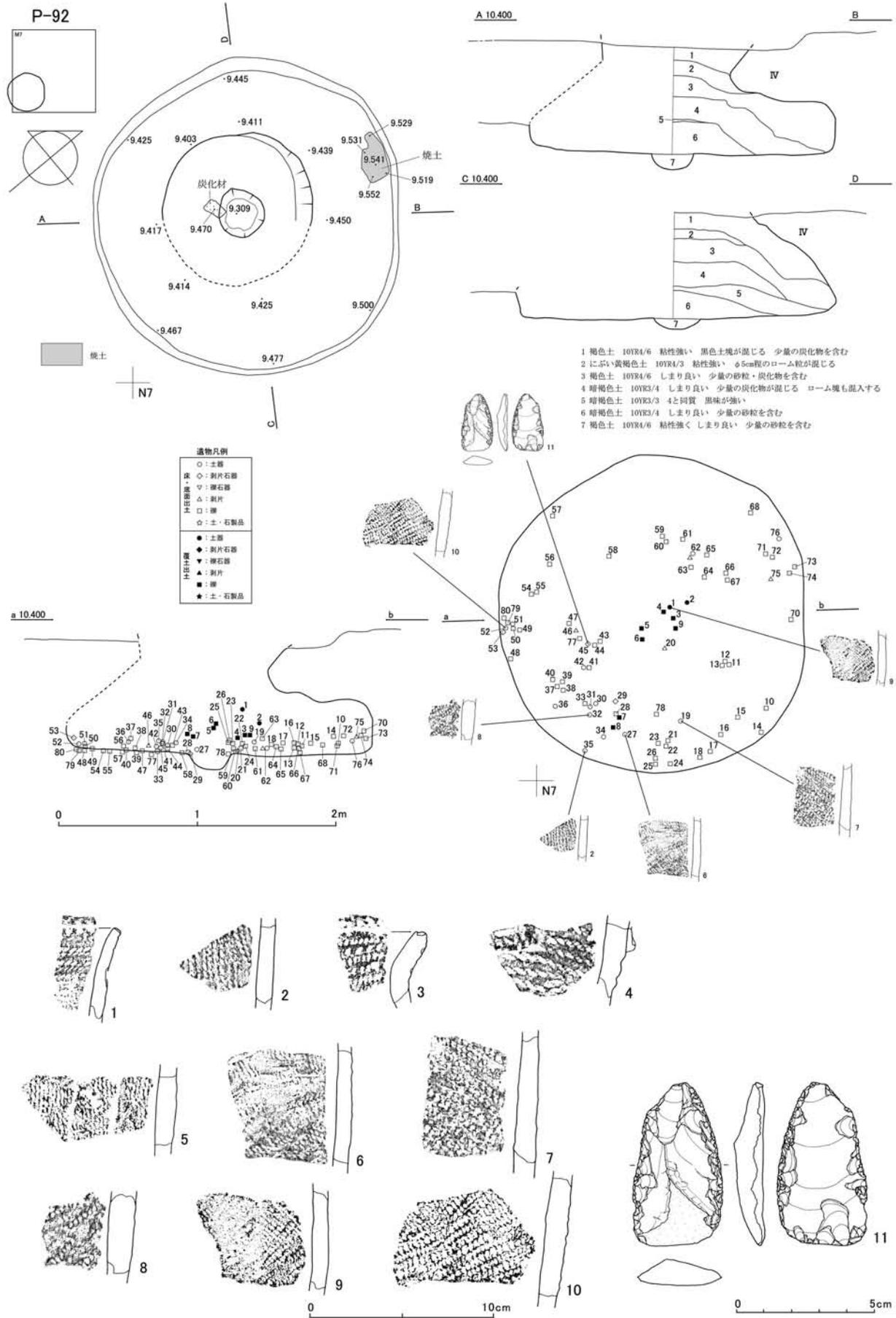
P-113（(図IV-363)）

位置：L 8

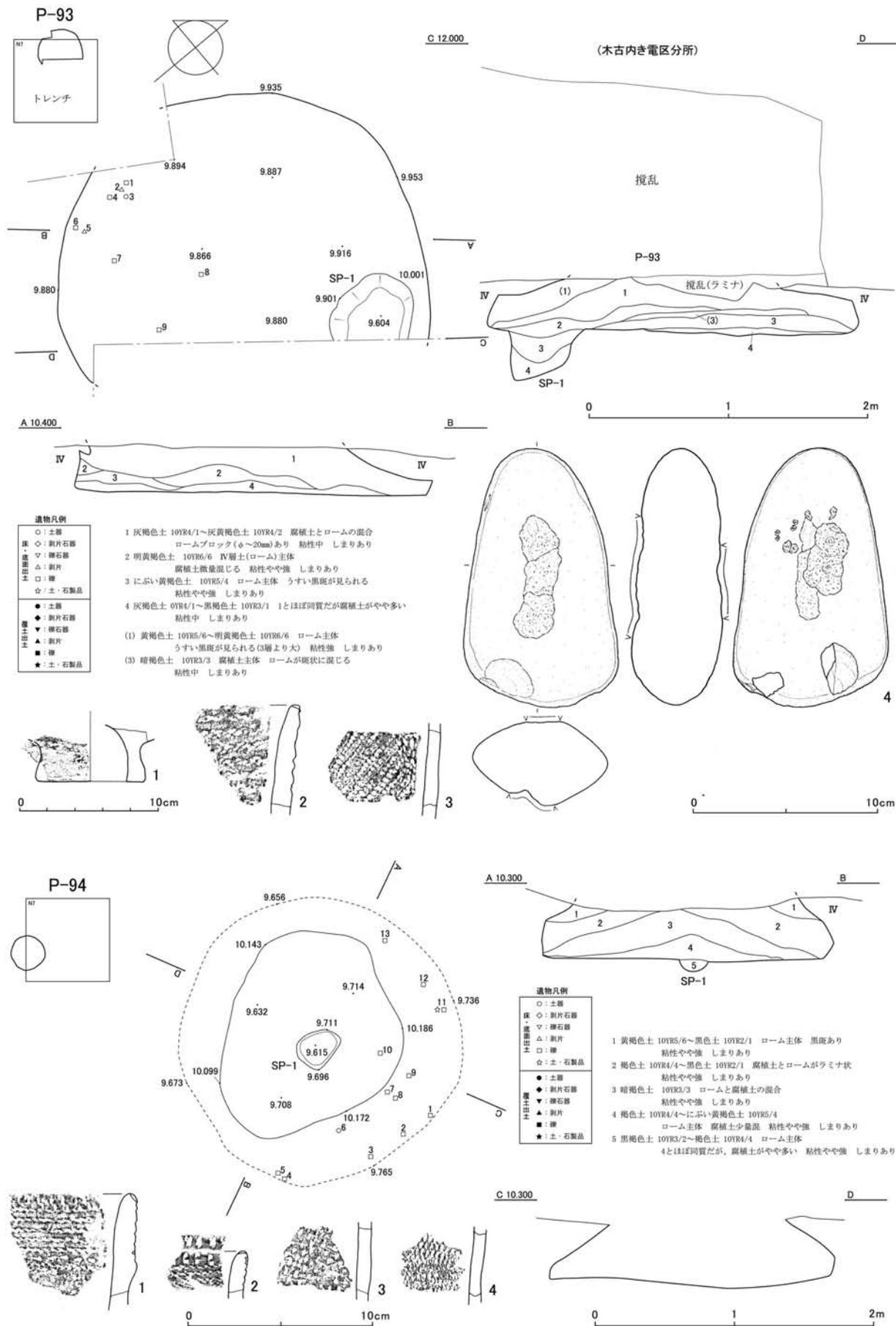
坑底面形：円形

規模：－／2.20×－／2.10×1.27m

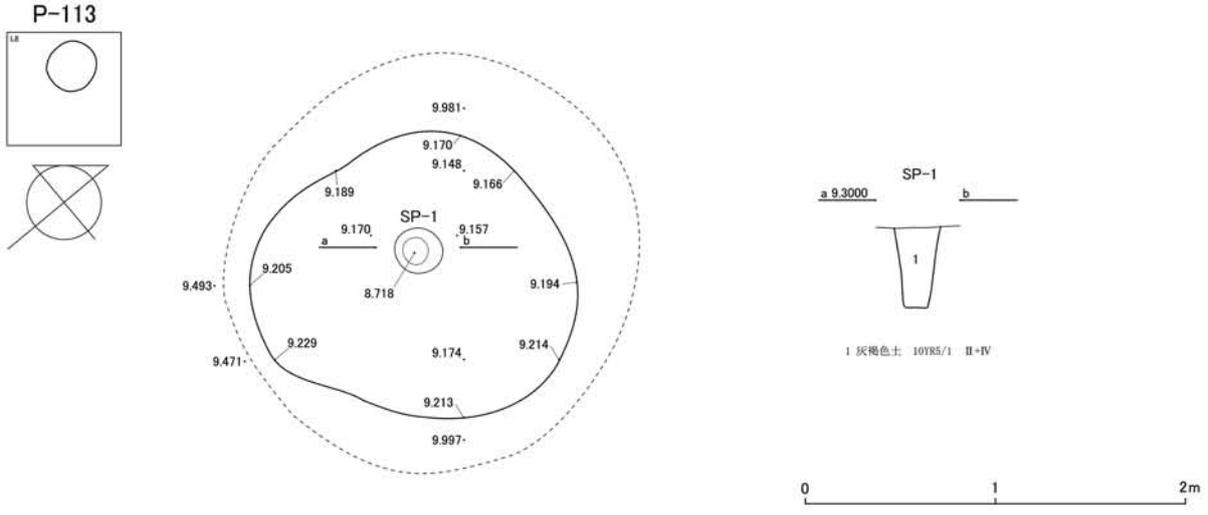
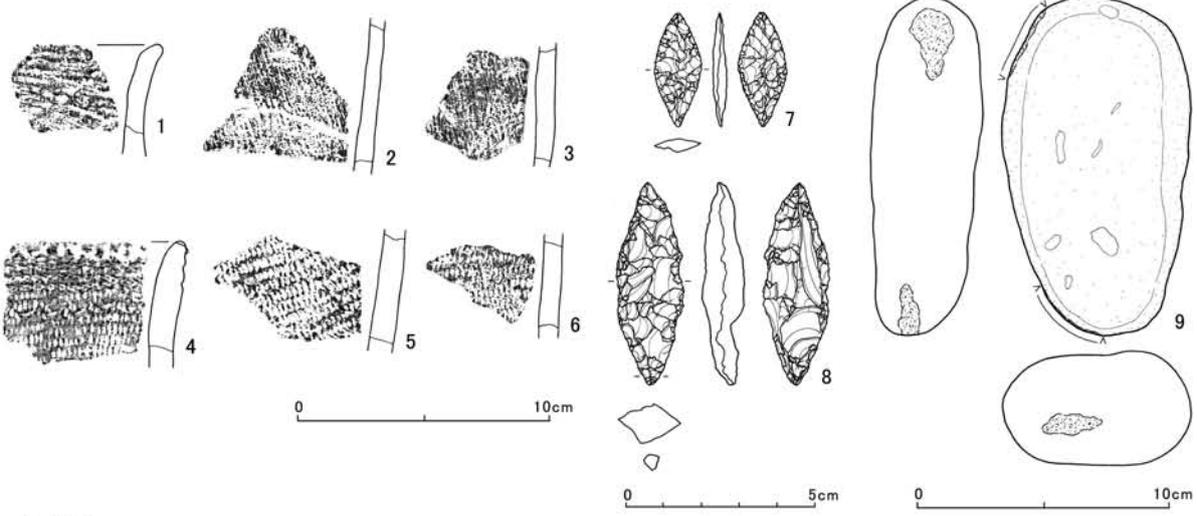
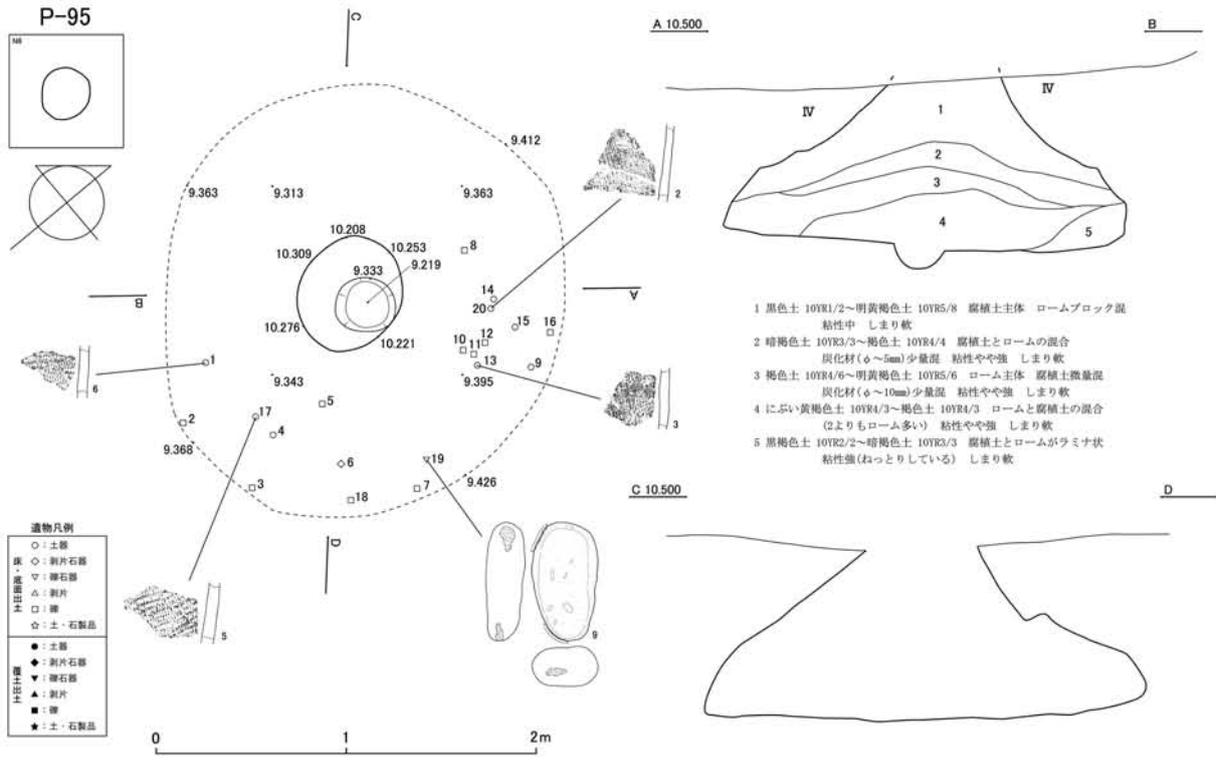
確認・調査：IV層の調査中に重複する黄褐色土の落ち込みを確認した。半截して調査を行い上部のP-104、下位をP-113と呼称した。P-104の調査終了後、掘り下げを開始し、坑底を検出、坑底中央



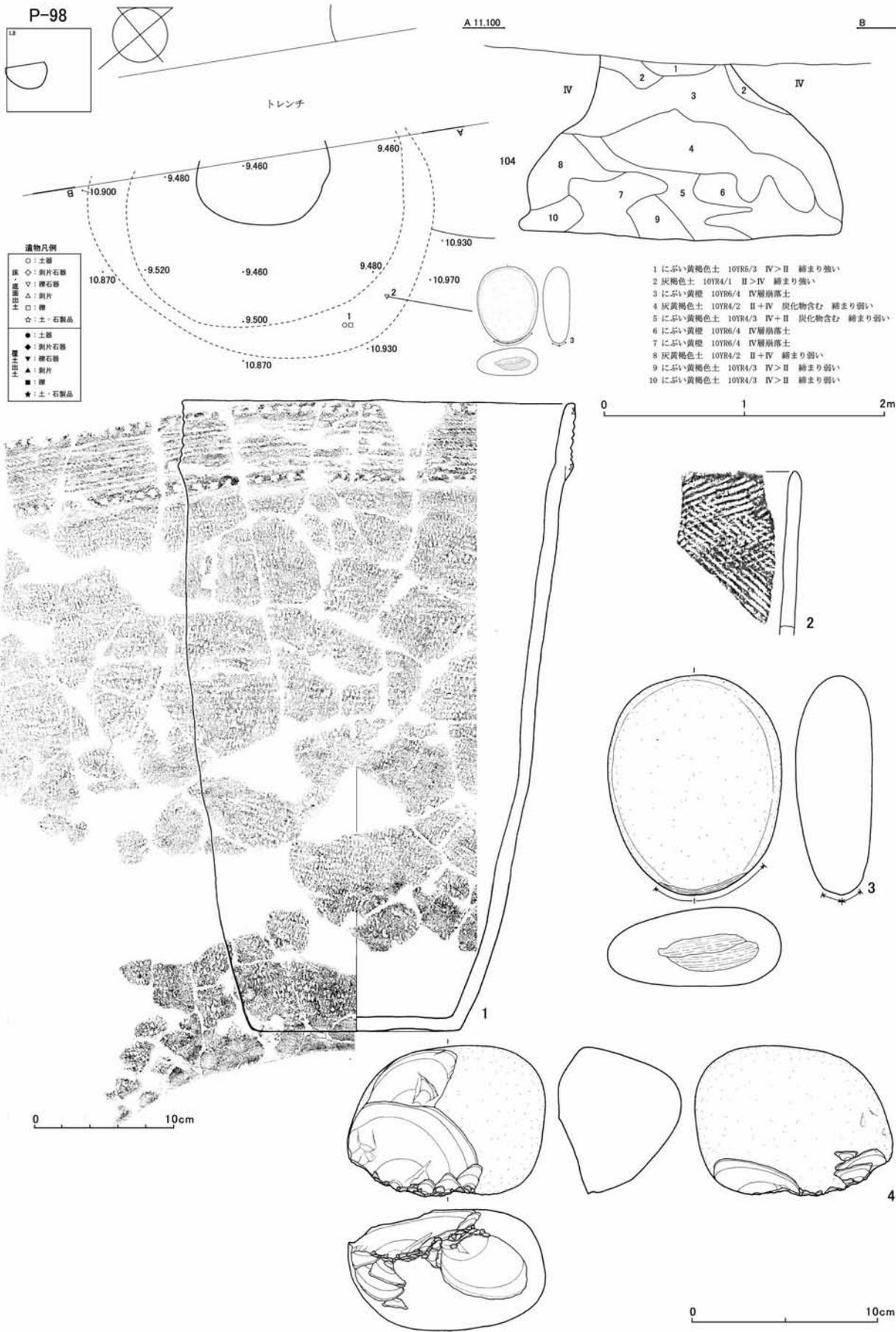
図IV-361 P-92



図IV-362 P-93・94



図IV-363 P-95・113



図IV-364 P-98

に深さ21cmほどの柱穴状の小ピットを確認した。壁はオーバーハングして立ち上がる。

遺物出土状況：遺物は出土していない。

時期：周囲から検出されている同様の遺構から縄文時代前期末葉と考えられる。

掲載遺物：掲載遺物なし。

(佐藤)

P-98 (図IV-364)

位置：L 8 区

坑底面形：不明

規模：— / 2.47 × — / (1.49) × 1.27m

確認・調査：IV層で重複する黄褐色土の落ち込みを確認した。半截し、調査を行った。フラスコ状ピットである。覆土は上位が自然堆積で、中位から下はII層とIV層を主体にした埋戻しである。坑底はやや凹凸がある。西側はP-104の坑底と壁を壊して造られている。

遺物出土状況：坑底直上からII群B-5類土器が222点、すり石など2点、覆土からII群B-5類土器など101点、たたき石・礫器・石核・礫など74点が出土した。

時期：出土したII群B類土器からみて、縄文時代前期末葉と考えられる。

(佐藤)

掲載遺物：(土器) 1・2はII群B類土器。1はII群B-5類土器。覆土・坑底直上出土資料が接合した。口頸部が張り出す器形である。口頸部文様帯下端を刺突文が加えられた貼付帯で区画し、無文地の口頸部に2本一組の縄線が3条施されている。体部は多軸絡条体の回転文である。2は胎土・文様構成が同時期の資料とやや異なる。口唇は、体部に無節の斜行縄文が施文方向を変え、重ねて施文され、菱目状の縄文を作り出している。胎土に砂粒を含む。便宜的にII群B類土器に含む。

(石器) 3は底面、4は覆土出土。3はすり石。扁平な亜円礫の下端部に敲打によって2面の狭い平面を作出し、擦り面として利用している。砂岩製。4は礫器。亜円礫の一侧縁を打ち欠いてV字状の刃部を作出している。頁岩製。

P-99 (図IV-365)

位置：L 6 区

坑底面形：不明

規模：— / 2.06 × — / — × 0.63m

確認・調査：II層を掘り下げ中に複数の褐色土の落ち込みを確認した。トレンチを設定し、調査を行った。その結果、4基の土坑が重複しているのが判明した。フラスコ状の土坑である。覆土は自然堆積で、II・IV層を主体とする層が堆積する。坑底はほぼ平坦で、中央に円形の小土坑がある。壁の一部はP-88・90・111構築時に壊されている。

遺物出土状況：覆土からII群B-5類土器など31点、両面調整石器・すり石・石製品など34点が出土した。

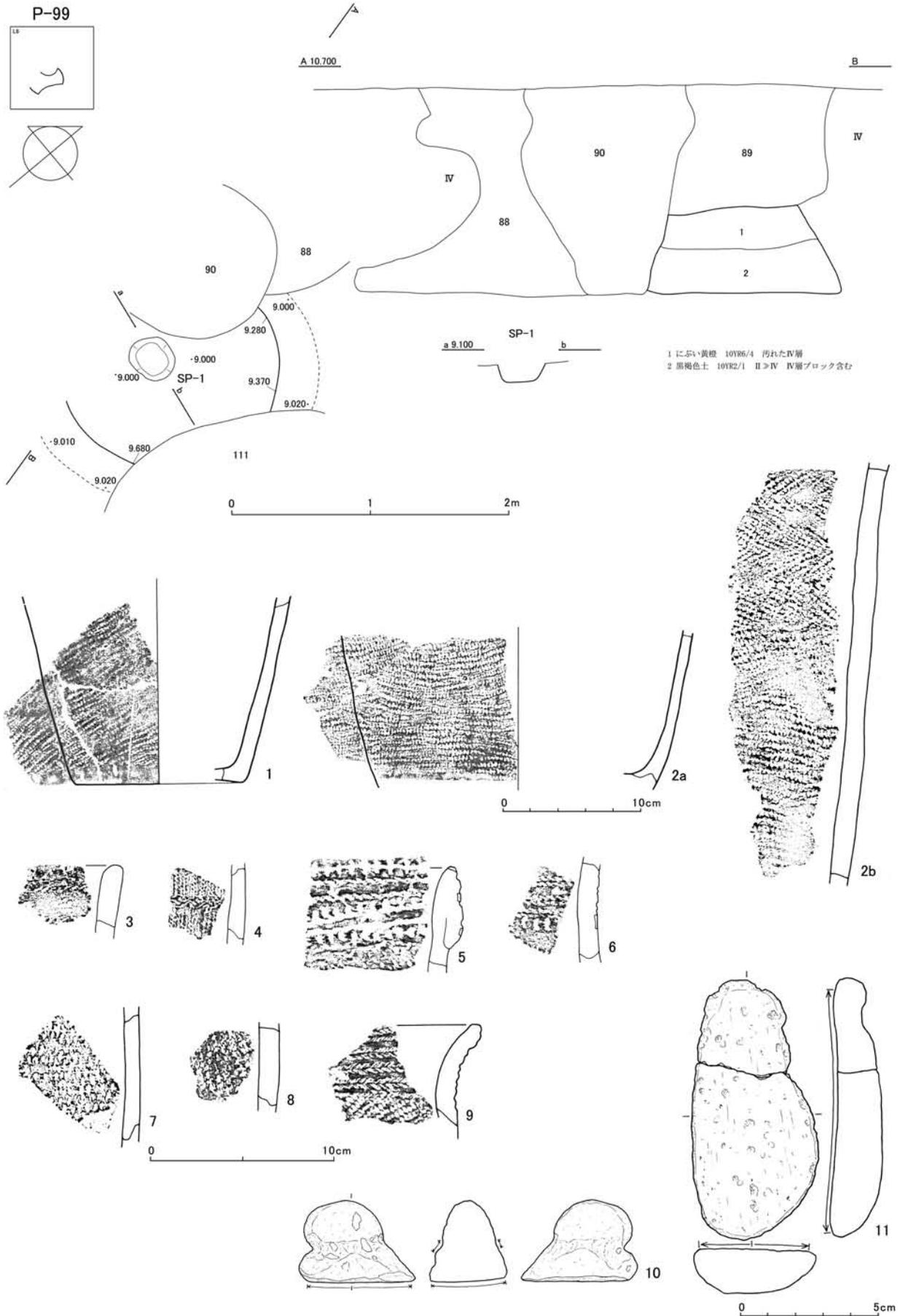
時期：出土したII群B類土器からみて、縄文時代前期末葉と考えられる。

(佐藤)

掲載遺物：(土器) 1～9は覆土出土のII群B類土器。

II群B-4類土器(3・4)：3は口縁部破片。口唇に撚糸の圧痕文、口縁部に2条の縄線文が施されている。4は単軸絡条体の回転文を施した後、原体が不明の不整綾絡文が加えられている。

II群B-5類土器(1・2・5～9)：5は断面が切り出し状の口縁部。口唇に縄の圧痕が加えられている。文様帯下端に半截竹管状工具内面による刺突文が加えられている。無文地の文様帯には縄線文と刺突文が施文されている。体部は複節の斜行縄文である。6は頸部破片。2本一組の縄線文と半截竹管状工具内面の刺突文が施されている。7・8は体部破片。複節の単軸絡条体の回転文、8は



図IV-365 P-99

複節の斜行縄文が施されている。9は口縁部破片。口頸部は多条の組紐状の縄線文、体部は斜行縄文である。1は斜行縄文が施された底部。2は横走気味の縄文が施された底部。

(石器) 10・11は覆土出土の軽石製石製品。10は北海道式石冠を模した形状をしていおり、溝状の握部が廻っている。すり面にあたる部分は平坦である。11は棒状軽石を長軸方向に削って平坦面を作出している。平坦面はやや内湾している。

P-100 (図IV-366・367)

位置：O 6区

坑底面形：円形

規模：- / 2.09×- / 2.00×1.14m

確認・調査：上部はIV層中位まで削平されており、掘り込みの中位～坑底部が残存する。掘り込み面はII層中で、本来は北から南へ降りる緩斜面上に掘り込まれたと推測される。検出面(中位)の平面形は不整楕円形、坑底面は円形。坑底部が大きくオーバーハングする。坑底面はほぼ平坦で、中央部に楕円形の小ピット(SP-1)がある。周辺のフラスコ状ピット(P-81・83・84・95・103・150など)の小ピットと比較して規模が大きくて深いことから、昇降のためだけではなく別の機能をもつ付属施設だった可能性がある。覆土は自然堆積である。

遺物出土状況：坑底からII群B類土器4点、石斧・台石・礫など42点、覆土からII群B-3類土器など12点、すり石・石皿・礫など99点が出土した。

時期：出土遺物から、縄文時代前期末葉と考えられる。(芝田)

掲載遺物：(土器) 3・4は坑底、1・2は覆土出土のII群B類土器である。

II群B-3類土器(1・2)：1は口縁破片。口唇に単軸絡条体の圧痕が加えられ、口頸部文様帯下端は細い貼り付けで区画され、無文地の文様帯および貼付帯直下に単軸絡条体の圧痕が加えられている。体部は単軸絡条体の回転文である。2は体部破片。口頸部に不整綾絡文、体部に単軸絡条体の回転文が施されている。

II群B-4類土器(3)：3は単軸絡条体の回転文が施されている。

II群B-5類土器(4)：4は多軸絡条体の回転文が施されている。

(石器) 5・6・8は坑底、7・9は覆土出土。5は石斧。短冊形で刃部は破損している。擦り切ったのち全面を敲打整形し研磨で調整している。刃部折損後に再加工しようとした形跡がみられる。緑色泥岩製。6はすり石で扁平打製石器。扁平な楕円礫の周縁を打ち欠いて半円状に整形し、弦の部分に幅の狭い擦り面を作出している。長軸両端部に挟りがある。安山岩製。7は台石。楕円礫の平坦面に敲打痕のあるもの。上端部にも敲打痕があることから、たたき石としても利用されたと考えられる。安山岩製。8は石皿。板状礫の平坦面に緩やかな凹みのあるすり面がある。安山岩製。

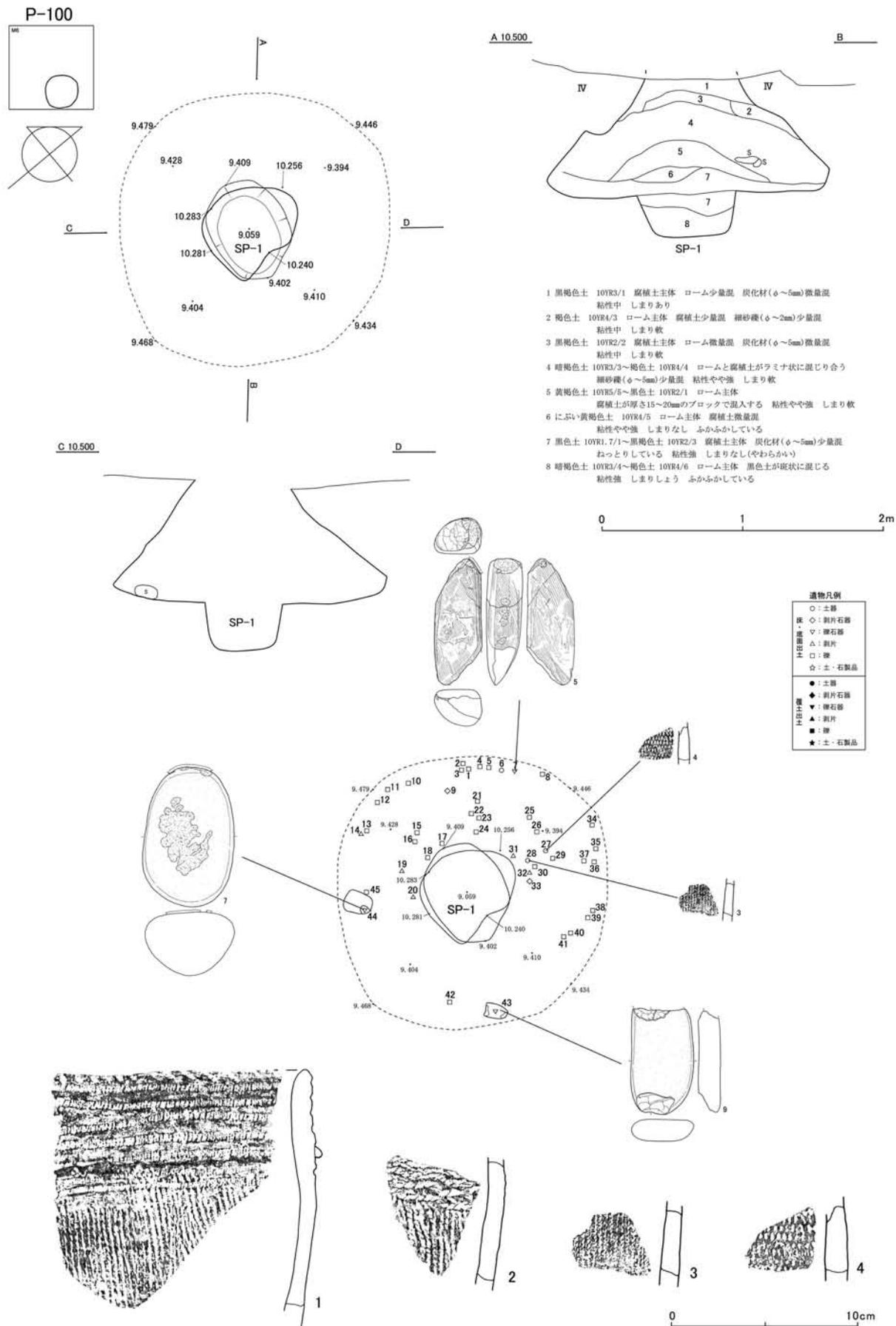
P-103 (図IV-368)

位置：M・N 5・6区

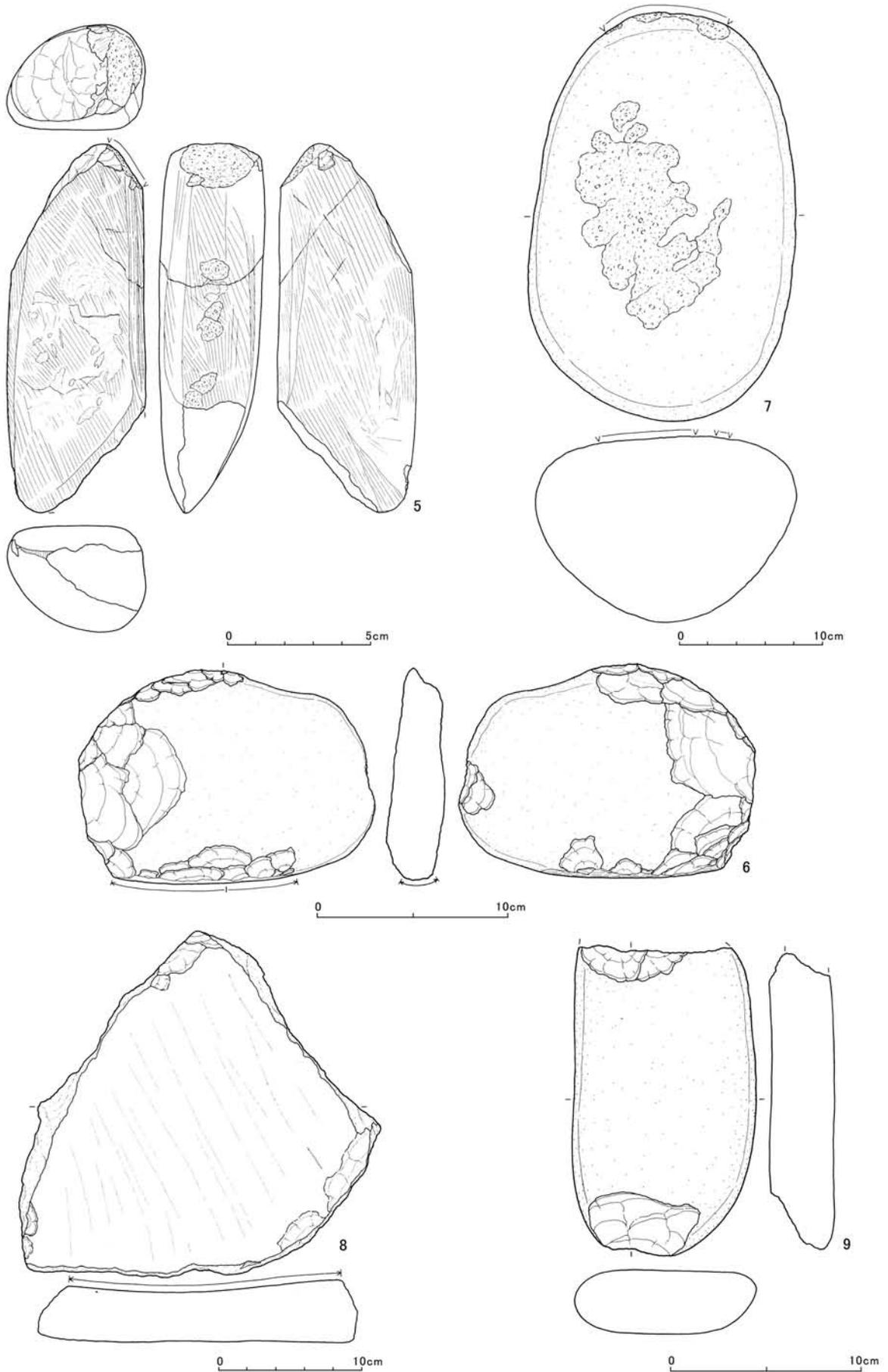
坑底面形：円形

規模：- / 2.23×- / 2.04×1.37m

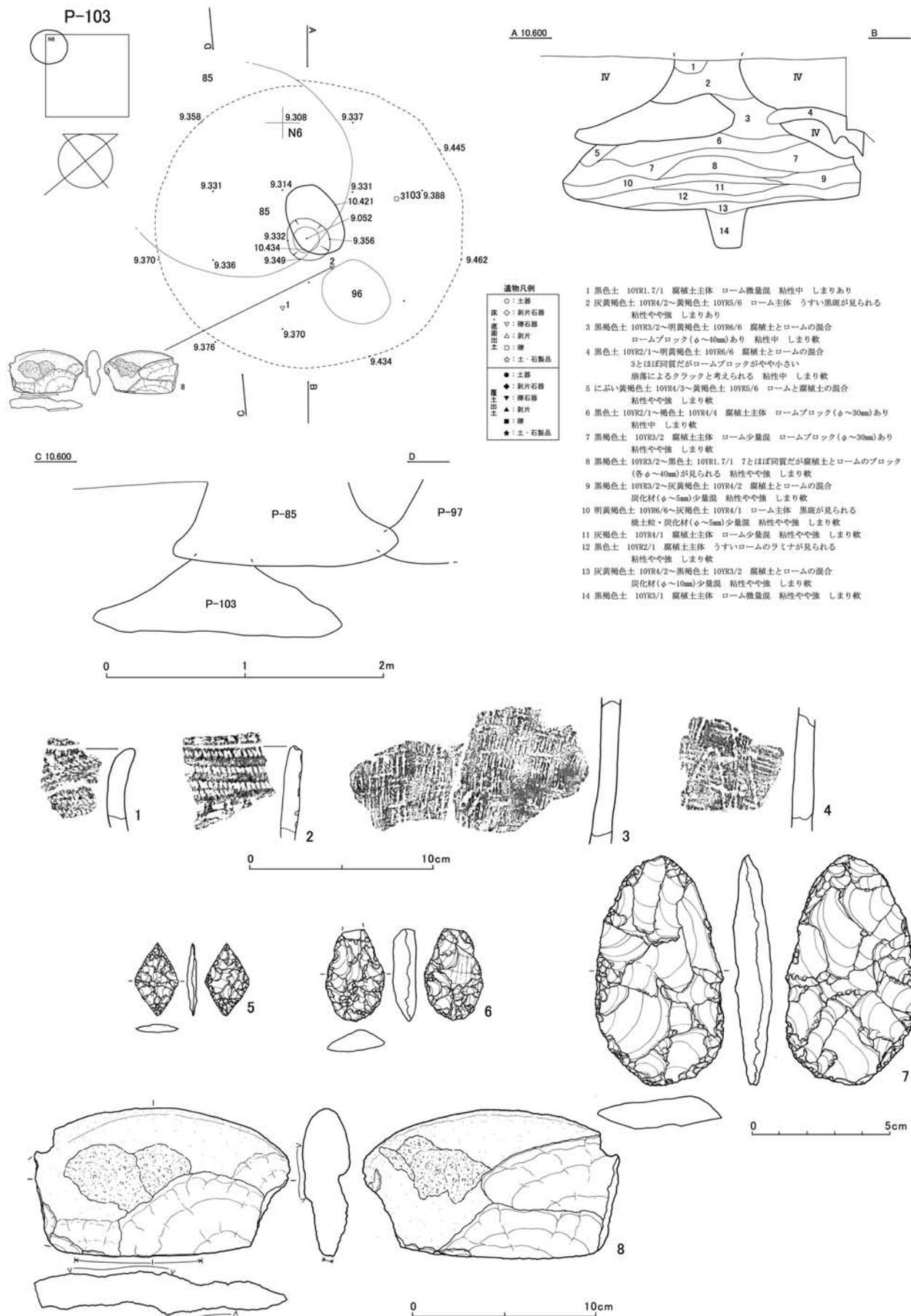
確認・調査：上部はIV層中位まで削平されており、掘り込みの中位～坑底部が残存する。掘り込み面はII層中で、本来は北から南へ降りる緩斜面上に掘り込まれたと推測される。検出面(中位)の平面形は楕円形、坑底面は円形。坑底部が大きくオーバーハングする。坑底面は中央へ緩やかに傾斜しており、中央部に円形の小土坑(SP-1)が設けられている。断面は柱穴状で、昇降のための施設の痕跡である可能性がある。覆土は、自然堆積である。西側でP-85、東側でP-96に壊されているが、



図IV-366 P-100



图IV-367 P-100 遺物



図IV-368 P-103

P-103の坑底面がより下位である（掘り込みが深い）。P-83・84と近接するが、重複していない。

遺物出土状況：坑底からすり石など3点、覆土からⅡ群B-5類土器など15点、石鏃・スクレイパー・剥片など73点が出土している。

時期：周辺遺構の出土遺物などから、縄文時代前期末葉と考えられる。（芝田）

掲載遺物：（土器）1～4は覆土出土のⅡ群B類土器である。

Ⅱ群B-4類土器（1）：1は口縁破片。外反する幅の狭い口頸部文様帯に三角ないし鋸歯状の縄線文が施されている。

Ⅱ群B-5類土器（2～4）：2は口縁破片。口唇に刺突文が加えられ、無文地の口頸部に単軸絡条体の圧痕文・刺突文が施されている。3・4は体部破片。3は単軸絡条体第4類の回転文、4は貝殻条痕上に単軸絡条体第1A類の回転文が施されている。

（石器）8は坑底、5～7は覆土出土。5は石鏃。尖基で菱形。頁岩製。6はスクレイパー。両面調整で刃部を作出している。黒曜石製。7は両面調整石器。楕円形に整形している。頁岩製。8はすり石で扁平打製石器。扁平礫の側縁を打ち欠いて非常に狭い機能部を作出している。長軸両端部を打ち欠いている。平坦面に断面円錐状の凹みがあり、凹み石を転用したと考えられる。砂岩製。

P-105（図IV-369・370）

位置：K・L 4区

坑底面形：円形

規模：1.51 / 1.43×1.45 / 1.32×0.29m

確認・調査：H-44北側の壁・床面検出中に、40×35cmの円形の黒色土～暗褐色土の小ピット状の落ち込みと北西側に円形の壁の立ち上がりを検出し、フラスコ状ピットの坑底部であることを確認した。南東～南側でP-47やH-44のHP-3・50と切り合っているが、坑底部のみのため新旧関係は不明である。坑底はH-44の床面よりわずかに低い面に平坦に構築され、中央に径0.4×0.35m、深さ0.35mの小ピットが認められた。壁は開き気味に立ち上がる。

遺物出土状況：坑底直上から礫4点が出土した。

時期：周辺から遺構から縄文時代前期後半と考えられる。

掲載遺物：掲載遺物なし

P-106（図IV-369・370）

位置：M 4区

坑底面形：不整形円形

規模：— / 2.76×— / 2.72×0.72m

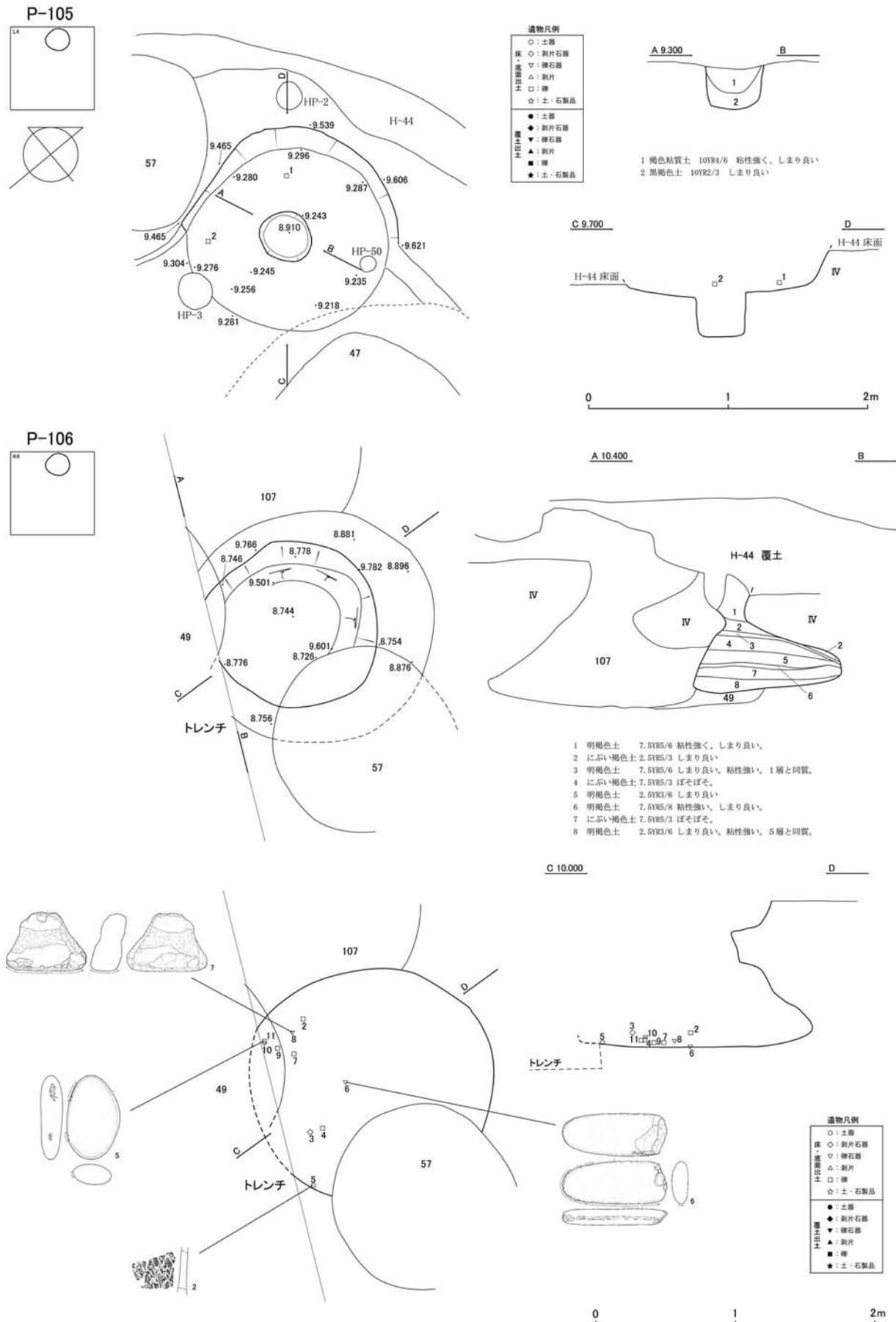
確認・調査：H-44北側の立ち上がりを確認するためのトレンチ調査の際、P-49・107と共に検出した。上部はH-44によって壊されている。坑底はIV層中に皿状に構築され、隣接するP-107・49を切って構築されている。東側のP-57によって壊されている。壁はオーバーハングして立ち上がる。

遺物出土状況：坑底南側から礫石器・礫・Ⅱ群B-3類土器などがまとまって出土した。坑底からⅡ群B-3類土器2点、たたき石・すり石・礫など9点、覆土からⅡ群B-5類土器など67点、つまみ付ナイフ・たたき石・礫など103点が出土した。

時期：Ⅱ群B-3類土器が坑底から出土しているが、Ⅱ群B-4類土器の時期のP-107やⅡ群B-5類土器の時期のP-49を壊して構築されていることから、縄文時代前期末葉と考えられる。

掲載遺物：（土器）2は坑底、1・3は覆土出土のⅡ群B類土器である。

Ⅱ群B-3類土器（2）：2は単軸絡条体第6類の回転文が施されている。



図IV-369 P-105・106

Ⅱ群B-5類土器(1・3): 1は肥厚する口頸部破片。口唇に縄の圧痕が加えられている。口頸部文様帯の上下を2本一組の縄線文で区画し、無文地の文様帯に2本一組の斜位の縄線文が加えられ、さらに肥厚帯直下にも同様の縄線文が施されている。体部は多軸絡条体の回転文である。3の体部は多軸絡条体の回転文である。

(石器) 5~7は底面、4は覆土出土。4・5はたたき石。4は棒状礫の端部に敲打痕のあるもの。安山岩製。5は扁平な楕円礫の側縁に敲打痕のあるもの。砂岩製。6・7はすり石。6は扁平な楕円礫の側縁に敲打によって幅の狭い面を作出し、すり面としたもの。長軸端部に敲打痕がみられ、右端部は打ち欠いている。砂岩製。7は北海道式石冠。全面を敲打によって整形し、握部を作出している。擦り面は平坦で、短軸方向に傾いている。安山岩製。

P-107 (図IV-371・372)

位置: K 4区

坑底面形: 不整円形

規模: 1.10 / 0.84 × (0.52) / (0.38) × 0.40m

確認・調査: H-44北側の立ち上がりを確認するためのトレンチ調査の際、P-49・106と共に検出した。P-107と呼称し、プラスチック状ピットを想定し、東側に掘り下げた。その壁面にP-109が確認され、これによって上部の一部が壊されていた。坑底はIV層中に平坦に構築されている。壁はオーバーハングしながら立ち上がり、大きく開きながら立ち上がる。P-106によって南側の壁が、P-49によって西側の坑底の一部が壊されていた。

遺物出土状況: Ⅱ群B類土器・礫石器・礫等の小さなまとまりが坑底東側に認められる。坑底・坑底直上からⅡ群B-5類土器など3点、たたき石・すり石・礫9点、覆土からⅡ群B-4類土器など47点、スクレイパー・礫など20点が出土している。

時期: 坑底出土のⅡ群B-5類土器から、縄文時代前期末葉と考えられる。

掲載遺物: (土器) 3は坑底直上、5・6は坑底、1・2・4は覆土出土のⅡ群B類土器である。

Ⅱ群B-4類土器(1~3): 1は緩やかな波状口縁で、口唇には縄の圧痕文が施されている。文様帯下端は刺突文で区画され、無文地で幅の狭い口頸部に縄線文が施文されている。体部は多軸絡条体の回転文である。2は口縁部破片。口頸部文様帯に単軸絡条体の圧痕文が施されている。3は体部破片。単軸絡条体の回転文が施されている。

Ⅱ群B-5類土器(4~6): 4~6は体部破片。4は単軸絡条体第4類の回転文、5・6は多軸絡条体の回転文が施されている。

(石器) 9・10は坑底、7・8・11は覆土出土。7・8はスクレイパー。使用痕とみられる光沢が確認できる。頁岩製。7は縦型剥片の側縁に直線的な刃部を作出したもの。8は横型剥片の側縁に円弧状の刃部を作出したもの。9はたたき石。扁平礫の端部に敲打痕があるもの。上端部は打ち欠いてV字状にした頂部に敲打痕がみられる。10・11はすり石で扁平打製石器。扁平な楕円礫の側縁を打ち欠いて直線状に整形し、非常に幅の狭い機能部を作出している。10は側縁と平坦面に敲打痕がみられる。泥岩製。11は安山岩製。

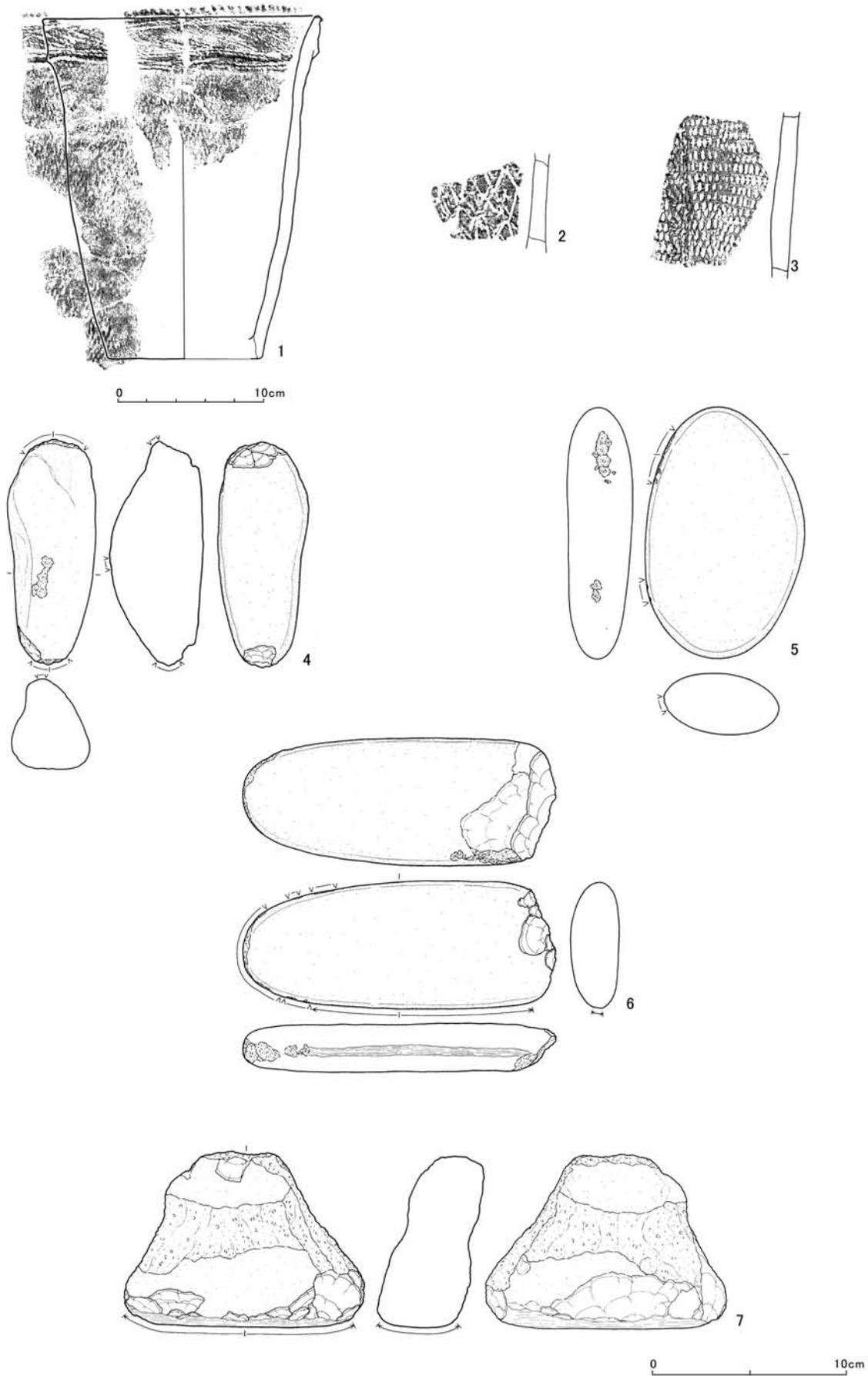
P-110 (図IV-372)

位置: K 4区

坑底面形: 不整円形

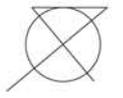
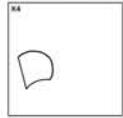
規模: 1.10 / 0.84 × (0.52) / (0.38) × 0.40m

確認・調査: 北側の調査区境界部分のトレンチ調査を実施した際、南側壁面で黄褐色~暗褐色土の落

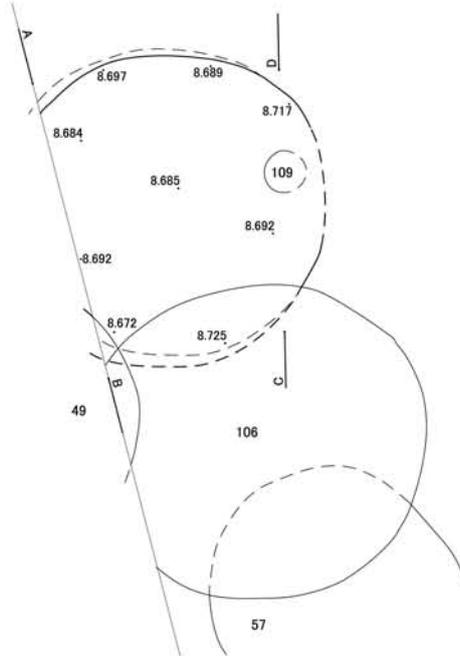


图IV-370 P-106 遺物

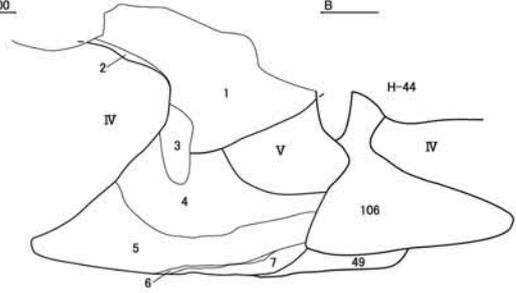
P-107



遺物凡例	
○	土層
◇	割片石器
▽	鎌石器
△	割片
□	竪
☆	土・石製品
土層凡例	
●	土層
◆	割片石器
▽	鎌石器
△	割片
■	竪
★	土・石製品

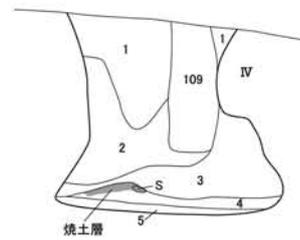


A 10.000

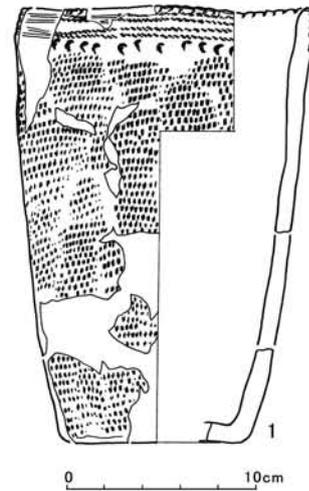
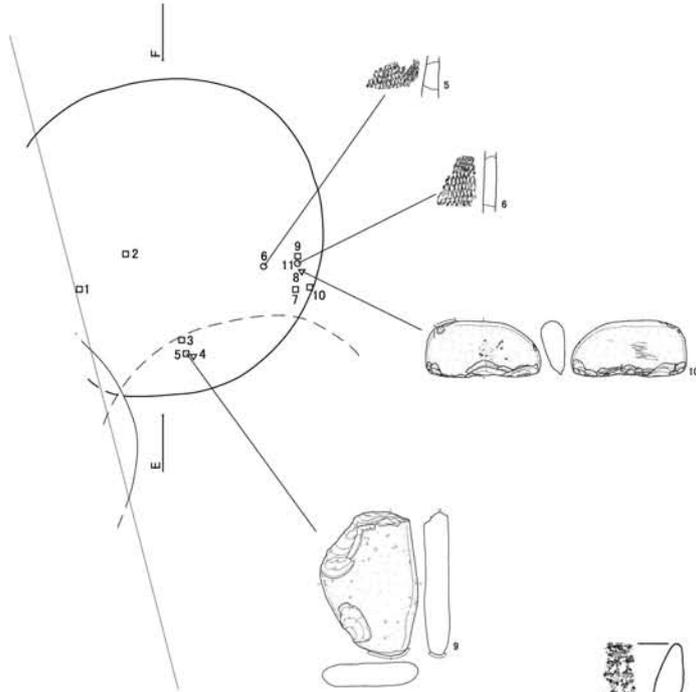


- 1 暗褐色土 7.5YR3/3 しまり良い 粘性強い
- 2 赤褐色土 2.5YR4/6 赤褐色粘質土 (P-96)
- 3 褐色土 7.5YR4/3 炭化材混じる。ぼそぼそ 柱穴痕か
- 4 褐色粘質土 7.5YR4/6 しまり良い。少量の砂粒
- 5 暗褐色土 7.5YR3/4 ブロック状のローム 炭化材が混じる ぼそぼそ
- 6 暗赤褐色土 2.5YR3/6 焼土層 砂粒多くぼそぼそ
- 7 5層と同質

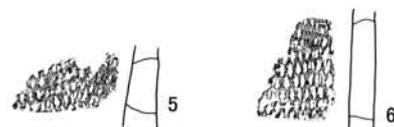
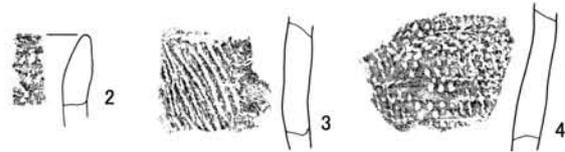
C 10.000



- 1 黄褐色土 10YR5/6 しまり良く粘質強い
- 2 暗褐色土 10YR3/4 ブロック状のローム粒 塊や少量の炭化物を含む
- 3 暗褐色土 10YR3/3 5層に類似。ぼそぼそ ロームブロック、少量の炭化物
- 4 褐色土 10YR4/4 ぼそぼそ、炭化物が混じる 一部焼土層が認められる
- 5 暗褐色土 10YR3/3 粘性強い ぼそぼそ ローム粒が混じる

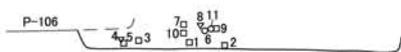


0 10cm



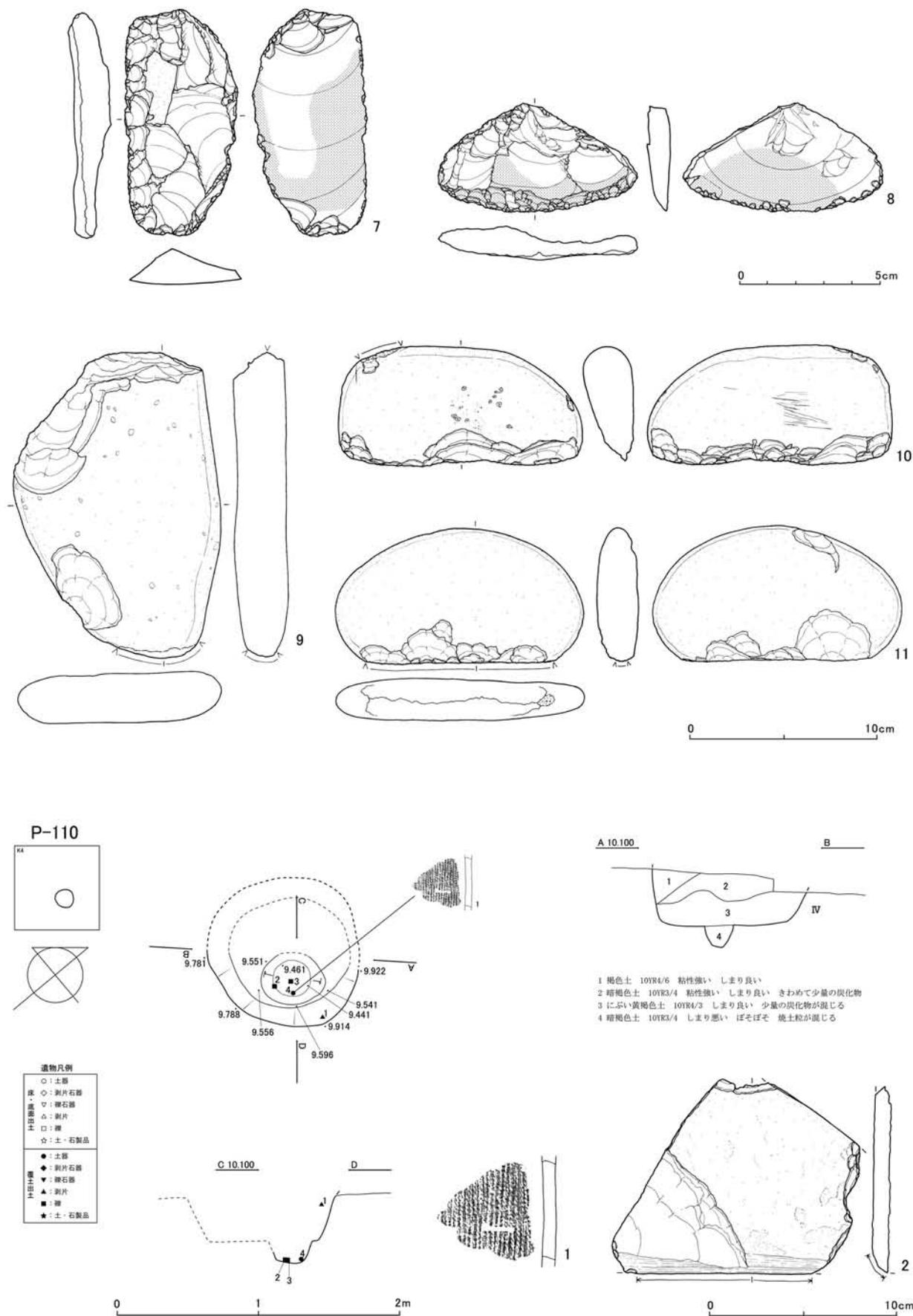
0 10cm

E 9.000



0 1 2m

図IV-371 P-107



図IV-372 P-107 遺物・P-110

ち込みを確認した。北側はトレンチ調査で欠失した。セクション図作図後に掘り下げ、南側の壁に接した坑底から径0.45×0.37m、深さ0.18mの小ピットを検出した。坑底は平坦で、壁は直立気味に立ち上がる。

遺物出土状況：東側の覆土下位から赤色顔料が検出された。小ピットの覆土からⅡ群B-4類土器1点、覆土からⅢ群A類土器など5点、石鋸・剥片・礫18点が出土した。

時期：小ピット出土土器から、縄文時代前期後半と考えられる。

掲載遺物：(土器) 1は覆土出土のⅡ群B-4類土器。単軸絡条体の回転文が施された体部破片。

(石器) 2は覆土出土の石鋸片である。板状礫の側縁に直線的な機能部を作出している。もともとは三角形であったと考えられるが、右側は折損し、裏面が剥離している。擦り面は断面に段のあるV字状とみられる。粘板岩製。

P-111 (図IV-373)

位置：L・M 6区

坑底面形：不整円形

規模：— / 2.45 × — / (1.84) × 1.57m

確認・調査：Ⅱ層を掘り下げ中に複数の褐色土の落ち込みを確認した。トレンチを設定して調査を行い、4基の土坑が重複していることが判明した。フラスコ状ピットである。覆土はⅡ層とⅣ層を主体にした埋戻しである。坑底はやや凹凸がある。南西側の壁はP-88・99の構築時に壊されている。

遺物出土状況：坑底直上から石斧1点、覆土からⅡ群B-5類土器など19点、礫など17点が出土した。

時期：出土したⅡ群B-5類土器からみて、縄文時代前期末葉である。(佐藤)

掲載遺物：(土器) 1～5は覆土出土のⅡ群B類土器。

Ⅱ群B-5類土器(1～5)：1～3は口縁部破片。1は口唇部に縄の圧痕文が加えられ、体部に条痕文が施されている。P-112の坑底から同一個体が出土しているが接合しなかった。2・3は口唇に絡条体圧痕文が加えられ、無文地の口頸文様帯に単軸絡条体の圧痕文が施されたもの。4・5は体部破片。4は単軸絡条体第4類の回転文、5は斜行縄文が施されたものである。

(石器) 6は底面、7・8は覆土出土。6は石斧。短冊形で刃部は折損している。側縁を打ち欠いて整形し、敲打・研磨して調整している。角閃岩製。7は石核。拳大の頁岩円礫を打ち欠いている。8は石製品。棒状礫を長軸方向に打ち欠いて、下半周縁に二次調整を加えている。細い直線状の線刻が平坦面にみられる。泥岩製。

P-112 (図IV-374・375)

位置：M・N 4区

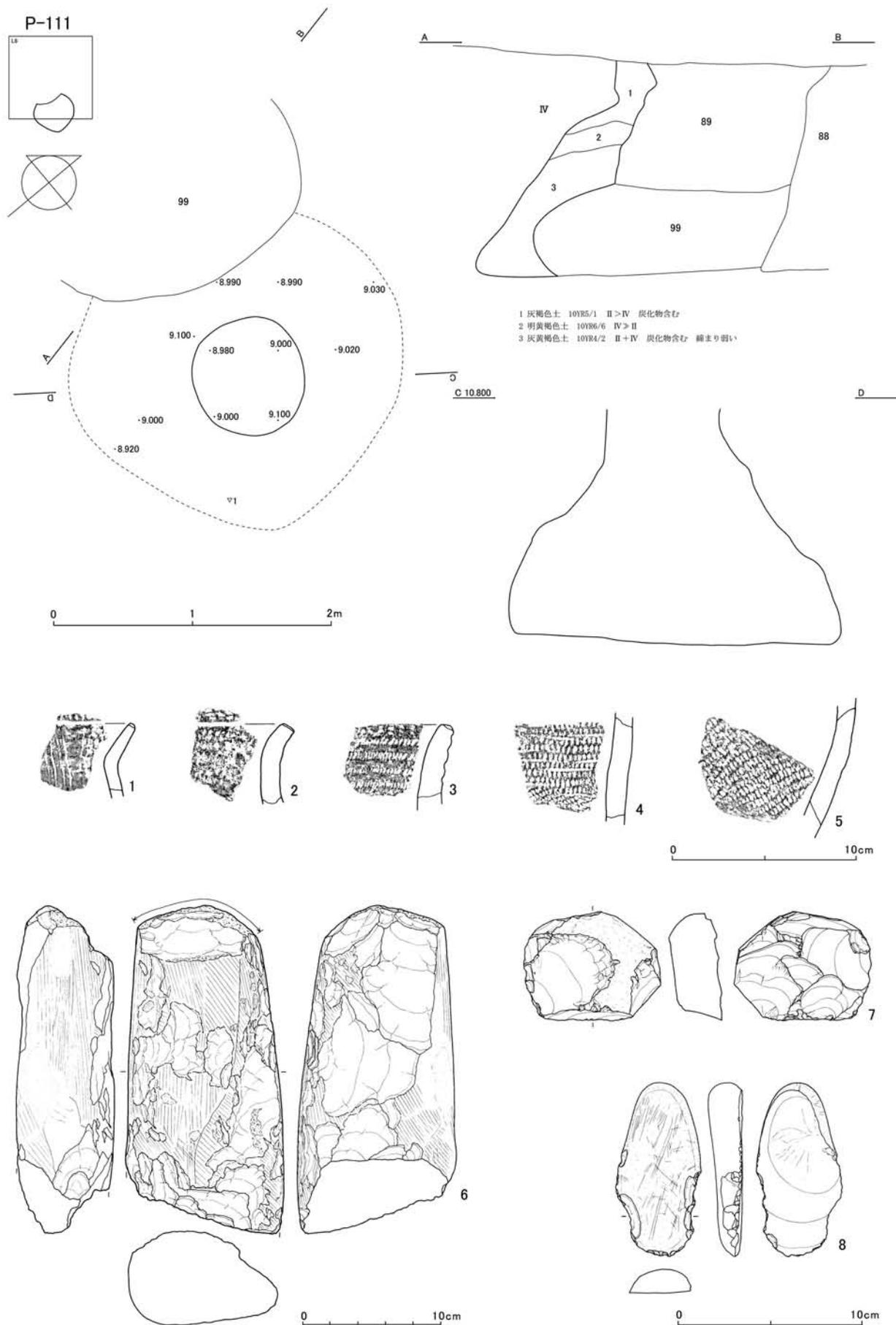
坑底面形：楕円形

規模：— / 1.93 × — / 1.72 × 1.35m

確認・調査：Ⅳ層上面で検出したフラスコ状ピット。北から南へ降りる緩斜面上でⅡ層中より掘り込まれたと推測される。検出面および坑底面の平面形は楕円形である。坑底面はほぼ平坦だが、中央部が少し低い。坑底部は大きくオーバーハングする。覆土は自然堆積である。覆土中に焼土がブロック状に混入する部分があり、上部に住居跡が存在していた可能性がある。竪穴住居跡(H-44)のすぐ南東側に掘り込まれているが、重複はしていない。

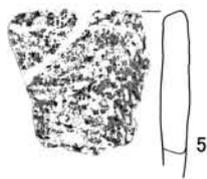
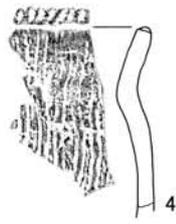
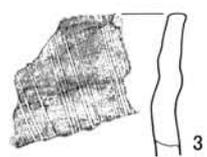
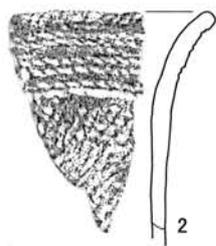
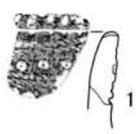
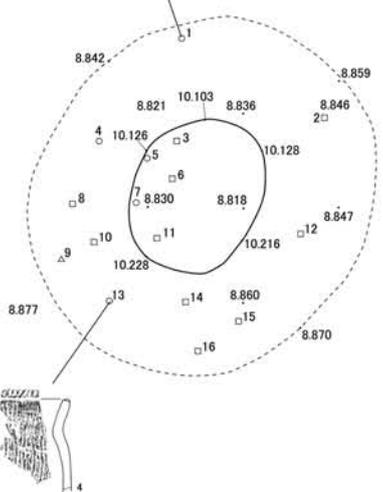
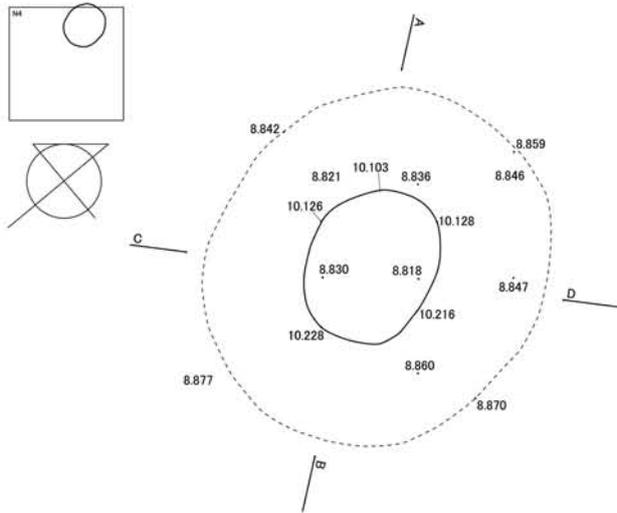
遺物出土状況：坑底面で土器・石器等が散在して出土した。坑底からⅡ群B-5類土器など8点、礫など11点、覆土からⅡ群B-5類土器など52点、たたき石・すり石・台石・礫など101点が出土した。

時期：出土遺物から、縄文時代前期末葉の時期である。(芝田)



図IV-373 P-111

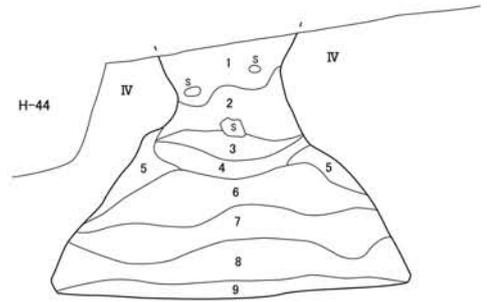
P-112



0 10cm

A 10.500

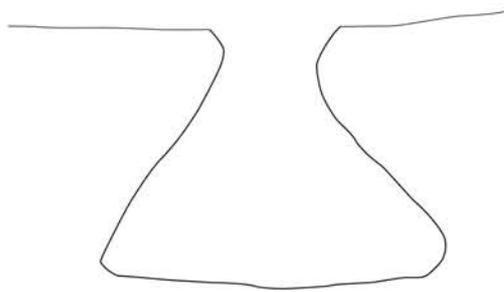
B



- 1 黒褐色土 10YR3/2 腐植土主体 ローム微量混 炭化材(φ~10mm)少量混
粘性中 しまりあり
- 2 暗褐色土 10YR3/3 腐植土主体 ローム少量混 炭化材(φ~10mm)少量混
粘性中 しまりあり
- 3 暗褐色土 10YR3/3~明赤褐色土 5YR5/8 2層と同質だが塊土がブロック状に混在する
粘性中 しまり軟
- 4 にぶい黄褐色土 10YR4/3 腐植土とロームの混合 炭化材(φ~10mm)多量混
粘性やや強 しまり軟
- 5 にぶい黄褐色土 10YR4/3~灰黄褐色土 10YR4/2 4層とほぼ同質だが炭化材が少ない
粘性やや強 しまり軟
- 6 褐色土 10YR4/4~にぶい黄褐色土 10YR4/3
4層とほぼ同質だがロームブロック(φ~40mm) 粘性やや強 しまり軟
- 7 暗褐色土 10YR3/3~黒褐色土 10YR3/2 4層とほぼ同質だがロームよりもロームブロック
多い 粘性やや強 しまり軟
- 8 黒褐色土 10YR3/2 腐植土主体 ローム少量混 ロームブロック(φ~40mm)
粘性やや強 しまり軟
- 9 暗褐色土 10YR3/3~10YR3/4 腐植土とロームが斑状 炭化材(φ~10mm)少量混
粘性強 しまり軟

C 10.500

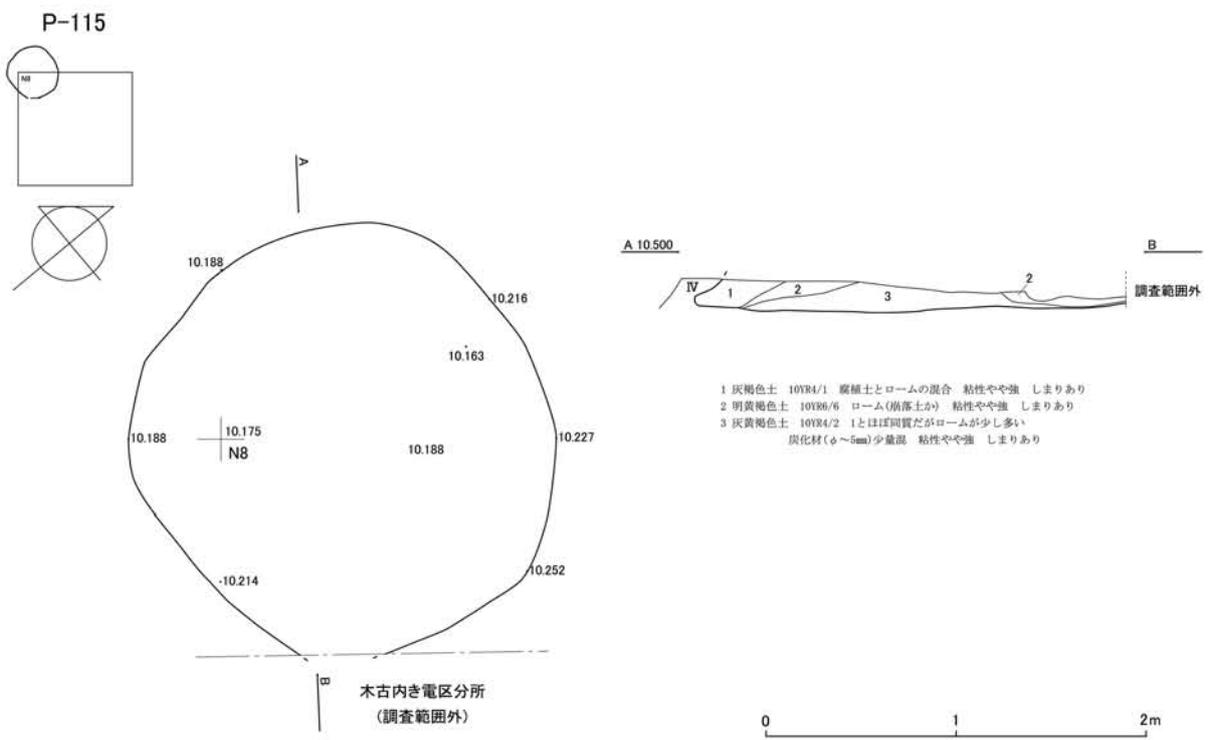
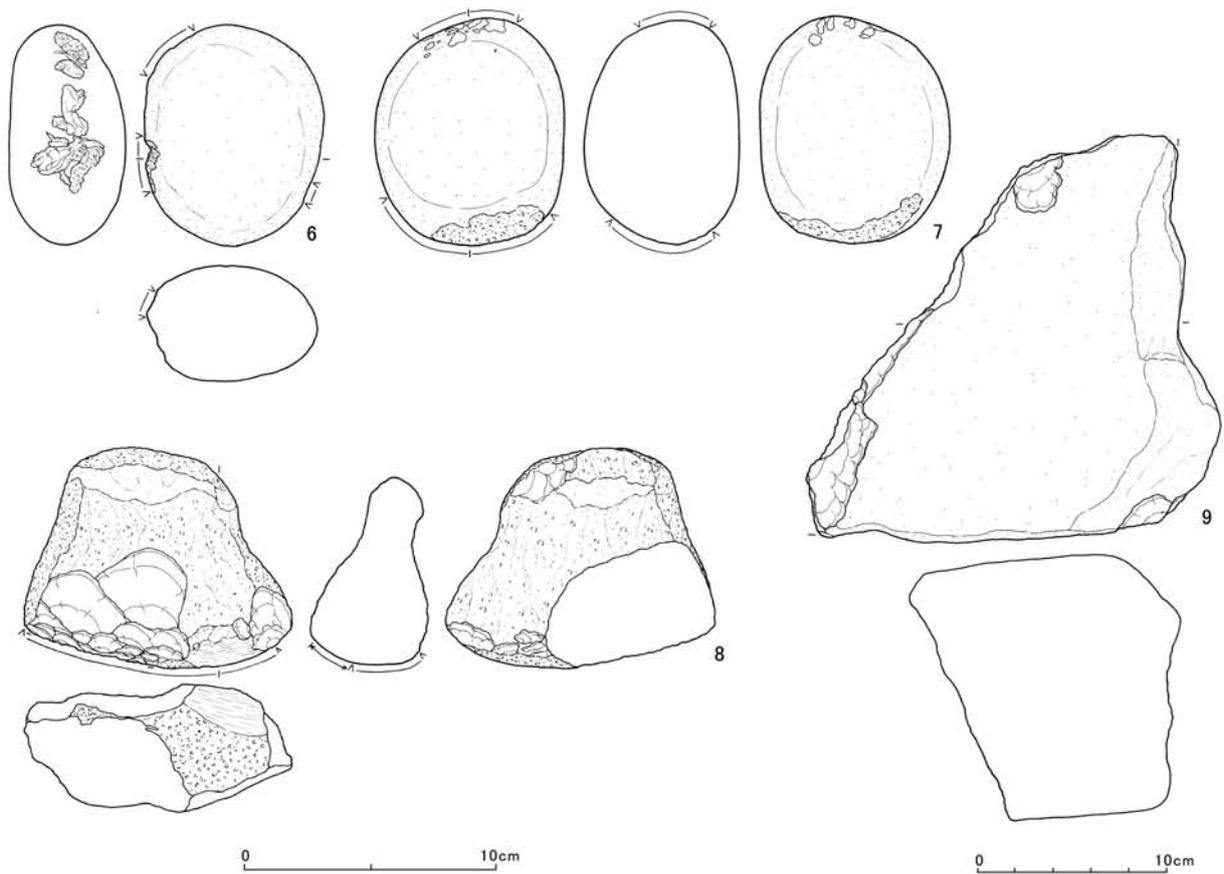
D



0 1 2m

遺物凡例	
○	土器
◇	割片石器
▽	礫石器
△	割片
□	罫
☆	土・石製品
●	土器
◆	割片石器
▼	礫石器
▲	割片
■	罫
★	土・石製品

図Ⅳ-374 P-112



図IV-375 P-112 石器・P-115

掲載遺物：(土器) 4・5は坑底、1～3は覆土出土のⅡ群B類土器。

Ⅱ群B-5類土器(1～5)：1は口頸部文様帯の破片資料。口唇に縄の圧痕が加えられ、無文地の文様帯に2本一組の縄線文と円形刺突文が施されている。2は口唇に縄の圧痕が加えられ、無文地の文様帯に2本一組の縄線文が施されている。体部は斜行縄文である。3は口縁部が段をもち肥厚気味のもの。器面に櫛歯状工具による条痕文が加えられている。4は口縁部にくびれをもつ器形で、口唇に刺突文が加えられ、器面に半截竹管内面による浅い沈線文が縦位に施されている。5は磨滅が著しく文様構成が不明である。口縁部に斜行縄文がわずかに観察できる。

(石器) 6～9は覆土出土。6・7はたたき石。6は扁平な亜円礫の周縁に敲打痕のあるもの。頁岩製。7は亜円礫の端部に広い敲打痕のあるもの。砂岩製。8はすり石で北海道式石冠。全面を敲打によって整形し、握部を作出している。破損しているが、すり面は長軸・短軸ともに外湾し、短軸方向に傾いている。擦り面の破損部分を再加工して扁平打製石器のような幅の非常に狭い機能部を作出し、すり面も敲打によって平坦に再調整されている。安山岩製。9は台石片。とくに使用痕を確認できないが、角礫の平坦面を利用したと考えられる。安山岩製。

P-115 (図IV-375)

位置：M・N 7・8区

坑底面形：円形

規模：— / 2.32×— / 2.24×0.18m

確認・調査：上部はⅣ層下位まで削平されており、坑底部のみが残存していた。北東側で隣接するP-93は規模・形状・覆土が類似することから、同時期のものと考えられるが、P-115よりも坑底面の標高が低い。よって、本来は北から南へ降りる緩斜面上でⅡ層中より掘り込まれたと推測される。南東側の一部は調査範囲外(木古内き電区分所敷地)である。坑底面の平面形は円形。坑底面はほぼ平坦であるが、北東側がやや高い。坑底部はオーバーハングする。覆土は自然堆積で、ローム(崩落土)を主体としており、腐植土は少ない。

遺物出土状況：覆土から剥片1点が出土した。

時期：周辺の遺構の出土遺物などから、縄文時代前期末葉の可能性がある。(芝田)

掲載遺物：掲載遺物なし。

P-117 (図IV-376・377)

位置：L・M 3区

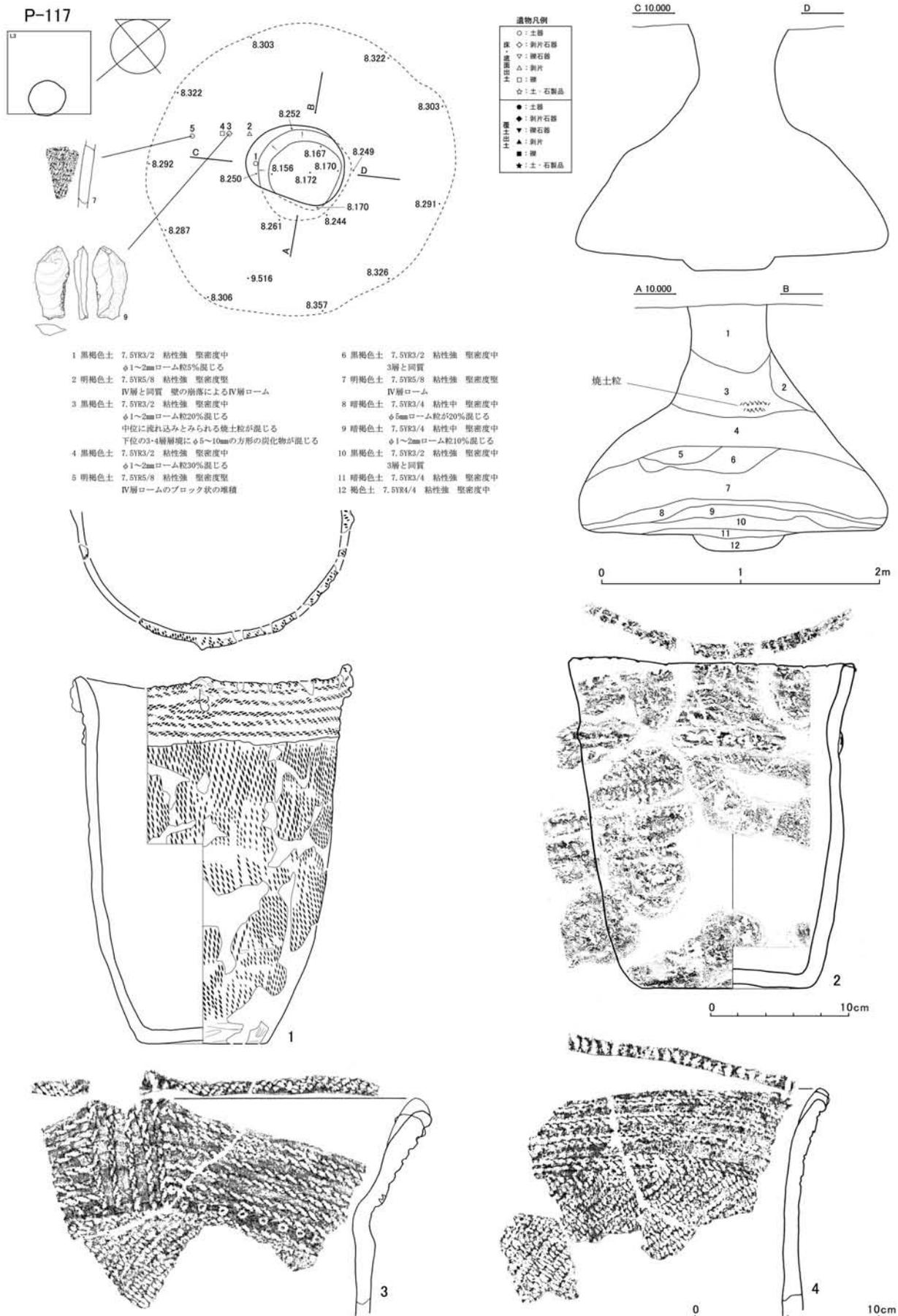
坑底面形：円形

規模：0.70 / 2.12×0.54 / 2.14×1.78m

確認・調査：Ⅳ層上面における標高8.3m前後の平坦面に立地する。P・Q97・98区周辺でⅡ層・Ⅲ層を掘り下げたところ、Ⅳ層上面で黒褐色土の落ち込みを検出した。南北方向に土層観察用のベルトを設定し掘り下げた結果、フラスコ状ピットであることを確認した。遺構はⅡ下層中から掘りこまれている。覆土は12層に分層した。覆土は流れ込みや壁の崩落による自然堆積である。平面形は坑口部が不整形、坑底部がほぼ円形を呈する。坑底はほぼ平坦、壁は内湾し所々で崩落がみられる。坑底のほぼ中央部に径0.6m、深さ0.1m程の浅い掘り込みがみられる。この掘り込みは、フラスコ状ピットに伴うものであろうが、遺物等の出土がみられなかったことから性格の特定には至らなかった。

遺物出土状況：坑底からⅡ群B-5土器など3点、スクレイパーなど3点、覆土からⅡ群B-5類土器など372点、スクレイパー・たたき石・すり石など137点が出土した。

時期：出土遺物から縄文時代前期末葉と考えられる。(立川)



図IV-376 P-117

掲載遺物：(土器) 7は坑底、1～6は覆土出土のⅡ群B類土器。

Ⅱ群B-5類土器(1～7)：1～7は口縁部が張り出すもしくは肥厚するもの。1は口頸部文様帯が肥厚気味のもの。口頸部文様帯中位まで垂下する縦位の貼り付けを施して4か所の小さな突起を作出し、緩やかな波状口縁を作出している。口唇に縄の圧痕が施されている。無文地の口頸部文様帯は2段からなり、それぞれに複節の縄線文が施されている。体部は複節の単軸絡条体の回転文である。6は同一個体の体部破片。2は整形・器面調整が粗雑である。平縁で、口唇には縄の圧痕が施されている。口頸部文様帯下端は半截竹管状工具内面による刺突文が加えられた貼付帯で区画され、無文地の文様帯に鋸歯状の縄線文が加えられている。体部は複節の単軸絡条体の回転文である。3～5は口頸部破片。3は口頸部が肥厚するもの。2個一組の小突起からなる波頂部をもつ。口唇には縄文が加えられ、口頸部文様帯下位は円形刺突文で区画され、くびれをもつ。無文地の文様帯及び肥厚帯直下は横位に、波頂部下位は縦位の縄線文が施されている。体部は斜行縄文である。4は口唇に縄の圧痕が加えられ、無文地の口頸部文様帯に2本一組の横位の縄線文が、体部には斜行縄文が施されている。5は口頸部が肥厚気味のもの。口唇に刺突文が加えられている。口頸部文様帯下位は半截竹管状工具内面の押引文が加えられた貼付帯で区画され、無文地の文様帯に絡条体の圧痕文、体部には斜行縄文が施される。7は体部破片。多軸絡条体の回転文が施される。

(石器) 9は坑底、8・10～17は覆土出土。8～10はスクレイパー。8・9は縦型剥片の側縁に刃部を作出したもの。頁岩製。10は横型剥片の長軸両端部に抉りのあるもの。頁岩製。11～13はたたき石。11は円礫の端部に敲打痕のあるもの。砂岩製。12は棒状の垂角礫の角に敲打痕のあるもの。平坦面に細い線刻がみられる。泥岩製。13は垂円礫の側縁と平坦面に敲打痕のあるもの。安山岩製。14・15は凹み石。安山岩製。14は断面円錐状の凹みのあるもの。15は浅い凹みのあるもの。16はすり石で扁平打製石器。扁平礫の側縁を打ち欠いて直線状に整形し、幅の非常に狭い機能部を作出したもの。砂岩製。17は礫器。垂角礫の端部を打ち欠いてV字状の刃部を作出したもの。頁岩製。

P-122 (図IV-378)

位置：K 3区

坑底面形：円形

規模：0.63 / 0.97 × (0.47) / (0.30) × 0.51m

確認・調査：Ⅲ層中の調査で、暗褐色土とにぶい褐色土の小さな円形の落ち込みを確認した。周辺で検出されていたフラスコ状ピットがいずれも深く、本遺構も深いことが予想されたため南側をスコップで掘り下げた。掘りすぎのため南側の坑底部を欠失してしまった。土坑上部がくびれるフラスコ状ピットで、坑底部はⅣ層中に平坦に構築されている。壁は鋭角的に立ち上がる。

遺物出土状況：覆土6・7層から遺物が出土している。赤色顔料が覆土6層から検出された。覆土からⅡ群B-5類土器など15点、たたき石・礫など16点が出土している。

時期：出土遺物から、縄文時代前期末葉と考えられる。

掲載遺物：(土器) 1～3は覆土出土のⅡ群B類土器。

Ⅱ群B-5類土器(1～3)：1は口縁部が肥厚するもので、波状口縁の波頂部である。肥厚帯の下端は半截竹管状工具内面の刺突文で区画されている。無文地の文様帯に2本一組の縄線文が波頂部に沿って山形に加えられている。体部は多軸絡条体の回転文である。2・3は体部破片。2は斜行縄文、3は複節の縄文が施されている。

(石器) 4は覆土出土のたたき石。扁平な楕円礫の端部と平坦面に敲打痕がある。安山岩製。



图IV-377 P-117 遺物

P-150 (図IV-378)

位置：N・O 6・7区

坑底面形：不整形円形

規模：— / 2.45×— / 2.33×0.40m

確認・調査：上部はIV層下位まで削平され、坑底部のみが残存する。掘り込み面はII層中で、本来は北から南へ降りる緩斜面上に掘り込まれたと推測される。坑底面の一部はV層(砂利)まで達している。坑底面の平面形はやや不整形な円形で、隅丸方形に近い。坑底部がオーバーハングしており、フラスコ状ピットと考えられる。坑底面はほぼ平坦で、中央部に不整形円形の小ピット(SP-1)がある。昇降のための施設の痕跡の可能性はある。覆土は自然堆積で、ロームと腐植土の互層である。上部に建物が存在していたため、非常に硬くしまっていた。隣接するP-81・94・95と形状が類似する。

遺物出土状況：坑底からII群B-5類土器22点、III群A類土器5点、石鏃・つまみ付きナイフなど7点、覆土からII群B類土器など16点、III群A類土器4点、石鏃・礫など34点が出土した。

時期：出土遺物から、縄文時代前期末葉と考えられる。(芝田)

掲載遺物：(土器) 1～5は坑底出土のII群B類土器。

II群B-5類土器(1～5)：1～3は口縁破片。同一個体の可能性がある。口唇に縄の圧痕文が加えられ、無文地の口頸部に横位の縄線文が施される。4・5は同一個体の体部破片。斜行縄文を施した後、縦位の綾絡文が3条加えられている。

(石器) 7・9は坑底、6・8は覆土出土。6～8は石鏃。頁岩製。6・7は有茎平基。8は有茎凸基。9はつまみ付きナイフ。縦型剥片の周縁を片面調整している。頁岩製。

P-157 (図IV-379)

位置：K 4区

坑底面形：円形

規模：0.79 / 1.90×(0.60) / (1.90) ×0.94m

確認・調査：IV層上面の精査中に暗褐色土の落ち込みを確認した。北側はスコップを用いて掘り下げた。そのため北側の坑底を掘りすぎてしまった。坑底はIV層中に平坦に構築され、円形になるものと思われる。壁はオーバーハングして立ち上がり、上部で大きくくびれをもつ。

遺物出土状況：坑底・坑底直上からII群B-5類土器2点、剥片・礫3点、覆土からII群B-5類土器など48点、スクレイパー・剥片・礫66点が出土している。

時期：出土遺物から、縄文時代前期末葉と考えられる。

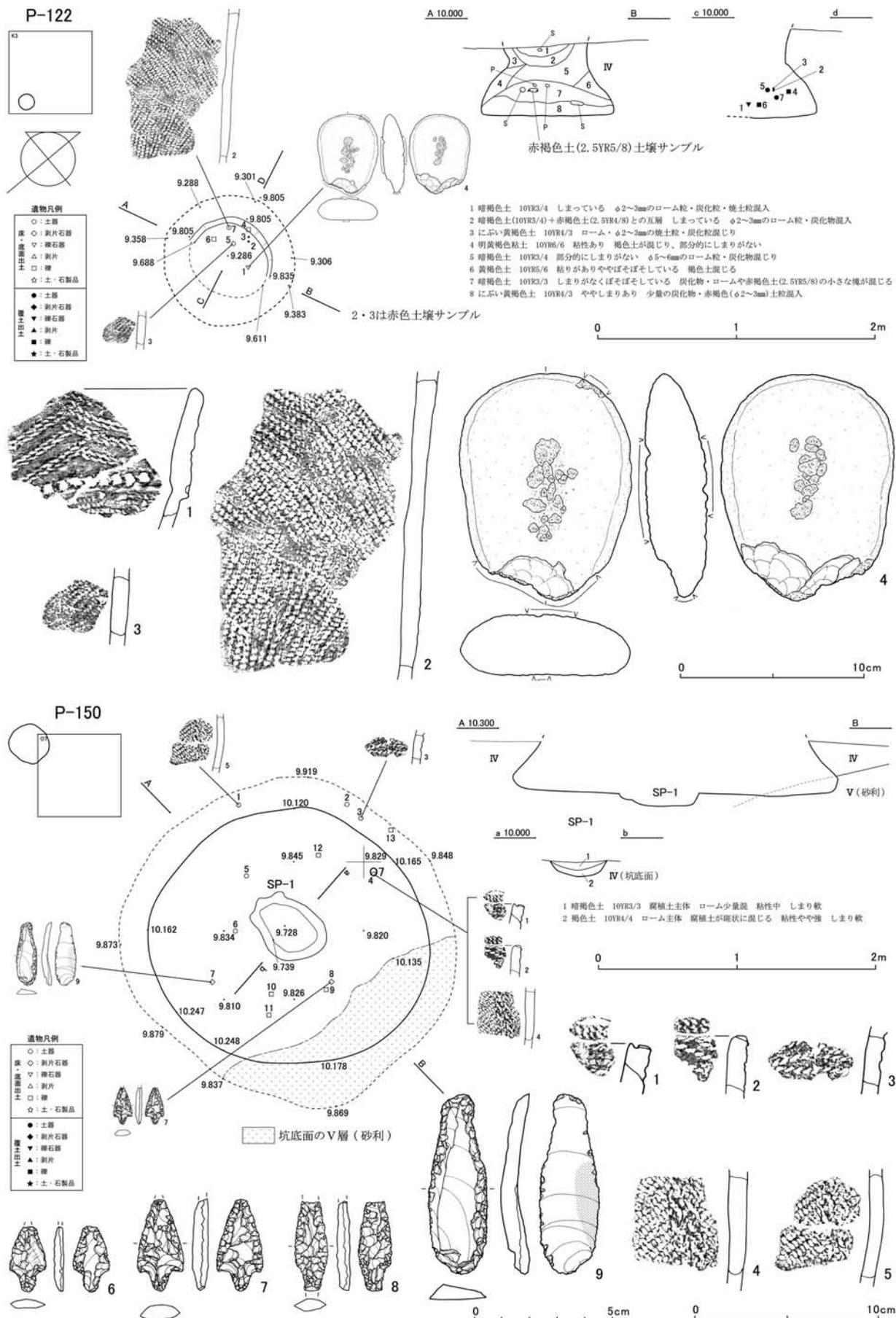
掲載遺物：(土器) 3は坑底、1・2は覆土出土のII群B類土器。

II群B-5類土器(1～3)：1は底部破片。多軸絡条体の回転文が施されている。2は口頸部破片。口唇に縄の圧痕文、無文地の口頸部に組紐状の縄線文が加えられ、体部に斜行縄文が施されている。3は縄線文が加えられた肩部分。無文地の口頸部に横位の縄線文が加えられている。体部は多軸絡条体の回転文である。

(石器) 4～6は覆土出土のスクレイパー。頁岩製。4は縦長剥片の側縁と下端部に刃部を作出したもの。5・6は縦長剥片の側縁に刃部を作出したもの。使用痕とみられる光沢がみられる。

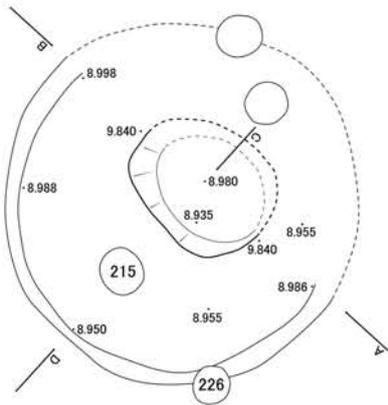
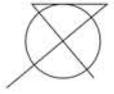
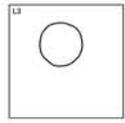
P-158・182 (図IV-380)

H-44北側のIII層上面に径60cmほどの褐色土～暗赤褐色土の落ち込みを確認した。フラスコ状ピットを想定し、西側を坑底直上までIV層を掘り下げた。断面観察の結果、坑底面が2段認められることや、セクションが大きく2つに分けられることから2基のフラスコ状ピットの重複と判断し、上部を



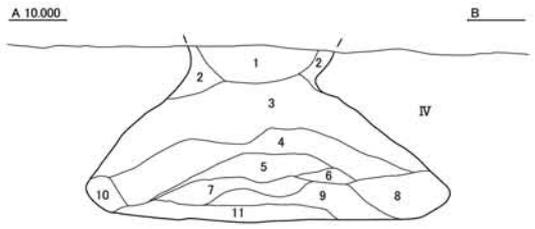
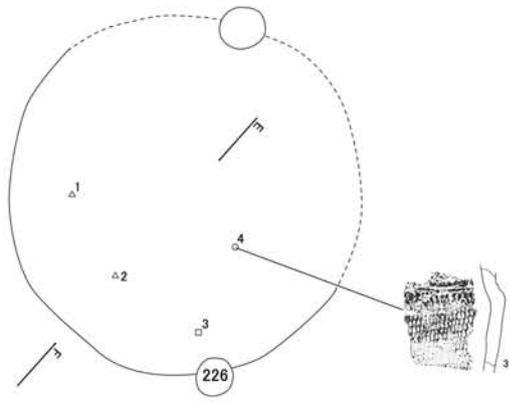
図IV-378 P-122・150

P-157

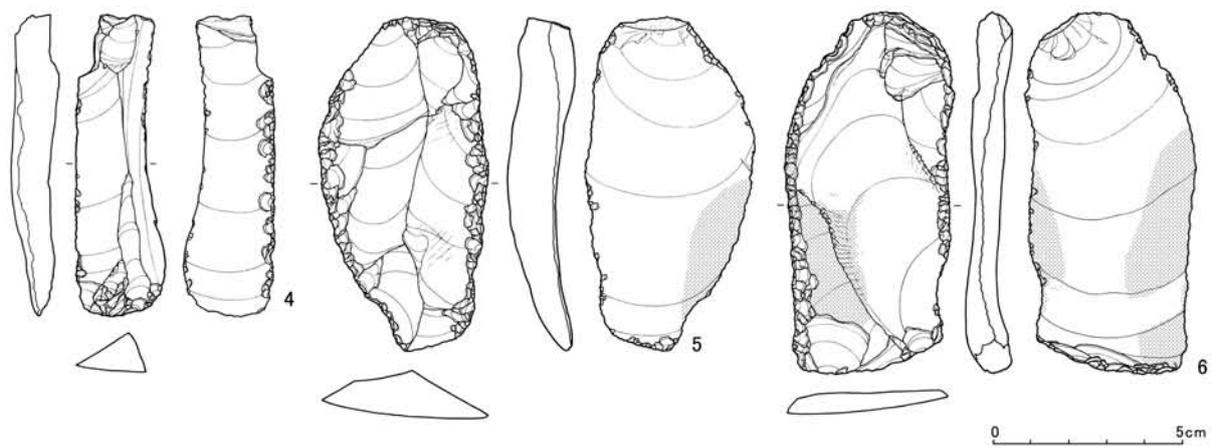
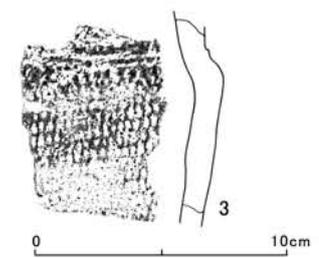
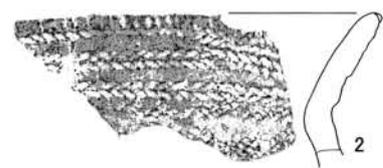
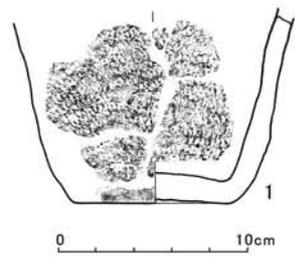
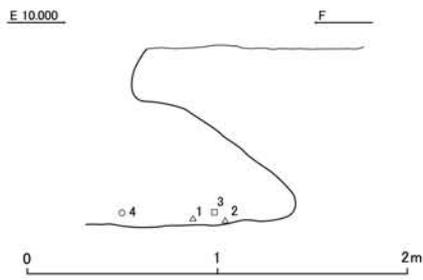


遺物凡例

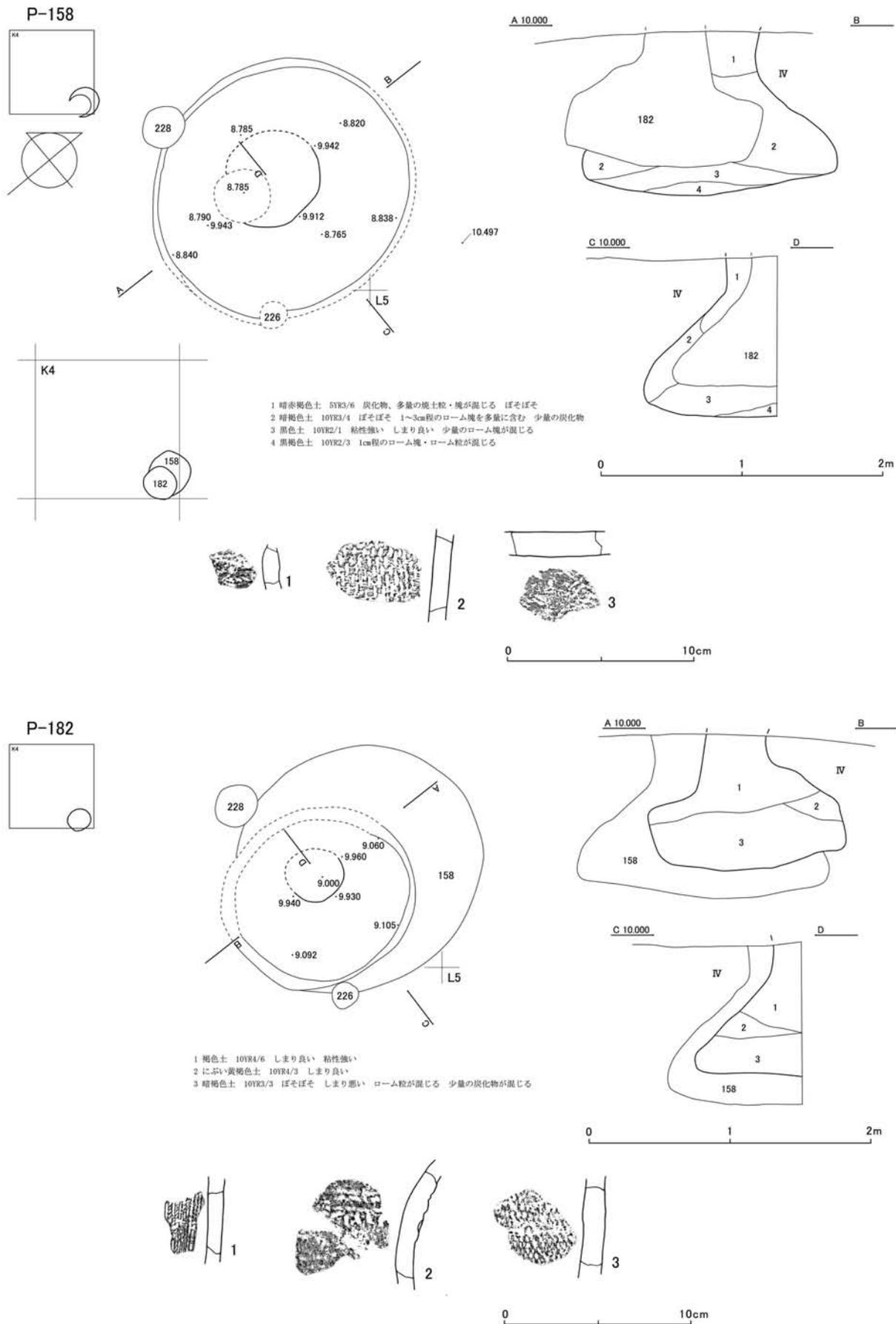
○	土器
◇	割片石器
●	燧石器
△	割片
□	鏃
☆	土・石製品
●	土器
◇	割片石器
●	燧石器
△	割片
□	鏃
☆	土・石製品



- 1 暗褐色土 10YR3/4 しまりあり ローム・少量の炭化物混入
- 2 褐色土 10YR4/6 しまり、粘りあり
- 3 暗褐色土 10YR3/4 しまりなし 礫・炭化物混入
- 4 黄褐色土 10YR5/4 しまりなし 粘りあり 炭化物混入
- 5 暗褐色土 10YR4/6+黄褐色土 10YR3/4 互層である、しまりなし ポソポソしている
- 6 黄褐色土 10YR5/6 ややしまりあり 粘りあり
- 7 褐色土 10YR4/6 しまりなし ポソポソしている
- 8 黄褐色土 10YR5/6 しまりなし ポソポソしている
- 9 褐色土 10YR4/4 しまりなし ポソポソしている
- 10 褐色土 10YR4/4 しまりなし ポソポソしている
- 11 暗褐色土 10YR4/6+褐色土 10YR3/4 しまりなし ポソポソしている



図IV-379 P-157



図IV-380 P-158・182

P-182、下部をP-158と呼称した。

P-158

位置：K 4 区

坑底面形：円形

規模：— / 1.90 × — / 1.77 × 1.13m

確認・調査：P-182によって南側が壊されている。坑底はIV層中に構築され、中央部が落ちこんでいる。壁は南側が壊されて不明であるが、北側はオーバーハングして開きながら立ち上がり、くびれをもつ。

遺物出土状況：坑底直上からII群B-5類土器2点、剥片・礫3点、覆土からII群B-5類土器など6点、礫・礫片8点が出土した。

時期：坑底直上の出土遺物から縄文時代前期末葉と考えられる。

掲載遺物：(土器) 1・3は坑底直上、2は覆土出土のII群B類土器である。

II群B-5類土器(1～3)：1は口頸部破片。無文地に縄線文が施されている。2は体部破片。多軸絡条体の回転文が施されている。3は底面破片。

P-182

位置：K 4 区

坑底面形：円形

規模：— / 1.39 × — / 1.25 × 0.97m

確認・調査：P-182は、P-158の南側を壊してIV層中に構築されている。坑底は平坦で、P-158の坑底に堆積する暗褐色土上に構築されている。壁は上半部で括れ、オーバーハングして開きながら立ち上がる。

遺物出土状況：覆土からII群B類土器など23点、剥片・礫5点が出土している。

時期：覆土出土の遺物、P-158の切り合い関係から縄文前期末葉と考えられる。

掲載遺物：(土器) 1～3は覆土出土のII群B類土器。

II群B-3類土器(1)：1は体部に単軸絡条体の回転文が施されている。

II群B-5類土器(2・3)：2は口頸部破片。2本一組の縄線文と半截竹管状工具による刺突列が加えられている。3は多軸絡条体の回転文が施されている。

(4) Tピットの調査

1. 概要

Tピットは海側の調査区境界P97・98、Q97区で近接して2基検出された。1基は一部調査区外に伸び全容は不明である。いずれも溝状で、長軸は東西で一致する。長さは3mほどになると考えられる。2基のみで配列は確認できなかった。

2. Tピット

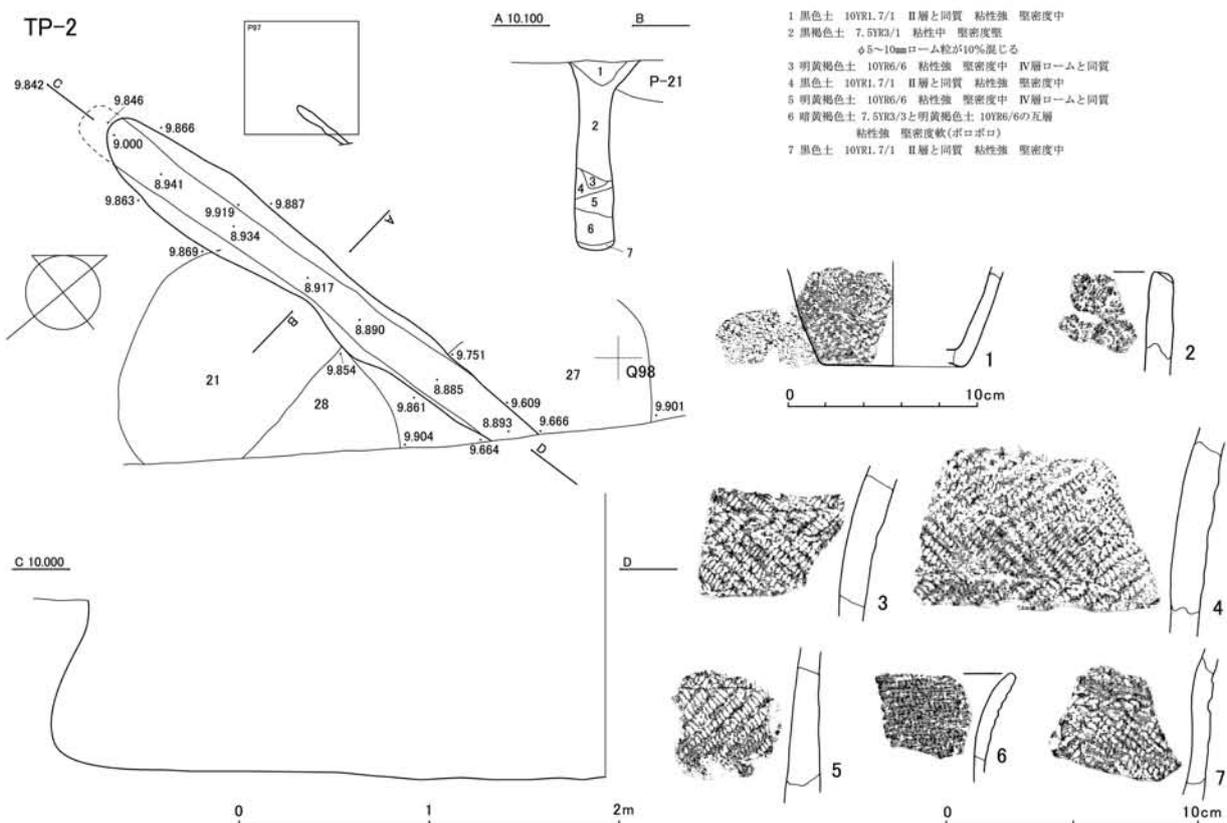
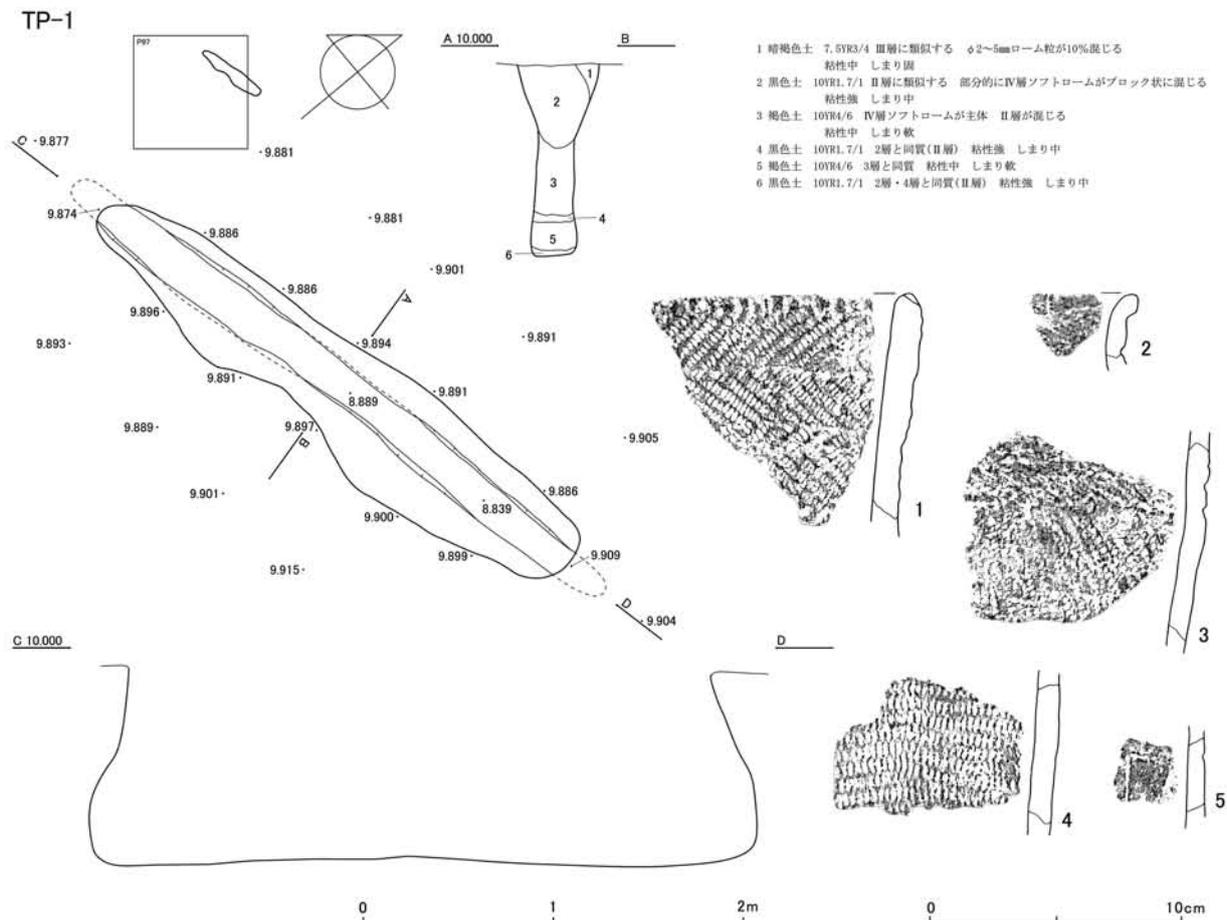
TP-1 (図IV-381)

位置：P97・98区

平面形：溝状

規模：3.07 / 3.27 × 0.63 / 0.17 × 1.01m

確認・調査：IV層上面における標高9.90m程の平坦部に立地する。III層上面で溝状の暗褐色土の落ち込みを確認した。短軸方向に土層観察用のベルトを残し掘り下げたところ、平坦な坑底面と内湾しな



図IV-381 TP-1・2

がら立ち上がる壁を検出した。壁はほぼ全周で壁中位から上面が崩落している。覆土は、自然堆積である。南東側にTP-2が近接する。

遺物出土状況：覆土からⅡ群B類土器など117点、焼成粘土塊1点、すり石・礫など77点が出土した。

時期：周辺の出土遺物、検出層位、縄文時代前期～中期と思われる。(立川)

掲載遺物：(土器) 1～4は覆土出土である。1はⅡ群A類土器、2～4はⅡ群B類土器、5はⅣ群A類土器である。

Ⅱ群A類土器(1)：1は口縁部破片。口唇に刻みが加えられ、体部に多条の結束羽状縄文が菱目状に施されている。

Ⅱ群B-3類土器(2・3)：2・3は同一個体の可能性がある。器面に斜行縄文が施した後、口頸部に縄線文が加えられている。

Ⅱ群B-5類土器(4)：4は体部破片。多軸絡条体の回転文が施されている。

Ⅳ群A類土器(5)：5はナデ調整が加えられた無文地に細い沈線文が加えられている。

TP-2 (図IV-381)

位置：P・Q97区

平面形：溝状

規模：(2.70) / (2.83) × 0.33 / 0.22 × 1.00m

確認・調査：Ⅳ層上面における標高9.80m程の平坦部に立地する。Ⅲ層上面で溝状の黒色土の落ち込みを確認した。また、この落ち込みと重なるようにして、暗褐色土の広がりを確認した。この広がり東西方向に土層観察用のベルトを残し掘り下げたところ、平坦な坑底面と内湾しながら立ち上がる壁を検出した。壁はほぼ全周で壁中位から上面が崩落している。覆土は、自然堆積である。暗褐色土の広がり、7基(P-6・21・22・26・27・28・29)の土坑の切り合いであることが判明した。この7基のうち3基(P-21・27・28)がTP-2と切りあっている。北西側にTP-1が近接する。形態は、Tピット東側が調査区外に存在するが、残存する形状から溝状を呈すると考えられる。

遺物出土状況：覆土からⅡ群A類土器7点、Ⅱ群B-3類土器25点、たたき石・剥片など14点である。

時期：周辺の出土遺物、検出層位、縄文時代前期～中期と思われる。(立川)

掲載遺物：(土器) 1～5は覆土出土。2～5はⅡ群A類土器、1・6・7はⅡ群B類土器である。

Ⅱ群A類土器(2～5)：2は口縁部破片。口唇部刻みが加えられている。3～5は体部破片。多条の結束羽状縄文を菱目状に施文している。

Ⅱ群B-3類土器(1・6・7)：1は底部破片。体部に複節斜行縄文が施されている。6は口縁部破片。直前段反撚の原体による横走気味の縄文が施されている。7は体部破片。縄線文によって口頸部文様帯下端が区画された文様帯をもち、口頸部文様帯には貝殻条痕文を地文とした縄線文が施されている。体部は斜行縄文である。

(5) 柱穴状ピットの調査

1. 概要

柱穴状ピットは37基検出された。分布は2～7ライン間に認められた。特にH-44・47・48の周辺のⅢ～Ⅴ層中から確認されている。現地調査で柱穴状ピットがH-44周辺から数多く検出されていた。これらの柱穴状ピットを精査した結果、その配列に規則性が認められ、一部がH-55として扱われ、報告者は掘り込みが削平によって消失したと記載している。

平成21年度の大平遺跡の調査で孫七川に沿って円筒土器下層c・d式期の集落が検出されている。そ

の円筒土器下層c・d式期の集落の続きが今回の調査区東側の町道・木古内き電区分所周辺にあたる。今回の調査でも比較的新しい時期（Ⅱ群B-5類土器）の住居跡やフラスコ状ピットが集中して検出され、H-54・55の様に削平されて床面のみが辛うじて検出されたものも認められている。したがって、調査区東側の木古内き電区分所周辺も集落があったことが想定される。そして、比較的削平が浅いH-44東側周辺の柱穴状ピットが残存したものと考えることができる。（熊谷）

2. 柱穴状ピット

P-54 (図IV-382)

位置：K・L 3区

平面形：不整円形

規模：0.45 / 0.32×0.38 / 0.26×0.73m

確認・調査：H-47・48のトレンチ調査中にⅣ層中で確認する。H-47・48の南側に位置する。柱穴状の土坑で、坑底は、Ⅳ層中に構築されている。周辺のⅢ層上面から柱穴状ピット（P-155・156など）・焼土（F-70～72）・炭化物集中（CB-1～5）が検出され、CB-1は上部から検出された。

遺物出土状況：坑底からⅡ群B-5類土器1点、覆土からⅡ群B-5類土器など4点、スクレイパーなど3点が出土した。

時期：坑底からⅡ群B-5類土器が出土したことから縄文時代前期末葉と考えられる。

掲載遺物：（土器）1・2は覆土出土のⅡ群B類土器である。坑底出土の資料は小破片のため掲載できなかった。

Ⅱ群B-5類土器（1・2）：1・2は同一個体である。1は口頸部破片。口頸部文様帯上端は縄の圧痕文で区画され、無文地の口頸部に2本一組の縄線文が施されている。2は体部破片。多軸絡条体の回転文と綾絡文が施されている。（熊谷）

P-109 (図IV-382)

位置：K 4区

坑底面形：不整円形

規模：0.22 / 0.17×(0.10) / (0.07)×0.67m

確認・調査：Ⅲ層の調査中に暗黄褐色土の落ち込みを確認し、P-107と呼称し、フラスコ状ピットを想定して東側を掘り下げた。P-107のC-Dセクション面に柱穴状ピットを確認してP-109と呼称した。坑底はP-107の覆土中に平坦に構築されている。坑底には暗黄褐色土が堆積する。壁はほぼ垂直に立ち上がる。

遺物出土状況：出土していない。

時期：周辺の出土遺物や検出層位から、縄文時代前期後半と思われる。

掲載遺物：掲載遺物なし。

P-123・124・125 (図IV-382)

P-123

位置：P 2区

規模：0.26 / 0.14×0.24 / 0.15×0.64m

平面形：不整形

P-125

位置：P 2区

規模：0.12 / 0.10×0.12 / 0.10×0.58m

平面形：楕円形

P-124

位置：P 3 区

規模：0.21 / 0.12×0.18 / 0.09×0.20m

平面形：楕円形

確認・調査：P-124はIV層中で確認した。P-123・125は暗褐色土の落ち込みとして、P-123はIII層、P-125はV層で確認した。上部に存在していた住居跡の柱穴であった可能性がある。

遺物出土状況：出土していない。

時期：周辺の遺構の出土遺物などから、縄文時代前期後半の可能性がある。

掲載遺物：掲載遺物なし。

P-143 (図IV-382)

位置：L 6 区

平面形：円形

規模：0.28 / 0.14×0.24 / 0.18×0.39m

確認・調査：上部はIV層中位まで削平されている。掘り込み面は不明である。掘り込みの傾斜はほぼ垂直である。坑底面は丸みを帯びる。覆土は腐植土を主体とする。上部に存在していた住居跡の柱穴であった可能性がある。

遺物出土状況：出土していない。

時期：周辺遺構の出土遺物などから縄文時代前期後半～中期前半の可能性がある。 (芝田)

掲載遺物：掲載遺物なし

P-144 (図IV-382)

位置：L 6 区

平面形：楕円形

規模：0.20 / 0.08×0.17 / 0.09×0.17m

確認・調査：上部はIV層中位まで削平されている。掘り込み面は不明である。掘り込みの傾斜はほぼ垂直である。坑底面は丸みを帯びる。覆土は腐植土を主体とする。フラスコ状ピットP-88と重複するが、新旧は不明である。P-145と隣接しており、これらは同時期のものと考えられる。上部に存在していた住居跡の柱穴であった可能性がある。

遺物出土状況：出土していない。

時期：周辺遺構の出土遺物などから縄文時代前期後半～中期前半の可能性がある。 (芝田)

掲載遺物：掲載遺物なし。

P-145 (図IV-382)

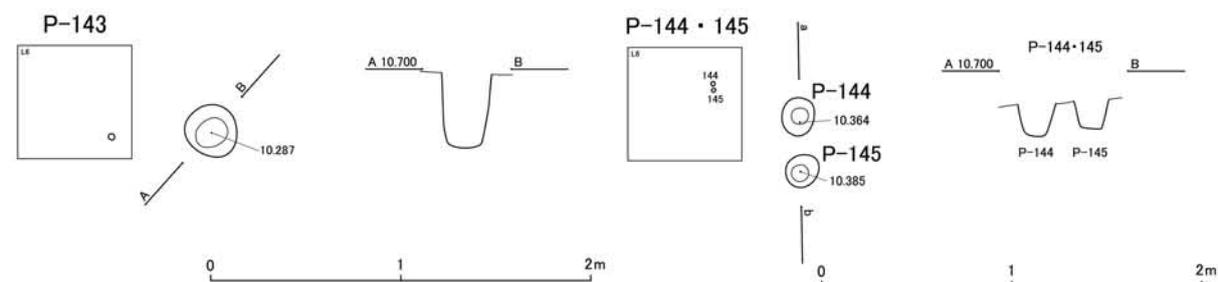
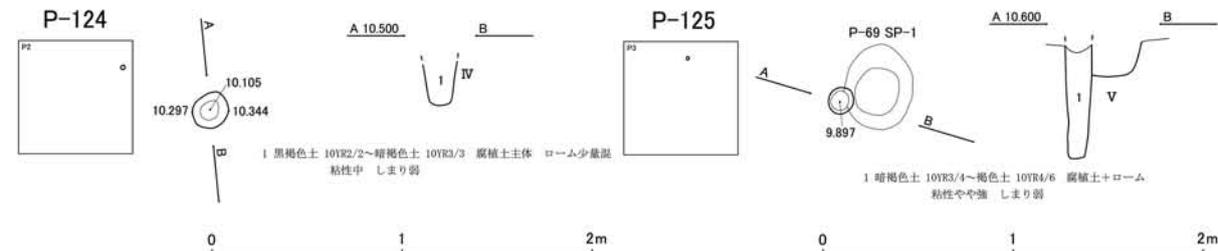
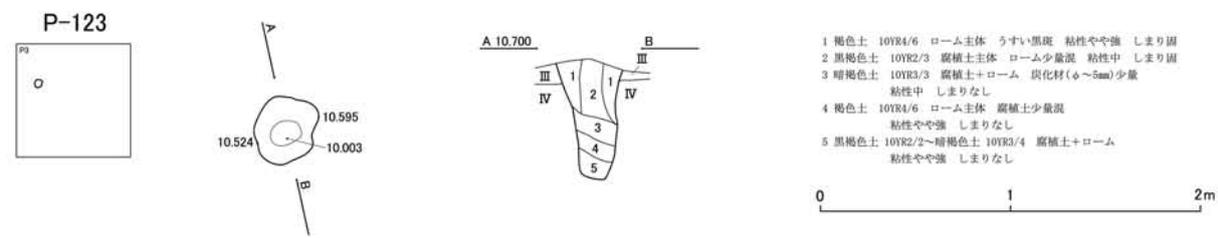
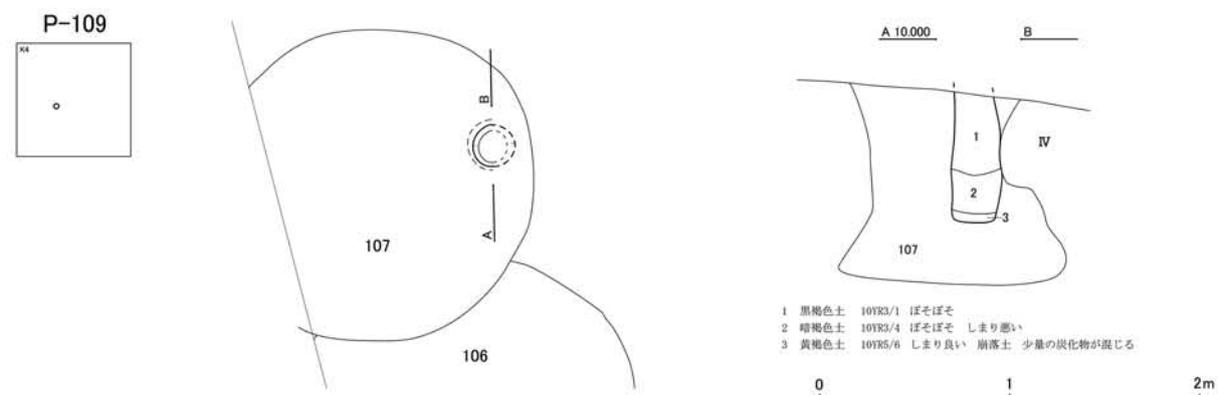
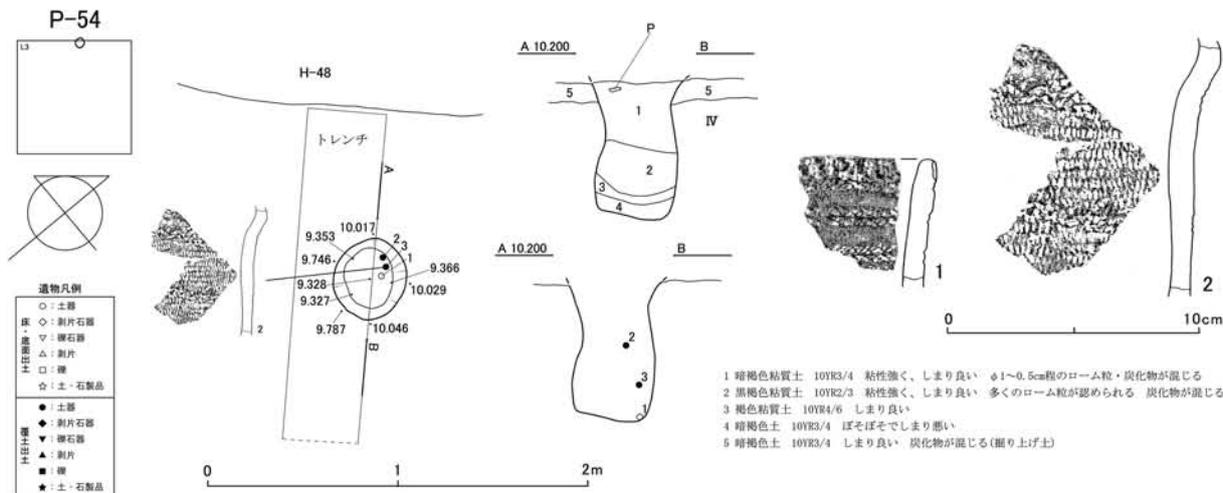
位置：L 6 区

平面形：円形

規模：0.18 / 0.09×0.16 / 0.09×0.15m

確認・調査：上部はIV層中位まで削平されている。掘り込み面は不明である。掘り込みの傾斜はほぼ垂直である。坑底面はほぼ平坦。覆土は腐植土を主体とする。フラスコ状ピットP-88と重複するが、新旧は不明である。P-144と隣接しており、これらは同時期のものと考えられる。上部に存在していた住居跡の柱穴であった可能性がある。

遺物出土状況：出土していない。



図IV-382 P-54・109・123・124・125・143・144・145

時期：周辺遺構の出土遺物などから縄文時代前期後半～中期前半の可能性がある。 (芝田)

掲載遺物：掲載遺物なし

P-152 ～ 154・183・184 (図IV-383)

P-152

位置：M 3区

平面形：楕円形

規模：0.42 / 0.24×0.33 / 0.21×0.23m

確認・調査：IV層上面における標高9.9m前後の平坦面に立地する。M 3区周辺でII層・III層を掘り下げたところ、IV層上面で黒褐色土の落ち込みを確認した。柱穴状ピットである。南北方向で半截し土層観察を行いながら掘り下げた。その結果、ほぼ平坦な坑底面と壁を確認した。遺構はII下層中から掘りこまれていると考えられる。覆土はほぼ単一の層(覆土1層)でII層主体の自然堆積である。南東側にP-153が、東側にP-154、北西側にP-183～185・201が近接する。坑底はほぼ平坦、壁はほぼ垂直に立ち上がる。

遺物出土状況：遺物は出土していない。

時期：検出された層位や周辺遺構、出土遺物から縄文時代前期後半～中期前半と考えられる。(立川)

掲載遺物：掲載遺物なし。

P-153

位置：M 3区

平面形：楕円形

規模：0.22 / 0.20×0.19 / 0.13×0.14m

確認・調査：IV層上面における標高9.9m前後の平坦面に立地する。M 3区周辺でII層・III層を掘り下げたところ、IV層上面で黒色土の落ち込みを確認した。柱穴状ピットである。南北方向で半截し土層観察を行いながら掘り下げた。その結果、ほぼ平坦な坑底面と壁を確認した。遺構はII下層中から掘りこまれていると考えられる。覆土はほぼ単一の層(覆土1層)でローム粒が混じるII層主体で自然堆積である。坑底はほぼ平坦、壁はほぼ垂直に立ち上がる。北西側にP-152・183～185・201、北東側にP-154が位置する。

遺物出土状況：覆土からII群B類土器2点が出土した。

時期：検出された層位や周辺の遺構・出土遺物から縄文時代前期後半と考えられる。(立川)

掲載遺物：掲載遺物なし

P-154

位置：M 3区

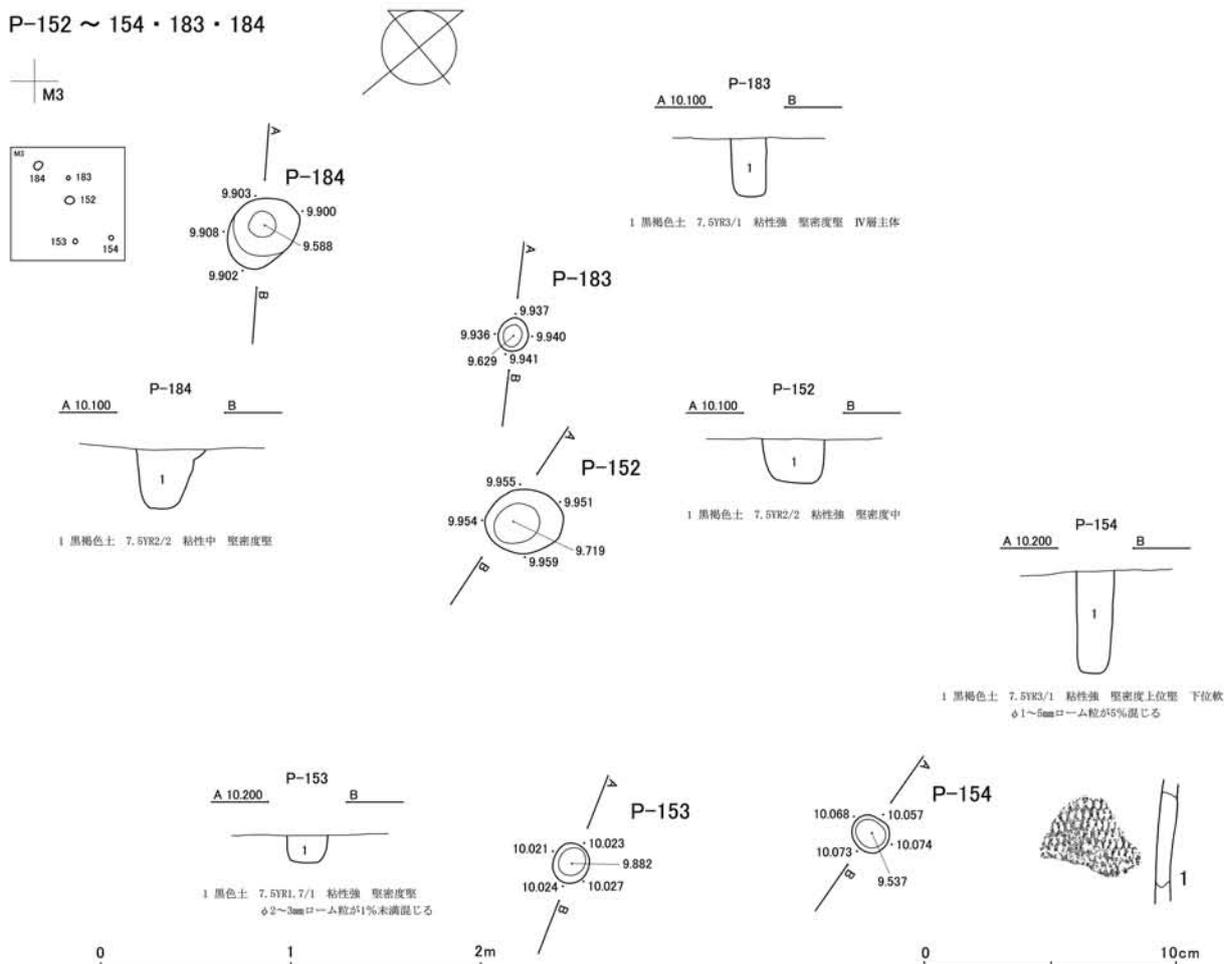
平面形：楕円形

規模：0.20 / 0.16×0.19 / 0.14×0.54m

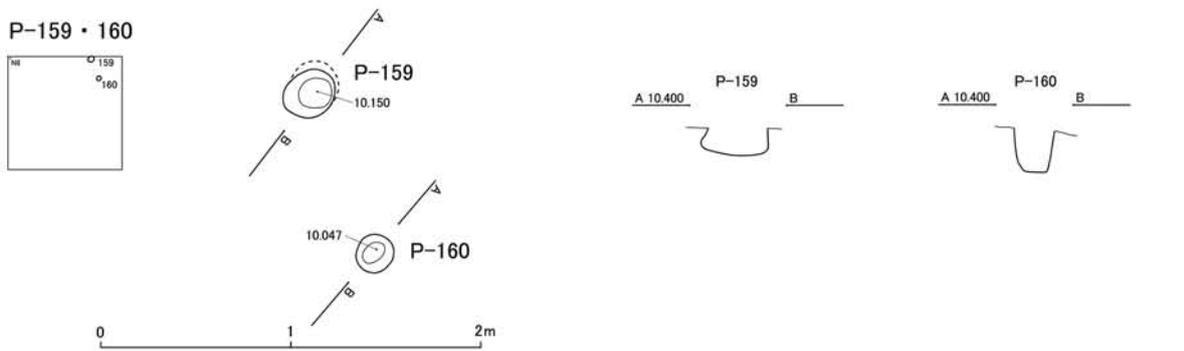
確認・調査：IV層上面における標高9.9m前後の平坦面に立地する。M 3区周辺でII層・III層を掘り下げたところ、IV層上面で黒褐色土の落ち込みを確認した。柱穴状ピットである。南北方向で半截し土層観察を行いながら掘り下げた。その結果、ほぼ平坦な坑底面と壁を確認した。遺構はII下層中から掘りこまれていると考えられる。覆土はほぼ単一の層(覆土1層)でローム粒が混じるII層主体の自然堆積である。南西側にP-153、西側にP-152・183～185・201が位置する。坑底はほぼ平坦、壁はほぼ垂直に立ち上がる。

遺物出土状況：覆土からII群B-5類土器2点が出土した。石器等は出土していない。

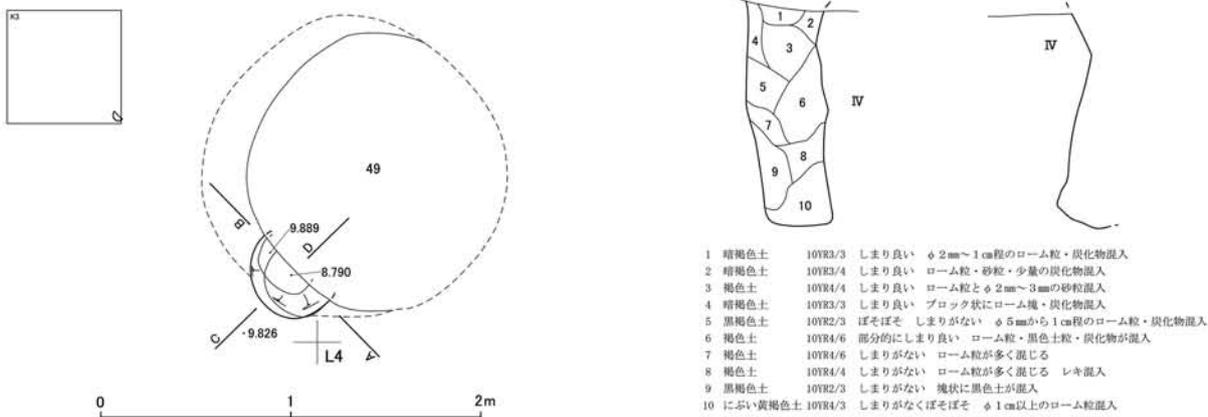
P-152 ~ 154 · 183 · 184



P-159 · 160



P-156



図IV-383 P-152 ~ 154 · 183 · 184 · 159 · 160 · 156

時期：検出された層位や周辺の遺構・出土遺物から縄文時代前期後半と考えられる。 (立川)

掲載遺物：(土器) 1は覆土出土のⅡ群B-5類土器。体部に多軸絡条体の回転文が施されている。

P-183

位置：M 3区

平面形：楕円形

規模：0.18 / 0.12×0.16 / 0.10×0.30m

確認・調査：Ⅳ層上面における標高9.9m前後の平坦面に立地する。M 3区周辺でⅡ層・Ⅲ層を掘り下げたところ、Ⅳ層上面で黒褐色土の落ち込みを確認した。柱穴状ピットである。北西-南東方向で半截し土層観察を行いながら掘り下げた。その結果、ほぼ平坦な坑底面と壁を確認した。遺構はⅡ下層中から掘りこまれていると考えられる。覆土はほぼ単一の層(覆土1層)でⅡ層主体の自然堆積である。南西側にP-184が、東側にP-154が、南東側にP-152・153が近接する。

遺物出土状況：遺物は出土していない。

時期：検出された層位や周辺の遺構・出土遺物から縄文時代前期後半と考えられる。 (立川)

掲載遺物：掲載遺物なし。

P-184

位置：M 3区

平面形：楕円形

規模：0.40 / 0.14×0.33 / 0.14×0.31m

確認・調査：Ⅳ層上面における標高9.9m前後の平坦面に立地する。M 3区周辺でⅡ層・Ⅲ層を掘り下げたところ、Ⅳ層上面で黒褐色土の落ち込みを確認した。柱穴状ピットである。北西-南東で半截し土層観察を行いながら掘り下げた。その結果、ほぼ平坦な坑底面と壁を確認した。遺構はⅡ下層中から掘りこまれていると考えられる。覆土はほぼ単一の層(覆土1層)でⅡ層主体の自然堆積である。東側にP-152～154・183が近接する。

遺物出土状況：遺物は出土していない。

時期：検出された層位や出土遺物から縄文時代前期後半から中期前半と考えられる。 (立川)

掲載遺物：掲載遺物なし。

P-159・160 (図Ⅳ-383)

P-159

位置：N 6区

平面形：楕円形

規模：0.29 / 0.17×0.23 / 0.16×0.15m

確認・調査：上部はⅣ層中位まで削平されている。掘り込み面は不明である。北側の坑底部が少しオーバーハングする。坑底面は丸みを帯び、北側がやや高い。覆土は腐植土とロームの混合である。上部に存在していた住居跡の柱穴であった可能性がある。

遺物出土状況：出土していない。

時期：周辺遺構の出土遺物などから縄文時代前期後半～中期前半の可能性はある。 (芝田)

掲載遺物：掲載遺物なし。

P-160

位置：N 6区

平面形：楕円形

規模：0.21 / 0.13×0.19 / 0.09×0.22m

確認・調査：上部はIV層中位まで削平されている。掘り込み面は不明である。掘り込みの傾斜はやや急である。坑底面はほぼ平坦。覆土は腐植土を主体とする。上部に存在していた住居跡の柱穴であった可能性がある。

遺物出土状況：出土していない。

時期：周辺の遺構の出土遺物などから、縄文時代前期後半～中期前半の可能性がある。（芝田）

掲載遺物：掲載遺物なし。

P-156 (図IV-383)

位置：M 3・4区

平面形：不整円形

規模：0.48 / 0.34×(0.23) / (0.13)×1.15m

確認・調査：H-44の北側のP-49の南側の壁を壊して構築された、柱穴状ピットである。P-49の調査中に南側の壁に暗褐色土の柱穴状の落ち込みを確認した。ほぼ南北に土層観察用のセクションを設定して調査を行った。東側はP-49の覆土中に、西側はIV層中に掘り込まれ、坑底部はP-49の坑底より20cmほど上部に構築され、円味をもつ。壁はほぼ垂直に立ち上がる。

遺物出土状況：遺物は出土していない。

時期：周辺の遺構から縄文時代前期後半と考えられる。

掲載遺物：掲載遺物なし。

P-185・201 (図IV-384)

P-185

位置：L 3区

平面形：楕円形

規模：0.30 / 0.29×0.27 / 0.21×0.52m

確認・調査：IV層上面における標高9.6m前後の東側に傾斜する緩斜面に立地する。L 3区周辺でII層・III層を掘り下げたところ、IV層上面で暗褐色土の落ち込みを確認した。柱穴状ピットである。北西-南東で半截し土層観察を行いながら掘り下げた。その結果、ほぼ平坦な坑底面と壁を確認した。遺構はII下層中から掘りこまれていると考えられる。覆土はほぼ単一の層（覆土1層）で混じるII層主体の自然堆積である。南西側にP-153が、西側にP-152・183～185・201が近接する。

遺物出土状況：遺物は出土していない。

時期：検出された層位や出土遺物から縄文時代前期後半から中期前半と考えられる。（立川）

掲載遺物：掲載遺物なし

P-201

位置：L 3区

平面形：楕円形

規模：0.27 / 0.23×0.26 / 0.22×0.50m

確認・調査：IV層上位で暗褐色土の落ち込みを検出した。南北方向に半截して掘り下げた結果、坑底面と思われる平坦面と壁の立ち上がりを確認した。遺構はII層中から掘りこまれていると推測される。覆土は2つに分層した。II層を主体としてIV層ローム粒が混じる比較的均質な土が堆積する。坑底は平坦、壁はほぼ垂直に立ち上がる。南東側にP-152～154・183・184が、西側にP-201が近接する。

遺物出土状況：覆土からIII群A類土器1点、剥片・礫5点、軽石製石製品1点が出土した。

時期：出土遺物から縄文時代中期前半と考えられる。

(立川)

掲載遺物：(土器) 1は覆土出土のⅢ群A類土器の体部破片。斜行縄文が施されている。

(石器) 2は覆土出土の軽石製石製品。加工痕ははっきりとしないが、平坦面を作出している。

P-226・228・229・230 (図IV-384)

位置：K 4、L 4・5区

確認・調査：P-158を確認し、周辺の清掃・精査の際にIV層上面で褐色～暗褐色土の落ち込みを確認した。P-228・229・230と呼称し調査を実施した。坑底はIV層中に構築されている。P-228の覆土からすり石が折り重なる状態で出土した。これらの調査終了後、フラスコ状ピットの調査を再開し崩落防止のため西側部分の深掘りを実施した。P-158・182の坑底の調査中に、フラスコ状ピットの坑底を切って構築している柱穴状ピットを確認したことから、P-226と呼称し調査を実施した。いずれも平面形は円形で、坑底はIV層中に平坦に構築されている。壁はほぼ垂直に立ち上がる。

P-226 規模：0.19 / 0.08×0.17 / 0.08×0.11m

P-228 規模：0.32 / 0.15×0.29 / 0.12×0.46m

P-229 規模：0.15 / 0.10×0.15 / 0.10×0.50m

P-230 規模：0.20 / 0.11×0.18 / 0.09×0.30m

遺物出土状況：P-228覆土からすり石2点、礫1点が出土。P-230覆土から礫1点が出土。

時期：周辺の遺構の時期から縄文時代前期後半～中期初頭と考えられる。

(熊谷)

掲載遺物：(石器) 1・2はP-228覆土出土のすり石。安山岩製。1は扁平な楕円礫の一侧縁を打ち欠いて半円形とし、弦の部分を敲打して礫の厚さほどの平坦なすり面を作出している。長軸両端には打ち欠きが見られる。2は扁平打製石器。板状礫の周縁を打ち欠いて長形状の整形し、一長辺に非常に幅の狭い機能部を作出している。両側短辺に挟りがみられる。

P-155・207～213・215・218～223 (図IV-385)

位置：K 2・3、L 3区

確認・調査：H-48の柱穴を確認するために周辺のⅢ層の調査中、暗黄褐色土・小ローム塊の落ち込みを確認した。いずれも平面形は丸形で、坑底はIV層中に平坦に構築されている。壁はほぼ垂直に立ち上がる柱穴状ピットである。

L 3区 P-155 規模：0.34 / 0.20×0.29 / 0.20×0.40m

P-215 規模：0.23 / 0.14×0.21 / 0.12×0.40m

P-218 規模：0.16 / 0.12×0.12 / 0.08×0.08m

K 4区 P-207 規模：0.24 / 0.10×(0.22) / (0.10)×0.43m

P-208 規模：0.26 / 0.16×(0.24) / (0.12)×0.12m

P-209 規模：0.26 / 0.28×(0.26) / (0.14)×0.27m

P-210 規模：0.40 / 0.20×(0.36) / (0.20)×0.40m

P-211 規模：0.30 / 0.12×(0.24) / (0.12)×0.45m

P-212 規模：0.26 / 0.16×(0.24) / (0.16)×0.42m

P-213 規模：0.34 / 0.22×(0.34) / (0.16)×0.43m

P-222 規模：0.32 / 0.16×(0.28) / (0.16)×0.06m

P-223 規模：0.36 / 0.20×(0.30) / (0.16)×0.09m

K 3区 P-219 規模：0.22 / 0.12×0.16 / 0.10×0.19m

P-220 規模：0.22 / 0.14×0.20 / 0.12×- m

P-221 規模：0.22 / 0.14×0.20 / 0.10×0.11m

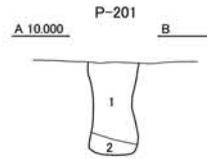
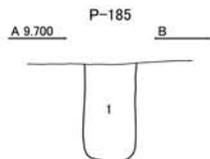
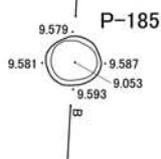
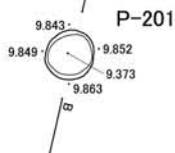
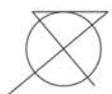
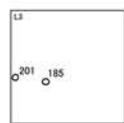
遺物出土状況：P-213覆土からⅡ群B類土器1点、礫1点が出土。P-221覆土から礫1点が出土。

時期：周辺の遺構の時期から縄文時代前期後半～中期初頭と考えられる。

(熊谷)

掲載遺物：(土器) 1はP-213覆土出土のⅡ群B-3類土器の体部破片。単軸絡条体の回転文が施されている。

P-185・201

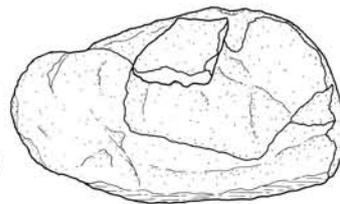
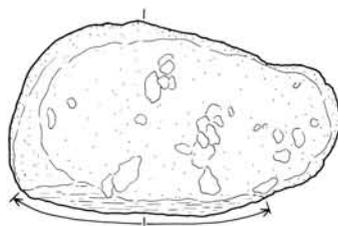


1 暗褐色土 7.5YR3/3 粘性中 堅密度強

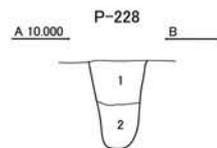
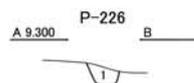
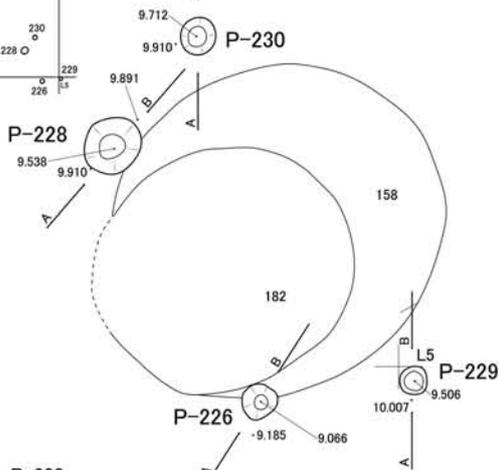
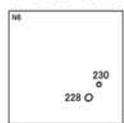
1 暗褐色土 7.5YR3/3 粘性中 堅密度中
 φ2~3mmローム粒が10%混じる
 2 黒褐色土 7.5YR2/2 粘性中 堅密度中
 φ1~2mmローム粒が5%、φ10mmローム粒が1%未満混じる



P-201

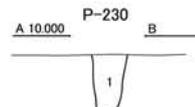
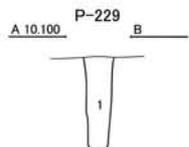


P-226・228・229・230



1 暗褐色土 7.5YR3/4 ぼそぼそ、ローム塊が混じる。

1 暗褐色土 7.5YR3/4 ぼそぼそ、ローム塊が混じる。
 2 褐色土 7.5YR4/4 ぼそぼそ、ローム塊が混じる。

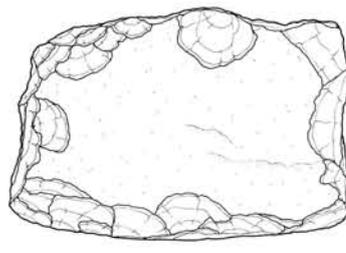
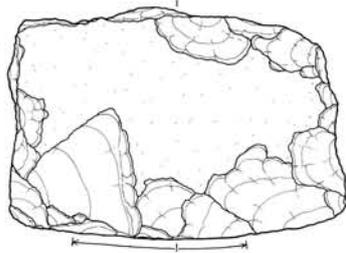
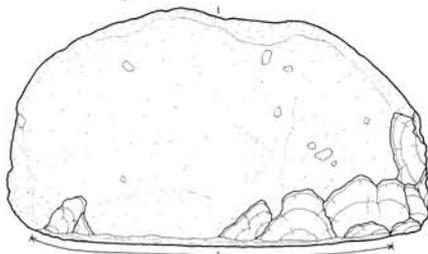


1 褐色土 7.5YR4/4 多量のローム粒が混じる。ぼそぼそ。

1 褐色土 7.5YR4/4 ぼそぼそ、多量のローム粒が混じる。

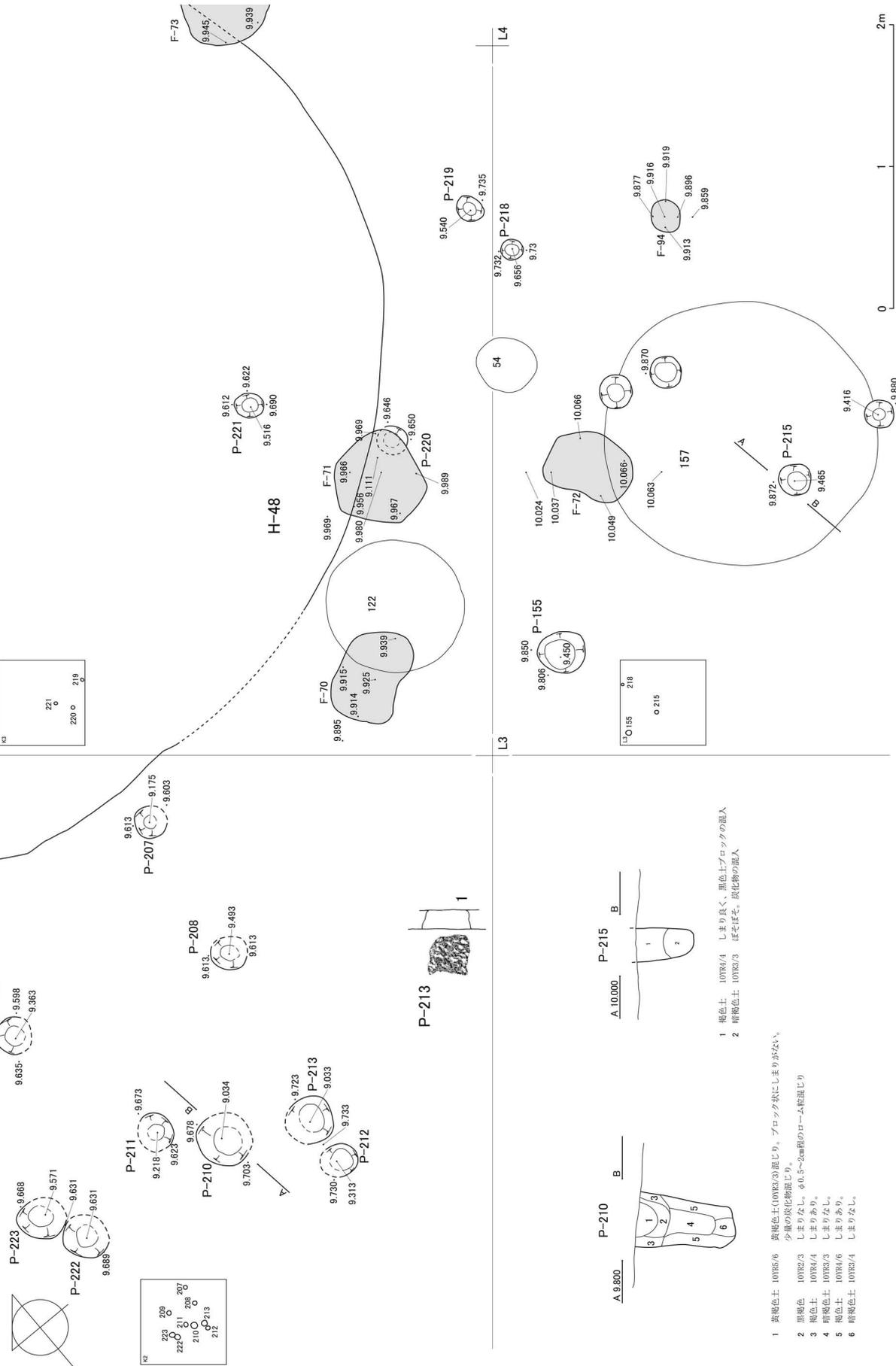


P-228



図IV-384 P-185・201・226・228・229・230

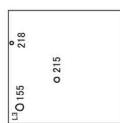
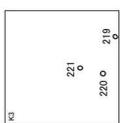
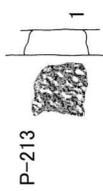
P-155・207～213・215・218～223



図IV-385 P-155・207～213・215・218～223

- 1 黄褐色土 100R5/6 黄褐色土(100R5/3)混じり。ブロック状にしまりがなく、少量の炭化物混じり。
- 2 黒褐色 100R2/3 しまりなし。φ0.5~2mm程度のローA粒混じり
- 3 褐色土 100R6/4 しまりあり。
- 4 黄褐色土 100R2/3 しまりなし。
- 5 褐色土 100R4/6 しまりあり。
- 6 黄褐色土 100R5/4 しまりなし。

- 1 褐色土 100R4/4 しまり良く、黒色土ブロックの混入
- 2 黄褐色土 100R3/3 ほぼばさばさ。炭化物の混入。



表IV-5 遺構出土揭載復原土器一覽

Table with columns: 種別, 掲載番号, 図版番号, 遺構番号, 分類, 層位, 遺物番号, 小計, 計, PO番号, 大きさ (高さ, 口径), 種別, 掲載番号, 図版番号, 遺構番号, 分類, 層位, 遺物番号, 小計, 計, PO番号, 大きさ (高さ, 口径). The table lists various archaeological artifacts (pottery, etc.) across multiple sections (IV-101 to IV-222) with detailed inventory data.

表IV-8 H-43接合資料一覧

図番号	掲載番号	遺構名	層位	遺物番号	点数	分類	掲載番号	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	材質	図版番号	備考
図IV-264	接合資料1	H-43	HFC-4	覆土	88 (2)	剥片	-	15.20	11.40	5.30	391.50	頁岩	図版135	
			覆土	368 (1)	両面調整石器	100								
			覆土	77 (4)	剥片	-								
			覆土	189 (2)	剥片	-								
			覆土	234 (4)	剥片	-								
図IV-264	接合資料2	H-43	HFC-1	床面	197 (1)	両面調整石器	102	17.40	14.40	6.90	756.00	頁岩	図版135	
HFC-1	床面	194 (1)	剥片	-										
HFC-1・2	覆土	- (133)	剥片	-										
図IV-265	接合資料3	H-43	HFC-1	床面	196 (1)	両面調整石器	103	17.00	10.50	9.80	677.00	頁岩	図版135	
			HFC-2	覆土	115 (3)	剥片	-							
			HFC-2	覆土	- (82)	剥片	-							
			HFC-2	覆土	338 (1)	両面調整石器	103							
図IV-265	接合資料4	H-43	HFC-1・2	覆土	- (42)	剥片	-	16.70	8.40	6.30	578.50	頁岩	図版135	
HFC-1・2	床面	207 (1)	両面調整石器	105										
図IV-265	接合資料5	H-43	HFC-2	床面	212 (1)	スクレイパー	109	6.30	11.00	4.70	277.60	頁岩	図版136	
			HFC-2	覆土	21 (1)	剥片	-							
			HFC-2	覆土	- (25)	剥片	-							
図IV-266	接合資料6	H-43	HFC-1・2	床面	214 (1)	礫器	110	10.30	10.30	10.60	845.50	頁岩	図版136	
			HFC-1・2	覆土	- (2)	剥片	-							
			HFC-1・2	覆土	- (3)	剥片	-							
			HFC-2	覆土	- (10)	剥片	-							
			HFC-2	覆土	82 (1)	石核	-							
図IV-266	接合資料7	H-43	HFC-2	床面	213 (1)	礫器	112	12.00	11.80	6.90	738.00	頁岩	図版136	
			HFC-2	覆土	- (26)	剥片	-							
			HFC-2	覆土	12 (1)	剥片	-							
			HFC-2	覆土	189 (1)	剥片	-							
図IV-266	接合資料8	H-43	HFC-1	床面	204 (1)	石核	-	9.70	10.50	6.20	484.12	頁岩	図版136	
			HFC-1	覆土	- (24)	剥片	-							
			HFC-1	覆土	77 (4)	剥片	-							
			HFC-1	覆土	87 (1)	剥片	-							
図IV-267	接合資料9	H-43	HFC-1	覆土	27 (22)	剥片	-	11.30	9.20	5.50	234.10	頁岩	図版137	
			HFC-1	覆土	189 (2)	剥片	-							
			HFC-1	覆土	221 (1)	剥片	-							
			HFC-1	覆土	350 (5)	剥片	-							
図IV-267	接合資料10	H-43	HFC-4	覆土	88 (3)	剥片	-	16.20	13.00	10.60	1,590.00	頁岩	図版137	
			HFC-4	覆土	77 (3)	剥片	-							
			HFC-4	覆土	87 (15)	剥片	-							
			HFC-4	覆土	99 (1)	剥片	-							
			HFC-4	覆土	189 (1)	剥片	-							
			HFC-4	覆土	378 (3)	剥片	-							
図IV-268	接合資料11	H-43	HFC-5	覆土	222 (178)	剥片	-	26.80	21.00	7.30	1,608.00	頁岩	図版136	
			HFC-5	覆土	223 (104)	剥片	-							
			HFC-6	覆土	220 (1)	剥片	-							
			HFC-7	覆土	221 (1)	剥片	-							
			HFC-7	覆土	118 (7)	剥片	-							
			HFC-7	覆土	189 (1)	剥片	-							
			HFC-7	覆土	350 (4)	剥片	-							
			HFC-7	覆土	407 (1)	剥片	-							

V 自然科学的分析

1 木古内町大平遺跡における放射性炭素年代 (AMS測定)

(株)加速器分析研究所

1 測定対象試料

大平遺跡は、北海道上磯郡木古内町字大平63に所在する。測定対象試料は、調査現場において採取された土壌のフローテーションによって回収された。

H-13、H-17、H-19、H-23、H-30、H-36、H-37、H-38、H-44は住居跡で、試料は住居跡の覆土や、覆土中で検出された土器、床面で検出された焼土や柱穴、炭化物集中等から出土している。P-37は土坑で、床面及び床面直上で検出された土器の中から試料が出土した。H-23、H-30、H-36、H-37、P-37は上部を盛土遺構に覆われている。

2 測定の意義

試料が出土した住居跡、土坑、土器の時期を特定する。

3 化学処理工程

- (1) メス・ピンセットを使い、根・土等の付着物を取り除く。
- (2) 酸-アルカリ-酸 (AAA: Acid Alkali Acid) 処理により不純物を化学的に取り除く。その後、超純水で中性になるまで希釈し、乾燥させる。AAA処理における酸処理では、通常 1 mol/l (1 M) の塩酸 (HCl) を用いる。アルカリ処理では水酸化ナトリウム (NaOH) 水溶液を用い、0.001Mから1 Mまで徐々に濃度を上げながら処理を行う。アルカリ濃度が1 Mに達した時には「AAA」、1 M未満の場合は「AaA」と表V-1に記載する。
- (3) 試料を燃焼させ、二酸化炭素 (CO_2) を発生させる。
- (4) 真空ラインで二酸化炭素を精製する。
- (5) 精製した二酸化炭素を鉄を触媒として水素で還元し、グラファイト (C) を生成させる。
- (6) グラファイトを内径1 mmのカソードにハンドプレス機で詰め、それをホイールにはめ込み、測定装置に装着する。

4 測定方法

加速器をベースとした ^{14}C -AMS専用装置 (NEC社製) を使用し、 ^{14}C の計数、 ^{13}C 濃度 ($^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$)、 ^{14}C 濃度 ($^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$) の測定を行う。測定では、米国国立標準局 (NIST) から提供されたシュウ酸 (HOx II) を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。

5 算出方法

- (1) $\delta^{13}\text{C}$ は、試料炭素の ^{13}C 濃度 ($^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$) を測定し、基準試料からのずれを千分偏差 (%) で表した値である (表V-1)。AMS装置による測定値を用い、表中に「AMS」と注記する。
- (2) ^{14}C 年代 (Libby Age: yrBP) は、過去の大気中 ^{14}C 濃度が一定であったと仮定して測定され、1950年を基準年 (0 yrBP) として遡る年代である。年代値の算出には、Libbyの半減期 (5568年) を使用する (Stuiver and Polach 1977)。 ^{14}C 年代は $\delta^{13}\text{C}$ によって同位体効果を補正する必要がある。補正した値を表V-1に、補正していない値を参考値として表V-2に示した。 ^{14}C 年代と誤差は、下1桁を丸めて10年単位で表示される。また、 ^{14}C 年代の誤差 ($\pm 1 \sigma$) は、試料の ^{14}C 年代がその誤差範囲に入る確率が68.2%であることを意味する。
- (3) pMC (percent Modern Carbon)は、標準現代炭素に対する試料炭素の ^{14}C 濃度の割合である。pMCが小さい (^{14}C が少ない) ほど古い年代を示し、pMCが100以上 (^{14}C の量が標準現代炭素と同等以上) の場合Modernとする。この値も $\delta^{13}\text{C}$ によって補正する必要があるため、補正した値を表1に、補正していない値を参考値として表V-2に示した。

(4) 暦年較正年代とは、年代が既知の試料の ^{14}C 濃度を元に描かれた較正曲線と照らし合わせ、過去の ^{14}C 濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値である。暦年較正年代は、 ^{14}C 年代に対応する較正曲線上の暦年代範囲であり、1標準偏差 ($1\sigma=68.2\%$) あるいは2標準偏差 ($2\sigma=95.4\%$) で表示される。グラフの縦軸が ^{14}C 年代、横軸が暦年較正年代を表す。暦年較正プログラムに入力される値は、 $\delta^{13}\text{C}$ 補正を行い、下一桁を丸めない ^{14}C 年代値である。なお、較正曲線および較正プログラムは、データの蓄積によって更新される。また、プログラムの種類によっても結果が異なるため、年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは、暦年較正年代の計算に、IntCal09データベース (Reimer et al. 2009) を用い、OxCalv4.1較正プログラム (Bronk Ramsey 2009) を使用した。暦年較正年代については、特定のデータベース、プログラムに依存する点を考慮し、プログラムに入力する値とともに参考値として表V-2に示した。暦年較正年代は、 ^{14}C 年代に基づいて較正 (calibrate) された年代値であることを明示するために「cal BC/AD」(または「cal BP」) という単位で表される。

6 測定結果

1遺構で複数の試料が測定されたH-23、H-30、P-37出土試料を遺構別に検討した後、その他の遺構出土試料について記載することとする。

H-23出土試料の ^{14}C 年代は、覆土1層 (ベルトD) 出土炭化材5が $4600\pm 30\text{yrBP}$ 、覆土4層 (ベルトD) 出土炭化材6が $4570\pm 30\text{yrBP}$ 、覆土5層 (ベルトD) 出土炭化材7が $4670\pm 30\text{yrBP}$ 、覆土6層 (ベルトD) 出土炭化材8が $4590\pm 30\text{yrBP}$ 、覆土8層 (ベルトD) 出土炭化材9が $4730\pm 30\text{yrBP}$ 、床面で検出されたHF-4周辺小ピット出土炭化材10が $4650\pm 30\text{yrBP}$ 、床面で検出されたHP-1覆土出土炭化材11が $4730\pm 30\text{yrBP}$ である。7点の値は、 $4730\pm 30\text{yrBP}$ (試料9、11) から $4570\pm 30\text{yrBP}$ (試料6) というかなり狭い範囲に収まり、誤差 ($\pm 1\sigma$) の範囲で値が重なるものも見られる。

暦年較正年代 (1σ) は、5が $3488\sim 3354\text{cal BC}$ 、6が $3369\sim 3141\text{cal BC}$ 、7が $3514\sim 3373\text{cal BC}$ 、8が $3487\sim 3348\text{cal BC}$ 、9が $3629\sim 3383\text{cal BC}$ 、10が $3499\sim 3370\text{cal BC}$ 、11が $3630\sim 3384\text{cal BC}$ の間に各々複数の範囲で示される。相互に重なる範囲が多く、層位の上下関係による年代差は明瞭でない。ただし、覆土8層出土の9と床面で検出された柱穴出土の11が最も古い値を示し、ある程度上下関係に沿った傾向も認められる。最も古い9、11が縄文時代前期末葉から中期前葉頃、最も新しい6が中期前葉頃に相当する値を示した (小林編2008)。

H-30出土試料の ^{14}C 年代は、覆土2層 (ベルトB) 出土炭化材12が $4700\pm 30\text{yrBP}$ 、覆土3層 (ベルトD) 出土炭化材13が $4750\pm 30\text{yrBP}$ 、覆土7層 (ベルトD) 出土炭化材14が $4610\pm 30\text{yrBP}$ 、覆土8層 (ベルトD) 出土炭化材15が $4610\pm 30\text{yrBP}$ 、覆土16層 (ベルトD) 出土炭化材16が $4730\pm 30\text{yrBP}$ 、覆土8層中で検出された土器PO-110中出土炭化材17が $4730\pm 30\text{yrBP}$ 、覆土1層中で検出された土器PO-33中覆土②出土炭化材18が $4590\pm 30\text{yrBP}$ である。7点の値は、 $4750\pm 30\text{yrBP}$ (試料13) から $4590\pm 30\text{yrBP}$ (試料18) というかなり狭い範囲に収まる。試料13を含む相対的に古い試料 (12、13、16、17) と、試料18を含む相対的に新しい試料 (14、15、18) があり、各4点と3点の中では年代値が差範囲で重なる。これら2群に分かれるようにも見えるが、その間にある年代差は小さい。

暦年較正年代 (1σ) は、12が $3617\sim 3378\text{cal BC}$ 、13が $3633\sim 3521\text{cal BC}$ 、14が $3491\sim 3358\text{cal BC}$ 、15が $3494\sim 3356\text{cal BC}$ 、16が $3630\sim 3384\text{cal BC}$ 、17が $3631\sim 3384\text{cal BC}$ 、18が $3488\sim 3346\text{cal BC}$ の間に各々複数の範囲で示される。最下層 (床面) に当たる覆土16層出土の16が、7点の中で比較的古い値を示しているが、全体的には層位の上下関係の中で年代値の推移を読み取ることが難しい。最も古い13が縄文時代前期末葉頃、最も新しい18が中期初頭から前葉頃に相当する値となっている (小林編2008)。

P-37出土試料の¹⁴C年代は、床面で検出された土器PO-6中出土炭化材22が4850±30yrBP、床面直上検出土器PO-112下出土炭化材23が4690±30yrBPである。床面と床面直上から出土した2点の間には若干年代差がある。暦年較正年代(1σ)は、22が3692～3545cal BC、23が3517～3377cal BCの間に各々複数の範囲で示され、22が縄文時代前期後葉から末葉頃、23が中期初頭から前葉頃に相当する(小林編2008)。

その他の遺構から出土した試料の¹⁴C年代は、H-36覆土10層出土炭化材1が4740±30yrBP、H-13 HP-7覆土出土炭化材2が4630±30yrBP、H-17 HF-1焼土出土炭化材3が4500±30yrBP、H-19焼土出土炭化材4が1220±20yrBP、H-37 HF-1焼土中出土炭化材19が4700±30yrBP、H-38 HP-5覆土出土炭化材20が4660±30yrBP、H-44 HCb-4出土炭化材21が4450±30yrBPである。暦年較正年代(1σ)は、1が3631～3384cal BC、2が3496～3366cal BC、3が3337～3106cal BC、4が725～867cal AD、19が3621～3379cal BC、20が3500～3370cal BC、21が3317～3026cal BCの間に各々複数の範囲で示される。1、19が縄文時代前期末葉から中期前葉頃、2、20が中期初頭から前葉頃、3、21が中期前葉から中葉頃、4が擦文文化前期頃に相当する(臼杵編2007、小林編2008)。

試料の炭素含有率はすべて60%を超える十分な値で、化学処理、測定上の問題は認められない。

表V-1 放射性炭素測定結果

測定番号	試料名	採取場所	試料 形態	処理 方法	δ ¹³ C (‰) (AMS)	δ ¹³ C 補正あり	
						Libby Age (yrBP)	pMC (%)
IAAA-I22258	1	H-36 覆土10層	炭化材	AAA	-25.37 ± 0.23	4,740 ± 30	55.45 ± 0.18
IAAA-I22259	2	H-13 HP-7 覆土	炭化材	AAA	-23.79 ± 0.23	4,630 ± 30	56.16 ± 0.18
IAAA-I22260	3	H-17 HF-1 焼土	炭化材	AaA	-23.77 ± 0.23	4,500 ± 30	57.08 ± 0.19
IAAA-I22261	4	H-19 焼土	炭化材	AAA	-27.64 ± 0.22	1,220 ± 20	85.87 ± 0.25
IAAA-I22262	5	H-23 覆土1層(ベルトD)	炭化材	AAA	-24.63 ± 0.28	4,600 ± 30	56.40 ± 0.18
IAAA-I22263	6	H-23 覆土4層(ベルトD)	炭化材	AAA	-25.71 ± 0.26	4,570 ± 30	56.59 ± 0.18
IAAA-I22264	7	H-23 覆土5層(ベルトD)	炭化材	AAA	-28.83 ± 0.22	4,670 ± 30	55.90 ± 0.18
IAAA-I22265	8	H-23 覆土6層(ベルトD)	炭化材	AAA	-25.67 ± 0.32	4,590 ± 30	56.47 ± 0.18
IAAA-I22266	9	H-23 覆土8層(ベルトD)	炭化材	AAA	-25.68 ± 0.36	4,730 ± 30	55.51 ± 0.18
IAAA-I22267	10	H-23 HF-4周辺小ピット 床面	炭化材	AAA	-27.45 ± 0.25	4,650 ± 30	56.03 ± 0.18
IAAA-I22268	11	H-23 HP-1 覆土	炭化材	AAA	-25.42 ± 0.34	4,730 ± 30	55.48 ± 0.18
IAAA-I22269	12	H-30 覆土2層(ベルトB)	炭化材	AAA	-31.83 ± 0.41	4,700 ± 30	55.73 ± 0.19
IAAA-I22270	13	H-30 覆土3層(ベルトD)	炭化材	AAA	-28.04 ± 0.25	4,750 ± 30	55.33 ± 0.19
IAAA-I22271	14	H-30 覆土7層(ベルトD)	炭化材	AAA	-27.06 ± 0.26	4,610 ± 30	56.34 ± 0.18
IAAA-I22272	15	H-30 覆土8層(ベルトD)	炭化材	AAA	-29.57 ± 0.44	4,610 ± 30	56.32 ± 0.20
IAAA-I22273	16	H-30 覆土16層(ベルトD)	炭化材	AAA	-28.82 ± 0.32	4,730 ± 30	55.49 ± 0.19
IAAA-I22274	17	H-30PO-110中 覆土8層	炭化材	AAA	-28.42 ± 0.58	4,730 ± 30	55.47 ± 0.19
IAAA-I22275	18	H-30 PO-33中 覆土1層 覆土②(土器内)	炭化材	AAA	-27.01 ± 0.38	4,590 ± 30	56.49 ± 0.18
IAAA-I22276	19	H-37 HF-1 焼土中	炭化材	AAA	-26.24 ± 0.35	4,700 ± 30	55.68 ± 0.18
IAAA-I22277	20	H-38 HP-5 覆土	炭化材	AAA	-26.35 ± 0.27	4,660 ± 30	56.01 ± 0.18
IAAA-I22278	21	H-44 HCb-4 床面	炭化材	AAA	-27.91 ± 0.31	4,450 ± 30	57.45 ± 0.19
IAAA-I22279	22	P-37 PO-6中 床面	炭化材	AAA	-28.66 ± 0.44	4,850 ± 30	54.67 ± 0.19
IAAA-I22280	23	P-37 PO-112下 床面直上	炭化材	AAA	-27.93 ± 0.35	4,690 ± 30	55.80 ± 0.19

文献

Bronk Ramsey C. 2009 Bayesian analysis of radiocarbon dates, *Radiocarbon* 51(1), 337-360

小林達雄編 2008 総覧縄文土器, 総覧縄文土器刊行委員会, アム・プロモーション

Reimer, P.J. et al. 2009 IntCal09 and Marine09 radiocarbon age calibration curves, 0-50,000 years cal BP, *Radiocarbon* 51(4), 1111-1150

Stuiver M. and Polach H.A. 1977 Discussion: Reporting of ¹⁴C data, *Radiocarbon* 19(3), 355-363

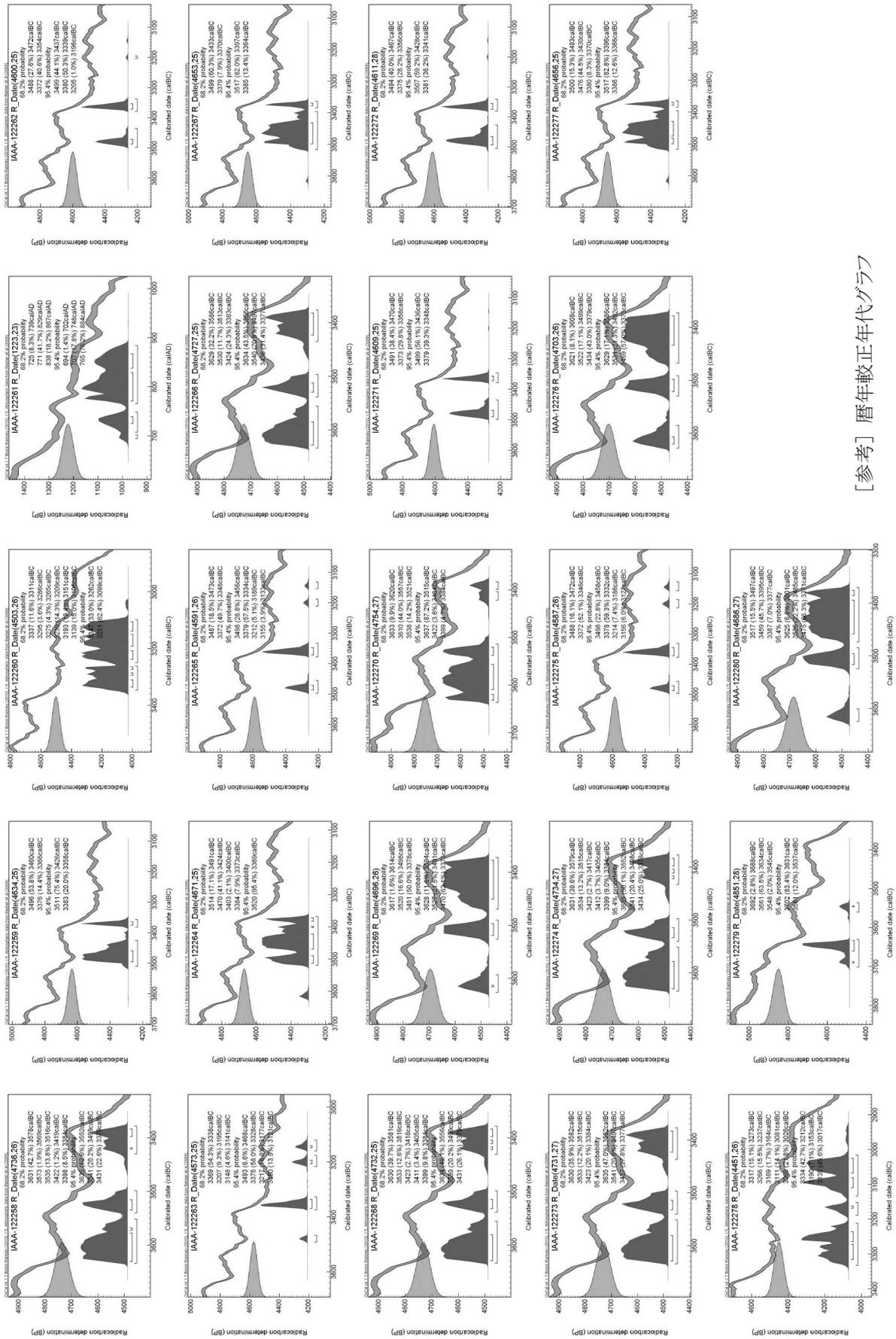
臼杵編 2007 科学研究費補助金基盤研究(B)(2) 北海道における古代から近世の遺跡の暦年代 研究成果報告書, 札幌学院大学人文学部

表 V-2 放射性碳素年代測定結果

測定番号	δ ¹³ C 補正なし		暦年校正(HyBP)	1σ 暦年代範囲	2σ 暦年代範囲
	Age (yBP)	pMC (%)			
IAAA-122258	4,700 ± 30	55.41 ± 0.18	4,736 ± 26	363 calBC - 3578 calBC (42.7%) 3573 calBC - 3569 calBC (1.9%) 3555 calBC - 3511 calBC (13.8%) 3422 calBC - 3419 calBC (1.2%) 3398 calBC - 3384 calBC (8.5%)	3635 calBC - 3552 calBC (82.6%) 3541 calBC - 3499 calBC (20.2%) 3431 calBC - 3379 calBC (22.6%)
	4,610 ± 30	56.30 ± 0.18	4,634 ± 25	3496 calBC - 3460 calBC (53.8%) 3376 calBC - 3366 calBC (14.4%) 3337 calBC - 3311 calBC (11.6%) 3295 calBC - 3288 calBC (3.6%) 3275 calBC - 3265 calBC (4.3%) 3229 calBC - 3209 calBC (14.3%) 3193 calBC - 3151 calBC (19.4%) 3139 calBC - 3106 calBC (15.0%)	3511 calBC - 3430 calBC (75.4%) 3383 calBC - 3338 calBC (20.0%)
IAAA-122260	4,480 ± 30	57.23 ± 0.19	4,503 ± 26	725 calAD - 739 calAD (8.3%) 771 calAD - 748 calAD (17.8%) 838 calAD - 867 calAD (18.2%)	3347 calBC - 3262 calBC (33.0%) 3251 calBC - 3099 calBC (22.8%)
	4,590 ± 30	56.45 ± 0.18	4,600 ± 25	3488 calBC - 3472 calBC (27.6%) 3372 calBC - 3354 calBC (40.6%)	694 calAD - 702 calAD (1.4%) 707 calAD - 748 calAD (17.8%) 765 calAD - 884 calAD (76.2%)
IAAA-122262	4,590 ± 30	56.45 ± 0.18	4,600 ± 25	3488 calBC - 3472 calBC (27.6%) 3372 calBC - 3354 calBC (40.6%)	3499 calBC - 3437 calBC (44.1%) 3380 calBC - 3339 calBC (50.3%) 3205 calBC - 3196 calBC (1.0%)
	4,590 ± 30	56.51 ± 0.18	4,573 ± 25	3360 calBC - 3338 calBC (54.3%) 3207 calBC - 3195 calBC (93.9%) 3148 calBC - 3144 calBC (4.6%)	3493 calBC - 3488 calBC (6.6%) 3375 calBC - 3328 calBC (88.0%) 3217 calBC - 3177 calBC (16.8%) 3160 calBC - 3121 calBC (13.9%)
IAAA-122264	4,730 ± 30	55.47 ± 0.18	4,671 ± 25	3514 calBC - 3491 calBC (17.1%) 3470 calBC - 3424 calBC (41.1%) 3403 calBC - 3400 calBC (2.1%) 3384 calBC - 3377 calBC (7.9%)	3520 calBC - 3369 calBC (95.4%)
	4,600 ± 30	56.39 ± 0.18	4,591 ± 26	3467 calBC - 3472 calBC (18.5%) 3372 calBC - 3348 calBC (49.7%)	3498 calBC - 3454 calBC (28.8%) 3379 calBC - 3334 calBC (87.5%) 3212 calBC - 3189 calBC (51.1%) 3155 calBC - 3133 calBC (3.9%)
IAAA-122266	4,740 ± 30	55.44 ± 0.17	4,727 ± 25	3629 calBC - 3586 calBC (32.2%) 3530 calBC - 3513 calBC (11.7%) 3454 calBC - 3400 calBC (24.3%)	3634 calBC - 3556 calBC (43.5%) 3500 calBC - 3497 calBC (20.6%) 3436 calBC - 3377 calBC (14.4%)
	4,690 ± 30	55.75 ± 0.18	4,653 ± 25	3499 calBC - 3433 calBC (60.3%) 3379 calBC - 3370 calBC (7.9%)	3517 calBC - 3397 calBC (82.8%) 3385 calBC - 3364 calBC (13.4%)
IAAA-122268	4,740 ± 30	55.43 ± 0.17	4,732 ± 25	3630 calBC - 3581 calBC (39.7%) 3533 calBC - 3511 calBC (12.6%) 3423 calBC - 3418 calBC (2.7%) 3411 calBC - 3405 calBC (3.4%) 3399 calBC - 3384 calBC (9.8%)	3634 calBC - 3555 calBC (69.1%) 3539 calBC - 3499 calBC (20.2%) 3431 calBC - 3379 calBC (26.1%)

測定番号	δ ¹³ C 補正なし		暦年校正(HyBP)	1σ 暦年代範囲	2σ 暦年代範囲
	Age (yBP)	pMC (%)			
IAAA-122269	4,810 ± 30	54.95 ± 0.18	4,696 ± 26	3617 calBC - 3644 calBC (1.6%) 3520 calBC - 3498 calBC (16.6%) 3451 calBC - 3378 calBC (50.0%)	3628 calBC - 3594 calBC (11.8%) 3520 calBC - 3491 calBC (21.5%) 3470 calBC - 3377 calBC (62.1%)
	4,800 ± 30	54.99 ± 0.19	4,754 ± 27	3633 calBC - 3600 calBC (9.9%) 3610 calBC - 3577 calBC (44.0%) 3538 calBC - 3521 calBC (4.2%)	3637 calBC - 3511 calBC (87.2%) 3422 calBC - 3404 calBC (3.6%) 3399 calBC - 3384 calBC (4.7%)
IAAA-122271	4,640 ± 30	56.10 ± 0.18	4,609 ± 25	3491 calBC - 3470 calBC (38.4%) 3372 calBC - 3358 calBC (29.8%)	3499 calBC - 3436 calBC (56.1%) 3379 calBC - 3348 calBC (93.3%)
	4,690 ± 30	55.79 ± 0.19	4,611 ± 28	3494 calBC - 3467 calBC (40.0%) 3373 calBC - 3356 calBC (28.2%)	3507 calBC - 3428 calBC (92.2%) 3381 calBC - 3341 calBC (56.2%)
IAAA-122273	4,790 ± 30	55.06 ± 0.18	4,731 ± 27	3629 calBC - 3582 calBC (55.9%) 3533 calBC - 3515 calBC (12.2%) 3423 calBC - 3384 calBC (20.1%)	3635 calBC - 3552 calBC (47.0%) 3541 calBC - 3497 calBC (20.5%) 3437 calBC - 3377 calBC (27.8%)
	4,790 ± 30	55.08 ± 0.17	4,734 ± 27	3631 calBC - 3579 calBC (98.6%) 3534 calBC - 3515 calBC (13.2%) 3423 calBC - 3417 calBC (2.7%) 3412 calBC - 3406 calBC (3.7%) 3399 calBC - 3384 calBC (9.0%)	3635 calBC - 3552 calBC (50.1%) 3541 calBC - 3498 calBC (20.4%) 3434 calBC - 3377 calBC (25.0%)
IAAA-122275	4,620 ± 30	56.26 ± 0.18	4,587 ± 26	3488 calBC - 3472 calBC (16.1%) 3372 calBC - 3346 calBC (52.1%)	3498 calBC - 3458 calBC (22.8%) 3378 calBC - 3332 calBC (93.3%) 3214 calBC - 3186 calBC (7.4%) 3156 calBC - 3127 calBC (6.0%)
	4,720 ± 30	55.54 ± 0.18	4,703 ± 26	3621 calBC - 3608 calBC (8.1%) 3522 calBC - 3499 calBC (17.1%) 3434 calBC - 3379 calBC (43.0%)	3629 calBC - 3586 calBC (17.1%) 3533 calBC - 3492 calBC (21.3%) 3469 calBC - 3377 calBC (57.0%)
IAAA-122277	4,680 ± 30	55.85 ± 0.18	4,656 ± 25	3500 calBC - 3483 calBC (15.3%) 3476 calBC - 3430 calBC (44.5%) 3380 calBC - 3370 calBC (8.3%)	3517 calBC - 3396 calBC (82.8%) 3386 calBC - 3366 calBC (12.6%)
	4,500 ± 30	57.11 ± 0.18	4,451 ± 26	3317 calBC - 3273 calBC (15.1%) 3266 calBC - 3237 calBC (15.5%) 3169 calBC - 3164 calBC (1.7%) 3111 calBC - 3081 calBC (14.1%) 3069 calBC - 3026 calBC (21.8%)	3334 calBC - 3212 calBC (42.7%) 3190 calBC - 3153 calBC (7.1%) 3135 calBC - 3077 calBC (45.6%)
IAAA-122279	4,910 ± 30	54.26 ± 0.19	4,851 ± 28	3692 calBC - 3688 calBC (2.8%) 3661 calBC - 3634 calBC (63.5%) 3548 calBC - 3545 calBC (2.0%)	3702 calBC - 3631 calBC (83.4%) 3561 calBC - 3537 calBC (12.0%)
	4,730 ± 30	55.46 ± 0.18	4,686 ± 27	3517 calBC - 3497 calBC (15.5%) 3459 calBC - 3395 calBC (45.7%) 3387 calBC - 3377 calBC (7.0%)	3625 calBC - 3601 calBC (6.8%) 3525 calBC - 3485 calBC (22.2%) 3475 calBC - 3371 calBC (66.3%)

【参考値】



[参考] 暦年較正年代グラフ

図 V-1 暦年較正年代グラフ

2 木古内町大平遺跡出土土器等の胎土についてのX線回折試験及び化学分析試験

(株)第四紀地質研究所 井上 巖

1 実験条件

1-1 試料 (図版193～195)

分析に供した試料は表V-3胎土性状表に示す通りである。

X線回折試験に供する遺物試料は洗浄し、乾燥したのちに、メノウ乳鉢にて粉碎し、粉末試料として実験に供した。

化学分析は土器をダイヤモンドカッターで小片に切断し、表面を洗浄し、乾燥後、試料表面をコーティングしないで、直接電子顕微鏡の鏡筒内に挿入し、分析した。

1-2 X線回折試験

土器胎土に含まれる粘土鉱物及び造岩鉱物の同定はX線回折試験によった。測定には日本電子製JDX-8020X線回折装置を用い、次の実験条件で実験した。

Target: Cu, Filter: Ni, Voltage: 40kV, Current: 30mA, ステップ角度: 0.02°

計数時間: 0.5秒。

1-3 化学分析

元素分析は日本電子製5300LV型電子顕微鏡に2001型エネルギー分散型蛍光X線分析装置をセットし、実験条件は加速電圧: 15kV、分析法: スプリント法、分析倍率: 200倍、分析有効時間: 100秒、分析指定元素10元素で行った。

2 X線回折試験結果の取扱い

実験結果は表V-3胎土性状表に示す通りである。

第1表右側にはX線回折試験に基づく粘土鉱物及び造岩鉱物の組織が示してあり、左側には、各胎土に対する分類を行った結果を示している。

X線回折試験結果に基づく粘土鉱物及び造岩鉱物の各々に記載される数字はチャートの中に現われる各鉱物に特有のピークの強度を記載したものである。

2-1 組成分類 (図V-3)

1) Mont-Mica-Hb三角ダイヤグラム

図V-3第1図に示すように三角ダイヤグラムを1～13に分割し、位置分類を各胎土について行い、各胎土の位置を数字で表した。

Mont、Mica、Hbの三成分の含まれない胎土は記載不能として14にいれ、別に検討した。三角ダイヤグラムはモンモリロナイト (Mont)、雲母類 (Mica)、角閃石 (Hb) のX線回折試験におけるチャートのピーク強度をパーセント (%) で表示する。

モンモリロナイトは $\text{Mont}/(\text{Mont}+\text{Mica}+\text{Hb}) \times 100$ でパーセントとして求め、同様にMica, Hbも計算し、三角ダイヤグラムに記載する。

三角ダイヤグラム内の1～4はMont, Mica, Hbの3成分を含み、各辺は2成分、各頂点は1成分よりなっていることを表している。

位置分類についての基本原則は第1図に示す通りである。

2) Mont-Mica-Hb菱形ダイヤグラム

図V-3第2図に示すように菱形ダイヤグラムを1～19に区分し、位置分類を数字で記載した。記載不能は20として別に検討した。

モンモリロナイト (Mont)、雲母類 (Mica)、角閃石 (Hb)、緑泥石 (Ch) の内、

- a) 3成分以上含まれない、
- b) Mont, Chの2成分が含まれない、
- c) Mica, Hbの2成分が含まれない、の3例がある。

菱形ダイアグラムはMont-Ch, Mica-Hbの組合せを表示するものである(図V-3第4図)。

Mont-Ch, Mica-HbのそれぞれのX線回折試験のチャートの強度を各々の組合せ毎にパーセントで表すもので、例えば、 $\text{Mont}/(\text{Mont}+\text{Ch}) \times 100$ と計算し、Mica, Hb, Chも各々同様に計算し、記載する。

菱形ダイアグラム内にある1~7はMont, Mica, Hb, Chの4成分を含み、各辺はMont, Mica, Hb, Chのうち3成分、各頂点は2成分を含んでいることを示す。

位置分類についての基本原則は図V-3に示すとおりである。

3) 化学分析結果の取り扱い

化学分析結果は酸化物として、ノーマル法(10元素全体で100%になる)で計算し、化学分析表を作成した。化学分析表に基づいて $\text{SiO}_2-\text{Al}_2\text{O}_3$ 図、 $\text{Fe}_2\text{O}_3-\text{TiO}_2$ 図、 $\text{K}_2\text{O}-\text{CaO}$ 図の各図を作成した。これらの図をもとに、土器類を元素の面から分類した。

3 X線回折試験結果

3-1 タイプ分類(表V-5)

表V-3第1表胎土性状表には平成26年度の大平遺跡1と2、木古内新道4遺跡、北斗市茂辺地4遺跡から出土した土器と周辺地域で採取した原土が記載してある(図V-2)。表V-5タイプ分類表に示すように土器と原土はA~Lの12タイプが検出された。

Aタイプ: Hb 1成分を含み、Mont, Mica, Chの3成分に欠ける。(24個)

大平遺跡1と2が主体で、新道4遺跡、茂辺地4遺跡の土器が共存する。

Bタイプ: Mica, Hb, Chの3成分を含み、Mont 1成分に欠ける。(9個)

大平遺跡1, 2が主体で、茂辺地4遺跡の土器と木古内町の原土が共存する。

Cタイプ: Mica, Hbの2成分を含み、Mont, Chの2成分に欠ける。(27個)

大平遺跡1と2が主体で、新道4遺跡と茂辺地4遺跡の土器が共存する。

Dタイプ: Mica, Hb, Chの3成分を含み、Mont 1成分に欠ける。

Bタイプと組成は類似するが検出強度が異なる。(54個)

大平遺跡1と2が主体で、茂辺地4遺跡と新道4遺跡の土器が共存する。原土では木古内町の原土が主体で、知内町と茂別遺跡の原土が共存する。

Eタイプ: Mica, Hbの2成分を含み、Mont, Chの2成分に欠ける。(38個)

組成的にはCタイプと類似するが、検出強度が異なる。

大平遺跡1と2が主体で、新道4遺跡、茂辺地4遺跡の土器が共存する。

Fタイプ: Mica 1成分を含み、Mont, Hb, Chの3成分に欠ける。(10個)

大平遺跡の土器が主体で、木古内町の原土が共存する。

Gタイプ: Mont 1成分を含み、Mica, Hb, Chの3成分に欠ける。(4個)

大平遺跡の土器が主体

Hタイプ: Mont, Mica, Hb, Chの4成分にかける。(8個)

大平遺跡の土器が主体

Iタイプ: Mont, Mica, Hbの3成分を含み、Chの1成分にかける。(1個)

茂辺地4遺跡の土器

Jタイプ: Mont, Micaの2成分を含み、Hb, Chの2成分にかける。(2個)

大平遺跡と茂辺地4遺跡の土器が共存する。

Kタイプ: Mont, Mica, Hb, Chの4成分にかける。

Lタイプ: Mica, Chの2成分を含み、Mont, Hbの2成分にかける。(7個)

新道4遺跡の土器と木古内町と知内町の原土が共存する。

表V-5に示すように大平遺跡の土器は多い順からDタイプの55個、次いでEタイプ、Cタイプ、

Aタイプの土器が主体である。

3-2 石英 (Qt) 斜長石 (P1) の相関について

土器胎土中に含まれる砂の粘土に対する混合比は粘土の材質、土器の焼成温度と大きな関わりがある。土器を制作する過程で、ある粘土にある量の砂を混合して素地土を作るといったことは個々の集団が持つ土器制作上の固有の技術であると考えられる。

自然の状態における各地の砂は固有の石英と斜長石比を有している。この比は後背地の地質条件によって各々異なってくるものであり、言い換えれば、各地の砂はおのおの固有の石英と斜長石比を有していると言える。

図V-4第5図Qt-P1図に示すように大平遺跡1と2、新道4遺跡、茂辺地4遺跡から出土した土器と周辺地域で採取した原土が記載してある。Qtの強度が小の領域から大の領域にかけてQt-1～Qt-5の5グループに分類された。

Qt-1 : Qtが570～1200、P1が50～200の領域に分布する。

Qt-2 : Qtが1200～3300、P1が100～680の領域に分布する。

大平遺跡1と2の土器が集中し、新道4遺跡、茂辺地4遺跡から出土した土器と周辺地域で採取した原土が共存している。分析した土器の多くはこの領域に集中し、関連性が窺われる。

Qt-3 : Qtが1500～2900、P1が600～1200の領域に分布する。

大平遺跡1と2の土器が集中し、新道4遺跡の土器が共存する。

Qt-4 : Qtが1700～2800、P1が1400～2100の領域に分布する。

P1の強度が高く異質である。

Qt-5 : Qtが5800～7800、P1が50～650の領域に分布する。

Qtの強度が高く、異質である。

“その他” 新道4遺跡の土器と原土が領域外にあり、これらを“その他”とした。

4 化学分析結果 (図V-4)

表V-4化学分析表には大平遺跡1と2、新道4遺跡、茂辺地4遺跡から出土した土器と周辺地域で採取した原土が記載してある。

分析結果に基づいて第6図SiO₂-Al₂O₃図、第7図Fe₂O₃-TiO₂図、第8図K₂O-CaO図を作成した。

4-1 SiO₂-Al₂O₃の相関について (図V-4)

第6図SiO₂-Al₂O₃図に示すように、大平遺跡1と2、新道4遺跡、茂辺地4遺跡から出土した土器と周辺地域で採取した原土が記載してある。SiO₂の小さい領域からI～VIの6タイプに分類された。

Iタイプ : SiO₂が35～40%、Al₂O₃が33～48%の領域に分布する。

大平遺跡、茂辺地4遺跡、新道4遺跡の土器が共存する。

IIタイプ : SiO₂が42～54%、Al₂O₃が22～32%の領域に分布する。

大平遺跡の土器が集中する。

IIIタイプ : SiO₂が49～60%、Al₂O₃が23～33%の領域に分布する。

新道4遺跡の土器が集中する。大平遺跡と原土が共存する。

IVタイプ : SiO₂が53～66%、Al₂O₃が20～30%の領域に分布する。

大平遺跡1と2の土器が集中する。茂辺地4遺跡と茂別遺跡の原土が共存する。

Vタイプ : SiO₂が64～73%、Al₂O₃が12～21%の領域に分布する。

大平遺跡1の土器が集中し、原土が共存する。

VIタイプ : SiO₂が74～84%、Al₂O₃が7～18%の領域に分布する。

大平遺跡1の土器が集中し、原土が共存する。

“その他” 8,91,55,171の4個は近い領域に入るものとして判別した。

土器の大半はⅡ、Ⅲ、Ⅳの3タイプの領域に集中する。

4-2 Fe_2O_3 - TiO_2 の相関について (図V-4)

第7図 Fe_2O_3 - TiO_2 図に示すように、大平遺跡1と2、新道4遺跡、茂辺地4遺跡から出土した土器と周辺地域で採取した原土が記載してある。 Fe_2O_3 は Fe_2O_3 の1~5の5領域に分類される。

Fe_2O_3 -1 : Fe_2O_3 が5~12%、 TiO_2 が0.7~2.1%の領域に分布する。

大平遺跡1と2、新道4遺跡、茂辺地4遺跡の土器が集中する。原土が共存する。

Fe_2O_3 -2 : Fe_2O_3 が10~17%、 TiO_2 が0.8~2.1%の領域に分布する。

大平遺跡1と2、新道4遺跡の土器が集中する。茂辺地4遺跡と原土が共存する。

Fe_2O_3 -3 : Fe_2O_3 が16~23%、 TiO_2 が0.7~2.7%の領域に分布する。

大平遺跡1と2の土器が集中する。新道4遺跡の土器と原土が共存する。

Fe_2O_3 -4 : Fe_2O_3 が3.3~6.6%、 TiO_2 が0.3~0.9%の領域に分布する。

大平遺跡1と2の土器が集中し、新道4遺跡の土器と原土が共存する。

Fe_2O_3 -5 : Fe_2O_3 が2.0~4.5%、 TiO_2 が0.8~1.3%の領域に分布する。

大平遺跡1と新道4遺跡の土器と原土が共存する。

第7図 Fe_2O_3 - TiO_2 図に示すように、大平遺跡1と2、新道4遺跡、茂辺地4遺跡の土器と原土は Fe_2O_3 -1~3の領域に集中する。

4-3 K_2O - CaO の相関について (図V-4)

第8図 K_2O - CaO 図に示すように、大平遺跡1と2、新道4遺跡、茂辺地4遺跡から出土した土器と周辺地域で採取した原土が記載してある。 K_2O の小さい領域から

K_2O -1~4の4タイプに分類された。

K_2O -1 : K_2O が1.25~3.0%、 CaO が0.4~1.3%の領域に分布する。

大平遺跡1と2、新道遺4跡の土器が集中する。茂辺地4遺跡の土器と原土が共存する。

K_2O -2 : K_2O が2.0~4.5%、 CaO が0~0.8%の領域に分布する。

大平遺跡1の土器が集中する。新道4遺跡、茂辺地4遺跡の土器と原土が共存する。

K_2O -3 : K_2O が5.1~5.7%、 CaO が0.4~0.8%の領域に分布する。

大平遺跡1の土器が集中する。

K_2O -4 : K_2O が1.1~1.9%、 CaO が0.4~0.8%の領域に分布する。

新道4遺跡、茂辺地4遺跡の土器が集中する。大平遺跡と原土が共存する。

5 組成分類 (表V-6)

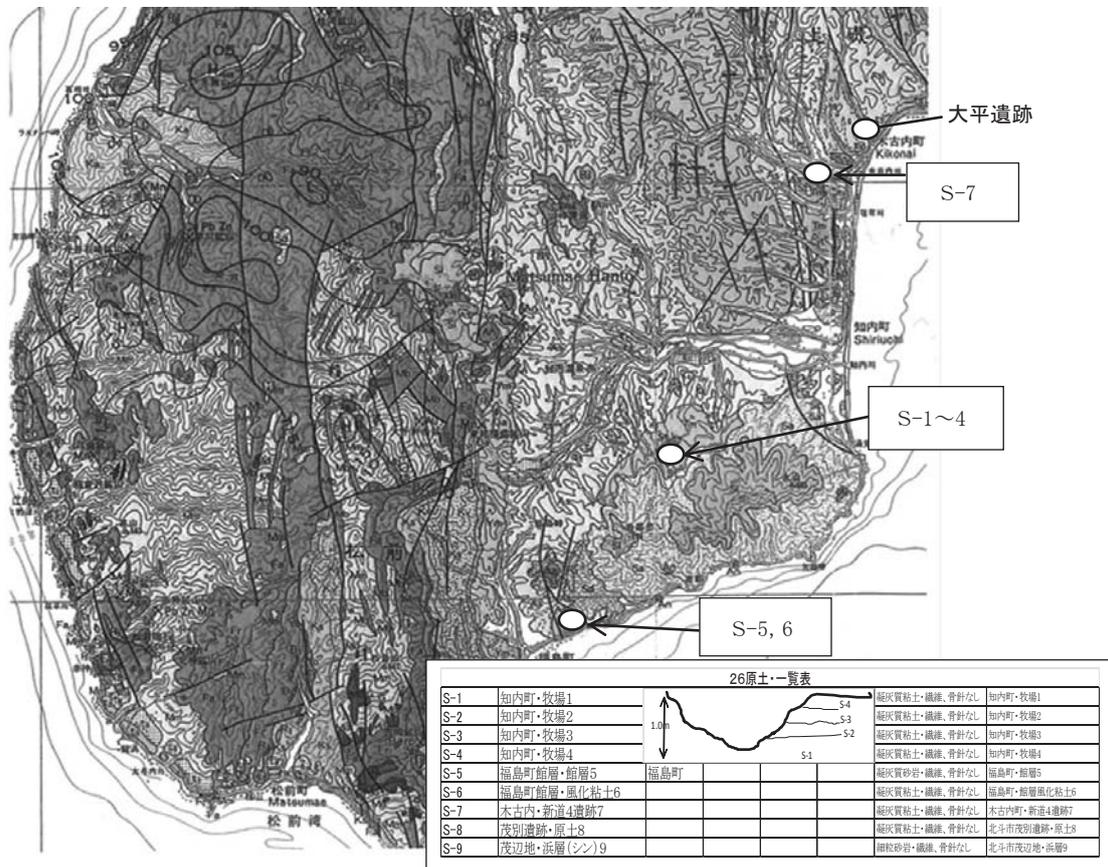
X線回折試験と蛍光X線分析結果に基づいて、大平遺跡1と2、新道4遺跡、茂辺地4遺跡、から出土した土器と周辺地域で採取した原土を表V-6組成分類表に示すように分類した。表V-6組成分類表に示すように、遺跡出土主要土器と少数・異質タイプに分類して表示した。遺跡出土土器は12タイプに分類され、組成的特徴により明確に分かれている。少数・異質タイプは主に周辺地域で採取された原土と異質土器である。

多く検出された組成のタイプ順に記述する。

- 1) 最も多く検出されたのは「Qt-2、Si-4、 Fe_2O_3 -1」タイプで67個が該当する。主に大平遺跡1と2の土器・焼成粘土塊と茂辺地4遺跡の土器が集中し、新道4遺跡の土器が共存する。原土としては知内町の牧場の原土が同じ組成をしており、土器との関連性が窺われる。
- 2) 「Qt-2、Si-2、 Fe_2O_3 -2」タイプは18個が検出され、大平遺跡1と2の焼成粘土塊が集中し、土器が共存する。
- 3) 「Qt-2、Si-2、 Fe_2O_3 -3」タイプは13個が検出され、大平遺跡1の焼成粘土塊が集中し、土器と木古内町の現場露頭の原土と共存する。

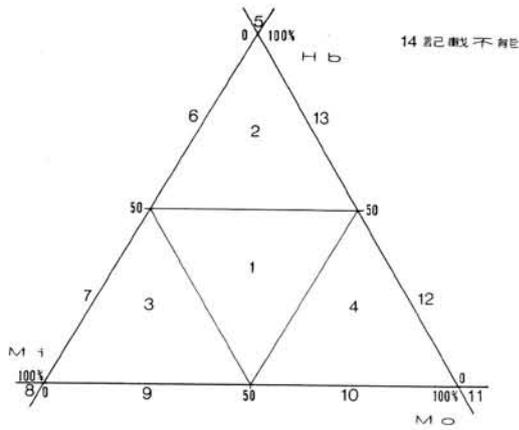
- 4) 「Qt-2、Si-3、Fe₂O₃-2」タイプは13個が検出され、新道4遺跡の土器が集中し、木古内町の現場露頭の原土と共存する。
- 5) 「Qt-2、Si-4、Fe₂O₃-2」タイプは12個が検出され、大平遺跡1と2の土器と焼成粘土塊が集中し、茂辺地4遺跡の土器と福島町の館層土壌サンプルが共存する。
- 6) 「Qt-3、Si-4、Fe₂O₃-1」タイプは9個が検出され、大平遺跡1の土器と焼成粘土塊が集中し、大平遺跡2、茂辺地4遺跡の原土と木古内町の現場露頭の原土と共存する。
- 7) 「Qt-2、Si-3、Fe₂O₃-1」タイプは7個が検出され、新道4遺跡の土器が集中し、茂別遺跡の原土と大平遺跡1の土器が共存する。
- 8) 「Qt-2、Si-6、Fe₂O₃-4」タイプは5個が検出され、木古内町の現場露頭の原土が集中し、福島町の館層の原土が共存する。
- 9) 「Qt-3、Si-4、Fe₂O₃-2」タイプは5個が検出され、大平遺跡1の土器と焼成粘土塊が集中し、大平遺跡2の土器が共存する。
- 10) 「Qt-2、Si-2、Fe₂O₃-1」タイプは4個が検出され、大平遺跡1の土器と焼成粘土塊が集中する。
- 11) 「Qt-2、Si-5、Fe₂O₃-1」タイプは4個が検出され、大平遺跡1の土器と木古内町の現場露頭の原土と共存する。
- 12) 「Qt-3、Si-2、Fe₂O₃-2」タイプは3個が検出され、大平遺跡1の土器と焼成粘土塊、大平遺跡2の土器が共存する。
- 13) 小数・異質タイプ

表に見られるようにこのタイプの多くは土壌サンプルである原土と異質土器である。異質土器は搬入土器である可能性が考えられる。焼成粘土塊系統は試料が小さく、また他の土との混合が考えられるので得わからない。

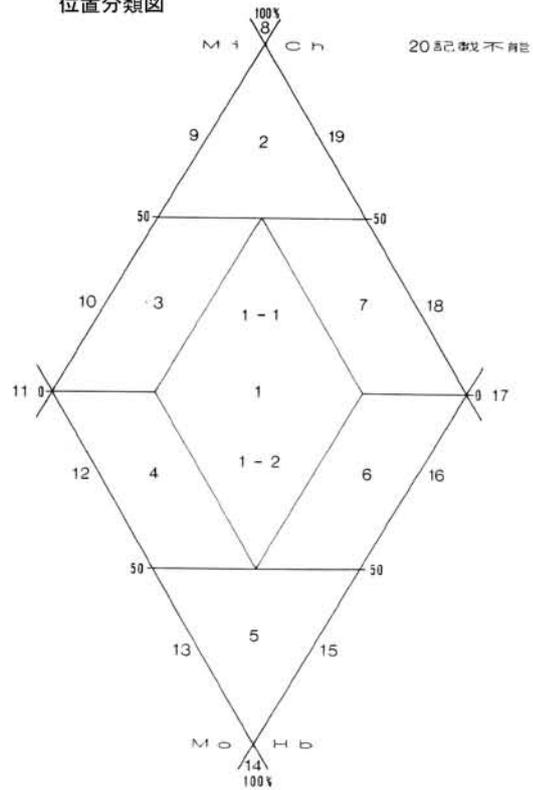


図V-2 館層土壌サンプル採取位置図

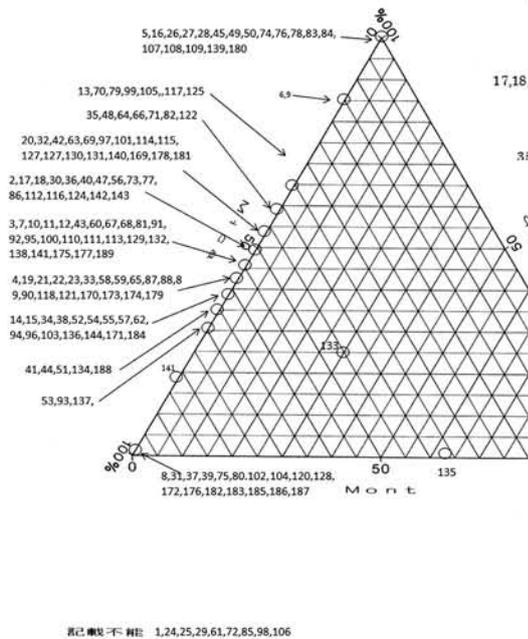
第1図 三角ダイヤグラム
位置分類図



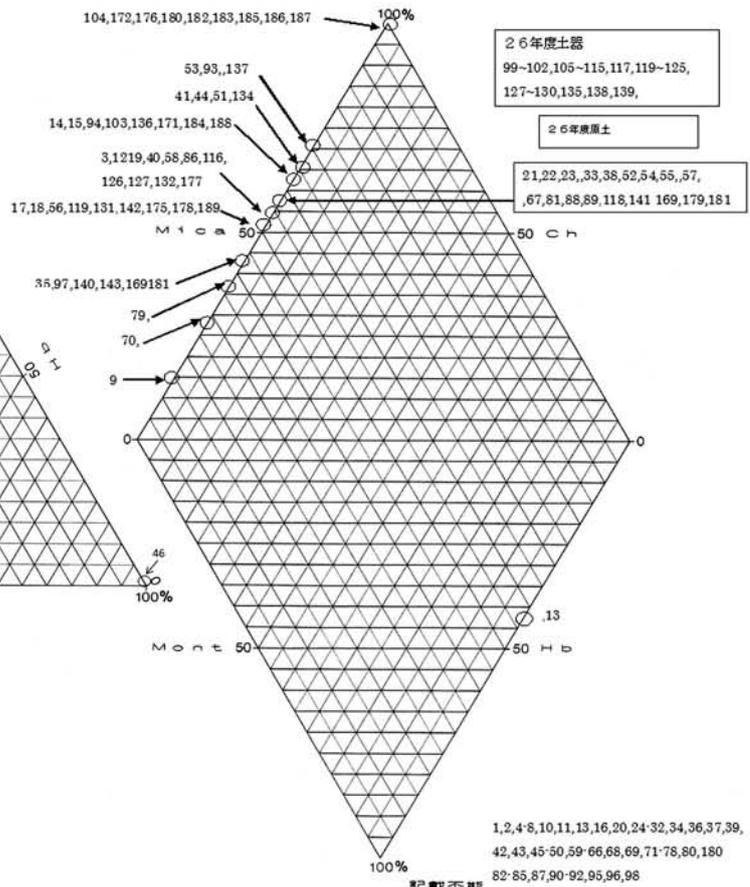
第2図 菱形ダイヤグラム
位置分類図



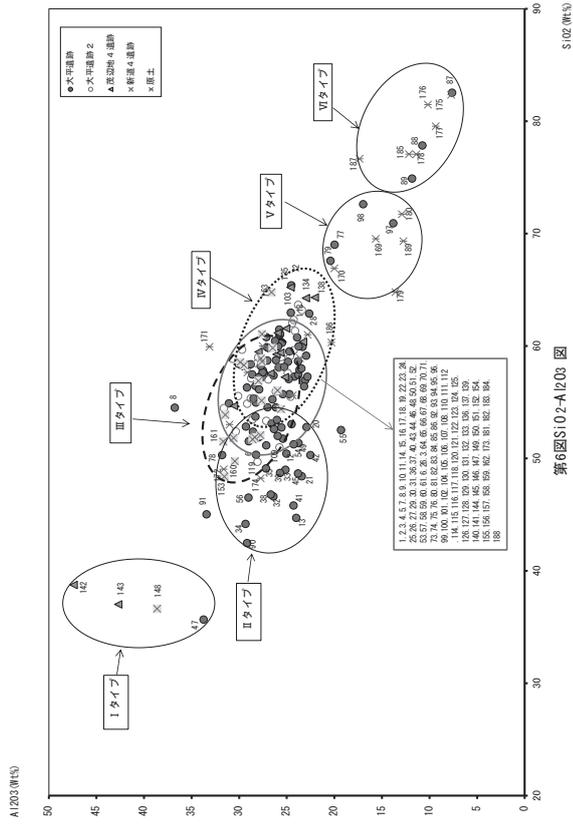
第3図 Mo-Mi-Hb
三角ダイヤグラム



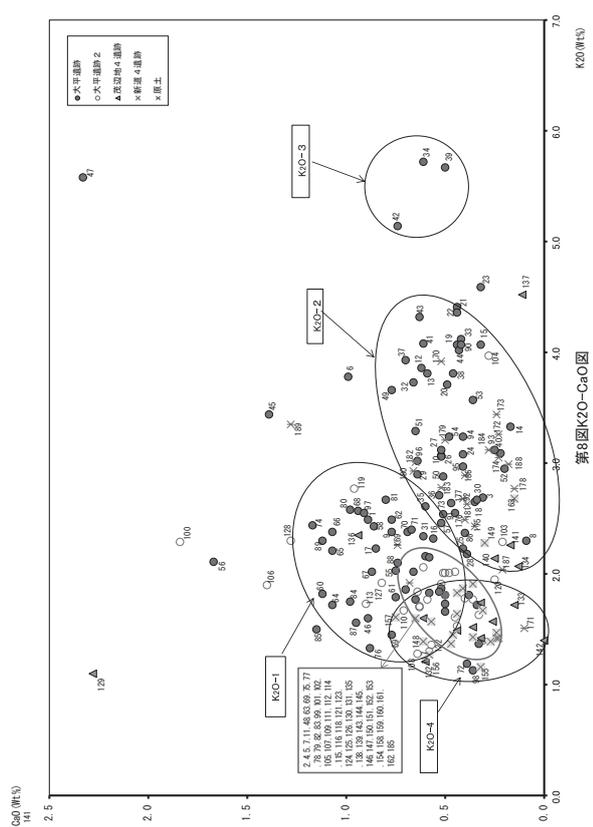
第4図 Mo-Ch,Mi-Hb
菱形ダイヤグラム



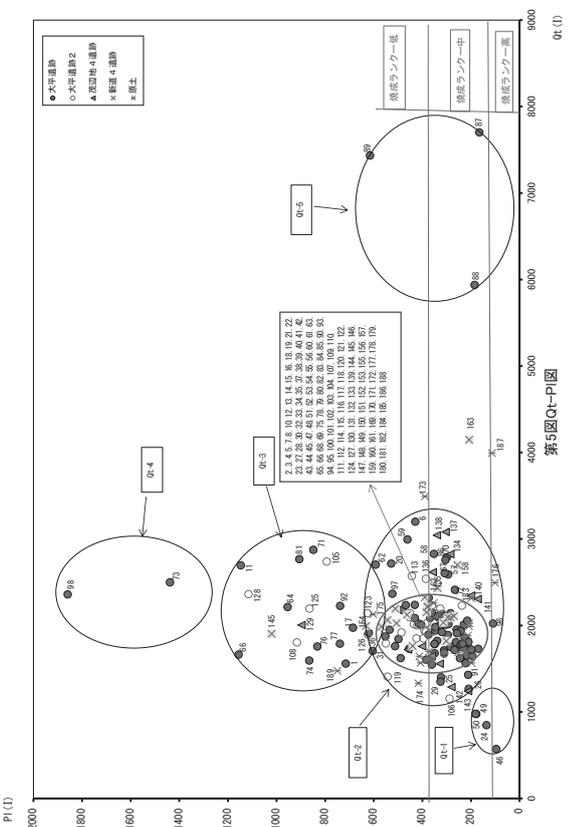
図V-3 ダイヤグラム



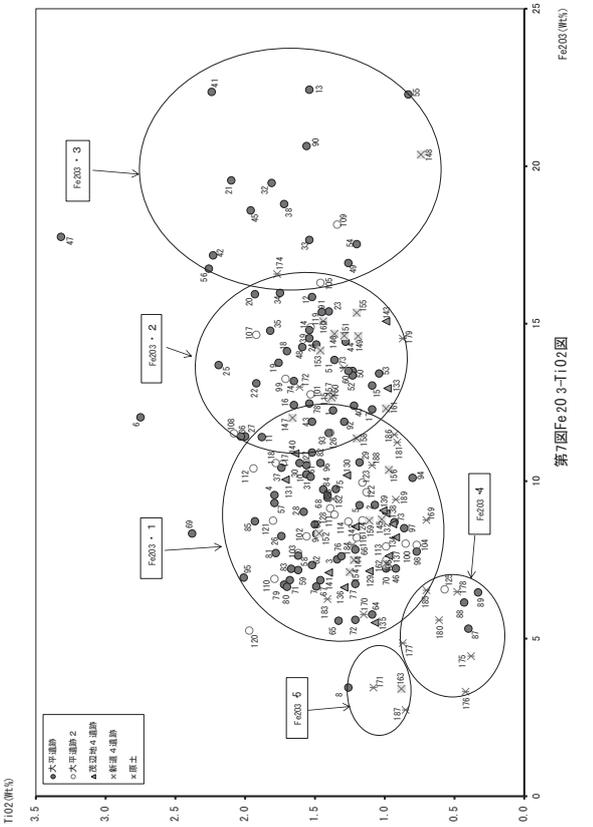
第6図S1O2-A1O3 図



第8図K2O-CaO 図



第5図Q1-P1 図



第7図Fe2O3-T1O2 図

図V-4 化学分析結果領域分布図

表V-3 胎土性状表

Table with columns: 試料 (Sample), 試料No (Sample No), タイプ (Type), 組成分類 (Composition Class), 粘土鉱物および造岩鉱物 (Clay Minerals and Igneous Minerals), and 備考 (Remarks). The table lists various clay mineral and rock mineral compositions for different sample types.

表V-5 タイプ分類表

組成分類			試料	試料	タイプ		備考	
Fe	Si	Qt	通しNo	No	分類			
Aタイプ(24)								
2	4	2	T-16	大平-16	A	焼成粘土塊	米粒状、多量の海綿骨針を含む。多孔質。	大平遺跡1
1	4	2	T-26	大平-26	A	焼成粘土塊	米粒状、多量の海綿骨針・砂粒を含む。多孔質	大平遺跡1
2	4	2	T-27	大平-27	A	焼成粘土塊	涙状、多量の海綿骨針・砂粒を含む。多孔質	大平遺跡1
1	4	2	T-28	大平-28	A	焼成粘土塊	米粒状、多量の海綿骨針・砂粒を含む。多孔質	大平遺跡1
3	2	2	T-45	大平-15	A	焼成粘土塊	米粒状、多量の海綿骨針、少量の砂粒を含む。多孔質。	大平遺跡1
3	2	1	T-49	大平-19	A	焼成粘土塊	タイ米状、多量の海綿骨針・砂粒を含む。多孔質	大平遺跡1
1	4	1	T-50	大平-50	A	焼成粘土塊	タイ米状、多量の海綿骨針・砂粒を含む。多孔質	大平遺跡1
1	4	2	T-5	大平-50	A	土器片	多量の海綿骨針・繊維・砂粒。内面調整粗雑	大平遺跡1
2	2	3	T-74	大平-74	A	土器片	薄手、砂粒・繊維を多量に含む。海綿状骨針は含まない。	大平遺跡1
1	4	3	T-76	大平-76	A	土器片	少量の繊維・砂粒を含む。少量の海綿状骨針を含む。	大平遺跡1
2	2	2	T-78	大平-78	A	土器片	多量の繊維を含む。海綿状骨針を含む。	大平遺跡1
1	4	2	T-83	大平-83	A	土器片	多量の繊維・海綿状骨針を含む。	大平遺跡1
1	4	2	T-84	大平-84	A	土器片	多量の繊維・海綿状骨針を含む。	大平遺跡1
2	4	2	T-107	大平-S-9	A	土器片	多量の繊維・海綿状骨針を多く含む。細粒	大平遺跡2
2	2	3	T-108	大平-S-10	A	土器片	多量の繊維・骨針なし。中粒Qt	大平遺跡2
3	4	2	T-109	大平-S-11	A	土器片	多量の繊維少量・骨針少量。中粒Qt	大平遺跡2
1	4	2	T-139	茂4-S-41	A	土器片	繊維・骨針なし。細粒	茂辺地4遺跡
3	1	2	T-148	新4-S-50	A	土器片(深鉢)	多量の繊維を含む砂粒・骨針を含む	木古内町・新道4遺跡
2	3	2	T-150	新4-S-52	A	土器片(深鉢)	繊維を含むきめ細かい多量の骨針	木古内町・新道4遺跡
2	3	2	T-151	新4-S-53	A	土器片(深鉢)	繊維を含むきめ細かい多量の骨針	木古内町・新道4遺跡
1	3	2	T-152	新4-S-54	A	土器片(深鉢)	繊維を含む砂粒・白色岩片・骨針を含む	木古内町・新道4遺跡
2	3	2	T-155	新4-S-57	A	土器片(深鉢)	繊維を含むきめ細かい多量の骨針	木古内町・新道4遺跡
1	3	2	T-156	新4-S-58	A	土器片(深鉢)	多量の繊維を含むきめ細かい多量の骨針	木古内町・新道4遺跡
2	3	2	T-157	新4-S-59	A	土器片(深鉢)	繊維を含むきめ細かい多量の骨針	木古内町・新道4遺跡
Bタイプ(9)								
2	2	2	T-35	大平-35	B	焼成粘土塊	タイ米状、多量海綿骨針、少量の砂粒を含む。多孔質。	大平遺跡1
1	4	6	T-9	大平-9	B	土器片	厚手。多量海綿骨針・繊維・砂粒を含む。内面調整粗雑	大平遺跡1
1	4	2	T-70	大平-70	B	土器片	多量の繊維・砂粒を含む。少量海綿状骨針を含む。	大平遺跡1
1	5	2	T-79	大平-79	B	土器片	多量繊維。少量の滑石の小破片を含む砂粒を含む。海綿状骨針は含まない。	大平遺跡1
1	4	2	T-116	大平-S-18	B	土器片	多量の繊維・骨針少量。雑	大平遺跡2
1	5	2	T-97	大平-97	B	土壌サンプル(粘土・泥岩)		大平遺跡1
1	4	2	T-140	茂4-S-42	B	土壌サンプル	凝灰質粘土	茂辺地4遺跡遺跡
2	1	2	T-143	茂4-S-45	B	土壌サンプル	凝灰質粘土	茂辺地4遺跡遺跡
1	5	2	T-169	Ks-1	B	土壌サンプル	木古内・現場土壌1	木古内町・新道4遺跡
Cタイプ(27)								
3	2	2	T-13	大平-13	C	焼成粘土塊	タイ米状、赤褐色粒・多量海綿骨針を含む	大平遺跡1
2	2	2	T-20	大平-20	C	焼成粘土塊	米粒状、海綿骨針・砂粒を含まない。きめが細かい。	大平遺跡1
3	2	2	T-32	大平-32	C	焼成粘土塊	タイ米状、海綿骨針・砂粒を含まない。脆弱、多孔質。	大平遺跡1
3	2	2	T-42	大平-42	C	焼成粘土塊	タイ米状、多量海綿骨針・砂粒を含む。多孔質	大平遺跡1
2	4	2	T-48	大平-48	C	焼成粘土塊	米粒状、多量海綿骨針・砂粒を含む。多孔質	大平遺跡1
6	2	2	T-6	大平-6	C	土器片	炭化物付着。多量繊維・砂粒・海綿骨針少量。内面調整丁寧	大平遺跡1
1	4	2	T-63	大平-63	C	土器片	少量の繊維・砂粒を含む。少量海綿状骨針を含む。	大平遺跡1
1	4	3	T-64	大平-64	C	土器片	多量の繊維・砂粒を含む。海綿状骨針を含まない。	大平遺跡1
1	4	3	T-66	大平-66	C	土器片	多量の砂粒、少量の繊維を含む。	大平遺跡1
1	4	2	T-69	大平-69	C	土器片	少量の砂粒、多量の繊維・海綿状骨針を含む。	大平遺跡1
1	4	3	T-71	大平-71	C	土器片	薄手、砂粒・繊維を多量に含む。海綿状骨針は含まない。	大平遺跡1
1	4	2	T-82	大平-82	C	土器片	多量の繊維・海綿状骨針を含む。	大平遺跡1
2	4	2	T-99	大平-S-1	C	土器片	多量の繊維・海綿状骨針を多く含む。細粒	大平遺跡2
2	4	2	T-101	大平-S-3	C	土器片	多量の繊維・海綿状骨針を多く含む。細粒	大平遺跡2
2	4	3	T-105	大平-S-7	C	土器片	多量の繊維・骨針なし。細粒Qt	大平遺跡2
1	4	2	T-114	大平-S-16	C	土器片	多量の繊維少量・骨針少量。粗粒Qt	大平遺跡2
2	4	2	T-115	大平-S-17	C	土器片	繊維・海綿状骨針を中。雑	大平遺跡2
1	4	2	T-117	大平-S-19	C	土器片	多量の繊維・海綿状骨針を多く含む。細粒	大平遺跡2
2	2	2	T-119	大平-S-21	C	土器片	多量の繊維少量・骨針少量。細粒	大平遺跡2
1	4	2	T-122	大平-S-24	C	土器片	多量の繊維・海綿状骨針を多く含む。細粒	大平遺跡2
1	4	2	T-123	大平-S-25	C	土器片	多量の繊維・海綿状骨針を多く含む。細粒	大平遺跡2
1	4	2	T-124	大平-S-26	C	土器片	多量の繊維・骨針少量。雑	大平遺跡2
4	4	3	T-125	大平-S-27	C	土器片	多量の繊維・骨針少量。雑、粗粒Qt多	大平遺跡2
1	4	2	T-127	大平-S-29	C	土器片	繊維中量・骨針中量。細粒	大平遺跡2
1	4	2	T-130	茂4-S-32	C	土器片	繊維少量・骨針少量。細粒	茂辺地4遺跡
2	3	2	T-158	新4-S-60	C	土器片(深鉢)	繊維を含むきめ細かい多量の骨針	木古内町・新道4遺跡
1	3	2	T-162	新4-S-64	C	土器片(深鉢)	繊維を含む砂粒・骨針を含む	木古内町・新道4遺跡
Dタイプ(54)								
2	2	2	T-12	大平-12	D	焼成粘土塊	涙状 脆弱。少量海綿骨針、砂粒が多い	大平遺跡1
2	2	2	T-14	大平-14	D	焼成粘土塊	柿の種状。少量海綿骨針・砂粒、炭化物?を含む	大平遺跡1
2	2	2	T-15	大平-15	D	焼成粘土塊	米粒状、少量海綿骨針・砂粒を含む。	大平遺跡1
2	4	3	T-17	大平-17	D	焼成粘土塊	米粒状、多量海綿骨針、少量の砂粒を含む。多孔質。	大平遺跡1
2	2	2	T-18	大平-18	D	焼成粘土塊	米粒状、海綿骨針なし。多量の砂粒を含む。きめが細かい。	大平遺跡1
2	2	2	T-19	大平-19	D	焼成粘土塊	米粒状、多量海綿骨針、少量の砂粒を含む。多孔質。	大平遺跡1
3	2	2	T-21	大平-21	D	焼成粘土塊	米粒状、海綿骨針なし。少量の砂粒を含む。多孔質。	大平遺跡1
2	2	2	T-22	大平-22	D	焼成粘土塊	米粒状、海綿骨針・砂粒を含まない。きめが細かい。	大平遺跡1
2	2	2	T-23	大平-23	D	焼成粘土塊	タイ米状、海綿骨針・砂粒を含まない。きめが細かい。	大平遺跡1
3	2	2	T-33	大平-33	D	焼成粘土塊	ハスカップ状、海綿骨針・砂粒を含まない。きめが細かい。	大平遺跡1
1	2	2	T-38	大平-38	D	焼成粘土塊	米粒状、海綿骨針・砂粒を含まない。きめが細かい。	大平遺跡1
2	2	2	T-40	大平-40	D	焼成粘土塊	米粒状、海綿骨針・砂粒を含まない。きめが細かい。	大平遺跡1
3	2	2	T-41	大平-41	D	焼成粘土塊	米粒状、海綿骨針・砂粒を含まない。きめが細かい。	大平遺跡1
2	2	2	T-44	大平-44	D	焼成粘土塊	タイ米状、海綿骨針・砂粒を含まない。きめが細かい。	大平遺跡1
2	2	2	T-93	大平-93	D	焼成粘土塊	少量の繊維・砂粒を含む。海綿状骨針は含まない。	大平遺跡1
1	4	2	T-94	大平-94	D	焼成粘土塊	少量の繊維・砂粒を含む。海綿状骨針は含まない。	大平遺跡1
1	4	2	T-3	大平-5	D	土器片	多量の繊維・砂粒、海綿骨針少量。内面調整粗雑	大平遺跡1
3	2	2	T-56	大平-56	D	土器片	多量繊維・砂粒を含む。少量の滑石が認められる。海綿状骨針は含まない。	大平遺跡1
1	4	2	T-57	大平-57	D	土器片	多量繊維。少量の砂粒を含む。海綿状骨針は含まない。58に類似。	大平遺跡1
1	4	2	T-58	大平-58	D	土器片	多量繊維。少量の砂粒を含む。海綿状骨針は含まない。57に類似。	大平遺跡1
1	4	2	T-67	大平-67	D	土器片	多量繊維。少量の砂粒を含む。海綿状骨針は含まない。	大平遺跡1
1	4	3	T-81	大平-81	D	土器片	多量の繊維を含む。海綿状骨針は含まない。	大平遺跡1
1	4	2	T-86	大平-86	D	土器片	薄手、繊維を多量に含む。海綿状骨針は含まない。	大平遺跡1
1	4	2	T-103	大平-S-5	D	土器片	多量の繊維・骨針なし。細粒Qt	大平遺跡2
1	4	2	T-118	大平-S-20	D	土器片	多量の繊維・海綿状骨針を多く含む。細粒	大平遺跡2
2	4	2	T-126	大平-S-28	D	土器片	繊維少量・骨針少量。少量Qt	大平遺跡2
1	4	2	T-131	茂4-S-33	D	土器片	繊維少量・骨針少量。中粒	茂辺地4遺跡
1	4	2	T-132	茂4-S-34	D	土器片	繊維・骨針なし。細粒	茂辺地4遺跡
1	4	2	T-134	茂4-S-36	D	土器片	繊維・骨針なし。細粒	茂辺地4遺跡
1	4	2	T-136	茂4-S-38	D	土器片	繊維・骨針なし。細粒	茂辺地4遺跡
1	4	2	T-137	茂4-S-39	D	土器片	繊維・骨針なし。細粒	茂辺地4遺跡
1	4	2	T-144	新4-S-46	D	土器片(深鉢)	繊維を含むきめ細かい多量の骨針	木古内町・新道4遺跡
2	3	2	T-160	新4-S-62	D	土器片(深鉢)	繊維を含むきめ細かい少量の骨針	木古内町・新道4遺跡

表V-5 タイプ分類表

組成分類			試料	試料	タイプ			
Fe	Si	Qt	通しNo	No	分類	備考		
4	6	5	T-88	大平-88	D	土壌サンプル(土器内の砂)	砂粒少ない。	大平遺跡1
1	2	2	T-51	大平-51	D	土壌サンプル(粘土)	プラスチックビッド、壁、ローム上部 層厚20cm	大平遺跡1
1	2	2	T-52	大平-52	D	土壌サンプル(粘土)	プラスチックビッド、壁、ローム上部 層厚40-50cm	大平遺跡1
1	4	2	T-53	大平-53	D	土壌サンプル(粘土)		大平遺跡1
3	2	2	T-54	大平-54	D	土壌サンプル(粘土)		大平遺跡1
3	2	2	T-55	大平-55	D	土壌サンプル(粘土・泥岩)		大平遺跡1
4	6	5	T-89	大平-89	D	土壌サンプル	砂粒多い。	大平遺跡1
1	4	2	T-141	茂4-S-43	D	土壌サンプル	凝灰質粘土	茂辺地4遺跡
1	1	2	T-142	茂4-S-14	D	土壌サンプル	凝灰質粘土	茂辺地4遺跡
1	5	2	T-170	大平-Ks-2	D	土壌サンプル	木古内・現場土壌2	木古内露頭採取原土
5	3	2	T-171	大平-Ks-3	D	土壌サンプル	木古内・現場土壌3	木古内露頭採取原土
2	3	2	T-173	大平-Ks-5	D	土壌サンプル	木古内・現場土壌5	木古内露頭採取原土
3	2	2	T-174	大平-Ks-6	D	土壌サンプル	木古内・現場土壌6	木古内露頭採取原土
4	6	2	T-175	Ks-7	D	土壌サンプル	大平・木古内・河口	木古内露頭採取原土
4	6	2	T-177	Ks-9	D	土壌サンプル	大平・木古内・橋下	木古内露頭採取原土
4	6	2	T-178	Ks-10	D	土壌サンプル	大平・木古内・橋下	木古内露頭採取原土
2	5	2	T-179	Ks-11	D	土壌サンプル	大平・木古内内・熊谷	木古内露頭採取原土
1	4	2	T-181	知-S-1	D	土壌サンプル	凝灰質砂岩・繊維、骨針なし	知内町・牧場1
1	4	2	T-184	知-S-4	D	土壌サンプル	凝灰質粘土・繊維、骨針なし	知内町・牧場4
1	3	2	T-188	茂-S-8	D	土壌サンプル	凝灰質粘土・繊維、骨針なし	北斗市茂辺地遺跡・原土8
1	5	3	T-189	茂4-S-9	D	土壌サンプル	凝灰質砂岩・繊維、骨針なし	北斗市茂辺地4遺跡・浜層9
Eタイプ(38)								
2	4	3	T-11	大平-11	E	焼成粘土塊	角柱状、脆弱、多量の海綿骨針、砂粒少ない	大平遺跡1
1	4	2	T-30	大平-30	E	焼成粘土塊	米粒状、多量の海綿骨針、少量の砂粒を含む。多孔質。	大平遺跡1
2	2	2	T-34	大平-34	E	焼成粘土塊	米粒状、海綿骨針なし、少量の砂粒を含む。きめが細かい。	大平遺跡1
2	4	3	T-36	大平-36	E	焼成粘土塊	タイ米状、少量の海綿骨針・砂粒を含む。多孔質。	大平遺跡1
2	2	2	T-43	大平-43	E	焼成粘土塊	米粒状、細かな海綿骨針を少量含む。砂粒を含まない。きめが細かい。	大平遺跡1
6	1	2	T-47	大平-47	E	焼成粘土塊	米粒状、多量の海綿骨針・砂粒を含む。多孔質	大平遺跡1
3	2	2	T-90	大平-90	E	焼成粘土塊	少量の繊維・砂粒を含む。海綿状骨針は含まない。	大平遺跡1
2	2	2	T-91	大平-91	E	焼成粘土塊	少量の繊維・砂粒を含む。海綿状骨針は含まない。	大平遺跡1
2	2	3	T-92	大平-92	E	焼成粘土塊	繊維・砂粒・海綿状骨針は含まない。	大平遺跡1
1	4	2	T-95	大平-95	E	焼成粘土塊	繊維・砂粒を含まない。少量の海綿状骨針を含む。	大平遺跡1
1	4	2	T-96	大平-96	E	焼成粘土塊	繊維・砂粒・海綿状骨針は含まない。	大平遺跡1
1	4	2	T-2	大平-2	E	土器片	多量の海綿骨針・繊維、砂粒少ない。内面調整丁寧	大平遺跡1
1	4	2	T-4	大平-4	E	土器片	多量の海綿骨針・繊維、砂粒少ない。内面調整丁寧	大平遺跡1
1	4	2	T-7	大平-7	E	土器片	多量の海綿骨針・繊維、砂粒少ない。内面調整丁寧	大平遺跡1
1	4	2	T-10	大平-10	E	土器片	多量の海綿骨針・繊維、砂粒少ない。内面調整粗雑	大平遺跡1
1	4	2	T-59	大平-59	E	土器片	多量の繊維・砂粒を含む。少量の海綿状骨針を含む。	大平遺跡1
2	4	2	T-60	大平-60	E	土器片	多量の繊維・少量の砂粒を含む。海綿状骨針を含む。	大平遺跡1
1	4	2	T-62	大平-62	E	土器片	多量の繊維・砂粒を含む。少量の滑石粒・海綿状骨針を含む。	大平遺跡1
1	4	2	T-65	大平-65	E	土器片	多量の繊維・砂粒を含む。少量の海綿状骨針を含む。	大平遺跡1
1	4	2	T-68	大平-68	E	土器片	多量繊維、少量の砂粒を含む。海綿状骨針は含まない。	大平遺跡1
1	4	4	T-73	大平-73	E	土器片	多量繊維、少量の滑石の小破片を含む。海綿状骨針は含まない。	大平遺跡1
1	5	3	T-77	大平-77	E	土器片	多量の繊維・砂粒を含む。少量の海綿状骨針を含む。	大平遺跡1
1	4	2	T-100	大平-S-2	E	土器片	多量の繊維・海綿状骨針を多く含む。細粒、粗粒のQt含む	大平遺跡2
1	4	2	T-110	大平-S-12	E	土器片	多量の繊維・骨針少量。細粒	大平遺跡2
1	4	2	T-111	大平-S-13	E	土器片	多量の繊維・骨針少量。細粒	大平遺跡2
1	4	2	T-112	大平-S-14	E	土器片	多量の繊維・海綿状骨針を多く含む。細粒	大平遺跡2
1	4	2	T-113	大平-S-15	E	土器片	繊維少量・骨針少量。粗粒Qt	大平遺跡2
1	4	2	T-121	大平-S-23	E	土器片	繊維少量・骨針少量。貝質	大平遺跡2
1	4	3	T-129	茂4-S-31	E	土器片	繊維・骨針少量。粗粒・異質	茂辺地4遺跡
1	4	2	T-138	茂4-S-40	E	土器片	繊維・骨針なし。細粒	茂辺地4遺跡
1	4	3	T-145	新4-S-17	E	土器片(深鉢)	繊維を含む。砂粒多い。少量の白色岩片・骨針を含む	木古内町・新道4遺跡
2	3	2	T-146	新4-S-18	E	土器片(深鉢)	繊維を含む。少量の砂粒・骨針を含む	木古内町・新道4遺跡
2	3	2	T-147	新4-S-19	E	土器片(深鉢)	繊維を含む。きめ細かい。多量の骨針	木古内町・新道4遺跡
2	3	2	T-149	新4-S-51	E	土器片(深鉢)	繊維を含む。砂粒・骨針を含む	木古内町・新道4遺跡
2	3	2	T-153	新4-S-55	E	土器片(深鉢)	繊維を含む。きめ細かい。多量の骨針	木古内町・新道4遺跡
1	3	2	T-154	新4-S-56	E	土器片(深鉢)	繊維を含む。砂粒・白色岩片・骨針を含む	木古内町・新道4遺跡
4	3	2	T-159	新4-S-61	E	土器片(深鉢)	繊維を含む。きめ細かい。多量の骨針	木古内町・新道4遺跡
1	6	5	T-87	大平-87	E	土壌サンプル	砂粒多い。	大平遺跡1
Fタイプ(10)								
1	4	3	T-31	大平-31	F	焼成粘土塊	ハスカップ状、海綿骨針・砂粒は含まない。きめが細かい。	大平遺跡1
1	2	2	T-37	大平-37	F	焼成粘土塊	ハスカップ状、海綿骨針・砂粒は含まない。きめが細かい。	大平遺跡1
2	2	2	T-39	大平-39	F	焼成粘土塊	米粒状、海綿骨針・砂粒は含まない。きめが細かい。	大平遺跡1
5	3	2	T-8	大平-8	F	土器片	多量の海綿骨針・繊維、砂粒を含む。内面調整粗雑	大平遺跡1
1	3	2	T-75	大平-75	F	土器片	多量の繊維・白色の岩粒を含む。海綿状骨針は含まない。	大平遺跡1
1	4	2	T-80	大平-80	F	土器片	少量の繊維・砂粒を含む。海綿状骨針は含まない。	大平遺跡1
1	4	2	T-104	大平-S-6	F	土器片	多量の繊維・骨針なし。細粒Qt	大平遺跡2
2	3	2	T-172	大平-Ks-4	F	土壌サンプル	木古内・現場土壌4	木古内露頭採取原土
4	6	2	T-176	Ks-8	F	土壌サンプル	大平・木古内・橋下	木古内露頭採取原土
4	5	2	T-180	Ks-12	F	土壌サンプル	大平・当別漁港・海岸	木古内露頭採取原土
Gタイプ(4)								
1	4	1	T-46	大平-46	G	焼成粘土塊	酸化物付着？、タイ米状、海綿骨針・砂粒は含まない。きめが細かい。	大平遺跡1
1	4	2	T-102	大平-S-4	G	土器片	多量の繊維・粗粒Qt含む。骨針なし	大平遺跡2
1	4	2	T-120	大平-S-22	G	土器片	多量の繊維・骨針少量。細粒	大平遺跡2
1	4	3	T-128	大平-S-30	G	土器片	繊維・骨針少量。細粒	大平遺跡2
Hタイプ(8)								
2	2	1	T-24	大平-24	H	焼成粘土塊	米粒状、海綿骨針・砂粒は含まない。きめが細かい。	大平遺跡1
2	4	2	T-25	大平-25	H	焼成粘土塊	米粒状、多量の海綿骨針・砂粒を含む。多孔質	大平遺跡1
1	4	2	T-29	大平-29	H	焼成粘土塊	米粒状、多量の海綿骨針・砂粒を含む。多孔質	大平遺跡1
2	4	3	T-1	大平-1	H	土器片	繊維・砂粒多く含む。海綿骨針なし。内面調整粗雑	大平遺跡1
1	4	2	T-61	大平-61	H	土器片	多量の繊維を含む。多量の海綿状骨針を含む。	大平遺跡1
1	4	2	T-72	大平-72	H	土器片	多量の繊維・白色の岩粒を含む。海綿状骨針は含まない。	大平遺跡1
1	4	2	T-85	大平-85	H	土器片	薄手、砂粒・繊維を多量に含む。海綿状骨針は含まない。	大平遺跡1
1	5	4	T-98	大平-98	H	土器片	砂粒多く、海綿状骨針は含まない。繊維は少ない 北線系土器？	大平遺跡1
Iタイプ(1)								
2	4	2	T-133	茂4-S-35	I	土器片	繊維・骨針なし。細粒	茂辺地4遺跡
Jタイプ(2)								
1	4	2	T-106	大平-S-8	J	土器片	多量の繊維・骨針なし。Qt多	大平遺跡2
1	4	2	T-135	茂4-S-37	J	土器片	繊維・骨針なし。細粒	茂辺地4遺跡
Lタイプ(7)								
2	3	2	T-161	新4-S-63	L	土器片(深鉢)	繊維を含む。きめ細かい。多量の骨針	木古内町・新道4遺跡
5	3	7	T-163	新4-S-65	L	土器片(深鉢)	砂粒・白色岩片多い	木古内町・新道4遺跡
1	4	2	T-182	知-S-2	L	土壌サンプル	凝灰質粘土・繊維、骨針なし	知内町・牧場2
1	4	2	T-183	知-S-3	L	土壌サンプル	凝灰質粘土・繊維、骨針なし	知内町・牧場3
4	6	2	T-185	福-S-5	L	土壌サンプル	凝灰質砂岩・繊維、骨針なし	福島町・館屋5
2	4	2	T-186	福-S-5	L	土壌サンプル	凝灰質粘土・繊維、骨針なし	福島町・館屋風化粘土6
5	6	7	T-187	新4-S-7	L	土壌サンプル	凝灰質粘土・繊維、骨針なし	新道4遺跡

表V-6 組成分類表

組成分類			試料	試料	タイプ			備考
Fe	Si	Qt	通しNo	No	分類			
Qt-2, Si-2 Fe-1(4)								
1	2	2	T-37	大平-37	F	焼成粘土塊	ハスカップ状、海綿骨針・砂粒を含まない。きめが細かい。	大平遺跡1
1	2	2	T-38	大平-38	D	焼成粘土塊	米粒状、海綿骨針・砂粒を含まない。きめが細かい。	大平遺跡1
1	2	2	T-51	大平-51	D	土壌サンプル(粘土)	フラスコ状ピット、壁、ロム上部 層厚20cm	大平遺跡1
1	2	2	T-52	大平-52	D	土壌サンプル(粘土)	フラスコ状ピット、壁、ロム下部 層厚40~50cm	大平遺跡1
Qt-2, Si-2 Fe-2(18)								
2	2	2	T-12	大平-12	D	焼成粘土塊	涙状、脆弱。少量の海綿骨針、砂粒が多い	大平遺跡1
2	2	2	T-14	大平-14	D	焼成粘土塊	柿の種状。少量の海綿骨針・砂粒、炭化物?を含む	大平遺跡1
2	2	2	T-15	大平-15	D	焼成粘土塊	米粒状、少量の海綿骨針・砂粒を含む。	大平遺跡1
2	2	2	T-18	大平-18	D	焼成粘土塊	米粒状、海綿骨針なし。多量の砂粒を含む。きめが細かい。	大平遺跡1
2	2	2	T-19	大平-19	D	焼成粘土塊	米粒状、多量の海綿骨針、少量の砂粒を含む。多孔質。	大平遺跡1
2	2	2	T-20	大平-20	C	焼成粘土塊	米粒状、海綿骨針・砂粒を含まない。きめが細かい。	大平遺跡1
2	2	2	T-22	大平-22	D	焼成粘土塊	米粒状、海綿骨針・砂粒を含まない。きめが細かい。	大平遺跡1
2	2	2	T-23	大平-23	D	焼成粘土塊	タイ米状、海綿骨針・砂粒を含まない。きめが細かい。	大平遺跡1
2	2	2	T-34	大平-34	E	焼成粘土塊	米粒状、海綿骨針なし。少量の砂粒を含む。きめが細かい。	大平遺跡1
2	2	2	T-35	大平-35	B	焼成粘土塊	タイ米状、多量の海綿骨針、少量の砂粒を含む。多孔質。	大平遺跡1
2	2	2	T-39	大平-39	F	焼成粘土塊	米粒状、海綿骨針・砂粒を含まない。きめが細かい。	大平遺跡1
2	2	2	T-40	大平-40	D	焼成粘土塊	米粒状、海綿骨針・砂粒を含まない。きめが細かい。	大平遺跡1
2	2	2	T-43	大平-43	E	焼成粘土塊	米粒状、細かな海綿骨針等を少量含む。砂粒を含まない。きめが細かい。	大平遺跡1
2	2	2	T-44	大平-44	D	焼成粘土塊	タイ米状、海綿骨針・砂粒を含まない。きめが細かい。	大平遺跡1
2	2	2	T-91	大平-91	E	焼成粘土塊	少量の繊維・砂粒を含む。海綿骨針は含まない。	大平遺跡1
2	2	2	T-93	大平-93	D	焼成粘土塊	少量の繊維・砂粒を含む。海綿骨針は含まない。	大平遺跡1
2	2	2	T-78	大平-78	A	土器片	多量の繊維を含む。海綿骨針を含む。	大平遺跡1
2	2	2	T-119	大平-S-21	C	土器片	多量の繊維少量・骨針少量。細粒	大平遺跡2
Qt-2, Si-2 Fe-3(13)								
3	2	2	T-13	大平-13	C	焼成粘土塊	タイ米状、赤褐色粒・多量に海綿骨針を含む	大平遺跡1
3	2	2	T-21	大平-21	D	焼成粘土塊	米粒状、海綿骨針なし。少量の砂粒を含む。多孔質。	大平遺跡1
3	2	2	T-32	大平-32	C	焼成粘土塊	タイ米状、海綿骨針・砂粒を含まない。脆弱。多孔質。	大平遺跡1
3	2	2	T-33	大平-33	D	焼成粘土塊	ハスカップ状、海綿骨針・砂粒を含まない。きめが細かい。	大平遺跡1
3	2	2	T-41	大平-41	D	焼成粘土塊	米粒状、海綿骨針・砂粒を含まない。きめが細かい。	大平遺跡1
3	2	2	T-42	大平-42	C	焼成粘土塊	タイ米状、多量の海綿骨針・砂粒を含む。多孔質。	大平遺跡1
3	2	2	T-45	大平-45	A	焼成粘土塊	米粒状、多量の海綿骨針、少量の砂粒を含む。多孔質。	大平遺跡1
3	2	2	T-90	大平-90	E	焼成粘土塊	少量の繊維・砂粒を含む。海綿骨針は含まない。	大平遺跡1
3	2	2	T-56	大平-56	D	土器片	多量繊維・砂粒を含む。少量の滑石が認められる。海綿骨針は含まない。	大平遺跡1
6	2	2	T-6	大平-6	C	土器片	炭化物付着。多量の繊維、砂粒・海綿骨針少量。内面調整丁寧	大平遺跡1
3	2	2	T-54	大平-54	D	土壌サンプル(粘土)		大平遺跡1
3	2	2	T-55	大平-55	D	土壌サンプル(粘土、泥岩)		大平遺跡1
3	2	2	T-174	大平-Ks-6	D	土壌サンプル	本古内・現場土壌6	本古内・露頭採取原土
Qt-2, Si-3 Fe-1(7)								
1	3	2	T-75	大平-75	F	土器片	多量の繊維・白色の滑石を含む。海綿骨針は含まない。	大平遺跡1
1	3	2	T-152	新4-S-54	A	土器片(深鉢)	繊維を含む砂粒・白色岩片・骨針を含む	本古内町・新道4遺跡
1	3	2	T-154	新4-S-56	E	土器片(深鉢)	繊維を含む砂粒・白色岩片・骨針を含む	本古内町・新道4遺跡
1	3	2	T-156	新4-S-58	A	土器片(深鉢)	多量の繊維を含むきめ細かい・多量の骨針	本古内町・新道4遺跡
1	3	2	T-159	新4-S-61	C	土器片(深鉢)	繊維を含むきめ細かい・多量の骨針	本古内町・新道4遺跡
1	3	2	T-162	新4-S-64	C	土器片(深鉢)	繊維を含む砂粒・骨針を含む	本古内町・新道4遺跡
1	3	2	T-188	茂-S8-8	D	土壌サンプル	凝灰質粘土・繊維、骨針なし	北斗茂別遺跡・原土8
Qt-2, Si-3 Fe-2(13)								
2	3	2	T-146	新4-S-48	E	土器片(深鉢)	繊維を含む少量の砂粒・骨針を含む	本古内町・新道4遺跡
2	3	2	T-147	新4-S-49	E	土器片(深鉢)	繊維を含むきめ細かい・多量の骨針	本古内町・新道4遺跡
2	3	2	T-149	新4-S-51	E	土器片(深鉢)	繊維を含む砂粒・骨針を含む	本古内町・新道4遺跡
2	3	2	T-150	新4-S-52	A	土器片(深鉢)	繊維を含むきめ細かい・多量の骨針	本古内町・新道4遺跡
2	3	2	T-151	新4-S-53	A	土器片(深鉢)	繊維を含むきめ細かい・多量の骨針	本古内町・新道4遺跡
2	3	2	T-153	新4-S-55	E	土器片(深鉢)	繊維を含むきめ細かい・多量の骨針	本古内町・新道4遺跡
2	3	2	T-155	新4-S-57	A	土器片(深鉢)	繊維を含むきめ細かい・多量の骨針	本古内町・新道4遺跡
2	3	2	T-157	新4-S-59	A	土器片(深鉢)	繊維を含むきめ細かい・多量の骨針	本古内町・新道4遺跡
2	3	2	T-158	新4-S-60	C	土器片(深鉢)	繊維を含むきめ細かい・多量の骨針	本古内町・新道4遺跡
2	3	2	T-160	新4-S-62	D	土器片(深鉢)	繊維を含むきめ細かい・少量の骨針	本古内町・新道4遺跡
2	3	2	T-161	新4-S-63	L	土器片(深鉢)	繊維を含むきめ細かい・多量の骨針	本古内町・新道4遺跡
2	3	2	T-172	大平-Ks-4	F	土壌サンプル	本古内・現場土壌4	本古内・露頭採取原土
2	3	2	T-173	大平-Ks-5	D	土壌サンプル	本古内・現場土壌5	本古内・露頭採取原土
Qt-2, Si-4 Fe-2(12)								
2	4	2	T-16	大平-16	A	焼成粘土塊	米粒状、多量の海綿骨針を含む。多孔質。	大平遺跡1
2	4	2	T-25	大平-25	H	焼成粘土塊	米粒状、多量の海綿骨針・砂粒を含む。多孔質。	大平遺跡1
2	4	2	T-27	大平-27	A	焼成粘土塊	涙状、多量の海綿骨針・砂粒を含む。多孔質。	大平遺跡1
2	4	2	T-48	大平-48	C	焼成粘土塊	米粒状、多量の海綿骨針・砂粒を含む。多孔質。	大平遺跡1
2	4	2	T-60	大平-60	E	土器片	多量の繊維。少量の砂粒を含む。海綿骨針を含む。	大平遺跡1
2	4	2	T-99	大平-S-1	C	土器片	多量の繊維・海綿骨針を多く含む。細粒	大平遺跡2
2	4	2	T-101	大平-S-3	C	土器片	多量の繊維・海綿骨針を多く含む。細粒	大平遺跡2
2	4	2	T-107	大平-S-9	A	土器片	多量の繊維・海綿骨針を多く含む。細粒	大平遺跡2
2	4	2	T-115	大平-S-17	C	土器片	繊維・海綿骨針を中。雑	大平遺跡2
2	4	2	T-126	大平-S-28	D	土器片	繊維少量・骨針少量。少量Qt	大平遺跡2
2	4	2	T-133	茂-S-35	I	土器片	繊維・骨針なし。細粒	茂辺地4遺跡
2	4	2	T-186	福-S8-6	L	土壌サンプル	凝灰質粘土・繊維、骨針なし	福島町・船着風化粘土6
Qt-2, Si-5 Fe-1(4)								
1	5	2	T-79	大平-79	B	土器片	多量繊維。少量の滑石の小破片を含む砂粒を含む。海綿骨針は含まない。	大平遺跡1
1	5	2	T-97	大平-97	B	土壌サンプル(粘土、泥岩)		大平遺跡1
1	5	2	T-169	大平-Ks-1	B	土壌サンプル	本古内・現場土壌1	本古内・露頭採取原土
1	5	2	T-170	大平-Ks-2	D	土壌サンプル	本古内・現場土壌2	本古内・露頭採取原土
Qt-2, Si-6 Fe-4(5)								
4	6	2	T-175	Ks-7	D	土壌サンプル	大平・本古内・河口	本古内・露頭採取原土
4	6	2	T-176	Ks-8	F	土壌サンプル	大平・本古内・橋下	本古内・露頭採取原土
4	6	2	T-177	Ks-9	D	土壌サンプル	大平・本古内・橋下	本古内・露頭採取原土
4	6	2	T-178	Ks-10	D	土壌サンプル	大平・本古内・橋下	本古内・露頭採取原土
4	6	2	T-185	福-S8-5	L	土壌サンプル	細粒砂岩・繊維、骨針なし	福島町・船着5
Qt-3, Si-2 Fe-2(3)								
2	2	3	T-92	大平-92	E	焼成粘土塊	繊維・砂粒・海綿骨針は含まない。	大平遺跡1
2	2	3	T-74	大平-74	A	土器片	薄平、砂粒・繊維を多量に含む。海綿骨針は含まない。	大平遺跡1
2	2	3	T-108	大平-S-10	A	土器片	多量の繊維・骨針なし。中粒Qt	大平遺跡2
Qt-3, Si-4 Fe-1(9)								
1	4	3	T-31	大平-31	F	焼成粘土塊	ハスカップ状、海綿骨針・砂粒を含まない。きめが細かい。	大平遺跡1
1	4	3	T-64	大平-64	C	土器片	多量の繊維・砂粒を含む。海綿骨針を含まない。	大平遺跡1
1	4	3	T-66	大平-66	C	土器片	多量の砂粒。少量の繊維を含む。	大平遺跡1
1	4	3	T-71	大平-71	C	土器片	薄平、砂粒・繊維を多量に含む。海綿骨針は含まない。	大平遺跡1
1	4	3	T-76	大平-76	A	土器片	少量の繊維・砂粒を含む。少量の海綿骨針を含む。	大平遺跡1
1	4	3	T-81	大平-81	D	土器片	多量の繊維を含む。海綿骨針を含まない。	大平遺跡1
1	4	3	T-128	大平-S-30	G	土器片	繊維・骨針少量。細粒	大平遺跡2
1	4	3	T-129	茂-S-31	E	土器片	繊維・骨針少量。粗粒・異質	茂辺地4遺跡
1	4	3	T-145	新4-S-47	E	土器片(深鉢)	繊維を含む砂粒多い・少量の白色岩片・骨針を含む	本古内町・新道4遺跡
Qt-3, Si-4 Fe-2(5)								
2	4	3	T-11	大平-11	E	焼成粘土塊	角柱状、脆弱。多量の海綿骨針、砂粒少ない	大平遺跡1
2	4	3	T-17	大平-17	D	焼成粘土塊	米粒状、多量の海綿骨針、少量の砂粒を含む。多孔質。	大平遺跡1
2	4	3	T-36	大平-36	E	焼成粘土塊	タイ米状、少量の海綿骨針・砂粒を含む。多孔質。	大平遺跡1
2	4	3	T-1	大平-1	H	土器片	繊維・砂粒多く含む。海綿骨針なし。内面調整粗雑	大平遺跡1
2	4	3	T-105	大平-S-7	C	土器片	多量の繊維・骨針なし。細粒Qt	大平遺跡2

表V-6 組成分類表

組成分類			試料	試料	タイプ	備 考
Fe	Si	Qt	通しNo	No	分類	
Qt-2, Si-4 Fe-1 (67)						
1	4	2	T-26	大平-26	A	焼成粘土塊
1	4	2	T-28	大平-28	A	米粒状、多量の海綿骨針・砂粒を含む。多孔質
1	4	2	T-29	大平-29	H	米粒状、多量の海綿骨針・砂粒を含む。多孔質
1	4	2	T-30	大平-30	E	米粒状、多量の海綿骨針・少量の砂粒を含む。多孔質
1	4	2	T-94	大平-94	D	少量の繊維・砂粒を含む。海綿状骨針は含まない。
1	4	2	T-95	大平-95	E	繊維・砂粒を含まない。少量の海綿状骨針を含む。
1	4	2	T-96	大平-96	E	繊維・砂粒・海綿状骨針は含まない。
1	4	2	T-2	大平-2	D	多量の海綿骨針・繊維、砂粒少ない。内面調整粗雑
1	4	2	T-3	大平-3	D	多量の繊維・砂粒、海綿骨針少量。内面調整粗雑
1	4	2	T-4	大平-4	E	多量の海綿骨針・繊維、砂粒少ない。内面調整粗雑
1	4	2	T-5	大平-5	A	多量の海綿骨針・繊維、砂粒、内面調整粗雑
1	4	2	T-7	大平-75	E	多量の海綿骨針・繊維、砂粒少ない。内面調整粗雑
1	4	2	T-10	大平-10	E	多量の海綿骨針・繊維、砂粒少ない。内面調整粗雑
1	4	2	T-57	大平-57	D	多量繊維、少量の砂粒を含む。海綿状骨針は含まない。58に類似。
1	4	2	T-58	大平-58	D	多量繊維、少量の砂粒を含む。海綿状骨針は含まない。57に類似。
1	4	2	T-59	大平-59	E	多量の繊維・砂粒を含む。少量の海綿状骨針を含む。
1	4	2	T-61	大平-61	H	多量の繊維を含む。多量の海綿状骨針を含む。
1	4	2	T-62	大平-62	E	多量の繊維・砂粒を含む。少量の滑石粒・海綿状骨針を含む。
1	4	2	T-63	大平-63	C	少量の繊維・砂粒を含む。少量の海綿状骨針を含む。
1	4	2	T-65	大平-65	E	多量の繊維・砂粒を含む。少量の海綿状骨針を含む。
1	4	2	T-67	大平-67	D	多量繊維、少量の砂粒を含む。海綿状骨針は含まない。
1	4	2	T-68	大平-68	E	多量繊維、少量の砂粒を含む。海綿状骨針は含まない。
1	4	2	T-69	大平-69	C	少量の砂粒、多量の繊維・海綿状骨針を含む。
1	4	2	T-70	大平-70	B	多量の繊維・砂粒を含む。少量の海綿状骨針を含む。
1	4	2	T-72	大平-72	H	多量の繊維・白色の粒を含む。海綿状針は含まない。
1	4	2	T-80	大平-80	F	少量の繊維・砂粒を含む。海綿状骨針は含まない。
1	4	2	T-82	大平-82	C	多量の繊維・海綿状骨針を含む。
1	4	2	T-83	大平-83	A	多量の繊維・海綿状骨針を含む。
1	4	2	T-84	大平-84	A	多量の繊維・海綿状骨針を含む。
1	4	2	T-85	大平-85	H	薄手、砂粒・繊維を多量に含む。海綿状骨針は含まない。
1	4	2	T-86	大平-86	D	薄手、繊維を多量に含む。海綿状骨針は含まない。
1	4	2	T-100	大平-S-2	E	多量の繊維・海綿状骨針を多く含む。細粒、粗粒のQtを含む
1	4	2	T-102	大平-S-4	G	多量の繊維・粗粒talk含む。骨針なし
1	4	2	T-103	大平-S-5	D	多量の繊維・骨針なし。細粒Qt
1	4	2	T-104	大平-S-6	F	多量の繊維・骨針なし。細粒Qt
1	4	2	T-106	大平-S-8	J	多量の繊維・骨針なし。Qt多
1	4	2	T-110	大平-S-12	E	多量の繊維・骨針少量。細粒
1	4	2	T-111	大平-S-13	E	多量の繊維・骨針少量。細粒
1	4	2	T-112	大平-S-14	E	多量の繊維・海綿状骨針を多く含む。細粒
1	4	2	T-113	大平-S-15	E	繊維少量・骨針少量。粗粒Qt
1	4	2	T-114	大平-S-16	C	多量の繊維少量・骨針少量。粗粒Qt
1	4	2	T-116	大平-S-18	B	多量の繊維・骨針少量。雑
1	4	2	T-117	大平-S-19	C	多量の繊維・海綿状骨針を多く含む。細粒
1	4	2	T-118	大平-S-20	D	多量の繊維・海綿状骨針を多く含む。細粒
1	4	2	T-120	大平-S-22	G	多量の繊維・骨針少量。細粒
1	4	2	T-121	大平-S-23	E	繊維少量・骨針少量。良質
1	4	2	T-122	大平-S-24	C	多量の繊維・海綿状骨針を多く含む。細粒
1	4	2	T-123	大平-S-25	C	多量の繊維・海綿状骨針を多く含む。細粒
1	4	2	T-124	大平-S-26	C	多量の繊維・骨針少量。雑
1	4	2	T-127	大平-S-29	C	繊維中量・骨針中量。細粒
1	4	2	T-130	茂4-S-33	C	繊維少量・骨針少量。細粒
1	4	2	T-131	茂4-S-33	D	繊維少量・骨針少量。中粒
1	4	2	T-132	茂4-S-34	D	繊維・骨針なし。細粒
1	4	2	T-134	茂4-S-36	D	繊維・骨針なし。細粒
1	4	2	T-135	茂4-S-37	J	繊維・骨針なし。細粒
1	4	2	T-136	茂4-S-38	D	繊維・骨針なし。細粒
1	4	2	T-137	茂4-S-39	D	繊維・骨針なし。細粒
1	4	2	T-138	茂4-S-40	E	繊維・骨針なし。細粒
1	4	2	T-139	茂4-S-41	A	繊維・骨針なし。細粒
1	4	2	T-144	新4-S-46	D	土器片(深鉢)
1	4	2	T-53	大平-53	D	土壌サンプル(粘土)
1	4	2	T-140	茂4-S-42	B	凝灰質粘土
1	4	2	T-141	茂4-S-43	D	土壌サンプル
1	4	2	T-181	知-SS-1	D	凝灰質粘土・繊維・骨針なし
1	4	2	T-182	知-SS-2	L	凝灰質粘土・繊維・骨針なし
1	4	2	T-183	知-SS-3	L	凝灰質粘土・繊維・骨針なし
1	4	2	T-184	知-SS-4	D	凝灰質粘土・繊維・骨針なし
少数・異質タイプ						
Qt-1, Si-4 Fe-1 (2)						
1	4	1	T-46	大平-46	G	炭化物付着?、タイ米状、海綿骨針・砂粒を含まない。きめが細かい。
1	4	1	T-50	大平-50	A	タイ米状、多量の海綿骨針・砂粒を含む。多孔質
Qt-2, Si-3 Fe-5 (2)						
5	3	2	T-8	大平-8	F	土器片
5	3	2	T-171	Ks-3	D	土壌サンプル
Qt-2, Si-4 Fe-3 (1)						
3	4	2	T-109	大平-S-11	A	土器片
Qt-2, Si-5 Fe-1 (1)						
2	5	2	T-179	Ks-11	D	土壌サンプル
Qt-2, Si-5 Fe-4 (1)						
4	5	2	T-180	Ks-12	F	土壌サンプル
Qt-3, Si-4 Fe-4 (1)						
4	4	3	T-125	大平-S-27	C	土器片
Qt-3, Si-5 Fe-1 (2)						
1	5	3	T-77	大平-77	E	土器片
1	5	3	T-189	茂4-SS-9	D	土壌サンプル
Qt-4, Si-4 Fe-1 (1)						
1	4	4	T-73	大平-73	E	土器片
Qt-4, Si-5 Fe-1						
1	5	4	T-98	大平-98	H	土器片
Qt-5, Si-6 Fe-4 (3)						
4	6	5	T-87	大平-87	E	土壌サンプル
4	6	5	T-88	大平-88	D	土壌サンプル(土器内の砂)
4	6	5	T-89	大平-89	D	土壌サンプル
Qt-6, Si-4 Fe-1 (1)						
1	4	6	T-9	大平-98	B	土器片
Qt-7, Si-3 Fe-5 (1)						
5	3	7	T-163	新4-S-65	L	土器片(深鉢)
Qt-7, Si-6 Fe-5 (1)						
5	6	7	T-187	新4-SS-7	L	土壌サンプル
Qt-1, Si-2 Fe-2 (1)						
2	2	1	T-24	大平-24	H	焼成粘土塊
Qt-1, Si-2 Fe-3 (1)						
3	2	1	T-49	大平-49	A	焼成粘土塊
Qt-2, Si-1 Fe-1 (1)						
1	1	2	T-142	茂4-S-44	D	土壌サンプル
Qt-2, Si-1 Fe-2 (1)						
2	1	2	T-143	茂4-S-45	B	土壌サンプル
Qt-2, Si-1 Fe-3 (1)						
3	1	2	T-148	新4-S-50	A	土器片(深鉢)
Qt-2, Si-1 Fe-5 (1)						
6	1	2	T-47	大平-47	E	焼成粘土塊

3 木古内町大平遺跡出土の炭化種実

佐々木由香・バンダリ スダルシャン (パレオ・ラボ)

1. はじめに

大平遺跡は北海道上磯郡木古内町に位置し、津軽海峡を臨む標高約10mの段丘上に立地する。遺跡では、縄文前期後半を主体とする遺構が検出された。ここでは、遺構内などから得られた炭化種実の同定を行い、利用された種実について検討した。

2. 試料と方法

試料は、水洗選別済みまたは発掘現場で取り上げられた試料で、1試料あたり複数の炭化種実を含む201試料と堅果類の295試料の、計496試料である。遺構の時期は、縄文時代前期後半(円筒土器下層b～d式期)がほとんどで、一部縄文時代前期～中期初頭と後期初頭、晩期後半、擦文期がある。遺構名と時期については、表V-7・8を参照されたい。

水洗試料の土壌の採取から水洗、種実の抽出までの作業は、北海道埋蔵文化財センターによって行われた。水洗は2.0mmと0.425mm目の篩を用いて、浮遊物と下に溜まった沈殿物が回収された。水洗前の土壌重量は表を参照されたい。種実の同定・計数は、肉眼および実体顕微鏡下で行った。計数の方法は、完形または一部が破損しても1個体とみなせるものは完形として数え、1個体に満たないものは破片とした。試料および残渣は、北海道埋蔵文化財センターに保管されている。

3. 結果

木本植物では、オニグルミ炭化核とクリ炭化果実・炭化子葉、コブシ炭化種子、マタタビ属炭化種子、キハダ炭化果実・炭化種子、ウルシ属-ヌルデ炭化内果皮、ブドウ属炭化種子、ミズキ炭化核、ニワトコ炭化核の9分類群、草本植物では、イヌタデ炭化果実とイシミカワ炭化果実・炭化子葉、サナエタデーオオイヌタデ炭化果実、ウナギツカミ炭化果実・炭化子葉、タデ属炭化果実・炭化子葉、ギシギシ属炭化果実、アカザ属炭化種子、ハギ属炭化種子、ササゲ属アズキ亜属炭化種子、エノキグサ属炭化種子、ゴボウ炭化果実、ヒエ属(縄文ヒエ型)炭化種子、ヒエ属炭化種子、キビ炭化種子、アワ炭化種子、ササ属炭化種子、イネ科炭化種子の17分類群の、計26分類群であった。このほかに、科以上の詳細な同定ができなかった種実を不明炭化種実としてAからDにタイプ分けした。残存が悪く、微細な破片であるため識別点を欠く同定不能な一群を同定不能炭化種実とした。種実以外には、炭化した芽と虫えい、子嚢菌(塊含む)、未炭化種実が大量に含まれていた。未炭化種実は、屋外で土壌が天日乾燥されたため、現生の混入の可能性が高いと考えられている。表V-7・8に同定試料No.別の同定結果を示す。

以下に、炭化種実の産出傾向を時期・遺構別に記載する(不明と同定不能炭化種実は除く)。

・縄文時代前期後半

[住居跡]

H-13：オニグルミとクリがわずかに得られた。

H-17：オニグルミが少量、クリがわずかに得られた。

H-21：オニグルミとクリ、ヒエ属がわずかに得られた。

H-23：オニグルミが非常に多く、クリとキハダ、ウナギツカミが多量、マタタビ属とニワトコが少量、ウルシ属-ヌルデ、ブドウ属、ミズキ、サナエタデーオオイヌタデ、タデ属、ツユクサ、アズキ亜属、ハギ属、ヒエ属(縄文ヒエ型)、ヒエ属、ササ属がわずかに得られた。

H-25：ヒエ属(縄文ヒエ型)が少量得られた。

- H-26：オニグルミが少量得られた。
H-27：オニグルミがわずかに得られた。
H-28：オニグルミが多量に得られた。
H-29：同定可能な種実は得られなかった。
H-30：オニグルミとクリが多量、キハダが少量、マタタビ属とミズキ、サナエタデーオオイヌタデ、ウナギツカミ、エノキグサ属、ヒエ属（縄文ヒエ型）がわずかに得られた。
H-36：オニグルミとクリが多量、マタタビ属、キハダが少量、ミズキ、ニワトコ、イヌタデ、イシミカワ、サナエタデーオオイヌタデ、ウナギツカミ、タデ属、アズキ亜属、ヒエ属（縄文ヒエ型）がわずかに得られた。
H-37：オニグルミが多量、イヌタデとイシミカワ、サナエタデーオオイヌタデが少量、ミズキとウナギツカミ、タデ属、ギシギシ属、ゴボウ、ヒエ属（縄文ヒエ型）、ヒエ属がわずかに得られた。
H-38：オニグルミがわずかに得られた。
H-41：オニグルミが少量得られた。
H-43：クリが多量に得られた。
H-49：クリが多量に得られた。
H-51：オニグルミとクリがわずかに得られた。
H-52：オニグルミがわずかに得られた。
H-53：同定可能な種実は得られなかった。

[土坑]

- P-11：オニグルミがわずかに得られた。
P-12：オニグルミがわずかに得られた。
P-17：オニグルミとキハダ、タデ属がわずかに得られた。
P-33：オニグルミがやや多く、クリが少量、キハダがわずかに得られた。
P-37：ウナギツカミが非常に多く、オニグルミが多量、クリがやや多く、マタタビ属とキハダ、ミズキ、ニワトコ、イヌタデ、タデ属、ギシギシ属、アカザ属、ヒエ属、ヒエ属（縄文ヒエ型）、イネ科がわずかに得られた。
P-38：オニグルミが少量、キハダとタデ属、イネ科がわずかに得られた。
P-45：オニグルミとヒエ属（縄文ヒエ型）、ヒエ属がわずかに得られた。
P-47：オニグルミがわずかに得られた。
P-48：ゴボウがわずかに得られた。
P-49：オニグルミとクリがわずかに得られた。
P-60：オニグルミとクリがわずかに得られた。
P-79：オニグルミとキハダ、ブドウ属、ニワトコがわずかに得られた。
P-107：オニグルミが少量得られた。
P-109：オニグルミがわずかに得られた。

[焼土]

- F-3：オニグルミが少量、クリとキハダがわずかに得られた。
F-6：オニグルミがわずかに得られた。
F-8：オニグルミがわずかに得られた。
F-9：オニグルミがわずかに得られた。

- F-12：オニグルミとクリがわずかに得られた。
 F-13：オニグルミとクリ、ニワトコがわずかに得られた。
 F-16：オニグルミがわずかに得られた。
 F-18：オニグルミとクリ、タデ属がわずかに得られた。
 F-19：クリがわずかに得られた。
 F-21：オニグルミがわずかに得られた。
 F-28：オニグルミがわずかに得られた。
 F-40：オニグルミがわずかに得られた。
 F-41：オニグルミとニワトコ、ヒエ属（縄文ヒエ型）がわずかに得られた。
 F-56：オニグルミとニワトコがわずかに得られた。
 F-65：クリが多量、オニグルミがわずかに得られた。
 F-67：オニグルミがわずかに得られた。
 F-68：オニグルミとクリがわずかに得られた。
 F-69：オニグルミがわずかに得られた。
 F-70：クリとミズキがわずかに得られた。
 F-71：オニグルミが少量、クリがわずかに得られた。
 F-72：オニグルミとクリ、ニワトコがわずかに得られた。
 F-73：オニグルミがわずかに得られた。
 F-74：オニグルミとキハダがわずかに得られた。
 F-81：オニグルミが少量得られた。
 F-92：クリが少量得られた。

[剥片集中]

- FC-126：クリが少量得られた。

[遺構外]

- M96区盛土下：同定可能な種実は何れも得られなかった。
 M97区盛土粘土：クリがわずかに得られた。

・縄文時代前期末～中期初頭

[住居跡]

- H-44：オニグルミとイシミカワがわずかに得られた。

[土坑]

- P-64：ニワトコがわずかに得られた。

・縄文時代後期初頭

[住居跡]

- H-10：クリとコブシがわずかに得られた。

・縄文時代晩期後半

[土坑]

- P-4：同定可能な種実は何れも得られなかった。

・擦文期

[住居跡]

- H-9：オニグルミがわずかに得られた。

H-11：同定可能な種実は得られなかった。

H-12：タデ属がわずかに得られた。

H-18：サナエタデーオオイヌタデとキビ、アワがわずかに得られた。

H-19：アワが少量、オニグルミがわずかに得られた。

H-31：エノキグサ属とキビ、アワがわずかに得られた。

次に、得られた主要な分類群の記載を行い、図版に写真を示して同定の根拠とする。

(1) オニグルミ *Juglans mandshurica* Maxim. var. *sieboldiana* (Maxim.) Makino 炭化核 クルミ科
すべて破片であるが、完形ならば側面観は広卵形。木質で、壁は厚くて硬く、ときどき空隙がある。表面に浅い縦方向の縫合線があり、浅い溝と凹凸が不規則に入る。断面は角が尖るものが多い。内部は二室に分かれる。最大の大きさで、残存長25.9mm、残存幅18.4mm、残存厚7.3mm。

(2) クリ *Castanea crenata* Sieb. et Zucc. 炭化果実・炭化子葉 ブナ科

果実は、完形ならば側面は広卵形。表面は平滑で、細い縦筋がみられる。下端に鱗状の殻斗着痕がある。果皮内面にはいわゆる渋皮が厚く付着する。最大の破片で、残存長7.6mm、残存幅6.0mm、残存厚5.0mm。子葉は、側面観が広卵形で、縦方向に深いしわ状の溝がある。しわ以外の面は平坦でやや光沢があり、硬質。長さ11.1mm、幅12.8mm、厚さ5.8mm。

(3) コブシ *Magnolia kobus* DC. 炭化種子 モクレン科

上面観は腎形、側面観は広卵形。基部に大きな着点を持つ。着点は周辺がへこみ、中央部がやや突出する。表面は平滑で、光沢がある。長さ6.4mm、幅7.1mm。

(4) マタタビ属 *Actinidia* spp. 炭化種子 マタタビ科

上面観は長楕円形、側面観は倒卵形または楕円形。表面には五角形や六角形、円形、楕円形などの窪みが連なる規則的な網目状隆線がある。壁は薄く硬い。長さ1.9mm、幅1.2mm。サルナシやマタタビなど、種までの同定には至らなかった。

(5) キハダ *Phellodendron amurense* Rupr. 炭化果実・炭化種子 ミカン科

果実は完形ならば球形で、内部に種子の一部がみえる。残存長5.4mm、幅9.2mm、厚さ8.0mm。種子の上面観は両凸レンズ形、側面観は三日月形。表面に亀甲状で大きさのやや揃った細かい網目状隆線がある。壁は厚く硬い。長さ4.0mm、幅2.5mm。

(6) ウルシ属-ヌルデ *Toxicodendron* spp. - *Rhus javanica* L. 炭化内果皮 ウルシ科

上面観は中央がやや膨らむ扁平、側面観は中央がややくびれた広楕円形で、どちらかが膨れる三角形になる。ざらついた質感がある。壁は軟質。表面および断面構造の詳細な検討を行えなかったので、ウルシ属-ヌルデの同定に留めた。表および結果の記載では、実体顕微鏡下での同定であるウルシ属-ヌルデで一括した。長さ2.3mm、幅3.0mm。

(7) ブドウ属 *Vitis* spp. 炭化種子 ブドウ科

上面観は楕円形、側面観は先端が尖る卵形。背面の中央もしくは基部寄りに匙状の着点があり、腹面は縦方向に2本の深い溝がある。種皮は薄く硬い。ヤマブドウ以外のブドウ属である。最大の大きさで、長さ4.8mm、幅3.9mm、厚さ3.0mm。

(8) ミズキ *Swida controversa* (Hemsl. ex Prain) Soják 炭化核 ミズキ科

ゆがんだ球形、上端がわずかに尖る。基部に裂けたような大きな着点がある。種皮は厚い。本来は縦方向に流れるような深い溝と隆起が走るが、明瞭ではなかった。長さ3.0mm、幅4.0mm。

(9) ニワトコ *Sambucus racemosa* L. subsp. *sieboldiana* (Miq.) H.Hara 炭化核 スイカズラ科

上面観は扁平、側面観は楕円形で基部がやや尖る。基部に小さな着点があり、縦方向にやや反る。

波状の凹凸が横方向に走る。長さ2.2mm、幅1.5mm。

(10) イヌタデ *Persicaria longiseta* (De Bruyn) Kitagawa 炭化果実 タデ科

上面観は三稜形、側面観は広卵形。先端部が突出する。表面は平滑で、他のタデ属より光沢がある。稜が幅広い。長さ1.8mm、幅1.5mm。

(11) イシミカワ *Persicaria perfoliata* (L.) H.Gross 炭化果実 タデ科

果実の上面観は両凸レンズ形、側面観は円形。果皮はやや硬く、強い光沢がある。下端に円形の大きな着点がある。長さ2.7mm、幅2.4mm。子葉は球形で、長さ2.4mm、幅2.5mm。

(12) サナエタデーオオイヌタデ *Persicaria scabra* (Moench) Mold. - *Persicaria lapathifolia* (L.) S.F.Gray 炭化果実 タデ科

上面観は扁平で両凸レンズ形、側面観は広卵形で先端が尖る。表面は平滑で、やや光沢がある。長さ1.7mm、幅1.5mm。

(13) ウナギツカミ *Persicaria sieboldii* (Meisn.) Ohki 炭化果実・炭化子葉 タデ科

果実の側面観は広卵形、断面は三稜形。側面観は基部側がやや丸みを帯びる。先端が尖る。イヌタデに類似するが、やや大型である。長さ2.6mm、幅2.3mm。子葉は、側面観は広卵形、断面は三稜形。表面はざらつく。長さ2.2mm、幅2.0mm。

(14) タデ属 *Polygonum* spp. 炭化果実・炭化子葉 タデ科

側面観は紡錘形、断面は三稜形。表面は平滑で光沢がある。長さ1.4mm、幅1.0mm。

(15) ギンギン属 *Rumex* spp. 炭化果実 タデ科

側面観は狭倒卵形、断面は三稜形。両端が尖る。稜は薄く、翼状になる。表面は平滑で光沢はない。長さ2.0mm、幅1.7mm。

(16) アカザ属 *Chenopodium* spp. 炭化種子 アカザ科

上面観はやや扁平、側面観は完形ならば円形。種皮は強い光沢があり、硬い。着点の一端がやや突起し、中心部方向にむかって浅い溝がある。残存長0.8mm、幅0.8mm。

(17) ハギ属 *Lespedeza* sp. 炭化種子 マメ科

上面観・側面観ともに楕円形。下端寄りに楕円形の小さいへそがある。表面は平滑で光沢がある。長さ1.5mm、幅1.1mm。

(18) ササゲ属アズキ亜属 *Vigna* subgen. *Caratotropis* 炭化種子 マメ科

上面観は方形に近い円形、側面観は方形に近い楕円形。臍は小畑ほか(2007)に示されたアズキ亜属の特徴である、長楕円形のへその内部に厚膜(Epithilum)が残存する。へそは全長の半分から2/3ほどの長さ。長さ3.6mm、幅2.6mm、厚さ2.4mm。小畑(2008)に示された現生種と大きさを比較すると、野生種のヤブツルアズキに近い。

(19) エノキグサ属 *Acalypha* spp. 炭化種子 トウダイグサ科

上面観は円形、側面観は倒卵形。表面には細かい網目模様があり、ざらつく。種皮は断面が柵状で、薄く硬い。長さ1.8mm、幅1.3mm。

(20) ゴボウ *Arctium lappa* L. 炭化果実 キク科

上面観は扁平、側面観は狭倒卵形。頂部は平らで冠毛痕の輪状の隆線に縁取られ、中央は窪む。縦に隆線が走る。長さ4.9mm、幅2.2mm。

(21) ヒエ属(縄文ヒエ型) *Echinochloa* sp. 炭化種子(穎果) イネ科

側面観が円形、断面が片凸レンズ形で、厚みは薄くやや扁平である。胚は幅が広く、長さは全長の2/3程度と長い。臍は幅が広いうちわ型。計測可能な37点の大きさは、長さ1.2~1.6(平均1.4±0.1)

mm、幅1.1～1.4（平均1.3±0.1）mm。

(22) ヒエ属 *Echinochloa* spp. 炭化種子（穎果）イネ科

側面観が卵形、断面は片凸レンズ形であるが、厚みは薄くやや扁平である。胚は幅が広くうちわ型で、長さは全長の2/3程度と長い。栽培種のヒエよりやや細長い形状で、野生種のイヌビエに近い。長さ1.3mm、幅1.0mm。

(23) キビ *Panicum miliaceum* L. 炭化種子（穎果）イネ科

側面観は卵形で、先端が窄まってやや尖り気味となる。断面は片凸レンズ形で厚みがある。胚の長さは全長の1/2程度と短い。胚は幅が広いうちわ型。長さ2.2mm、幅2.0mm。

(24) アワ *Setaria italica* P.Beauv. 炭化種子（穎果）イネ科

上面観は楕円形、側面観は円形に近い。腹面下端中央の窪んだ位置に細長い楕円形の胚があり、長さは全長の2/3程度。長さ1.4mm、幅1.5mm。

(25) ササ属 *Sasa* sp. 炭化種子（穎果）イネ科

狭卵形体で、やや扁平。両端がやや細い。背面はわずかに曲線をなすが、腹面はよく湾曲し、下端に円形の胚がある。長さ4.1mm、幅2.1mm、厚さ1.7mm。

(26) イネ科 Gramineae sp. 炭化種子（穎果）

上面観は楕円形、側面観はいびつな卵形。腹面に細長い楕円形の胚があり、長さは全長の1/2程度。長さ1.2mm、幅0.6mm。

(27) 不明A Unknown A 炭化種実

上面観は長楕円形、側面観は完形ならば楕円形か。全体の1/2以下が残存したと思われる。表面は平滑。長さ5.8mm、幅2.7mm。

(28) 不明B Unknown B 炭化種実

上面観は楕円形。側面観は卵形。先端が尖る。状態が悪く表面構造は確認できない。長さ5.1mm、幅3.8mm。

(29) 不明C Unknown C 炭化種実

上面観は扁平、側面観はいびつな楕円形。表面は平滑で、先端部がやや突出する。状態が悪い。長さ5.4mm、幅3.0mm。

(30) 不明D Unknown D 炭化種実

上面観は長楕円形、側面観は楕円形で側面の一端が窪む。表面は平滑。光沢がある。長さ1.7mm、幅2.3mm。

4. 考察

縄文時代前期後半（円筒土器下層b～d式期）、縄文前期～中期初頭、縄文後期初頭、縄文晩期後半、擦文期の遺構から出土した炭化種実を同定した結果、多量でかつ多種類の炭化種実が得られた。以下、時期別に考察を行う。

[縄文時代前期後半（円筒土器下層b～d式期）]

栽培植物ではゴボウ、日本列島で栽培化された植物としてヒエ属があり、ヒエ属は野生種に近いヒエ属のタイプと、栽培種に近い丸みを帯びたタイプ、いわゆる「縄文ヒエ」型（吉崎，2007）が確認された。吉崎昌一（1995）では縄文時代前期後半にはかなり広い地域でヒエ属の粗放な農耕が始まっていた可能性が指摘されており、本遺跡の結果とも整合的である。ゴボウは住居跡H-37のみから得られ、出土位置は焼土層と覆土の炭化物層であった。

ウルシ属—ヌルデは、栽培種のウルシと野生種のヤマウルシやツタウルシなどの可能性があるが、種レベルの同定は外部形態からはできなかった。今後、内果皮の断面構造などの検討が必要である。

食用可能な種実として、オニグルミとクリ、マタタビ属、キハダ、ブドウ属、ミズキ、ニフトコ、

ササゲ属アズキ亜属、ササ属が得られた。大型の堅果類ではオニグルミとクリが確認され、ドングリ類は確認できなかった。オニグルミとクリは食用にならない核や果実の破片が多い点を考慮すると、加工時の残渣がほとんどと考えられる。H-23・H-36ではササゲ属アズキ亜属は2点出土しており、計測可能な1点の大きさは長さ3.6mm、幅2.6mm、厚さ2.4mmで、野生種のヤブツルアズキに近い大きさであった。青森県三内丸山遺跡では、縄文時代前期中葉～後葉の北の谷から、縄文時代前期では全国最多の33点のアズキ亜属が確認されている（佐々木・バンダリ，2015）。三内丸山遺跡のアズキ亜属種子の大きさの平均値は長さ 3.5 ± 0.4 mm、幅 2.4 ± 0.3 mm、厚さ 2.5 ± 0.3 mmで、本遺跡の種子の大きさはその標準偏差内であった。北海道でのササ属の出土例は縄文時代後期の恵庭市カリンバ3遺跡などであるが、縄文時代前期後半の例は知られていない（山田・椿坂，2009）。本遺跡では、住居跡H-23から2点のササ属が得られており、確実に住居跡に伴う種子かどうかの検討が必要である。これらのほか、タデ属やアカザ属は種によっては利用可能である。コブシなどの木本植物と、サナエタデーオオイヌタデやイヌタデ、イシミカワ、ウナギツカミ、ギシギシ属、エノキグサ属、ハギ属、ツユクサ、イネ科などの草本植物は、偶発的に混入した可能性がある。

[縄文前期末～中期初頭]

住居跡H-44からは、オニグルミとイシミカワがわずかに得られた。オニグルミは加工後の残渣である核が燃やされた可能性が考えられる。草地や道端に生育するイシミカワは、偶発的に炭化した可能性がある。P-64からニワトコが得られている。

[縄文後期初頭]

住居跡H-10から、クリとコブシがわずかに得られた。コブシについては偶発的に混入した可能性がある。

[縄文晩期後半]

土壌からは同定可能な種実は得られなかった。

[擦文期]

住居跡6軒のうち、5軒の焼土層やカマドから炭化種実が得られ、うち2軒から栽培植物のキビとアワが得られた。また食用可能なオニグルミが2軒から得られた。1軒から得られた草本植物のタデ属は種によっては食用できる。1軒から得られたエノキグサ属は、道端に生育していたものが偶発的に炭化した可能性や、畑の雑草でもあるため、アワやキビとともに収穫されて住居内に持ち込まれた可能性などが考えられる。

引用文献

- 小畑弘己（2008）マメ科種子同定法。小畑弘己編「極東先史古代の穀物3」:225-252, 熊本大学。
- 小畑弘己・佐々木由香・仙波靖子（2007）土器圧痕からみた縄文時代後・晩期における九州のダイズ栽培。植生史研究, 15-2, 97-114。
- 佐々木由香・バンダリ スダグシヤン（2015）北の谷から出土した大型植物遺体。青森県教育庁文化財保護課編「三内丸山遺跡42」:91-101, 青森県教育委員会。
- 山田悟郎・椿坂恭代（2009）遺跡から出土したササ属種子について。北海道開拓記念館研究紀要, 37, 13-22。
- 吉崎昌一（1995）日本における栽培植物の出現。季刊考古学, 50, 18-24。
- 吉崎昌一（1997）縄文時代の栽培植物。第四紀研究, 36-5, 343-346。

Ⅵ まとめ

大平遺跡の調査では住居跡54軒・フラスコ状ピット64基・土坑52基、柱穴状ピット36基・Tピット2基・盛土遺構・焼土・フレイク集中が検出された。今回の報告では、住居跡46軒・フラスコ状ピット63基・土坑50基、柱穴状ピット36基・Tピット2基について報告を行った。盛土遺構・焼土・フレイク集中、包含層出土の遺物については整理中である。したがって、ここでは現段階で得られた見通しを述べ、詳細な考察は次年度以降の報告で行うこととする。

1 遺構 (図Ⅳ-1)

住居跡はⅡ群B-2・3類土器期、Ⅱ群B-4類土器期、Ⅱ群B-5類土器期、Ⅲ群A類土器期、Ⅳ群A類土器期、Ⅶ群土器期(擦文文化期)の大きいの6時期に分けられる。Ⅱ群B-2・3類土器期～Ⅳ群A類土器期の住居跡は調査区の中央部(調査区K98・99、L97～0、M97～0、N97・98区)の「広場」とも呼べる空間を取り囲む状態で検出されている。この「広場」には盛土が堆積し、Ⅱ群B-2・3類土器期頃に開始され、Ⅱ群B-5類土器の頃まで営々と続いていたことが確認されている。Ⅱ群B-2・3類土器期の住居跡は「広場」を挟み、東西の2つまとまりに分けられる。東側はH-23・30・36など、西側はH-20・33・37・43など、やや離れた段丘崖縁辺のH-14からなる。これらの覆土には盛土が認められ、多くの土器と共に盛土を住居址内に直接廃棄したことが窺がえる。覆土からは大量の遺物が出土している。H-23では8万点以上の遺物が出土し、復原土器150個体得られている。Ⅱ群B-4類土器期の住居跡は、「広場」に隣接し、北側～西側を囲むように構築されている。そして、西側はⅡ群B-2・3類土器期の住居跡の分布域と重なり、これらを壊して住居が構築されている。Ⅱ群B-5類土器期の住居跡は、その数を増し、長軸10mを超える大型の住居址が作られる。一部、Ⅱ群B-2・3類土器期・Ⅱ群B-4類土器期の住居を壊して構築されるが、概ねこれらの住居群の外側に構築されている。Ⅲ群A類土器期、Ⅳ群A類土器期には検出数が少なく、傾向は不明である。擦文文化期は西側の河岸段丘縁辺に分布する。分布はⅡ群B-5類土器期の住居跡の分布と重なり、同期の住居の上部壊して構築されている。

住居跡の分布は、以上のようにまとめられる。そして、縄文時代前期後半の円筒土器下層b・c式期から同円筒土器下層d₂式期までの住居形態の変遷を辿ることができる良好な資料である。

フラスコ状ピットには1～2m程の小型のもの、2.5～3m程の大型のものが検出された。P-16を除き、いずれも調査区北東側から検出された(図Ⅳ-324)。小型のものは3～8ラインに分布し、Ⅱ群B-5類土器期の住居跡の分布に重なり、H-44に壊されているものが多く認められた。大型のフラスコ状ピットはⅡ群B-5類土器期の住居跡・小型のフラスコ状ピットが分布する範囲よりさらに北東側部の7～12ライン分布する。小型のものは出土遺物が少なく時期の分かるもの少ないが、Ⅱ群B-5類土器期の住居跡H-44に壊されて検出されていることからⅡ群B-4類土器期～Ⅱ群B-5類土器の古い段階が想定される。大型のものは坑底からⅡ群B-5類土器・Ⅲ群A類土器が出土し、Ⅱ群B-5類土器期～Ⅲ群A類土器期と考えられる。フラスコ状ピットはⅡ群B-4類土器期やⅡ群B-5類土器期ともフラスコ状ピットは当該期の住居跡の東側に隣接して構築されという規則性が窺え、住居跡と同様に「広場」中心に同心円状に立地し、一連の規則性にのっとたものと考えられる。住居跡・フラスコ状ピット等の遺構位置図は、図Ⅰ-2に示している。「広場」中心に同心円状に立地し、規則性が想定できそうな状況が窺がえる。この規則性の要因については、盛土遺構の形成や発達と共に考察しなければならないものと考えている。

2 土器について

遺構内から土器など210,831点出土した。内訳は縄文時代早期前葉の貝殻文土器の物見台式1点、後半の中茶路式3点、東釧路IV式土器63点、前期前半の石川野式土器・春日町式439点、前期後半の円筒土器下層a式～円筒土器下層d₂式205,584点、中期前半の円筒土器上層A式・円筒土器上層B式2,741点、後期初頭の余市式土器・トリサキ式土器267点、晩期の土器が976点である。擦文文化期は428点である。このほか焼成粘土塊・有孔土製円板など329点が出土した。各時期、土器群毎に分布・特徴について記載する。なお、円筒土器下層式と円筒土器上層式については別項を設け後述する。

(早期) 物見台式土器はH-14の覆土から貝殻腹縁文と刺突文が加えられた口縁部が出土している。中茶路式はP-24から出土している。東釧路IV式土器はH-12～17・38などから出土、大平川の河岸段丘の縁辺部に分布し、H-15からは撚糸文と単軸絡条体の押圧が加えられた大型破片が出土している。(前期前半) 前期前半に位置付けられるものには石川野式土器・トドホッケ式土器・春日町式土器がある。いずれも破片資料で器形のわかる資料はない。盛土遺構・包含層から少量の半截竹管状工具によるコンパス文が施された破片が確認されている。

石川野式は、H-25・26・28・29・32・35・37・39・43・51などから出土している。H-25の口縁部文様帯は押引文で上下を区画され、無文地の文様帯には「ワラビ」状ないし斜位の「逆J」字状の押引文が加えられ、体部は羽状縄文である。H-28・29は同一個体で、文様帯に3本一組の鋸歯状の押引文が施されたものが出土している。H-37からは口唇の断面が尖る口縁部破片が出土している。押引文で区画された無文地の口縁部文様帯には3本一組の弧線状の押引文が加えられている。

春日町式はH-28・35からまとめて出土している。P-22・36・H-22・23・25・32・33・37・38・39・43などからも出土し、調査区中央部に分布が認められる。H-29は尖底、H-22・28・34・35は平底が出土している。H-28・35の底面は極端に小さく、押引文が施されている。体部下端にも3～4条の押引文が加えられている。H-34は底面・器面に押引文が施された平底である。H-22からは押引文で区画された口縁部文様帯をもつもの、H-33からは縄のループ文が施されたものなどが出土している。分布は断片的な資料が多く不明な点が多いが調査区中央部以東に分布する傾向が窺える。

(後期初頭) 余市系土器群とトリサキ式土器が出土している。余市系土器期の住居跡H-10が検出されている。ほかにH-11・18・19・21・24・44などから出土している。H-21・44の覆土から貼付帯が多用された底部が出土している。トリサキ式土器は散在的に出土している。なお、包含層から入江式も出土している。

(晩期) 晩期は、H-19・44から出土している。H-16の覆土の落ち込みから多く出土し、この包含層を切って擦文期の住居跡(H-19)が構築されている。H-44では浅鉢が復元されている。浅鉢・壺・浅鉢の「Y」字状の突起などがあり、これらは包含層出土資料と接合したもの(図V-4・5・7・13・14・15)もある。しかし、作図等が間に合わず、破片資料のまま掲載した。これらについては盛土遺構編で再掲載する。現在整理中の包含層では、「工字文」が施された大洞A式の段階のものより新しい段階に位置付けられそうな「変形工字文」が施された大洞A～A'式に相当する浅鉢・鉢・深鉢・台付き・壺・小型土器など30個体ほどが復原され、これまで認められなかった組成がわかる良好な資料である。

(擦文期) 住居跡は調査区西側から6軒が検出された。H-9・11・12・19・31は8世紀中葉、H-18は9世紀中葉のものである。土器の分布は住居跡が検出された調査区西側に分布する。

各時期の土器群について概観したが、現在、盛土遺構・包含層出土資料の整理中で前期～晩期まで多くの復原土器が得られている。これらを含め次回に全体を総括する予定である。

3 II群B類土器・III群A類土器について

II群B類土器は205,584点出土した。うち器形・文様構成が明確なものをII群B-1類土器～II群B-5類土器に細分を加えた。II群B-1類土器は円筒土器下層a式、II群B-2類土器は円筒土器下層b式、II群B-3類土器は円筒土器下層c式、II群B-4類土器は円筒土器下層d₁式、II群B-5類土器は円筒土器下層d₂式に相当するものである。しかし、各類間には中間的なものも多く、明瞭な細分・区分を行うことができなかつた。II群B-1類土器に比定されそうな口縁部に不整綾絡文、体部に縄文・単軸絡条体の回転文が施された資料が少量出土している。II群B-2類土器は、主に貼付帯で区画された口頸部文様帯を特徴とするものである。町内の釜谷遺跡の主体である太い貼付帯と不整綾絡文が多用された土器群が欠落し、口頸部下端が貼付帯で区画されているものの、文様構成がII群B-3類土器に類似したものが多い。II群B-3類土器は縄線文・単軸絡条体の圧痕文などで区画された口頸部文様帯を特徴とするもの、区画帯をもたず同一原体で施文方向を変えて口頸部文様帯を作出したもの、体部と異なる原体で口頸部文様帯が作出されたものも含めた。II群B-4類土器は結束・結節羽状縄文・細い貼付帯貼付帯・綾絡文等で区画された幅の狭い口頸部文様帯を特徴とするものである。II群B-5類土器は幅広の口頸部文様帯でII群B-4類土器に類似するものとIII群A類土器に類似するものがある。文様帯下端が刺突文・押引文が加えられた貼付帯で区画されたもの、刺突文・押引文で区画されたものは本類に含めた。III群A類土器は口頸部文様帯下端を縄（撚糸）の圧痕文が加えられた貼付帯で区画したもので、口頸部文様構成から貼付帯をもたないものも含めた。

H-20・23・30・36・43、P-37・38では層的な出土状況が認められた。H-20・23・30・36・43・P-37・38はII群B-2類土器からII群B-3類土器・II群B-4類土器への変遷が窺える。H-14では体部が単軸絡条体第1類・第5類の一群のII群B-2類土器、H-25・26・30からはII群B-4類土器、H-28からはII群B-5類土器の良好な資料が出土している。これらについては各々で小括を加えている。

H-23ではII群B-2類土器からII群B-4類土器への変遷が認められた（図IV-81・82）。覆土8層では区画帯として貼付帯が多く認められる。体部は縄文・粗い単軸絡条体第1類・第5類が多く、直前段反撚が少ない傾向が窺える。文様帯には縄文・無文地に縄線文等が認められるが、不整綾絡文が多用されている。覆土6層では体部に直前段反撚が多用され、縄文・粗い単軸絡条体第1類・第5類が減少する傾向が窺える。文様帯は不整綾絡文が減少し、直前段反撚が多用され、直前段反撚を地文に縄線・単軸絡条体の圧痕や沈線で文様帯が区画されるものが多く認められた。覆土4・5層の体部は直前段反撚の多用、縄文・粗い単軸絡条体第1類・第5類がさらに減少し、自縄自巻が出現する。文様帯には結束羽状縄文・2本一組の縄線や組紐状の縄線の圧痕文が多用されII群B-4類土器に類似したものもある。そして、覆土3・1層ではII群B-4類土器へと変遷する。この様は変遷の中で、器形は、大小、筒形・バケツ型と器形が異なるが同じ文様構成をもつものが各期に認められる。また、同様な文様構成が異なる原体で施文されている。文様構成の単純化も認められ、その変遷を複雑なものにしている。H-25・26・30のII群B-4類土器には遺構毎に区画帯・体部の文様構成に違いが認められた。H-25は結束羽状縄文で区画され、体部に自縄自巻と単軸絡条体の回転文があり、文様帯の幅・文様構成に違いが認められた。H-26は結節羽状縄文で区画された狭い文様帯に縄線が加えられたものが多く、体部に自縄自巻が多く認められている。H-30は区画文として「結節羽状縄文と刺突文が加えられた貼付帯」と「結節羽状縄文のみのもの」あり、前者の体部には結節羽状縄文と単軸絡条体の回転文が、後者には多軸絡条体の回転文が施され、H-25・26との違いが認められる。この様にII群B-4類土器においても遺構間で前後関係が想定できそうな出土状況を示している。

円筒土器下層式については多くの検討が加えられている。今回の報告ではこれらとの比較・検討ができなかつた。現在、整理中の盛土遺構・包含層出土資料も含め、次回に検討する予定である。

4 胎土分析の結果について (図版193～195)

大平遺跡では、復原土器の同一個体の未接合破片・焼成粘土塊・H-30の壁基本層序IV層土壌サンプルについて第四紀地質研究所の井上巖氏に委託して胎土分析を実施した。

今回の胎土分析は、大きく2つの理由から実施した。

1：H-30・H-36とP-33は、いずれも床面が凸凹で複数の土坑の複合体の様相が窺がえ、住居・土坑としての用途が想定できなかつたこと。

2：1 cm前後の米粒状(タイ米)の形状の焼成粘土塊が多量に出土したこと。焼成粘土塊はH-23の覆土に廃棄・流れ込んだ焼土・炭化物を含む盛土のフローテーションによって検出された。その形状は、あたかも手についた泥や土を両手で揉み手した際に生じる粘土粒に類似し、「作業後、手を焚火にかざしながら、手に付いた泥を両手で揉み手しながら落としている様子」が窺がえ、焚火の中に落ちた粘土粒が焼成されたもののように思われた。

このことから、これらの米粒状(タイ米)の焼成粘土塊が土に関連する作業の痕跡を示すものであることから「土に関連する作業」＝「土器製作」ではないかと想定して土器片・焼成粘土塊(米粒状と従来の焼成粘土塊の2種類)・土器の素材となる粘土を採集した可能性がある住居や土坑の床や坑底である基本層序IV層の胎土分析を実施した。

分析結果は土器と焼成粘土塊は関連が薄く、焼成粘土塊はV層の土壌サンプルとの関係が認められた。このことから、本遺跡の「土に関連する野外作業」は「土器製作」ではなく、遺跡内における土坑・住居跡などの掘削等の作業により焼成粘土塊が生じたものであった。出土した土器については他所から持ち込まれたもの、また、土器製作用の粘土が本遺跡に持ち込まれて土器が作成されたものでもないことが分かった。

井上巖氏によって周辺遺跡の土器や福島町塩釜・知内町上雷育成牧場・木古内町新道4遺跡に分布する館層(Tm)の土壌サンプルや周辺土壌の分析が行われ、対比試料が増加したことから、周辺遺跡出土の土器片との対比が試みられている。

平成27年、北斗市茂辺地4遺跡出土の縄文時代中期前半の土器片・遺跡内の土壌サンプルの胎土分析を実施し、その結果、出土土器と遺跡内の土壌サンプルと組成が一致し、遺跡内・周辺の土壌を素材として作られた土器が使用されている可能性が指摘されている。これらを対比資料として本遺跡の出土土器についても組成分類を行ない土器片56試料中43点が北斗市茂辺地4遺跡採集の土壌サンプル・土器片や知内町上雷育成牧場の土壌サンプルとの関連が指摘された。

北斗市茂辺地4遺跡は当センターが調査した北斗市茂別遺跡の対岸に位置する遺跡である。茂別遺跡では粘土採掘坑が報告されている。また、木古内町新道4遺跡で円筒土器下層d式～晩期大洞C₂式土器について鉱物組成による胎土分析が花岡正光によって実施され、胎土に含まれる海面骨針・珪藻に注目し「これらの生物起源粒は、胎土の原材料採取地を推定する際には、特に重要なものであろう。本遺跡の周辺には海棲の珪藻化石を産するシルト岩の新第3系「館層」が分布する。土器の胎土物質としてこれを使用した可能性がある」とし、「館層」との関連を指摘している。

「館層」の分布範囲に茂辺地4遺跡・茂別遺跡が立地している。このことから「館層」で採取された粘土を用いた土器が周辺に広く分布・流通している可能性がある。また、「館層」は木古内町新道・知内町・福島町にも分布する。これらの「館層」についても注目し、詳細な分析を実施し、各地域の「館層」の違いを探ることが、今後、土器の分布・流通を知る上で手掛かりとなるものと考えられる。

引用参考文献

論文・書籍等

- 石岡憲雄 1986 「施文原体の変遷－円筒土器」『季刊考古学17』 雄山閣
- 稲野祐介 1979 「亀ヶ岡文化における石剣類の研究－文様に基づく分類－」『北奥古代文化 第11号』 北奥古代文化研究会
- 江坂輝也 1970 『石神遺跡』 石神遺跡研究会
- 大沼忠春 1981 「北海道中央部における縄文時代中期から後期初頭の編年について」『考古学雑誌 第66巻第4号』 日本考古学会
- 大沼忠春 1984 「道南の縄文前期土器群の編年について」『北海道考古学20』 北海道考古学会
- 大沼忠春 1986a 「道南の縄文前期土器群の編年について(Ⅱ)」『北海道考古学22』 北海道考古学会
- 大沼忠春 1986b 「施文原体の変遷－東釧路式土器」『季刊考古学17』 雄山閣
- 上條信彦 2014 「「扁平石器」の形態的分布から見た円筒土器文化圏の動態－半円状扁平打製石器、挟入扁平打製石器、挟入扁平磨製石器を中心に－」『青森県考古学 第22号』 青森県考古学会
- 上條信彦 2015 『縄文時代における脱殻・粉碎技術の研究』 六一書房
- 茅野嘉雄 2008 「円筒下層式土器」『総覧縄文土器』 『総覧縄文土器』 刊行委員会
- 熊野善蔵・八木光則 1974 「茅部郡森町森川A遺跡出土の前期縄文式土器群」『北海道考古学』 第10輯
- 小島朋夏 2005 「縄文時代における軽石製模造品について－北海道南西部を中心として－」『北奥の考古学』 葛西勳先生還暦記念論文集刊行会
- 小山正忠・竹原秀雄 2007 『新版標準土色帖29版』 日本色研事業株式会社
- 齋藤 岳 2010 「青森県内出土例を中心とした異形石槍について」『青森県考古学 第18号』 青森県考古学会
- 鈴木克彦 1999 「北海道渡島・桧山地域の中期末葉から後期初頭の編年」『北海道考古学35』 北海道考古学会
- 高橋正勝 1994 「北海道南部の土器」『縄文文化の研究4(第2版)』 雄山閣
- 戸荻賢二・土屋 篁 2000 『北海道の石』 北海道大学図書刊行会
- 成田滋彦 2005 「円筒下層式土器－土偶・土製品の基礎的資料－」『北奥の考古学』 葛西勳先生還暦記念論文集刊行会
- 野村 崇 1994 「北海道南部・中部の土器」『縄文文化の研究4(第2版)』 雄山閣
- 福田友之 2005 「ヒスイ以前の津軽海峡域－縄文前期以前の石製装身具を中心に－」『北奥の考古学』 葛西勳先生還暦記念論文集刊行会
- 福田裕二 2005 「亀田半島における前期末葉～中期初頭の様相」『東北・北海道の縄文時代前期末葉～中期初頭土器の課題－資料集－』 海峡土器編年研究会
- 三宅徹也 1989 「円筒土器下層様式」『縄文土器大観2』 小学館
- 三宅徹也 1994 「円筒土器」『縄文文化の研究3(第2版)』 雄山閣
- 村越 潔 1984 『増補 円筒土器文化』 雄山閣

団体・組織刊行物

- 木古内町史編纂委員会 1982 『木古内町史』 木古内町
- 北海道火山灰命名委員会 1982 『北海道の火山灰』 北海道火山灰命名委員会
- 角川日本地名大辞典編纂委員会 1987 『角川日本地名大辞典1 北海道 上巻』
- 大川清・鈴木公雄・工藤善通編 1996 『日本土器事典』 雄山閣
- 南北海道考古学情報交換会編 1995 『円筒土器下層式図録集』 南北海道考古学情報交換会
- 南北海道考古学情報交換会編 1996 『円筒土器下層式遺構』 南北海道考古学情報交換会
- 日本ペドロジー学会 1997 『土壌調査ハンドブック 改訂版』 博友社
- 地学団体研究会道南班編 2002 『道南の自然を歩く』 北海道大学図書刊行会
- 永井秀夫監修 2003 『北海道の地名』 日本歴史地名大系第一巻 平凡社

ホームページ

- 木古内町公式ホームページ
- 北海道教育委員会ホームページ 「北の遺跡案内」

埋蔵文化財発掘調査報告書

- 木古内町教育委員会
- | | | |
|--------------|---------------|---------------|
| 1974 『札苅遺跡』 | 1989 『鶴岡2遺跡Ⅰ』 | 1990 『鶴岡2遺跡Ⅱ』 |
| 1991 『釜谷4遺跡』 | 1995 『釜谷5遺跡』 | 1997 『新道3遺跡』 |

- 1998a 『亀川 2 遺跡』 1998b 『亀川 3 遺跡』 1998c 『泉沢 3 遺跡』
 1999a 『釜谷遺跡』 1999b 『新道 2 遺跡』 2003a 『新道 2 遺跡 II 北地点』
 2003b 『大釜谷 3 遺跡』 2003c 『泉沢 2 遺跡 A 地点』 2003d 『泉沢 2 遺跡 (B 地点)』
 2004a 『泉沢 2 遺跡 C 地点』 2004b 『蛇内遺跡』
- 南茅部町埋蔵文化財調査団 (現 函館市)
 1992 『八木 B 遺跡』 南茅部町埋蔵文化財調査団
 1993 『八木 A 遺跡 ハマナス野遺跡』 南茅部町埋蔵文化財調査団
 1997 『八木 A 遺跡 III 八木 C 遺跡』 南茅部町埋蔵文化財調査団
- 戸井町教育委員会 (現 函館市)
 1990 『浜町 A 遺跡』
 1991 『浜町 A 遺跡 II』
 1993 『戸井貝塚 II』
 1994 『戸井貝塚 IV』
 2001 『高屋敷川 1 遺跡』
- 寿都町教育委員会
 1980 『寿都町文化財調査報告 II』
- 北海道開拓記念館 1976 『札苺』
- (財)北海道埋蔵文化財センター、(公財)北海道埋蔵文化財センター
 1985 『知内町 湯の里遺跡群』 北埋調報18
 1986a 『木古内町 建川 1・新道 4 遺跡』 北埋調報33 1986b 『木古内町 札苺遺跡』 北埋調報34
 1987 『木古内町 建川 2・新道 4 遺跡』 北埋調報43 1988 『木古内町 新道 4 遺跡』 北埋調報52
 1998 『上磯町 茂別遺跡』 北埋調報121
 1999 『長万部町 花岡 2 遺跡・花岡 3 遺跡』 北埋調報139
 2000 『八雲町 シラリカ 2 遺跡』 北埋調報142
 2002a 『八雲町 山崎 5 遺跡』 北埋調報165
 2002b 『白老町 虎杖浜 2 遺跡』 北埋調報172
 2003 『八雲町 野田生 1 遺跡』 北埋調報183
 2005a 『森町 森川 4 遺跡』 北埋調報218
 2005b 『共和町 リヤムナイ 3 遺跡 (1)』 北埋調報220
 2005c 『共和町 上リヤムナイ遺跡・リヤムナイ 3 遺跡 (3)』 北埋調報227
 2011a 『木古内町 木古内 2 遺跡』 北埋調報278
 2011b 『木古内町 大平遺跡・大平 4 遺跡』 北埋調報280
 2011c 『木古内町 蛇内 2 遺跡』 北埋調報281 2011d 調査年報23
 2012a 『木古内町 大平 4 遺跡 (2)・蛇内 2 遺跡 (2)』 北埋調報292
 2012b 『木古内町 木古内 2 遺跡 (2)』 北埋調報293 2012c 調査年報24
 2013a 『木古内町 札苺 5 遺跡』 北埋調報294 2013b 調査年報25
 2014a 『木古内町 札苺 6 遺跡』 北埋調報301 2014b 『木古内町 木古内遺跡』 北埋調報304
 2014c 『木古内町 釜谷 8 遺跡』 北埋調報305 2014d 調査年報26
 2015a 『北斗市 押上 1 遺跡』 北埋調報301 2015b 調査年報27
 2015c 『木古内町 新道 4 遺跡 (4)』 北埋調報320
- 青森県
 1988 『白座遺跡 野場遺跡 (3)』 階上町教育委員会
 1994 『畑内遺跡 I』 青森県埋蔵文化財調査報告書161
 1995 『畑内遺跡 II』 青森県埋蔵文化財調査報告書178
 1996 『三内丸山遺跡 VIII』 青森県埋蔵文化財調査報告書230
 1997 『三内丸山遺跡 IX』 青森県埋蔵文化財調査報告書249
 1997 『三内丸山遺跡 X』 青森県埋蔵文化財調査報告書250
 2006 『東道ノ上 (2) 遺跡』 青森県埋蔵文化財調査報告書424
- 秋田県
 1999 『池内遺跡 遺物・資料編』 秋田県埋蔵文化財調査報告書282

報告書抄録

ふりがな	きこないちょう おおひらいせき(2) いこうへん							
書名	木古内町 大平遺跡(2) -遺構編-							
副書名	北海道新幹線建設事業埋蔵文化財発掘調査報告書							
巻次	なし							
シリーズ名	公益財団法人 北海道埋蔵文化財センター調査報告書(北埋調報)							
シリーズ番号	第321集							
編著者名	中山昭大・鈴木宏行・芝田直人・酒井秀治・熊谷仁志・佐藤和雄・立川トマス							
編集機関	公益財団法人 北海道埋蔵文化財センター							
所在地	〒069-0832 江別市西野幌685-1 TEL(011)386-3231 FAX(011)386-3238 E-mail mail@domaibun.or.jp ホームページ http://www.domaibun.or.jp							
発行機関	公益財団法人 北海道埋蔵文化財センター							
発行年月日	平成28(西暦2016)年3月25日							
ふりがな 収録遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
おおひらいせき 大平遺跡	かみいそぐんき こないちやう 上磯郡木古内町 あざおおひら 宇大平63	01334	B-05-07	MO杭		20100506 ～20101105 20110509 ～20111111	4,375㎡	北海道新幹線 建設に伴う 記録保存
				M90杭				
				41度41分 26.55157秒	140度26分 52.06337秒			
				41度41分 25.30961秒	140度26分 50.67402秒			
所収遺跡名	種別	主な時代		主な報告遺構			主な遺物	
大平遺跡	集落跡	縄文時代 前期後半・後期前葉 擦文文化期		竪穴住居跡45軒、土坑50基、 フラスコ状ピット63基、Tピット2基、 柱穴状ピット36基			土器 石器等	
要約	<p>遺跡はJR木古内駅から南西へ約1.8km、木古内川と建宍川に挟まれた平坦な低位海岸段丘上に立地し、標高は15～20mである。</p> <p>遺跡の調査は平成21年度に続いて平成22・23年度に行われ、今回の報告が2冊目の報告書となる。本書では遺構編として竪穴住居跡45軒、土坑50基、フラスコ状土坑63基、Tピット2基、柱穴状ピット36基の報告を行っている。</p> <p>竪穴住居跡は擦文文化期6軒、縄文後期前葉1軒、中期初頭1軒、前期後半37軒である。擦文文化期は8世紀中葉5軒、9世紀中葉1軒である。5軒でカマドが検出されている。縄文後期前葉のものは石囲い炉が検出されている。前期後半は円筒土器下層d2式期が22軒と多い。特徴としてはベンチ構造のあるもの13軒、葺土構造が確認できるもの7軒、覆土中に多量の遺物が出土するもの10軒などがみられる。</p> <p>土坑は異形石槍が出土したものが1基検出されている。フラスコ状ピットは前期後半～中期初頭である。調査範囲北東側に集中して検出されている。底面径が1～2m程の小型のものと、2.5～3m程の大型のものがある。坑底に小ピットを伴うものが33基確認されている。Tピットは溝状のものが2基検出されている。</p> <p>報告遺構から出土した遺物は土器210,831点、石器等153,805点、合計364,636点である。土器はⅡ群B類土器が大半を占め、Ⅱ群B-3類土器が特に多い。石器等はスクレイパー、たたき石、すり石が多く出土している。土製品では有孔土製円板、焼成粘土塊が出土している。石製品では異形石器、異形石槍、垂飾、滑石製球状耳飾り、線刻礫、軽石製石製品(北海道式石冠状、すり石状など)が出土している。</p>							

遺跡番号は北海道埋蔵文化財包蔵地周知資料登録番号、経緯度は世界測地系による。

(公財)北海道埋蔵文化財センター調査報告書 第321集

き こ ない ちょう おお ひら
木古内町 大平遺跡(2)

—遺構編—

—北海道新幹線建設事業埋蔵文化財発掘調査報告書—

第1分冊(本文編)

平成28(2016)年3月25日

編集・発行 公益財団法人 北海道埋蔵文化財センター
〒069-0832 江別市西野幌685番地1
TEL (011) 386-3231 FAX (011) 386-3238
URL <http://www.domaibun.or.jp>
E-mail mail@domaibun.or.jp

印 刷 三浦印刷株式会社
〒064-0809 札幌市中央区南9条西6丁目
TEL (011) 511-6191 FAX (011) 512-6041

